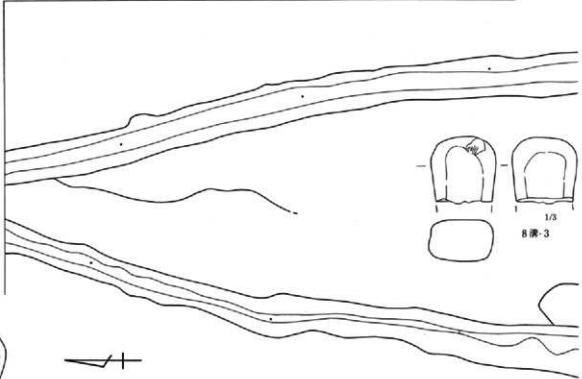
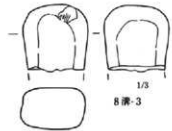
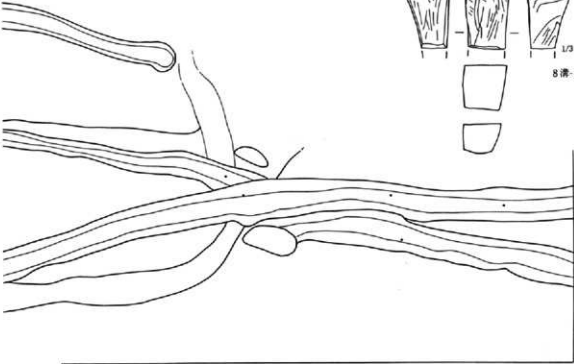
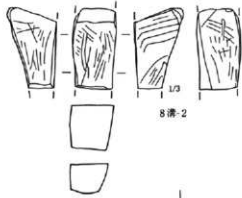


第3節 7区の遺構と遺物

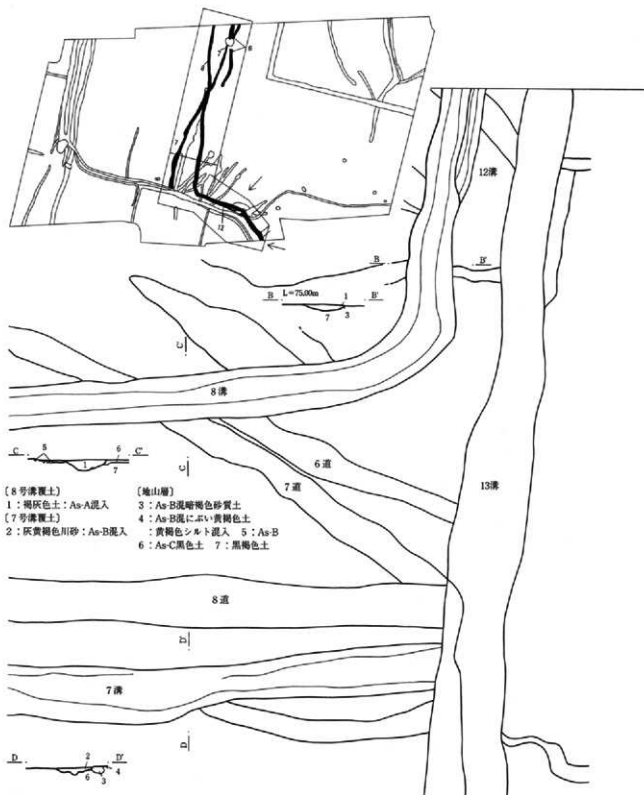


第168図の2 7-1-6~8号溝と出土遺物(その1)

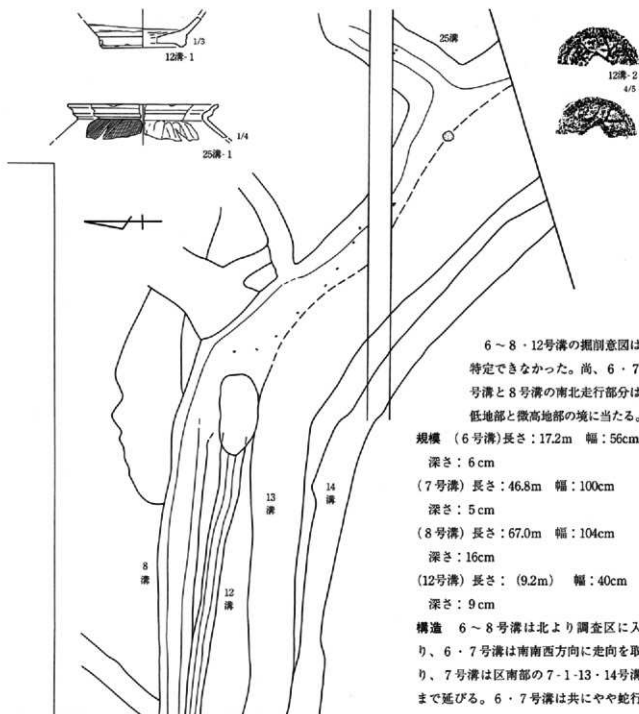
第2章 発見された遺構と遺物

12号溝出土の9世紀の須恵器高台付碗(1)等、6~8・12号溝からは古墳時代から律令期にかけての土師器・須恵器片等の出土が見られたが時期特定

には至らず、覆土の観察から7号溝は中近世の所産と把握されるに過ぎない。また8号溝では砥石(1・2)や磨石(3)の出土があったが、ガラス



第169図の1 7-1-7・8・12号溝(その2)



第169図の2 7-1-8・12・25号溝と出土遺物(その2)

瓶(4)の出土から近現代の所産、12号溝は寛永通宝の出土から近世遺構の所産と概ね確認することができた。また、6号溝また8号溝は以前その位置に在った中近世の溝を掘り直して掘削されていることが確認されている。

6～8・12号溝の掘削意図は特定できなかった。尚、6・7号溝と8号溝の南北走行部分は低地部と微高地部の境に当たる。

規模 (6号溝)長さ: 17.2m 幅: 56cm
深さ: 6 cm
(7号溝)長さ: 46.8m 幅: 100cm
深さ: 5 cm
(8号溝)長さ: 67.0m 幅: 104cm
深さ: 16cm
(12号溝)長さ: (9.2m) 幅: 40cm
深さ: 9 cm

構造 6～8号溝は北より調査区に入り、6・7号溝は南南西方向に走向を取り、7号溝は区南部の7-1・13・14号溝まで延びる。6・7号溝は共にやや蛇行するが、6号溝の方が幅は大きい。一方、8号溝は調査区に入って南方に走向し、7号溝と交差して南部の13・14号溝の北で走向を東に転じ、13・14号溝の北側を並走した後、南東に走向を変えて調査区南側に出ている。12号溝は8号溝の南に重なって東西に走向する。

掘削形態は6・7・8・12号溝共に幅狭だが比較的整った箱型状を呈している。

(7) 7-1-9・25号溝

(第169・170図、図版74・75・87)

概要 7-1-9・25号溝は7区東南部南寄りに位置する。25号溝は一部しか確認できず、規模も異なっているが、掘削位置と走向から推して9号溝と同様の目的を持つ溝であったと判断している。

9号溝からの出土遺物は見られなかったが、25号溝からは4世紀前半期の台付甕片(1)を含む古墳時代から律令期にかけての土師器・須恵器片の出土が見られた。残念乍らこれらの出土遺物からの時期特定には至らなかったが、覆土の観察所見から9号溝はAs-B降下後からAs-A降下前の所産であることは把握できた。しかし25号溝については覆土の記録も残せなかったためAs-B降下以降の所産としか把握することができなかった。

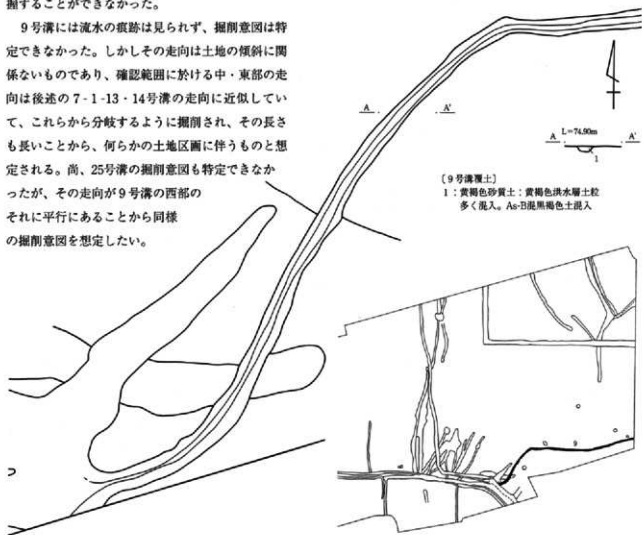
9号溝には流水の痕跡は見られず、掘削意図は特定できなかった。しかしその走向は土地の傾斜に関係ないものであり、確認範囲に於ける中・東部の走向は後述の7-1-13・14号溝の走向に近似していて、これらから分岐するように掘削され、その長さも長いことから、何らかの土地区画に伴うものと想定される。尚、25号溝の掘削意図も特定できなかったが、その走向が9号溝の西部のそれに平行にあることから同様の掘削意図を想定したい。

規模 (9号溝)長さ:41.2m 幅:40cm 深さ:7cm

(25号溝)長さ:3.0m 幅:128cm 深さ:28cm

構造 9溝は14号溝から分岐するように大きく蛇行し乍ら北東に走向を取り、東に屈曲してからは直線的なプランを呈する。その東寄りでは走向をやや北にずらして東側で調査区外に出るが、その延長箇所は8区では確認されていないため走向を変えるか、途切れるものと思慮される。一方25号溝は短い範囲でしか確認できなかったため全容は詳らかでないが、走向は北東-南西方向に取りそのプランは直線的である。

掘削形態は両溝共に箱掘状を呈している。



第170図の1 7-1-9号溝

(8) 7-1-13・14・15号溝

(第171・172図、図版75・110)

概要 7-1-13・14号溝は7区南西部に位置する。このうち13号溝は14号溝の東部と交差し北西隅で15号溝と接するが、覆土の観察から13号溝が14・15号溝より古いことを確認した。また14・15号溝も位置的には重なるが、新旧は特定できなかった。

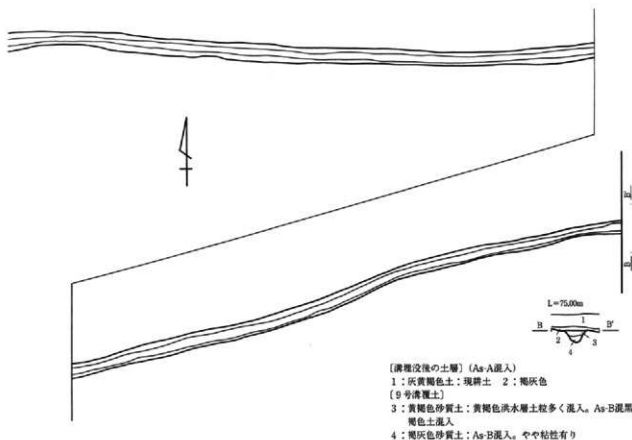
その他、13号溝が7-1-25号溝、14号溝が7-1-8号道・9号溝、14・15号溝が後述する7-1-16と重複し、14号溝は西端部で7-1-17号溝の南側に接続するように位置していたが、何れも新旧は特定できなかった。

3条の溝のうち13・14号溝からは古墳時代以(✓)

世の所産と判断される。尚、14・15号溝の下限は後述する圃場整備前の土地区画に一致しなかったので、概ね近世後期の所産として把握されよう。

各溝の掘削意図は特定できなかったが、共に流水の痕跡は無く、後述するそのプラン等から推して、土地区画に伴うものと思慮される。尚、221頁の左中程に掲載した圃場整備前、昭和23年段階の地形図(S=1/1000)に示したように、各溝の東西走向部分(⇔a)と13・15号溝の南北走向部分(⇔b)は圃場整備前の土地区画のラインに一致はしないが並走する位置にある。

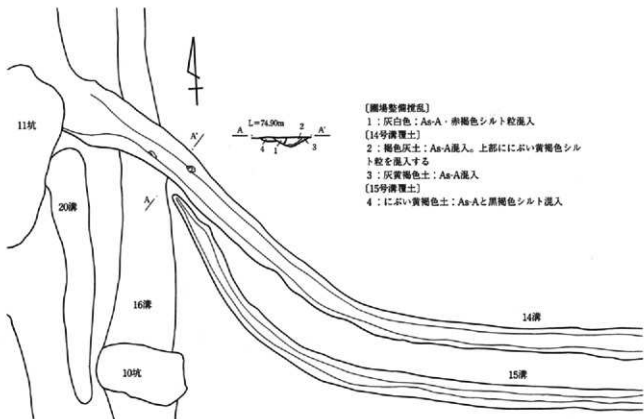
また14号溝は東西走向部分で13・15号溝に、13・15号溝も南北走行部分で近接して並走し、13(✓)



第170図の2 7-1-9号溝

降の土師器・須恵器片が出土したが時期の特定には至らず、覆土の観察から13号溝はAs-B降下後の所産、14・15号溝はAs-A降下後の所産、13号溝は恐らくは15世紀後半以降の洪水層土に絡む中(×)

号溝は北西隅部で15号溝に重なり、13号溝と14・15号溝の時間差もあることから、これらの掘削位置は中世から少なくとも近世後期まで土地の区画のラインとして認識されていたようである。



第171図の1 7-1-14・15号溝(その1)

規模 (13号溝)長さ:(43.2) m 幅:92cm
深さ:19m

(14号溝)長さ:(55.0)m 幅:72cm 深さ:9cm

(15号溝)長さ:25.9m 幅:48cm 深さ:8cm

構造 13・14・15号溝は何れも南側が路線外に出ている。その全容は詳らかでないが、14号溝は主軸が東西方向を向き、西は北西、南は南東に走向を取る、極く緩やかなS字状のプランを呈している。13号溝はその中で14号溝と交差しており、西端が南に折れる以外、西半は14号溝の南に在り、東半はその北乃至東側に位置する。尚、西端のL字形部分では一部が分岐して短く延び15号溝に達している。一方、15号溝は東端が垂直に折れて南を向き、13号溝の西80cm程にはほぼ並走する以外は14号溝の南にあるが西端は弧を描くように北北東に折れて14号溝に接している。

掘削形態は、3溝共に溝幅に若干の増減はあるものの、比較的整った箱堀状の形態を呈している。

(9) 7-1-23号溝(第172図、図版87)

概要 本溝は7区中南部に位置し、7-1-13・14号溝と重複するが新旧は特定できなかった。

本溝からは3世紀末から4世紀前半頃の東海系の土師器壺(1)や少量の律令期の土師器片を出土したが時期特定には至らなかった。また土層の記録にも不備があったため、凡そ近世・近代を含む中世以降の所産として把握できるに過ぎないが、13号溝以北の区域では延長部を確認できなかったため、13号溝に接続していた可能性を有し、この場合はAs-B降下後As-A降下以前の所産として把握される。

本溝に流水の痕跡はなさそうで、7-1-13・15号溝の南北走向部分の東側、18m程の位置に両溝に平行して掘削される位置関係と、後述する遺構形態から推して何らかの区画溝と解釈される。但し、昭和23年の土地区画には本溝の位置に一致或いは近接する区画は認められなかったため、その存続は近代までは下らないものと解釈される。

規模 長さ：9.9m 幅：32cm 深さ：10cm

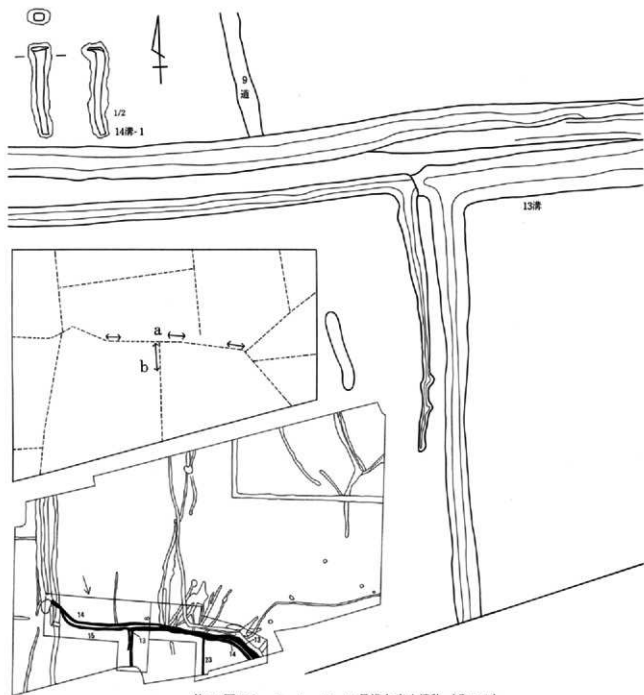
構造 本溝は南側が調査区外に出ているため全容を把握することはできなかったのであるが、南北に走向を取る直線的なプランを呈している。

本溝は幅状だが比較的整った掘り方の溝で、掘削形態は概ね箱型状を呈するが、調査範囲の北側と南側では溝幅が若干狭まり多少薬研型状となっている。

(04) 7-1-16・17・18号溝

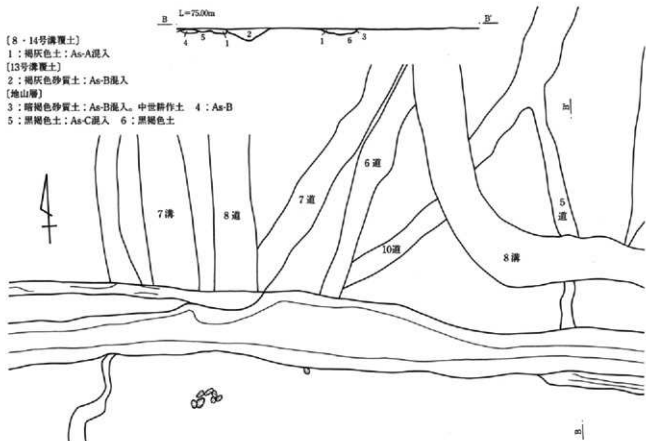
(第173・174図、図版75・87)

概要 7-1-16・17・18号溝は7区西部に位置する。16・17・18号溝の順に2m程の間隔で並走する。17・18号溝は南端で重なるようだが、その位置に7-1-21号土坑が在るため新旧を特定できなかった。



第171図の2 7-1-14・15号溝と出土遺物(その1)

第2章 発見された遺構と遺物



第172図の1 7-1-13・14号溝 (その2)

また16・17号溝は前述の7-1-14号溝と、18号溝は後述の7-1-19号溝と重複するが新旧を特定することはできなかった。

17号溝出土の8世紀後半期の須恵器高台付碗(1)・坏(2)を始めとして、16・17・18号溝からは律令期中心の土師器・須恵器或いは灰軸陶器片等若干の出土遺物を得たが、これらから時期を特定するには至らなかった。しかし覆土や断面の観察所見等から、16号溝がAs-B降下前後の平安期末から中世の早い時期の所産、18号溝はAs-A降下後の比較的早い段階、即ち江戸時代後期頃の所産として把握されるもの、17号溝は現代の所産と把握される。

これらの溝には流水の痕跡は認められなかったが、227頁(第174の2図)右上の昭和23年の地形図に矢印aで示したように、その走向は土地区画ラインには一致しないものの、近接した位置に並行して在ることから何らかの区画溝であろうと判断される。

尚、上述のように16・17・18号溝の掘削位置が西側の圃場整備前の土地区画ラインが近接し、且つ平行に走向していること、及び3条の溝に与えられた時期と圃場整備の時期から推して、溝群の掘削位置附近が或いは律令期、少なくとも中世から現代に至る千年余りの間、土地を区画すべき位置として認識され続けていたことが窺われる。

規模 (16号溝)長さ:50.2m 幅:104cm 深さ:13cm

(17号溝)長さ:(28.2)m 幅:112cm 深さ:28cm

(18号溝)長さ:(26.5)m 幅:128cm 深さ:21cm

構造 16・17・18号溝は何れも北側から調査区に入り、16号溝と17号溝は1.6~2.4m程度、17号溝と18号溝は2m程の間隔で概ね南北方向に並走する。16号溝は南側調査区外に抜けているが、17・18号溝は区の中程で18号溝が南東に走向を変じて17号溝に当る直前から南では確認できなかった。そのプランは

第3節 7区の遺構と遺物

17・18号溝が比較的直線的であるのに対し、16号溝は緩やかに蛇行する形状を呈しているが、その揺れは北半部より南半部の方が少ない。

各溝は共にしっかりした掘り方を見せるが、掘削形態は16・18が箱堀状を呈するのに対し、17号溝は薬研堀り状を呈する。

(1) 7-1-19・22号溝

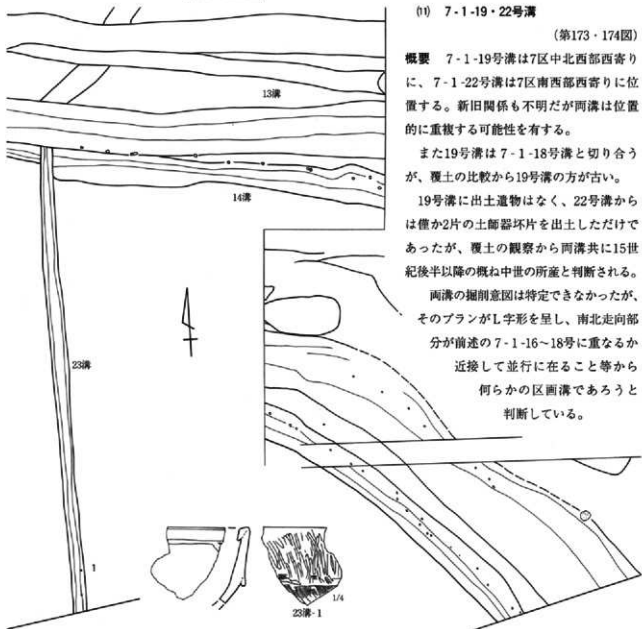
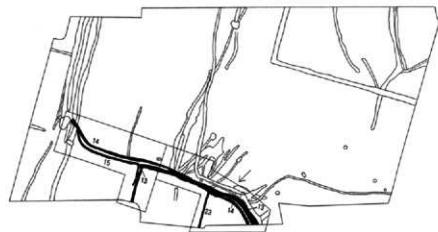
(第173・174図)

概要 7-1-19号溝は7区中北西部西寄りに、7-1-22号溝は7区西南部西寄りに位置する。新旧関係も不明だが両溝は位置的に重複する可能性を有する。

また19号溝は7-1-18号溝と切り合うが、覆土の比較から19号溝の方が古い。

19号溝に出土遺物はなく、22号溝からは僅か2片の土器器片を出土しただけであったが、覆土の観察から両溝共に15世紀後半以降の概ね中世の所産と判断される。

両溝の掘削意図は特定できなかったが、そのプランがL字形を呈し、南北走向部分が前述の7-1-16～18号に重なるか近接して並行に在ること等から何らかの区画溝であろうと判断している。



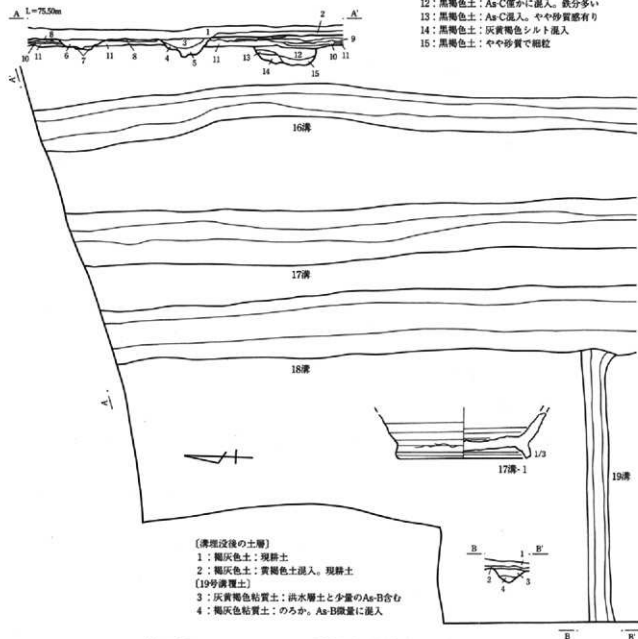
第172図の2 7-1-13・14・23号溝と出土遺物(その2)

第2章 発見された遺構と遺物

尚、その掘削位置は227頁右上（第174の2図）の昭和23年段階の地形図に矢印b・cで示したように圃場整備前の土地区画に一致しなかったが、その掘削位置附近が16～18号溝同様、少なくとも中世から現代に至るまで土地の境目として認識され続けていたことが窺われる。尚、19号溝は水路ではないが、滞水の痕跡らしいものが認められている。

規模（19号溝）長さ：（23.7）m 幅：40cm
深さ：7cm

（22号溝）長さ：（25.0）m 幅：80cm 深さ：16cm



第173図の1 7-1-16-19号溝と出土遺物（その1）

近い形態を呈しており、双方とも西側が調査区外に出ている。また19号溝は途中18号溝に重なり、7-1-21号溝に南側を切られており、22号溝は南側が調査区外に出ている。

19号溝の主軸は南北方向にあり、東西・南北走向部分共に直線的でコーナーは直角に近い曲がりを持つものと推定される。一方、22号溝は主軸を南南西-北北東に取って西側に膨らみを持つ弧状のプランを呈しているが、短軸方向は東西に走向を取って直線的である。また22号溝のコーナー部分が失われているため、その形状は明確にはできなかった。

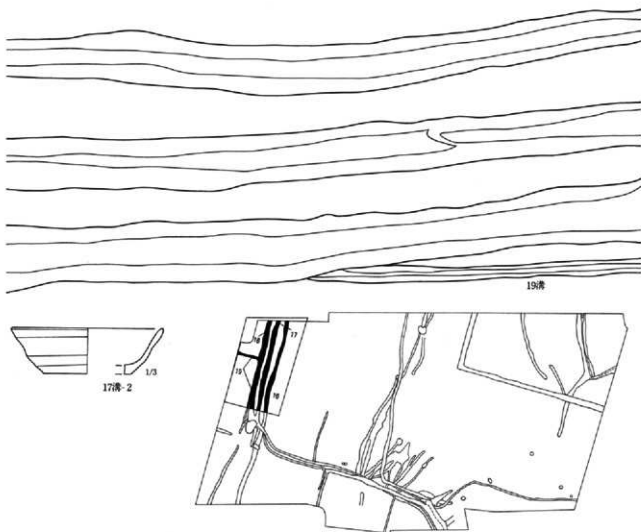
19・22号溝の掘削形態は共に菜研堀り状を呈する。

(2) 7-1-20・21号溝

(第173・174図)

概要 7-1-20・21号溝は7区西端部中程に位置する。20号溝は7-1-21号土坑と重複するが新旧は特定できなかった。また、21号溝と7-1-18・19号溝では、19号溝よりは新しいものの18号溝との新旧は特定できなかった。

20号溝からは土師器残片と須恵器蓋片が僅か1点づつ出土しただけで、21号溝からの出土遺物はなく、時期特定には至らなかった。しかし覆土の観察によって20号溝はAs-B降下後でAs-A降下以前の所産であるが、中・近世の上位洪水層に被覆されているた



第173図の2 7-1-16~19号溝と出土遺物(その1)

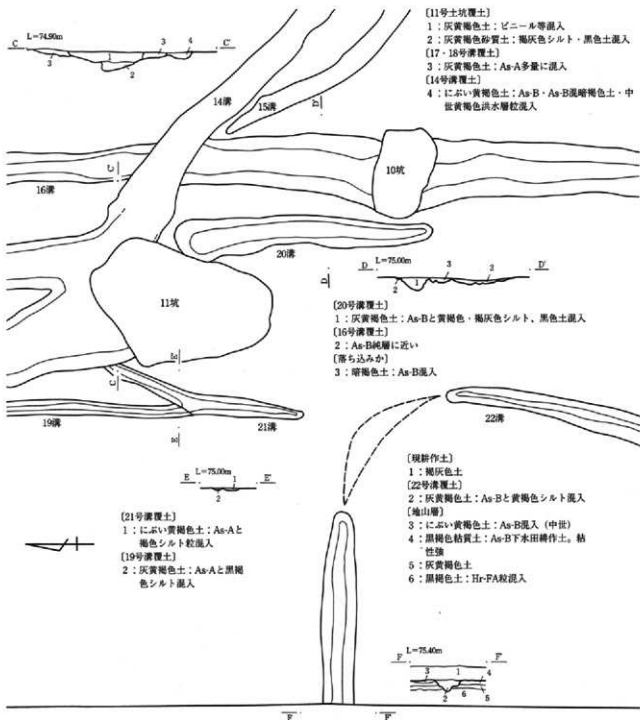
第2章 発見された遺構と遺物

め、15世紀後半遺構の可能性を持つ。また21号溝はAs-A降下後の所産として把握される。

20・21号溝は僅かな距離が調査できただけであり、掘削意図も想定することはできなかった。但し流水の痕跡は認められず、掘削位置は土地区画を意識したエリアにある。

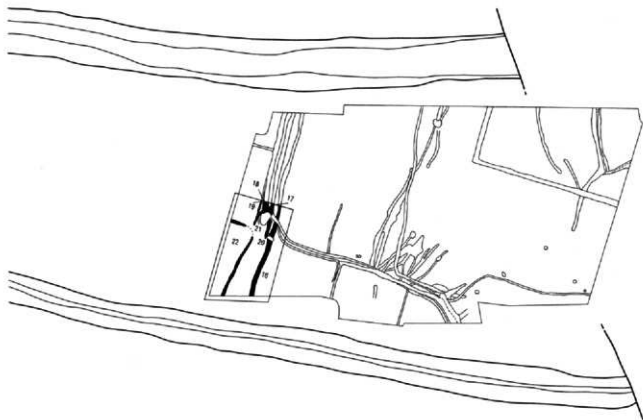
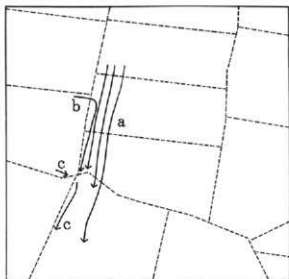
規模 (20号溝)長さ：(23.7) m 幅：40cm
深さ：7 cm

(21号溝)長さ：(25.0) m 幅：80cm 深さ：16cm
構造 20号溝の北端は形態的に溝端になるものと判断されるが、南端部と21号溝の南北両端は更に延長することを示すものであった。従って両溝の全容は



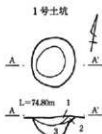
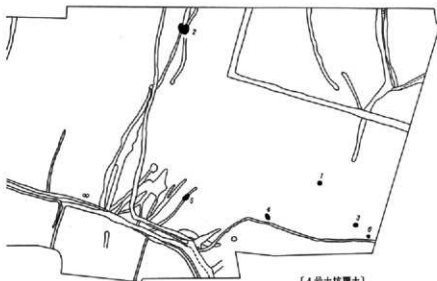
詳らかでないのであるが、確認範囲について見ると20号溝は位置的に7-17号溝の延長線上に位置するもので、概ね南北方向に走向を取る溝である。しかし細かく見ると中程を境と極く僅かに屈曲し、北半は軸が西に振れている。南北それぞれのラインは直線的である。一方、21号溝はく字状の直線的なプランを呈しており、南半部は19号溝に接続してその延長線上に完全に乗るが、北半部は20°程東に折れて北北東-南南東方向に軸方向を取っている。

両溝の掘削形態は、共に箱掘状を呈するものであった。



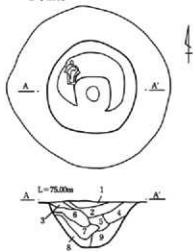
第174図の2 7-1-16~22号溝(その2)

第2章 発見された遺構と遺物



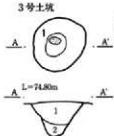
- 【1号土坑覆土】
 1: 褐灰色砂質土: As-B混入
 2: 褐色砂質土: As-B混入
 3: にぶい黄褐色土: 暗褐色土混入

2号土坑



- 【2号土坑覆土】
 1: 褐灰色土: 黄褐色シルト粒混入
 2: 暗褐色土: 黄褐色シルト混入
 3: 褐灰色土: 黄褐色シルト混入
 4: 灰黄褐色土: 黄褐色・暗褐色土混入
 5: 暗褐色土: 黄褐色シルト混入
 6: にぶい黄褐色土: 暗褐色土混入
 7: 黒褐色土: 黒褐色シルト・As-B混入
 8: 黒色土: As-B混入
 9: 黒褐色土: 7層に比し黒褐色シルトの割合多い。As-B僅かに混入

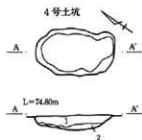
3号土坑



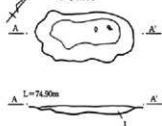
- 【3号土坑覆土】
 1: 灰黄褐色砂質土: As-B混入する
 2: 暗褐色土: As-B混入。やや粘質持つ

【4号土坑覆土】

- 1: 褐色砂質土: As-B混砂質土と褐色粘土混入
 2: 暗褐色粘質土: As-B混土と黒褐色粘土多く混入



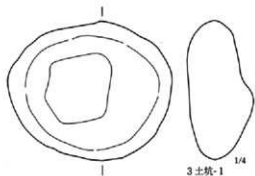
5号土坑



- 【5号土坑覆土】
 1: にぶい黄褐色土: As-B混入

【6号土坑覆土】

- 1: にぶい黄褐色砂質土: As-B混入
 2: 暗褐色土: As-B混砂質土と黒褐色砂質土混入



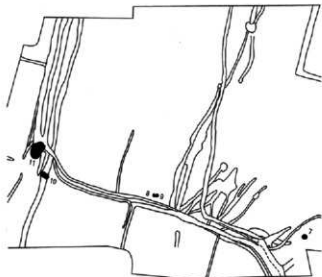
第175図 7区1面の土坑群と出土遺物(その1)

(1) 7区1面の土坑群

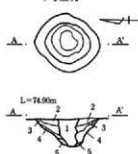
(第175・176図、図版75・76・87)

概要 7区1面では7-1-1~11号の11基の土坑が確認されたが、溝遺構に近接して在り、その分布はやや拡散する傾向にあった。

このうち2・5・7号土坑からは土師器・須恵器片等、3号土坑からは2寸角程を測る角柱の当り痕が残る礎石(1)が出土したが時期特定には至らず、土層観察等から1・3・7・8・9号土坑は中世の構築と判断された。4・5・6・10号土坑はAs-B降下後でAs-A降下以



7号土坑

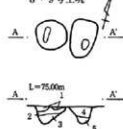


- [7号土坑柱痕]
 1: 暗褐色砂質土: As-Bと多量の灰黄褐色粘質土混入
 [7号土坑覆土]
 2: にぶい黄褐色砂質土: As-B混入
 3: 灰黄褐色砂質土: As-B混入。灰黄褐色粘質土1層に比し少く混入
 4: 黒褐色砂質土: As-B混入。やや粘性あり
 5: 黒褐色土: 黒色粘質土混入

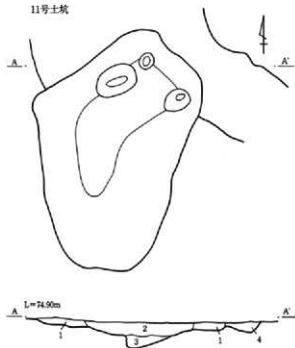
[耕作土]

- 1: にぶい黄褐色砂質土: As-Bと黄褐色シルト混入
 [8号土坑覆土]
 2: 灰黄褐色砂質土: As-B混入(或いは耕作土か)
 3: 黒褐色砂質土: As-Bと灰褐色粘土混入
 [9号土坑覆土]
 4: 灰黄褐色砂質土: 粗粒のAs-Bと灰褐色粘土混入
 5: にぶい黄褐色砂質土: As-Bと黄褐色粘土混入

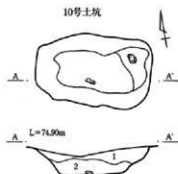
8・9号土坑



11号土坑



10号土坑



[10号土坑覆土]

- 1: 灰黄褐色砂質土: 褐色シルトと黒色土及び多量のAs-B混入
 2: 灰黄褐色砂質土: As-Bとにぶい黄褐色シルト・黒色土混入。砂質だがシルト多く粘性あり

[17・18号溝覆土]

- 1: 灰黄褐色土: As-A多量に混入
 [11号土坑覆土]
 2: 灰黄褐色シルト質土: As-A少量とビニール等混入
 3: 灰黄褐色砂質土: 褐色シルト・黒色土混入
 [14号溝覆土]
 4: にぶい黄褐色土: As-BとAs-B混濁褐色砂質土・中粒黄褐色洪水層粒混入

第176図 7区1面の土坑群(その2)



第177図の1 7区1面中世耕作痕

前の所産で、そのうち4号土坑は比較的早い段階、10号土坑は15世紀後半以前と判断される。また2号土坑は太平洋戦争末期、11号土坑は現代のものであった。

掘削意図等は、2号土坑は昭和20年(1945)8月15日未明の伊勢崎空襲に伴う爆裂坑。3号土坑は礎石、7号土坑は断面観察から柱穴と判断されるが、建物は特定できず、3号土坑は柱の規模に比して大きく7号土坑の柱は径50cm程と推定される。尚、これ以外の土坑の掘削意図は特定できなかった。

規模 (1号土坑) 径: 78×66cm 深さ: 33cm

(2号土坑) 径: 261×255cm 深さ: 72cm

(3号土坑) 径: 84×81cm 深さ: 57cm

(4号土坑) 径: 123×75cm 深さ: 24cm

(5号土坑) 径: 156×75cm 深さ: 15cm

(6号土坑) 径: 63×57cm 深さ: 21cm

(7号土坑) 径: 102×93cm 深さ: 42cm

(8号土坑) 径: 48×48cm 深さ: 27cm

(9号土坑) 径: 63×39cm 深さ: 27cm

(10号土坑) 径: 183×114cm 深さ: 33cm

(11号土坑) 径: 378×231cm 深さ: 42cm

構造 これらは1・6・8・9号土坑が小型、2・11号土坑が大型、他が中型に分類できるが、全体に6区の土坑に比しその規模は大きい。

プランは1～3・6・8号土坑が円型、4・5・9・10号土坑は隅丸長方形、7号土坑は長方形、11号土坑は不定形を呈する。

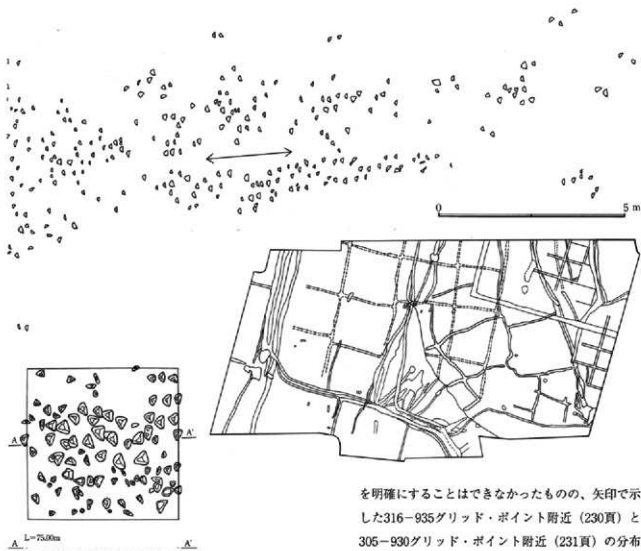
底面は1～3・6～9号土坑が丸底、4・5・10号土坑が平底、11号土坑がやや凹凸のある平底様を呈する。また壁面は4号土坑を除き開き気味である。

(4) 7区1面中世耕作痕 (第177図、図版76)

概要 本耕作痕は鋤先の集合体で、7区1面西部の7-1-16号溝に沿った区域で確認されている。

本耕作痕は調査段階で中世の所産と判断されているが、記録の不備もあって詳細な時期特定はできなかった。しかし平・断面図の照合から少なくともAs-B混土で被覆されたことが確認される。

本耕作痕は3・4・5区での同様の遺構の確認から水田址と認識される。後述の7区1面中世水田址との関係も考慮されるが、畦畔は特定できなかった。



第177図の2 7区1面中世耕作痕

規模〔確認範囲〕：32.5×7.6m

〔銹先〕(312～314～934～935附近)

径：20×19cm以下 深さ：概ね5cm以下

構造 本中世耕作痕は主に4～5m幅に、南北に伸びる帯状の範囲に分布する銹先痕によって形成されるもので、東西に更に広がるのが窺われるため、その全容は明らかにすることはできていない。

従って、以下確認範囲に於ける所見を述べるが、銹先痕の分布には濃淡があるが、上述のように畦畔

を明確にすることはできなかったものの、矢印で示した316～935グリッド・ポイント附近(230頁)と305～930グリッド・ポイント附近(231頁)の分布の薄くなる部分が畦畔であった可能性を有する。

銹先痕を確認すると全体としては北を中心とした方向を向いて掘削されたものが多かったのであるが、北寄りの317～320ライン付近では北東を見て掘削しているものが多く見られた。また320ライン以北では東西、或いは南を掘削するものも多く、規則性が特に認められない状態であった。

また銹先痕の配列から掘削は体の向いた方向に対して縦列に行われたものと判断されるのであるが、列として4つ並ぶ銹先は稀で、3つ以下のものが殆どであった。これは4区で見られた状態とは異なっている。

(05) 7区1面中世水田(第178図、図版77)

概要 本水田址はAs-B下水田の表出作業に伴ってその痕跡が確認されたもので、確認範囲は南寄り及び西端部を除く7区1面中・西部に広がっている。

本水田址からの出土遺物はなく、その時期も明確にはできなかったのであるが、上述のようにAs-B降下面に於いて確認され、確認されたのが痕跡のみであった状況に鑑みて概ね中世の所産であろうと判断している。

給排水路や給排水順路等は確認できなかったが、概ね北から南に給水していったものと判断される。

尚、前述の耕作痕(鋤先痕跡群)はその想定される畦畔の軸方向は近似するものの、位置から本水田址とは別のものである可能性を有する。

規模 (東西長×南北長、()内の数字は残存長)

[確認範囲] : 56.8×45.6m

[[水田区画径] 1 : (1064)×(1020) cm

2 : (1032)×1092cm 3 : (908)×1312cm

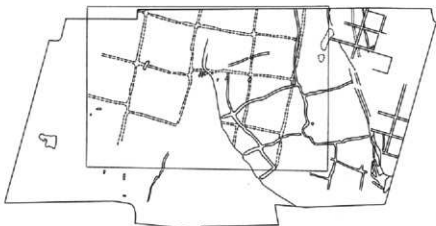
4 : (192)×(44) cm 5 : (1336)×(748) cm

6 : 1362×1220cm 7 : 1320×1280cm

8 : 1332×(380) cm 9 : (1388)×(500) cm

10 : 1516×988cm 11 : 1528×1328cm

12 : 1392×(736) cm 13 : 1136×(616) cm



第178図 7区1面中世水田

14: 1050×1388cm 15: 1132×1024cm

16: 1192×(792) cm

〔畦畔〕 下幅: cm以下

構造 本水田址は水田址に伴う水路等は確認できず、遺構としてもその痕跡が確認されたに過ぎなかったため全体の状況は詳らかにできなかったが、やや西に傾く南北方向の畦を12～13m間隔に設置し、畦と畦の間を概ね10～14m間隔で東西に区切って畔を設置しているのが確認された。こうして区画された個々の水田区画は比較的方眼に近い配列を見せており、南北の配列を基本としているが、区画1～8と区画9～16では東西畔が不連続であるため、本水田址は大きく東西に分けられるものと思慮される。また南北に連なる区画9・13の南北畦が区画10～12・14～16とは不連続であるため、東側の水田区画も南北に分けられるものと思慮される。

個々の水田区画のプランは正方形に近い形態を呈するものであった。その大きさは東西・南北の長さを測定できたものでは平均で東西径13.18m(標準偏差1.96)、南北径12.55m(標準偏差1.42)を測るものであった。

さて、その通水は上述のように水田区画が南北列を基本にしているため、北から南に流されていたものと判断される。しかし区画9・13はその北側の区画との連続性が認められないため、この箇所は区画10→区画9への通水と共に、区画14→区画13→畦区画9への通水も考慮され、区画13で区画16～13の南北列は止まってしまう可能性が思慮される。

⑩ 7区1面As-B下水田(第179図、図版77・111)

概要 本水田址は7区1面中・東部に位置している。本水田址はAs-Bに被覆されているため、最終使用面は天仁元年(1108)のものである。しかし水田の開削時期は特定できなかった。

谷地形を利用して造られており、条里方眼には依拠していない。通水は北北東側上流部から南東側下流部にかけて行われていたものと判断されるが、水路等を確認することはできなかった。

規模 (東西長×南北長、()内の数字は残存長)

〔確認範囲〕: 38.4×50.2m

〔水田区画径〕	1: 492×672cm
2: 540×1040cm	3: 368×1028cm
4: (536)×(264) cm	5: 1904×900cm
6: 1784×1220cm	7: 1800×1028cm
8: (1704)×(800) cm	9: (355)×(468) cm
10: 752×(772) cm	11: (608)×862cm
12: 800×881cm	13: (1460)×1340cm
14: (1364)×(2260) cm	

〔畦畔〕 下幅: cm以下

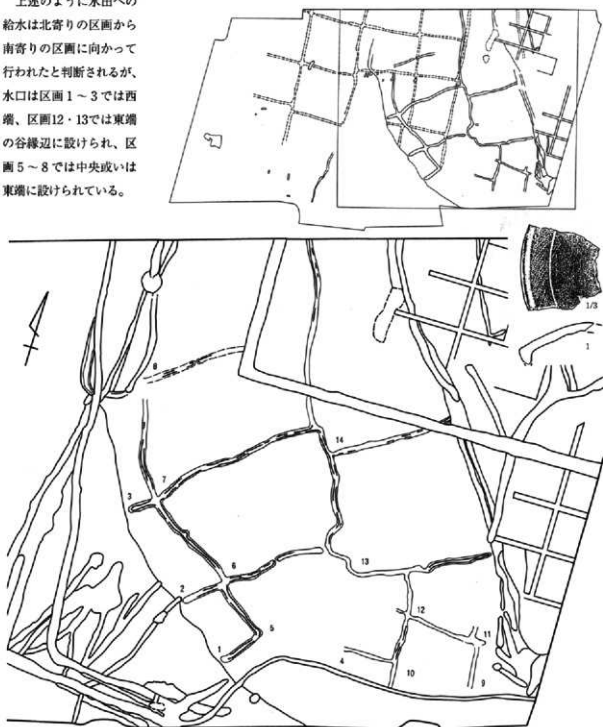
〔水口幅〕	水田面4-1間: 上幅: 23cm
	水田面1-2間: 上幅: 36cm
	水田面2-3間: 上幅: 43cm
	水田面5-6間: 上幅: 18cm、37cm
	水田面7-8間: 上幅: 38cm
	水田面12-13間: 上幅: 119cm

構造 本水田址は遺存状況もさして良好ではなかったため畦畔もはっきりしない箇所があるなど、その全容は詳らかにできなかったのであるが、上述のように25～40m程の北北東から南東方向に抜ける谷地形を利用して造られている。確認範囲に於いては西寄りと中央東寄りに谷に沿った北から南南東に走る畦が設置され、これを南北に分割する畔が設けられて水田区画が形成されている。南東部では東西・南北に谷地形がやや東を向くためか東西・南北方向に畦畔が設定されている。高、区画8の西側にの畦が水路に伴うものでなければ、谷幅が更に広がるか、谷地形が北西方向に延びる可能性を有する。

認識できた水田区画は14面を数えたが、このうち区画5・8・14は更に細分化される可能性を有する。また、個々の水田区画の規模は、東西・南北径を測定できたもののうち最小の区画1と最大の区画6では面積比で1:6.5の違いがあるなど大小があって一定していない。またプランも方形を基本とする傾向が窺えるものの、地形による規制があるため、台形、或いは屈曲するプランを呈する箇所もあって規格化できるものではなかった。

第2章 発見された遺構と遺物

上述のように水田への給水は北寄りの区画から南寄りの区画に向かって行われたと判断されるが、水口は区画1～3では西端、区画12・13では東端の谷縁辺に設けられ、区画5～8では中央或いは東端に設けられている。



第179図 7区1面A s-B下水田と出土遺物

(7) 7区1面窪地(第180図)

概要 7区1面南東隅部に於いては、現代の耕作土の除去に伴って窪地が確認されている。

この窪地は現代の耕作土及び同質の土壌によって被覆されているため、概ね近・現代の所産と判断さ

れる。しかし圃場整備前(昭和23年)に於いて当該箇所は西寄りに在るものの、一筆の水田の中に収まり、当時の地形図には窪地としての記載や等高線の変化は認められない。更に南側周縁部に於いてはAs-Aを多く含む近世後期の土壌が陥没する傾向に



〔現代耕作土等〕

- 1：褐灰色土：As-A、鉄分、ビニール等混入
 2：褐灰色土：As-A、鉄分凝縮土等混入。やや砂質。現代耕作土と同じ

〔近世の土層〕

- 3：褐灰色土：As-Aを多く混入する

〔中世の土層〕

- 4：にぶい黄褐色砂質土：As-B混入の中世洪水層
 5：暗褐色砂質土：As-B混入。褐灰色砂を互層に混入。基本的には6層と同じ

- 6：暗褐色砂質土：As-B混入。耕作土

〔古代の土層〕

- 7：As-B凝縮
 8：黒色土：As-C混入

あることが確認されていることから、当該箇所が少なくとも近世後期には窪地となっており、後世焼度か掘り直されていた可能性も考慮される。

尚、この窪地の成因或いは用途等を特定することはできなかった。

規模 径：(1.6)×4.9m 深さ：45cm

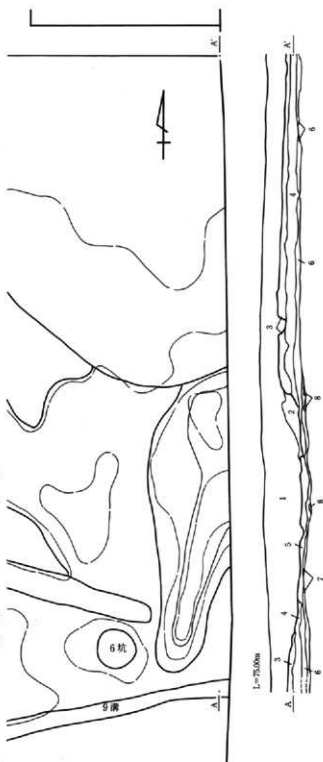
構造 東側が調査区外に出ているので、その全容は詳らかにできないが、本窪地のプランは北北東-南南西方向に主軸を持つしゃもじ状を呈する。

底面の形状九底気味で、壁面は開き気味である。

④ 7区1面遺構外の出土遺物

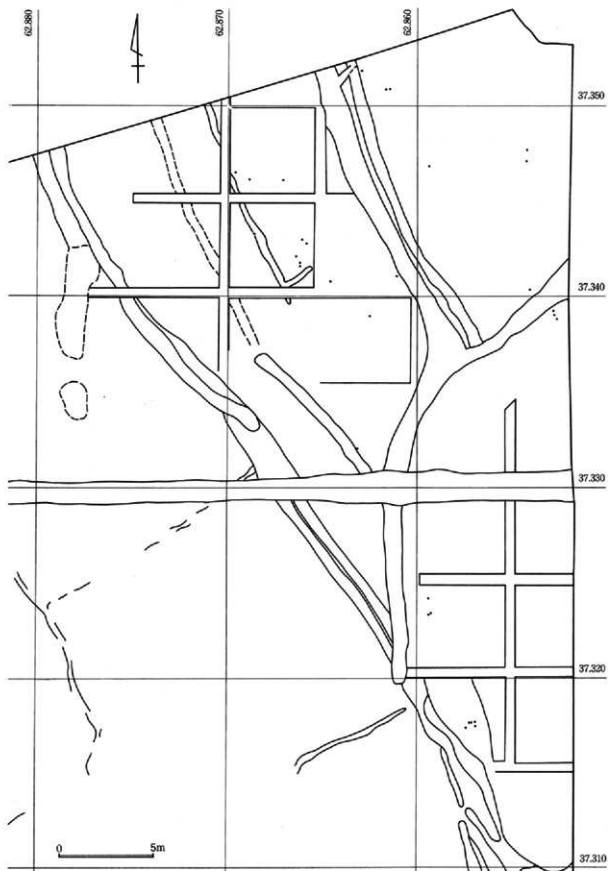
(第181・182図、図版88・89)

概要 7区1面に於いては遺構外の出土遺物として、古墳時代前・中期の土師器片を中心として、律令期の土師器・須恵器・灰輪陶器片など若干量があった。また、これらの中には板碑の破片(1)や使用痕の顕著な石製の挽き臼の上臼片(3~6)が含

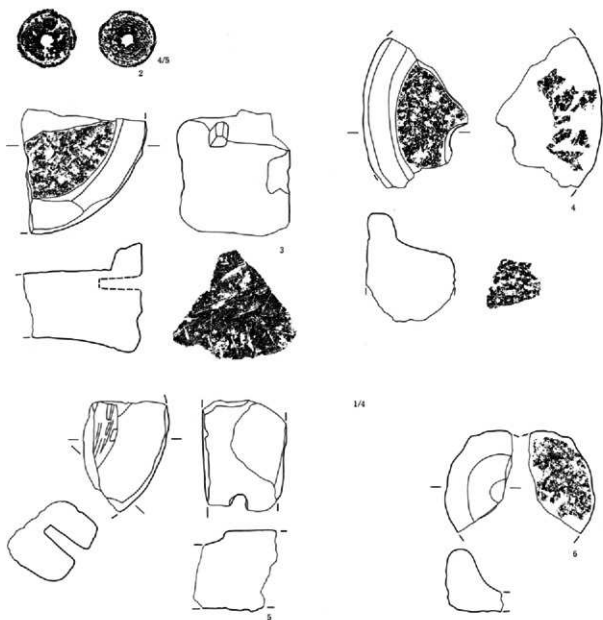


第180図 7区1面窪地

まれ、或いは大正時代の五銭硬貨(2)の出土も認められた。



第181図 7区1面遺構外出土遺物分布状況



第182図 7区1面遺構外出土遺物

7-3 7区2面の遺構と遺物

(1) 7-2-1号住居 (第183図、図版79・89)

概要 本住居は7区東端部中程に位置する。7-2-2号住居と重複するが新旧は特定できなかった。

4世紀のミニチュアの甕(1)や8世紀末~9世紀前半期の土師器坏(2)等古墳時代以降の土師器片等の出土遺物を得たが時期特定には至らず、概ね8世紀末葉以降の所産として把握されるに過ぎない。

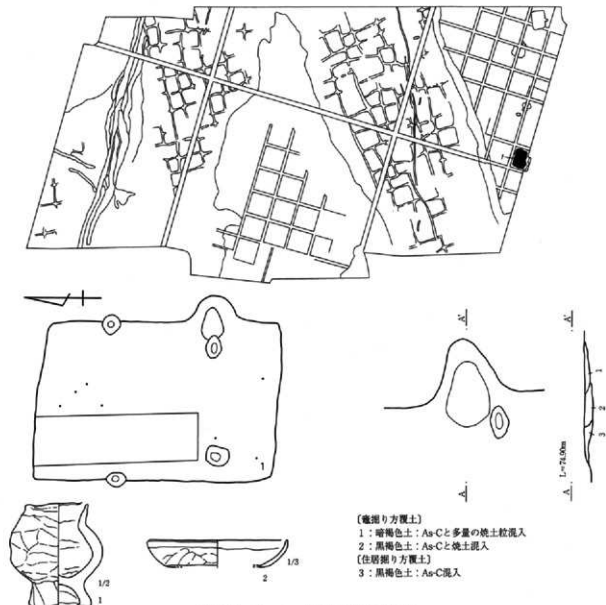
規模 径:380×253cm 深さ:0cm

[竈] 幅:(68)cm 奥行き:70cm

構造 本住居はトレンチによって壊され、掘り方を確認できたに過ぎなかったため、その全容は詳らかではきないが、横長の隅丸長方形のプランを呈する。

竈は東壁の南寄りに設けられ、壁面ラインを跨ぐ位置に浅い掘り方を掘削し、これを焼土を含む土壌で埋め戻している。燃焼部・袖等の構造は不明。

床上の構造は不明だが、本住居に給む4基の小ピットは住居の規模や掘削位置に照らしてこれらは本住居には伴わないものと判断される。



第183図 7-2-1号住居と出土遺物



(2) 7-2-2号住居 (第184図、図版79・89・90)

概要 本住居は7区東端部、7-2-1号住居の東にスライドして重なるように位置する。高、1号住居との新旧関係は特定できなかったが、遺構の確認状況から推して本住居の方が古い可能性を有する。

本住居は土師器甕(1)や須恵器甕(2)の出土から9世紀前半期の所産と判断されるが、4世紀の土師器甕片(3)や、律令期の土師器坏片、或いは流れ込みの可能性を有する産地・時期不詳の陶質の皿(4)等、若干の出土遺物を得ている。

規模 径：(228)×(48)cm 深さ：0cm

〔竈〕 幅：(53)cm 奥行き：55cm

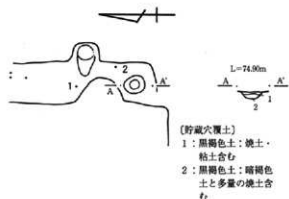
〔貯蔵穴〕 径：31×30cm 深さ：12cm

構造 本住居は遺存状況が悪く、僅かな範囲しか確認できなかったため、その全容は詳らかではない。

プランも不明瞭であるが、概ね隅丸(長)方形を呈するものと思慮される。

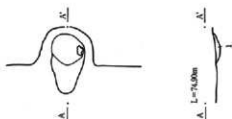
竈は東壁の、恐らくは南に寄った位置に設置されている。壁面ラインを跨ぐように浅い掘り方を掘削して造られているが、燃焼面は焼土粒を含む黒色系の土壌で埋め戻されている。高、燃焼部・袖等の構造は確認できなかった。

床上の構造も不明瞭ではあるが、竈右側の住居南東隅部に壁面から23cm離れて小型の貯蔵穴が掘削されている。



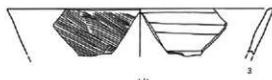
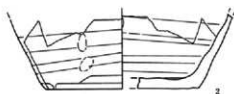
〔貯蔵穴覆土〕

- 1：黒褐色土・焼土・粘土含む
2：黒褐色土・暗褐色土と多量の焼土含む



〔竈掘り方覆土〕

- 1：暗黒褐色土；若干の焼土粒混入。粘性有り

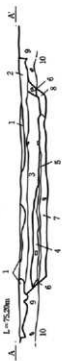
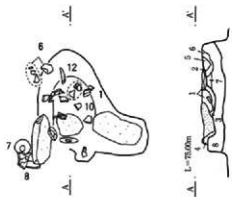
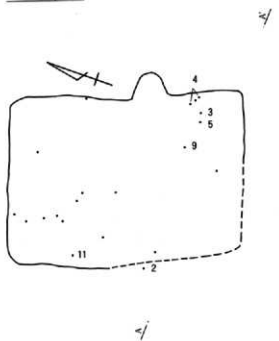


1/4



1/3

第184図 7-2-2号住居と出土遺物



(3) 7-2-5号住居(第185・186図、図版79・90・91)

概要 7-2-5号住居は7区北東隅部、8区に続く微高地上に位置する。本住居は単独で在り、他遺構との重複等は認められなかった。

本住居からは古墳時代前期から律令期にかけての土師器・須恵器片など若干の出土を得たが、この中には8世紀後半期の土師器の坏(1)・(8)・甕(10)、8世紀末葉から9世紀前半にかけての所産と判断される土師器坏(2~4)・(9)や須恵器坏(5~7)があり、或いは窪みを持つ異形の土製紡錘車(11)の出土も見られた。こうした出土遺物から本住居は概ね8世紀末葉~9世紀前半期の所産と判断される。

規模 径：368×270cm 深さ：0 cm
〔竈〕 幅：(92) cm 奥行き：93cm
〔右袖〕 幅：40cm 長さ：33cm
 高さ：6 cm

構造 本住居は確認面が低かったことも

- 〔住居廃棄後の埋土〕
 1：明褐色砂質土：As-B・橙色粘質土多く混入
 〔住居覆土〕
 2：黒褐色土：やや砂質。As-C・焼土粒混入
 3：黒褐色土：2層に比し柔らかい
 〔土層層構造部材か〕
 4：黒褐色土：As-C・焼土粒・灰色粘質土混入
 5：灰層
 〔副塔帯前部土か〕
 6：黒褐色土：やや砂質。As-C微量に混入
 〔廻り方覆土〕
 7：黒色土：やや粘質。As-C・焼土粒・黄褐色土少量混入
 8：黒褐色土：As-C微量に混入
 〔地山層〕
 9：黒褐色土：やや粘質。As-C多く混入
 10：黒褐色土：やや砂質。As-C微量に混入

- 〔竈覆土〕
 1：暗褐色土：やや粘質。焼土粒多く混入
 2：灰層：焼土粒含む
 3：黒褐色土：やや粘質。灰・焼土粒少量混入
 4：黒褐色土：やや砂質。灰少量混入
 〔煙道部覆土〕
 5：暗褐色土
 6：褐灰色砂質土：灰・焼土粒多く混入
 〔焼灰面構築層〕
 7：黒褐色土：やや粘質。黒色土少量混入
 〔竈廻り方覆土〕
 8：黒褐色土：黄褐色土・焼土粒混入

第185図 7-2-5号住居



あつて確認状況は悪く、その構造は詳らかにすることはできなかったのであるが、以下のような若干の所見を得た。

本住居は概ね横長の長方形プランを呈し、掘り方を有する。これを焼土を含む黒色系の土壌で埋め戻して床面を造っている。

竈は東壁の中央、やや南寄りに設けている。壁面を跨ぐ位置に浅い掘り方を掘削し、これを焼土粒を含む黒褐色土で埋め戻して燃焼面を造っている。竈の側には短い袖を設け、その手前側には砂岩を用いた天井石を設置している。

尚、柱穴・貯蔵穴等については確認できなかった。

第186図 7-2-5号住居出土遺物

(4) 7-2-12号住居 (第187図、図版79)

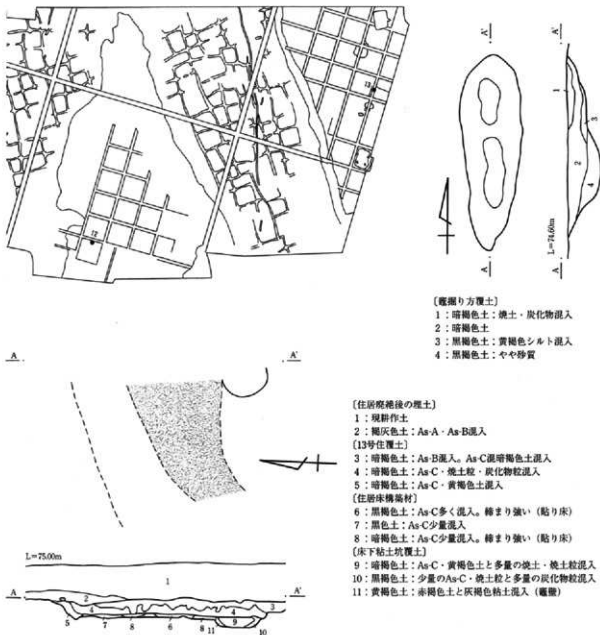
概要 本住居は7区中南部、7区中位の微高地上に位置し、竈の掘り方のみ確認している。また本住居に他遺構との切り合いなどは認められなかった。

本住居からの出土遺物はなく、時期を特定することはできなかったが、竈を有するため、概ね古墳時

代後期から平安時代の所産として把握される。

規模 [竈掘り方] 径：51×155cm 深さ：26cm

構造 本住居は竈が確認されただけで全容は不明であるが、竈の掘り方は縦長の楕円形プランを呈し、これを焼土を含む暗褐色土等で埋め戻して燃焼面を造っている。



〔竪掘り方覆土〕

- 1 : 暗褐色土・焼土・炭化物混入
- 2 : 暗褐色土
- 3 : 黒褐色土・黄褐色シルト混入
- 4 : 黒褐色土・やや砂質

〔住居廃壊後の埋土〕

- 1 : 規耕作土
- 2 : 焼灰色土 : As-A・As-B混入

〔13号住居土〕

- 3 : 暗褐色土 : As-B混入。As-C混暗褐色土混入
- 4 : 暗褐色土 : As-C・焼土粒・炭化物粒混入
- 5 : 暗褐色土 : As-C・黄褐色土混入

〔住居床構高材〕

- 6 : 黒褐色土 : As-C多く混入。締まり強い (貼り床)
- 7 : 黒色土 : As-C少量混入
- 8 : 暗褐色土 : As-C少量混入。締まり強い (貼り床)

〔床下粘土坑覆土〕

- 9 : 暗褐色土 : As-C・黄褐色土と多量の焼土・焼土粒混入
- 10 : 黒褐色土 : 少量のAs-C・焼土粒と多量の炭化物粒混入
- 11 : 黄褐色土 : 赤褐色土と灰褐色粘土混入 (竪掘)

第187図 7-2-12・13号住居

(5) 7-2-13号住居 (第187図、図版80)

概要 本住居は7区北東部、前述の7-2-1号住居の北西に近接して位置する。尚、本住居は古墳時代の7-3-14号住居を切ることが確認されている。

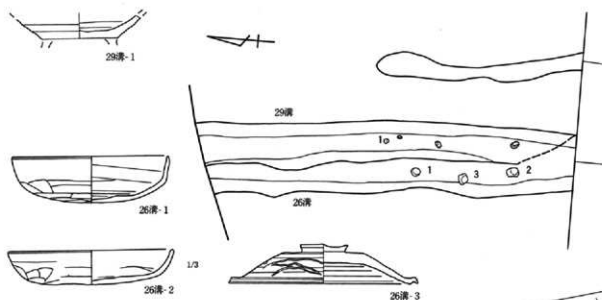
本住居からの出土遺物はなく、時期の特定もできなかったが、竈を有するらしいことから概ね古墳時代後期以降平安時代以前の所産として把握される。

規模 残存径 : 340×240cm 深さ : 0 cm

構造 本住居は土層断面には確認できるが、面的には殆ど確認できず、その構造も詳らかでなかった。

プランは不明。極く浅い掘り方を埋め戻して床を造るが、暗褐色・黒褐色土で貼り床が造られている。

また土層断面に現れる南寄りの9~11層は調査段階では竈とされているが、窪みの壁面に灰色粘土を含む土壌が張り付いているので、竈前に掘られる所謂床下粘土坑であろうと判断される。



(6) 7-2-26・27・28・28b・29・30・31号溝

(第188・189図、図版80・91)

概要 7-2-26～31号溝は7区西部に絡みつくようにまとまる南北走向の溝群で、第2節に述べた1面の7-1-16～18号溝の東寄り4m程スライドするように位置する溝群である。このうち29号溝が26号溝を、26号溝が27・31号溝を、31号溝が28号溝を切っているが、重複する27号溝と30号溝や28b号溝との新旧関係は特定できなかった。尚、28号溝は一部分割されており、この分かれる部分を本報告書では28b号溝としたが、調査段階では28号溝として一括処理されており、28号溝本体との関係は不明である。また31号溝は26・27号溝の中に在る溝であるが、土層断面に確認され、平面的には一部29号溝との重複する絡みにことで認識されたに過ぎなかった。

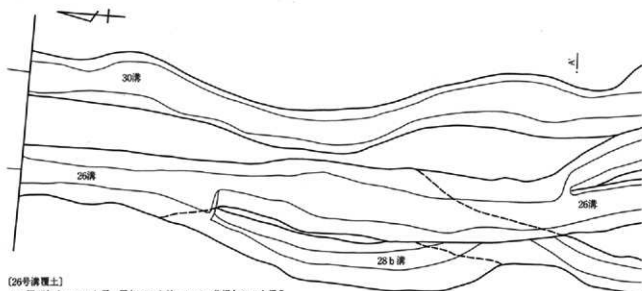
本溝群では31号溝を除く各溝から、やや古い時期の要素を残すもの(26溝-5)を含む9世紀前半期の土師器環(26溝-1・2・4、27溝-1・2)や須恵器の蓋(26溝-3)や環(26溝-6)、9世紀後半期の須恵器碗(29溝-1)、或いは煎石(26溝-7)や半截の竹片らしきもの(27溝-3)を含む古墳時代以降律令期に至る時期の土師器・須恵器片等の出土遺物があった。こうした遺物の出土によって、26・27号溝は9世紀前半期、29号溝は9世紀



第188図 7-2-26・29号溝と出土遺物(その1)

後半期の所産として把握される。尚、28・31号溝は重複関係から9世紀前半以前の所産と判断され、28b・30号溝も9世紀前後の時期の所産と凡そ想定される。

さて、本溝群の各溝には通水の痕跡は特に認められず、掘削目的は特定できなかった。しかしそのプランから土地区画に伴うものとは思わず、洪水層と想定される土壌に被覆されているものもあることから、何れも通水を目的として掘削された可能性が考慮される。



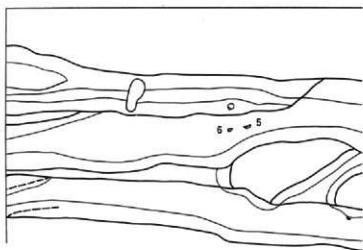
- [26号溝覆土]
1: 褐色土: シルト質。黒色シルト粒・にぶい黄褐色シルト混入
[29号溝覆土]
2: 褐色土: シルト質。As-C混入。粘性強
[27・31号溝覆土]
3: 灰黄褐色砂質土: 褐色シルト混入。洪水層か
[28号溝覆土]
4: 灰黄褐色土: シルト質。黒色シルト・Hr-PP (少) 混入。洪水層
[30号溝覆土]
5: 暗褐色土: シルト質。にぶい黄褐色シルト粒・As-C混入
[29号溝覆土]
6: 暗褐色砂質土: 細粒。褐色シルト粒多量に混入。洪水層か
7: 黒褐色砂質土: As-C混入



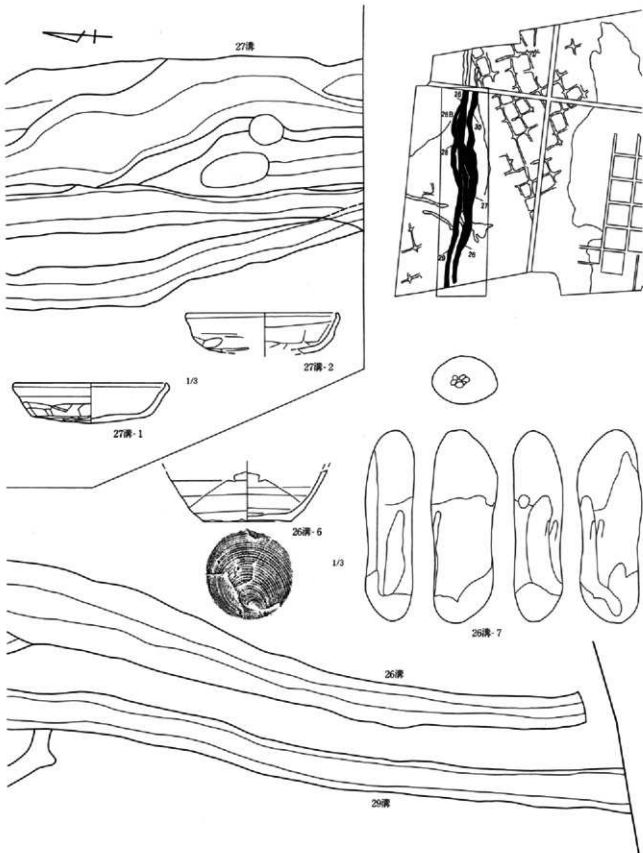
- 規模 (26号溝) 長さ: (50.0) m 幅: 168cm 深さ: 24cm
(27号溝) 長さ: (17.0) m 幅: 160cm 深さ: 41cm
(28号溝) 長さ: (12.6) m 幅: 72cm 深さ: 19cm
(28b号溝) 長さ: (7.4) m 幅: 96cm 深さ: 13cm
(29号溝) 長さ: (50.5) m 幅: 80cm 深さ: 30cm
(30号溝) 長さ: (16.8) m 幅: 128cm 深さ: 4cm
(31号溝) 長さ: (3.5) m 幅: 47cm 深さ: 26cm

構造 本溝群の各溝は南北に走向を取り、揺れの程度に差はあるものの、何れも蛇行したプランを呈している。

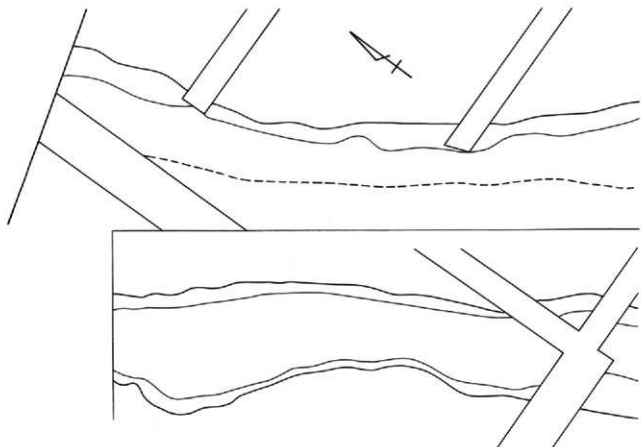
掘削形態は各溝共に箱形を呈する。



第189図の1 7-2-26~31号溝と出土遺物(その2)



第189図の2 7-2-26-31号溝と出土遺物(その2)



(7) 7-2-32号溝 (第190図、図版80)

概要 本溝は7区東部に在って微耕地と低地部との境に位置する。後述のHr-FA上水田の東側を画するようにして在るが、特に他遺構との重複は見られなかった。

本溝からは古墳時代の早い段階のものを中心に律令期に至るまでの若干量の土師器片を出土しているが、時期の特定には至らなかった。しかしこうした出土遺物と確認面との関係から、概ね奈良・平安時代の所産として把握されるものである。

本溝の掘削目的は特定できなかったが、南端部で直角に曲がることから何らかの区画溝と想定される。

規模 長さ：47.4m 幅：192cm 深さ：21cm

構造 本溝は北西方向から調査区に入り、極く緩やかに蛇行しながら南東に走向して調査区南端付近で直角に曲がって北東方向に抜けている。

大型の溝で、その掘削形態はさして整ったものではないが、概ね箱堀状を呈する。

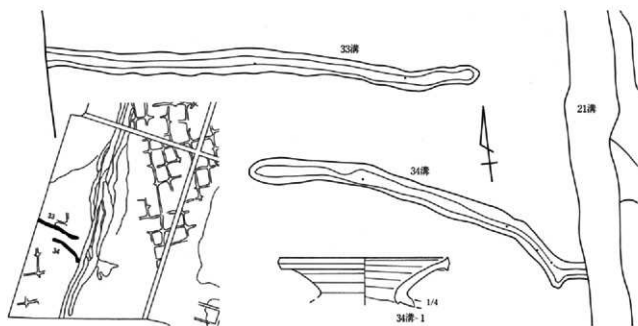
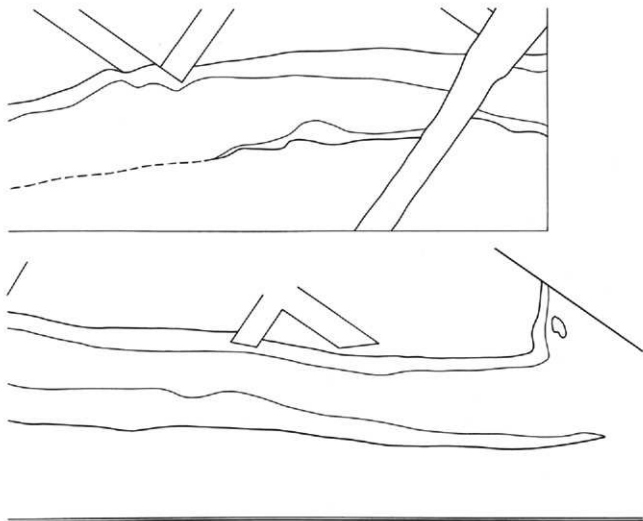


第190図の1 7-2-32号溝

(8) 7-2-33・34号溝 (第190図、図版91)

概要 7-2-33・34号溝は7区西南部に位置するが、両溝共に他遺構との重複はなかった。

33号溝からの出土遺物はなく、34溝からも須恵器



第190図の2 7-2-32~34号溝と出土遺物

第2章 発見された遺構と遺物

発片(1)等僅かな出土遺物を得ただけで時期特定には至らず、僅かに平安時代以前の所産と把握されるに過ぎなかった。

また、両溝共に掘削目的も特定できなかったが、7-2-29号溝に直行するようにあるため、7-2-26~31号溝群との関連が考慮される。

規模 (33号溝) 長さ: 9.2m

幅: 52cm 深さ: 7cm

(34号溝) 長さ: 7.6m

幅: 48cm 深さ: 7cm

構造 33号溝は東端で東に転ずるが、殆どは直線的に西北西-東南東に走向を取る。34号溝は緩やかな弧を描き乍、西から南東方向に走向を転じ、南端で東に分岐する。

両溝共に箱堀状の形態を呈する。



(9) 7区2面Hr-FA・FP泥流埋没水田

(第191図、図版81・91)

概要 7区2面ではHr-FA・FP泥流で埋没した小区画の水田址を発見、調査した。

本水田からは古墳時代後期の所産と思われる土師器発片等(1)、古墳時代以降の出土遺物を得たが時期を特定することはできなかった。しかし、後述するHr-FA下水田の存在からHr-FA下水田の復旧水田と判断され、廃絶の時期は6世紀後半以降で、条里水田構築以前の所産と把握される。

規模 (東西長×南北長、()内の数字は残存長)

〔確認範囲〕: (西南部) 5.5×21.3m

(西部) 23.0×38.4cm

(東部) 26.9×54.5cm

〔水田区画径〕 1: (193) × (79) cm

2: (210) × (58) cm 3: (217) × (104) cm

第191図の1 7区2面Hr-FA・FP泥流埋没水田と出土遺物 (S=1/400)

4: (217) × (65) cm 5: (292) × (63) cm

6: (121) × (87) cm 7: (315) × (330) cm

8: (121) × (317) cm 9: (54) × (131) cm

10: (42) × (68) cm 11: (224) × (102) cm

12: (208) × (196) cm 13: (-) × (109) cm

14: (78) × (230) cm 15: (165) × 382cm

16: (54) × (178) cm 17: (79) × (699) cm

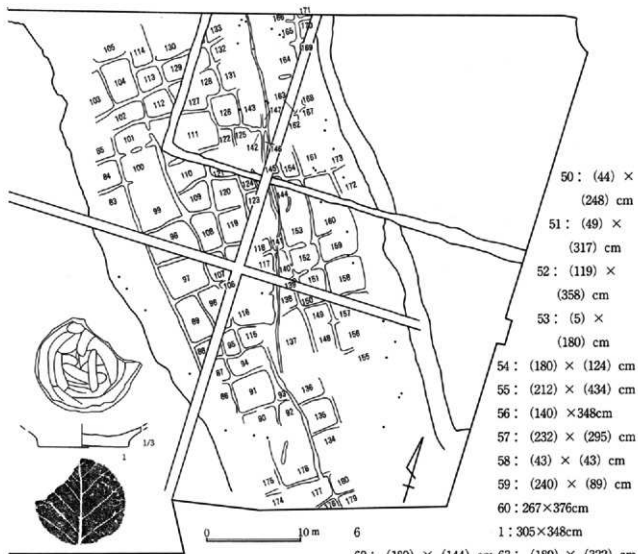
18: (97) × (197) cm 19: (226) × 265cm

20: 213×270cm 21: (409) × 297cm

22: 208×223cm 23: 263× (425) cm

24: (101) × (348) cm 25: (136) × 280cm

26: (166) × (238) cm 27: 197× (197) cm



第191図の2 7区2面H r・FA・FP泥流埋没水田と出土遺物 (S=1/400)

28 : 221×318cm	29 : 236×(127) cm
30 : (324) × (10) cm	31 : 514×285cm
32 : 459×326cm	33 : (294) × (628) cm
34 : 267×330cm	35 : 263×318cm
36 : 254×215cm	37 : (188) × (170) cm
38 : (227) × 290cm	39 : (114) × (202) cm
40 : (315) × 206cm	41 : (236) × (234) cm
42 : 274×328cm	43 : 235×299cm
44 : 188×254cm	45 : (215) × 364cm
46 : 438×233cm	47 : 513×(210) cm
48 : (103) × 343cm	49 : (21) × (56) cm

第2章 発見された遺構と遺物

92: (238) × (221) cm	93: (100) × (120) cm
94: 420 × 216cm	95: 158 × 264cm
96: (236) × 462cm	97: (463) × 380cm
98: 496 × (370) cm	99: 453 × 543cm
100: 420 × (263) cm	101: 364 × 246cm
102: (523) × 206cm	103: (243) × 430cm
104: 320 × 440cm	105: (340) × (62) cm
106: (57) × (56) cm	107: 211 × 306cm
108: 262 × 406cm	109: 328 × 290cm
110: (387) × 387cm	111: 668 × 474cm
112: (296) × (264) cm	113: 249 × 234cm
114: 219 × (416) cm	115: (218) × 226cm
116: 443 × (323) cm	117: (44) × (411) cm
118: 483 × 201cm	119: (295) × 343cm
120: 307 × 331cm	121: (148) × 316cm
122: (117) × (190) cm	123: 263 × (335) cm
124: (193) × (195) cm	125: (173) × (160) cm
126: 237 × 333cm	127: 317 × 354cm
128: (150) × 273cm	129: 497 × (200) cm
130: 570 × (86) cm	131: 413 × (305) cm
132: 434 × (174) cm	133: 412 × (114) cm
134: (224) × (10) cm	135: (300) × 326cm
136: (307) × (168) cm	137: (182) × (490) cm
138: (100) × (128) cm	139: (36) × (33) cm
140: (122) × (306) cm	141: 121 × (181) cm
142: (87) × (329) cm	143: (197) × 427cm
144: 165 × (383) cm	145: (67) × (93) cm
146: (45) × (335) cm	147: (48) × (143) cm
148: 226 × (256) cm	149: 251 × (207) cm
150: 257 × (155) cm	151: 278 × (243) cm
152: 290 × 259cm	153: 328 × 660cm
154: 170 × (259) cm	155: (120) × (—) cm
156: (147) × (312) cm	157: (412) × (228) cm
158: 394 × 370cm	159: 422 × (280) cm
160: 435 × (620) cm	161: 257 × (345) cm
162: (31) × (51) cm	163: (33) × (20) cm
164: 229 × 296cm	165: (98) × (200) cm
166: (102) × (71) cm	167: (53) × (25) cm

168: (281) × (64) cm	169: (34) × (91) cm
170: (130) × (184) cm	171: (151) × (65) cm
172: (148) × (255) cm	173: (55) × (—) cm
174: (141) × (206) cm	175: (170) × (206) cm
176: (195) × (88) cm	177: (436) × (273) cm
178: (754) × (512) cm	179: (181) × (107) cm
180: (189) × (224) cm	

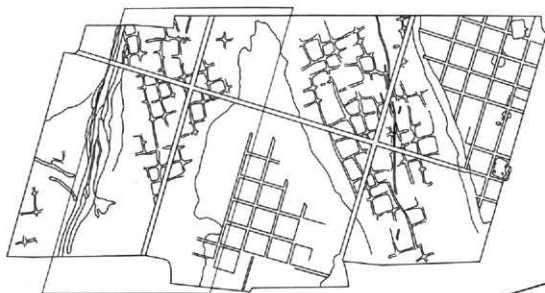
【畦畔】 下幅: 46cm以下

【水口幅】	水田面19-20間: 下幅: 40cm
	水田面33-34間: 下幅: 52cm
	水田面38-39間: 下幅: 45cm
	水田面66-67間: 下幅: 24cm
	水田面100-110間: 下幅: 43cm
	水田面118-119間: 下幅: 50cm
	水田面147-148間: 下幅: 37cm
	水田面148-149間: 下幅: 48cm

構造 Hr-FA・FP泥流下水田はA状に広がる谷地形内に造られている。遺存状態は良好でなく、谷の全体で確認できた訳でもないので詳らかでないが、概ね北西-南東方向に3.2m程の間隔で畦を設置し、その間を3.3m程の間隔に畦を設置して仕切るものであった。畦畔の軸方向は東側の谷地形はその方向に沿うが、西側の谷地形では一致していない。

個々の水田面のプランは方形を基本とするものの地形に合わせて変形し、帯状を呈する区画もある。その規模は東側のものの方が1割強大きく、西側の谷地形のものに対して測定できたものでは西側の谷では南西-北東の径は最小152cm、最大514cm、平均291.33cm、北西-南東の径は最小206cm、最大382cmで平均301.23cmを測り、東側の谷では南西-北東の径は最小121cm、最大668cmで平均332.40cm、北西-南東の径は最小201cm、最大660cmで平均339.85cmを測った。またその面積は最大7倍程の違いがあったが、西側の谷地形のものでは3倍強程と規模の違いは少ない。

尚、通水は水口と土地の傾斜から西側の谷地形の北東半部と東側の谷地形では概ね北西から南東方向に流していたものと判断される。



④ 7区2面Hr-FA下水田

(第192・193図、図版81・82)

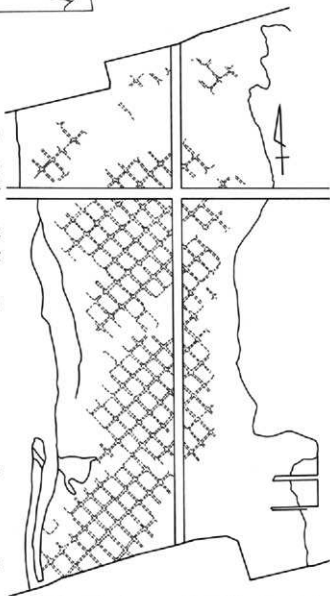
概要 本水田址は7区に広がるA状の谷地形のうち、西側の谷地形の中に於いて前述のHr-FA・FP泥流埋没水田の下位に発見、調査された水田址である。

本水田からの出土遺物はなかったが、Hr-FAで被覆されていることから6世紀初頭を下限とする古墳時代中期以前開削の水田址として認識される。

規模 (東西長×南北長、()内の数字は残存長)

[確認範囲] : 22.5×54.8m

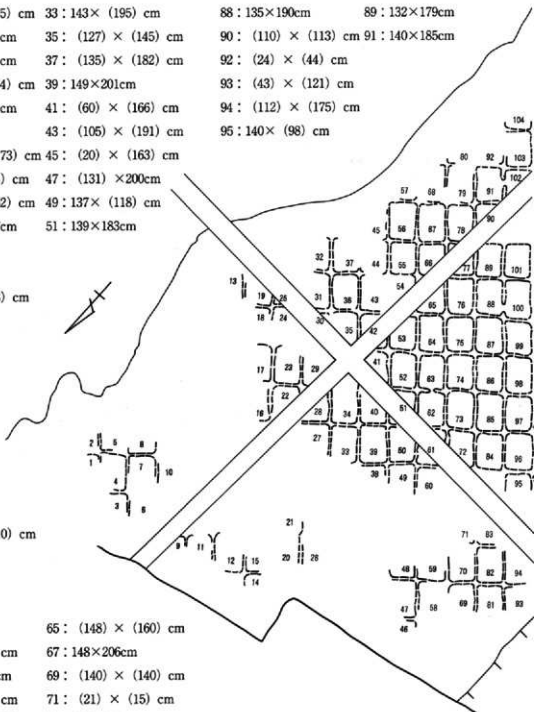
〔水田区画径〕	1 : (60) × (28) cm	
2 :	(-) × (63) cm	3 : (96) × (97) cm
4 :	136×196cm	5 : (67) × (90) cm
6 :	(-) × (80) cm	7 : 145×(105) cm
8 :	143×(62) cm	9 : (29) × (50) cm
10 :	(-) × (102) cm	11 : (135) × (125) cm
12 :	157×(203) cm	13 : (-) × (127) cm
14 :	(88) × (64) cm	15 : (69) × (77) cm
16 :	(55) × (170) cm	17 : (73) × (195) cm
18 :	(79) × (29) cm	19 : (157) × (147) cm
20 :	(-) × (132) cm	21 : (18) × (71) cm
22 :	(148) × (145) cm	23 : 140×(203) cm



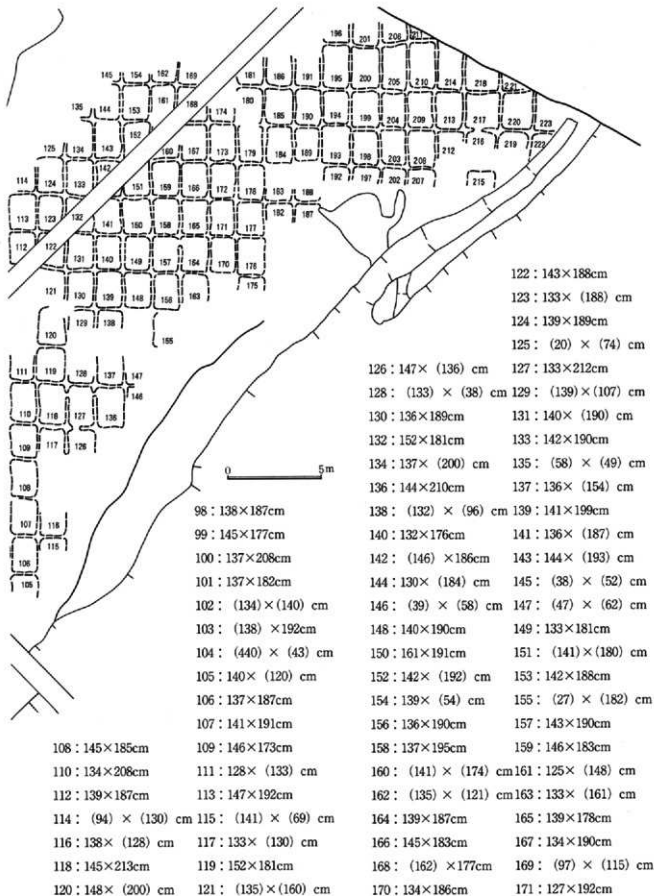
第192図 7区2面Hr-FA下水田全体図 (S=1/400)

第2章 発見された遺構と遺物

- 24 : (58) × (74) cm 25 : (39) × (34) cm 80 : (42) × (27) cm 81 : (141) × (142) cm
 26 : (—) × (101) cm 27 : (148) × (163) cm 82 : 139×187cm 83 : (93) × (16) cm
 28 : (143) × (148) cm 29 : (34) × (153) cm 84 : 143×191cm 85 : 145×198cm
 30 : (45) × (12) cm 31 : (83) × (194) cm 86 : 142×188cm 87 : 148×195cm
 32 : (64) × (175) cm 33 : 143×(195) cm 88 : 135×190cm 89 : 132×179cm
 34 : 145×(214) cm 35 : (127) × (145) cm 90 : (110) × (113) cm 91 : 140×185cm
 36 : 138×(190) cm 37 : (135) × (182) cm 92 : (24) × (44) cm
 38 : (124) × (64) cm 39 : 149×201cm 93 : (43) × (121) cm
 40 : 139×(151) cm 41 : (60) × (166) cm 94 : (112) × (175) cm
 42 : 143×183cm 43 : (105) × (191) cm 95 : 140×(98) cm
 44 : (143) × (173) cm 45 : (20) × (163) cm
 46 : (53) × (34) cm 47 : (131) × 200cm
 48 : (132) × (62) cm 49 : 137×(118) cm
 50 : (142) × 187cm 51 : 139×183cm
 52 : 136×189cm
 53 : 139×188cm
 54 : (28) × (48) cm
 55 : 136×170cm
 56 : 149×
 202cm
 57 : (90) ×
 (22) cm
 58 : (40) ×
 (142) cm
 59 : 148×
 (58) cm
 60 : (95) × (110) cm
 61 : 153×191cm
 62 : 140×180cm
 63 : 131×179cm
 64 : 132×197cm 65 : (148) × (160) cm
 66 : 136×(175) cm 67 : 148×206cm
 68 : (92) × 197cm 69 : (140) × (140) cm
 70 : 139×(143) cm 71 : (21) × (15) cm
 72 : (149) × (194) cm 73 : 145×200cm
 74 : 139×183cm 75 : 142×186cm
 76 : 140×(170) cm 77 : 140×(177) cm
 78 : 139×(193) cm 79 : (148) × 194cm
 96 : 149×184cm 97 : 142×185cm



第193図 7区2面H r-F A下水田面 (S=1/200)



第2章 発見された遺構と遺物

172: 136×186cm	173: 143×195cm
174: (130) × (76) cm	175: (140) × (76) cm
176: (189) × (224) cm	177: 142×179cm
178: 143×190cm	179: 133× (192) cm
180: 151 × (185) cm	181: (145) × (145) cm
182: (145) × (105) cm	183: (164) × (62) cm
184: 143×192cm	185: 153×188cm
186: (139) × (159) cm	187: (131) × (102) cm
188: (139) × (76) cm	189: 129×172cm
190: 141×196cm	191: (133) × (154) cm
192: (136) × (77) cm	193: 154×208cm
194: 140×172cm	195: 140×230cm
196: (135) × (99) cm	197: (144) × (90) cm
198: 141×181cm	199: 148×193cm
200: 146×222cm	201: (139) × (129) cm
202: (124) × (84) cm	203: 137×185cm
204: 128×183cm	205: 134×247cm
206: (136) × (94) cm	207: (147) × (92) cm
208: 148×194cm	209: 143×192cm
210: 143×249cm	211: (125) × (70) cm
212: (136) × (145) cm	213: 143×192cm
214: 138 × (226) cm	215: (143) × (89) cm
216: (157) × (86) cm	217: (180) × (191) cm
218: (178) × (182) cm	219: (160) × (96) cm
220: 165×206cm	221: (109) × (89) cm
222: (100) × (159) cm	223: (106) × (200) cm

[畦畔] 下幅: 23cm以下

構造 本水田址は上述のように谷地形の中に確認された水田址で、所謂極小区画水田である。遺存状態は不良であり、水田面の輪郭を確認できたに過ぎなかったため、その全容や構造を詳らかにすることはできなかった。

本水田址は規格化された方眼様のプランを呈している。畦畔の幅等から水田は北西-南東方向の畦を約1.5m幅で造り、その間を2m程の間隔で仕切って畦を設けたものと判断される。尚、畦畔の軸方向は谷地形の向きに対して45°程西にずれていて、地形に一致していない。

個々の水田区画は北西-南東方向に長い長方形のプランを呈するもので、その規模も、測定できた区画について見ると長さ(南西-北東径)は最小125、最大165cm、平均で140.78cmを測り、幅(北西-南東径)は最小110cm、最大248cm、平均191.54cmを測った。その長さにはばらつきは少なく、面積で見ても最小のものに対して最大の水田面の面積は1.6倍と規模の違いも小さいものであった。

さて本水田址は遺存状況が悪かったため水口も明瞭に確認できず、水田の軸方向と土地の傾斜との間にズレもあったためはっきりしないが、通水は概ね北西-南東方向の列を基本として南東方向の水田区画に対して行われていたものと思慮される。

7-4 7区3面の遺構と遺物

(1) 7-3-3号住居

(第194～200図、口絵、図版83・91～99)

概要 本住居は周溝を伴う大型の竪穴住居で、7区中南部に位置する。

重複関係にある遺構のうち7-3-18号土坑は本住居を切っているが、7-3-35号溝等との新旧を特定することはできなかった。

本住居からは周溝部を中心に、土師器器台(1～3)・高杯(4～21)・小杯(22)・台付甕(23～41)・甕(42～51)・鉢(52)・蓋(53)・壺(54・56～79)・小型壺(55・80)や高杯の坏部に似た二次転用の見られる異形土器(81)、弥生土器の可能性もある壺片(82)など多くの種類の土師器片が多量に出土した。これらの土器は東海系或いは北陸系の要素を持つ3世紀末葉～4世紀初頭にかけの時期のものと判断されるため、本住居も同様の時期の所産と判断される。また葦石(83～86・88)、磨石(87・89～91)の出土も見られたが、これらは93・94と合わせてこも編み石として使用されたものと判断される。この他、石甕(92)や黒色頁岩の剥片(95・96)が見られ、或いは上位層からのものぐり込みである8世紀後半期の須恵器杯(97)や灰軸陶器の鉢らしき資料(98)の出土も見られた。

規模 全体径(周溝含む)：16.09×19.8m

住居本体径：647×780cm

〔周溝〕 幅：120～328cm以下 深さ：34cm

〔周溝部入り口〕 幅：156cm

〔柱穴1〕 径：80×75cm 深さ：31cm

〔柱穴2〕 径：(32)×(57)cm 深さ：39cm

〔柱穴3〕 径：(49)×52cm 深さ：73cm

〔柱穴4〕 径：64×61cm 深さ：79cm

〔柱穴5〕 径：72×69cm 深さ：55cm

〔柱穴6〕 径：(60)×40cm 深さ：14cm

〔ピット1〕 径：35×38cm 深さ：18cm

〔ピット2〕 径：38×40cm 深さ：12cm

〔掘り方周溝〕 幅：123cm 深さ：24cm

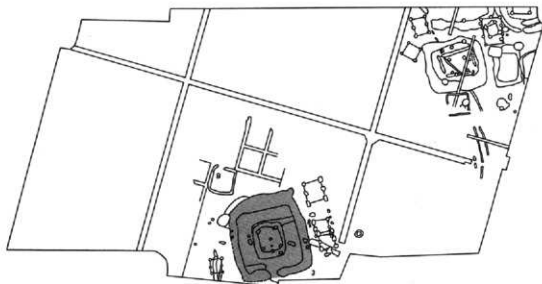
構造 本住居は上述のように周溝を持つ大型の竪穴住居であるが、上位部分が古墳時代以降後世の耕作等によって壊されているため、掘り方面を確認できたに過ぎなかった。更に他の溝遺構等とも重複する箇所もあったためその構造を詳らかにすることはできなかった。

本住居は主軸が330°Nを向く、やや縦長の正方形に近い隅丸方形プランを呈している。また周溝の掘削ラインもこれに伴って隅丸方形プランを呈する。周溝は北辺が幅3m程、東・南・西辺が幅1.7m程の幅員を持ち、前者の方が若干深い。また南側中央が切れて開口部となっており、住居の入り口は南面中央にあったことが確認される。

竪穴住居の本体は周溝に囲まれた東西12.8m、南北12.4mの区域の中央に造られる。幅60～120cm幅の周溝を持つ掘り方を有し、これを黒褐色土を中心とする土壌で埋戻しているが、床面が失われているので床の構造は不明である。

床上の構造も明瞭ではなく、炉の構造は明らかにできなかったが、掘り方面に於いて柱穴が確認されている。柱穴は掘り方面に見られる周溝状の掘り込みの内側、コーナー部分に掘削されている。しかし南西・北東コーナー部にはそれぞれ2基の柱穴が確認されているので本住居は建替えの可能性を有する。また柱穴のうち北西の柱穴1と南西の柱穴2・3には底面には柱の荷重による塑性変形による窪みが認められ、その径は柱穴1が35×32cm、柱穴2が25×28cm、柱穴3が40×43cmを測り、柱の径が太かったことが窺われる。また柱間は南北の柱1・2間は370cm、柱1・3間が391cm、柱4・5間が411cm、柱4・6間が395cmを測り、東西の柱1・5間が356cm、柱1・6間が325cm、柱2・4間が360cm、柱3・4間が351cmを測った。

尚、住居本体と周溝の間は2.2～3.2m程と周溝の規模に対して大きいことから、壁の外側にテラス状の空間の存在も想定される。



(D-D'断面)

〔住居焼絶後の土層〕

1: 灰黄褐色粘質土: As-Cと2層寄り
Hr-FA混入 2: 黄褐色土: 多量の
Hr-FA

〔3号住居周溝覆土〕

3: 黒褐色土: As-C混入と下層に褐灰色
粘質土混入
4: 黒褐色土: 褐灰色土粒と少量のAs-C
混入

5: 黒褐色粘質土: 黒色粘質土と褐灰色
土、及び極少量のAs-C混入
6: 暗褐色土: 極少量のAs-Cと多量の褐
灰色土混入

7: 褐色土: 黒色・褐灰色粘質土混入
8: 褐色土: 黒色土と褐灰色土粒混入
9: 黒褐色土: 黒色土・褐灰色土粒と少
量のAs-C混入

10: 黒褐色土: 8層に似るが黒色土が多
い
11: 黒褐色土: 黒色土粒と多量の褐灰色
土、極少量のAs-C混入

12: 黒褐色土: 褐灰色土に褐色土混入
13: 黒褐色土: 極少量のAs-C、多量の黒
色土と褐灰色土粒混入
14: 黒褐色土: As-C少量の黒色土に黄褐
色土混入

〔3号住居周方覆土〕

15: 3層に似るが褐色粘質土多く混入
16: 3層に似るがAs-C混黒色土と褐色粘
質土混入
17: 8層に同じ
18: 黒褐色土: As-Cと黄褐色シルト混入
19: 13層に同じ

〔地山層土〕

20: 黒褐色土: As-C混入 21: 黒色土:
黒ぼく土、やや粘性有り
22: にぶい黄褐色土: 基盤の洪水層土

(I-I'断面)

〔住居焼絶後の土層〕

1: 黒褐色土: As-B混入 2: 黒褐色

土: 4層に比しAs-C密に混入 3:
黒色土: As-C混入。所謂As-C混黒色
土 4: 黒褐色土: やや砂質。僅か
にAs-C混入

〔ピット覆土〕

5: にぶい黄褐色土: As-Cと黄褐色シル
ト混入 6: 黒褐色土: As-Cと黄褐
色シルト混入

〔3号住居周溝覆土〕

7: 黒褐色土: As-C混入。黄褐色シルト
多く混入
8: 黒褐色土: As-Cと褐色土混入
9: 黒褐色土: 黄褐色土混入

10: にぶい黄褐色土: 僅かにAs-C混入。
崩落土か
11: 黒褐色土: 極少量のAs-C含む
12: 黒褐色土: As-Cと褐色土混入。崩落
土か

13: 黒色土: 黄褐色土混入。崩落土か
〔地山層〕

14: 黒褐色土: 所謂As-C混黒色土層下の
黒色土 15: 黄褐色土: 基盤の洪水
層

(A-A'断面)

〔住居焼絶後の土層〕

1: 黒褐色土: As-A混入の溝覆土を混入
2: 褐灰色土: As-A混入の溝からの
崩込みか 3: 黒色粘質土: 粘性強。
As-B下水田耕作土 4: 褐灰色粘質
土: 粘性強い洪水層土 5: にぶい
黄褐色土: Hr-FA含む洪水層土

6: 黒褐色土: As-B混入
〔18号土坑覆土〕

7: 褐灰色土: As-Cと黒色・黄褐色シル
ト混入 8: 黒色土: As-Cと黄褐色
シルト混入 9: 住居ににぶい黄褐色土・
黒色シルト混入

〔3号住居周溝覆土〕

10: 黒褐色土: As-C・褐色シルト・粘
土に混入
11: 黒色土: 所謂As-C混黒色土

12: 黒褐色土: As-C・Hr-FA混入。Hr-
FAは5層から侵入か

13: 9層に同じ
14: 黒褐色土: 黄褐色シルト混入
15: 灰黄褐色土: 褐色シルト粒混入
16: 6層に同じ

17: 黒褐色土: As-Cと褐色シルト粒混入
18: 黒褐色土: As-C混入し黄褐色シル
ト粒密に混入

19: 黒褐色土: やや砂質。褐色掛かる。
僅かにAs-C混入
20: 黒褐色土: As-C僅かに混入

21: にぶい黄褐色粘質土: 粘性強。褐色
シルト粒混入
22: 黒色土: As-C・黄褐色シルト粒混入
23: 黒褐色土: As-C・黄褐色シルト粒僅
かに混入

24: 暗褐色土: やや砂質。As-C混入
〔地山層土〕

25: 黒色土: 所謂As-C混黒色土 26: 褐
色粘質土: 基盤層

(G-G'断面)

〔3号住居覆土か〕

1: 黒褐色土: As-C混入
〔3号住居柱穴5覆土〕(17号土坑)
2: 黒色粘質土: 黄褐色シルト粒混入
3: 黒褐色粘質土: 褐色土粒含む

〔3号住居周方覆土〕

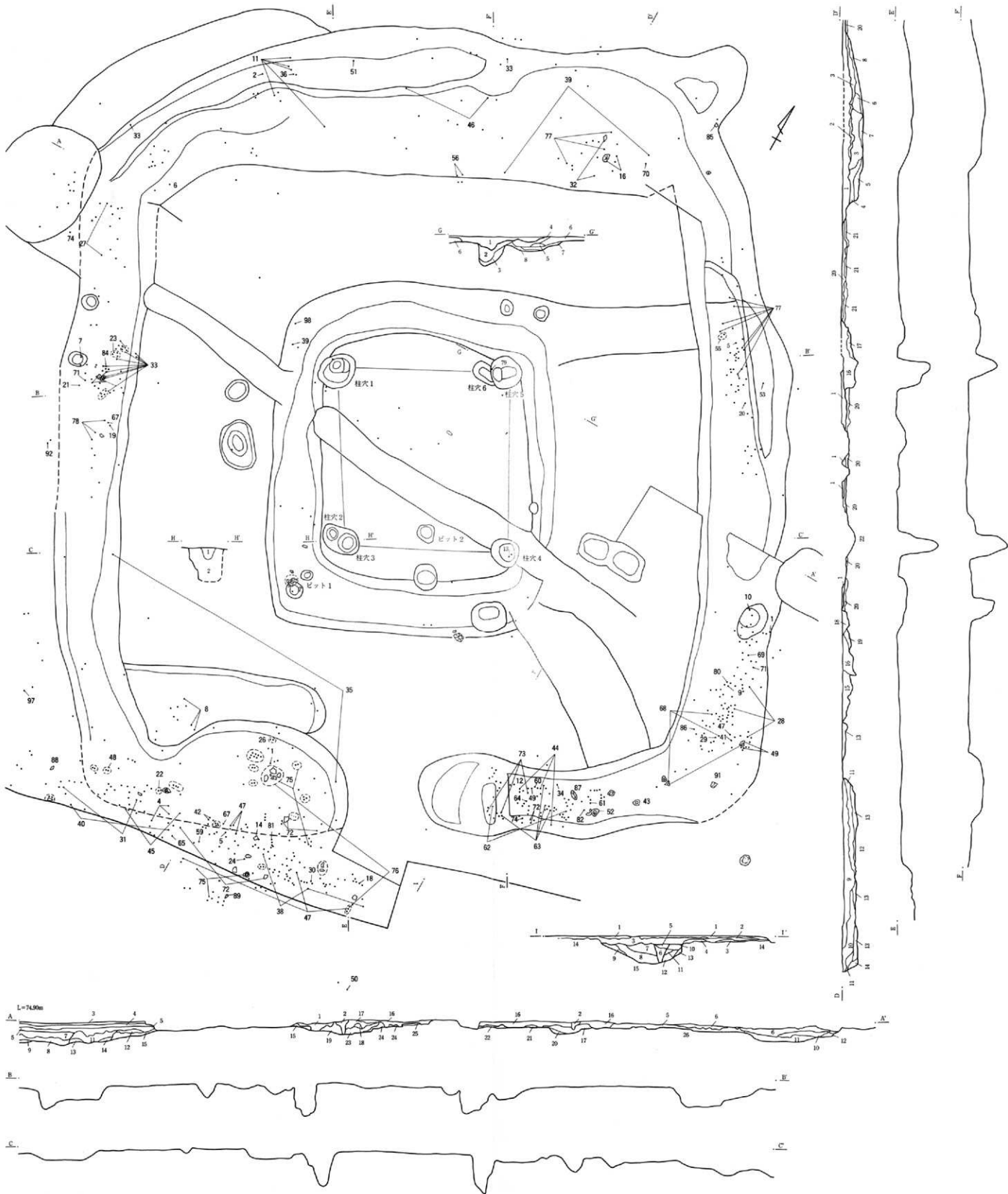
4: 黒色粘質土: As-C・褐色土混入
5: 黒色土: As-C混入
6: 黒色土: As-Cと褐灰色土混入
7: 黒褐色土: 褐灰色土多量に混入
8: 暗褐色土: 褐色土粒に黒色土混入

(H-H'断面)

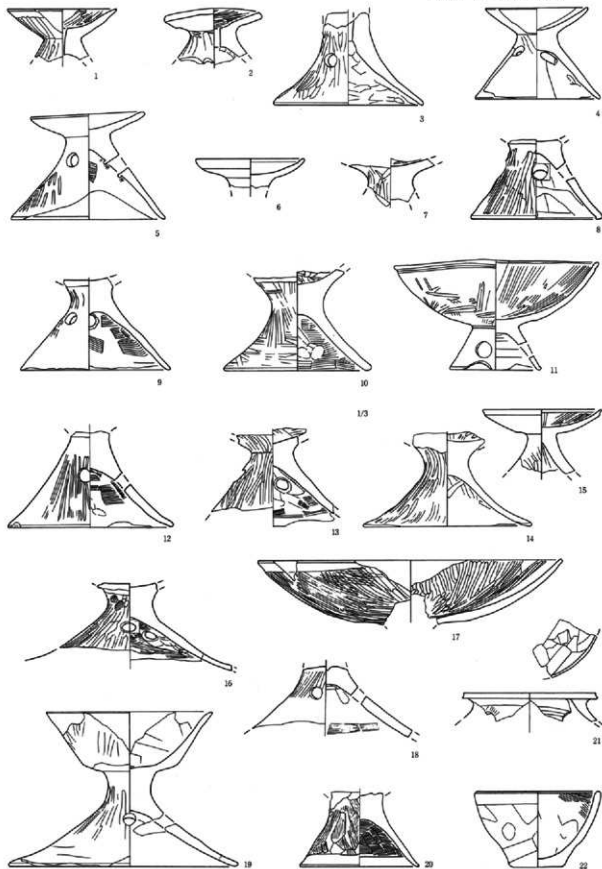
〔3号住居柱穴3覆土〕(28号土坑)

1: 黒褐色土: As-C・黄褐色混入。締ま
り弱い(住居か)
2: 暗褐色土: 褐灰色粘質土・黄褐色シ
ルトと極少量のAs-C混入

第194図の1 7-3-3号住居

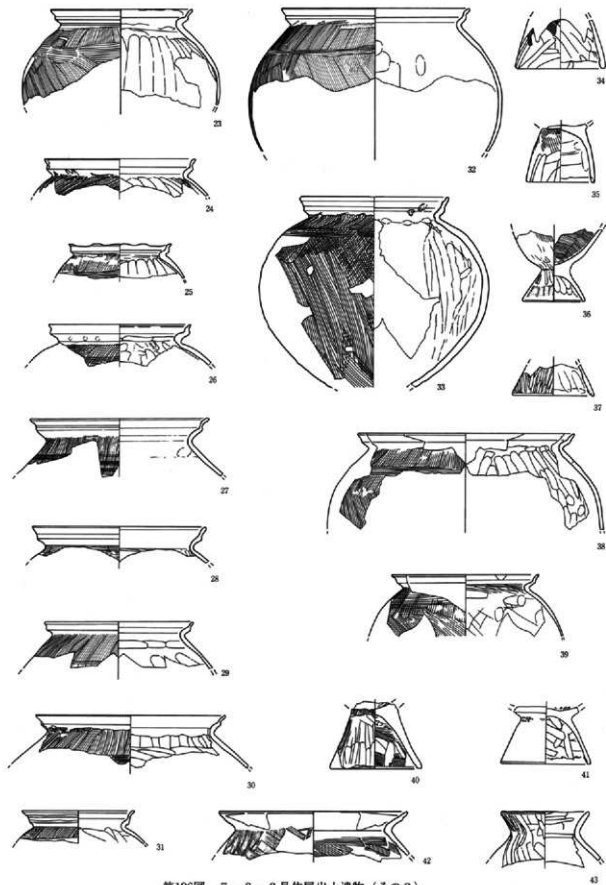


第194図の2 7-3-3号住居



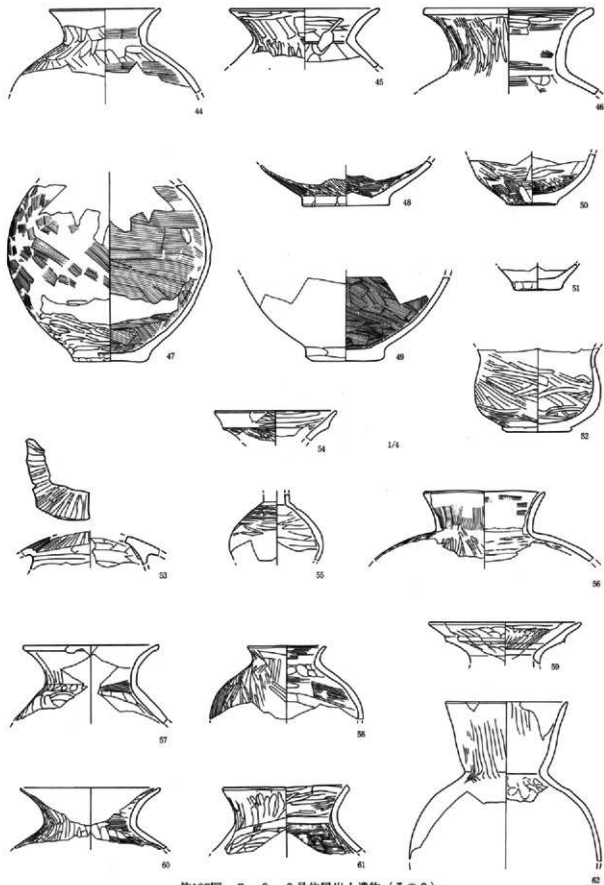
第195図 7-3-3号住居出土遺物(その1)

第2章 発見された遺構と遺物

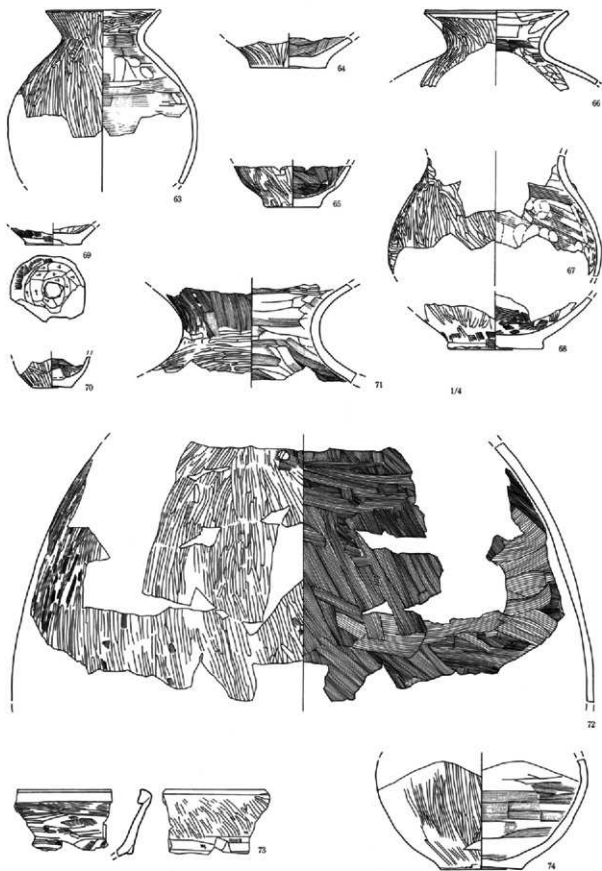


第196図 7-3-3号住居出土遺物(その2)

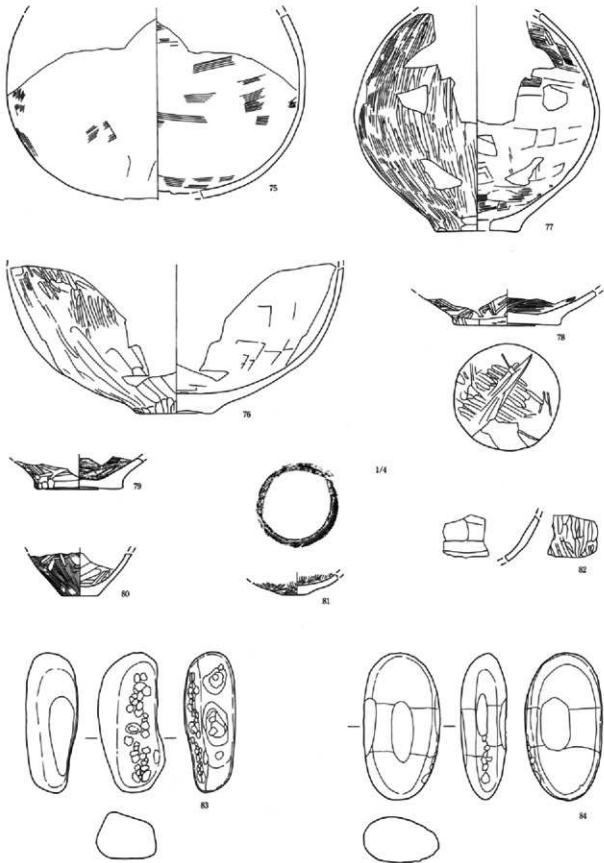
第3節 7区の遺構と遺物



第197図 7-3-3号住居出土遺物 (その3)

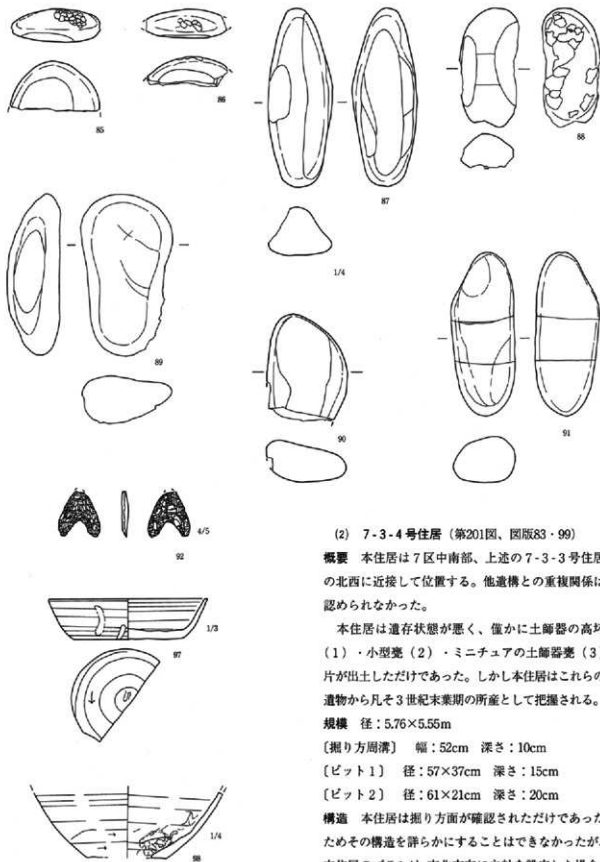


第198図 7-3-3号住居出土遺物(その4)



第199図 7-3-3号住居出土遺物(その5)

第2章 発見された遺構と遺物



第200図 7-3-3号住居出土遺物 (その6)

(2) 7-3-4号住居 (第201図、図版83・99)

概要 本住居は7区中南部、上述の7-3-3号住居の北西に近接して位置する。他遺構との重複関係は認められなかった。

本住居は遺存状態が悪く、僅かに土師器の高坏(1)・小型甕(2)・ミニチュアの土師器甕(3)片が出土しただけであった。しかし本住居はこれらの遺物から凡そ3世紀末葉期の所産として把握される。

規模 径：5.76×5.55m

〔掘り方周溝〕 幅：52cm 深さ：10cm

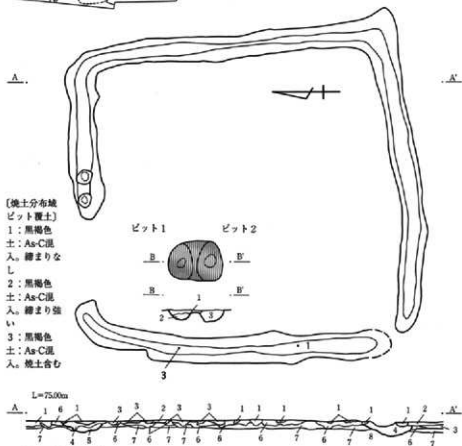
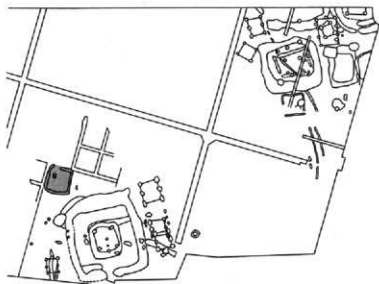
〔ピット1〕 径：57×37cm 深さ：15cm

〔ピット2〕 径：61×21cm 深さ：20cm

構造 本住居は掘り方面が確認されただけであったためその構造を詳らかにすることはできなかったが、本住居のプランは、南北方向に主軸を設定した場合、方形に近い隅丸台形を呈するものであった。

第3節 7区の遺構と遺物

本住居は掘り方を有し、これを黒色土・暗褐色土等で埋め戻している。掘り方は周溝を伴うもので、周溝は北西部で128cm途切れている。また南西隅部も17cm程途切れているが、この部分は形態から元々連続していたものと判断される。また北西部にその中東部から南部にかけて焼土の分布する長円形様の焼土分布箇所があるが、その分布域には南北に連なるように2基のピットが掘削

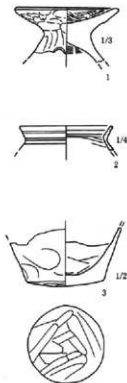


〔焼土分布域
ピット覆土〕
1: 黒褐色
土: As-C混
入。締まりな
し。
2: 黒褐色
土: As-C混
入。締まり強
い。
3: 黒褐色
土: As-C混
入。焼土含む

〔住居南縁後の埋土〕

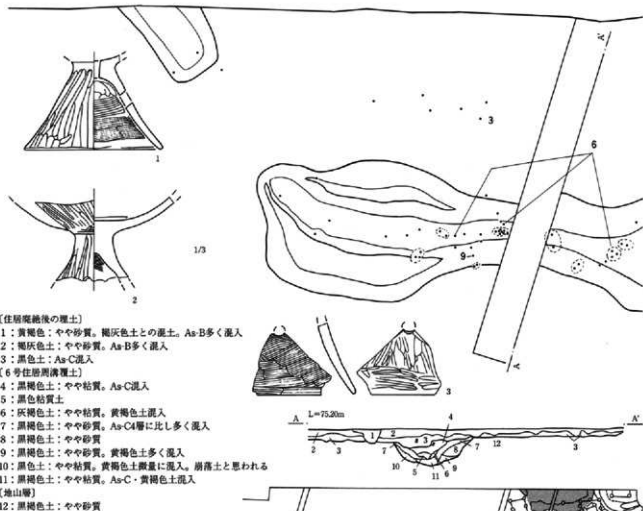
- 1: 暗褐色砂質土: As-B混入
- 2: 黒褐色土: As-B混入
- 3: 焼灰色土: As-C・Hr-FP混入
(4号住居掘り方覆土)
- 4: 黒色土: As-Cと8層土混入
- 5: 暗褐色土: 多量の8層土粒と若干のAs-C混入
(地山層土)
- 6: As-C混黒色土
- 7: 黒色粘質土
- 8: 褐色砂質土

第201図 7-3-4号住居と出土遺物



されている。尚、焼土分布箇所は位置的に東西・南北の中心ラインから偏っているため炉に関するものとは考えられないが、性格は不明である。

また掘り方面まで後世の掘削等が及んでいたため床面の構造は明らかにできず、住居の規模から想定される柱穴等も確認できなかった。



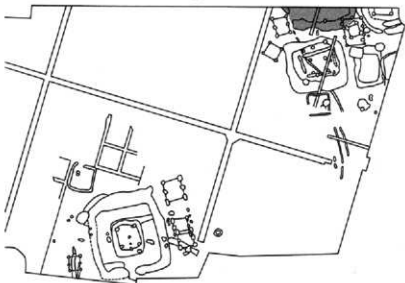
(3) 7-3-6号住居

(第202図、図版83・99)

概要 本住居は7区北東部に在るが、住居の過半は北側調査区外に出ていて周溝の一部を確認したに過ぎなかった。

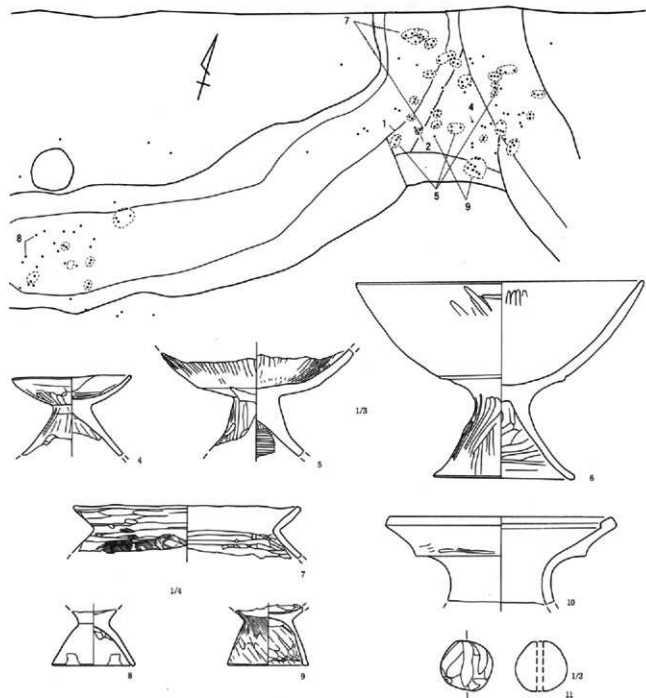
また7-3-6号掘立柱建物や7-3-11号住居と重複する。その新旧は特定できなかったが、断面写真の観察から本住居の方が古いことを認識できた。

出土遺物は周溝中西南部と東部から38号溝に至る区域に集中し、後者では38号溝が本住居を切るらしいことから、当該区域の同溝出土遺物も本住居に属するものとして扱った。高、出土遺物には若干量の



第202図の1 7-3-6号住居と出土遺物

上位層からの流入品もあったが、土師器器台(1・3)・高坏(2・4~6)・甕(7)・台付甕(8・9)・壺(10)・土錘(11)から概ね3世紀末の所産と把握される。



第202図の2 7-3-6号住居と出土遺物

規模 確認範囲：7.8×3.4m

〔掘り方周溝〕 幅：100～224cm 深さ：50cm

〔入り口〕 幅：182cm

構造 本住居は周溝を持つ大型の住居址であるが、上述のように住居本体は北側、調査区外に在り、周溝の一部を調査できたに過ぎなかったので全容は詳

らかでない。

調査区内に於いて周溝はやや開き気味の^{（開口部）}縁状を呈するが全体としては隅丸方形を呈していたものと思慮される。また南西部に溝の途切れる場所が在り、ここが入り口と考えられる。

その掘削形態は箱型状であるが、その幅員は一定せず、入り口部の東側は幅の1m程と狭くなる。

(4) 7-3-7号住居(第203~206図,図版84・100・101)

概要 本住居は7区北東部に位置する周溝を伴う住居址だが、住居本体の遺存状況は良好ではなく、掘り方を調査してきたに過ぎなかった。また7-3-37号溝と重複するが新旧関係は特定できなかった。

本住居では上位層から混ざり込みである6世紀の土師器埴(27)や8世紀後半の土師器の埴(25)や甕(26)も出土したが、土師器の高坏(1~4)、甕(5)、壺(6~8・10)や、弥生土器の壺片(9・11)など古墳時代前期のものを中心とする比較的多くの出土遺物を得た。こうした出土遺物から本住居は概ね3世紀末葉の所産として把握されるが、出土遺物の多くは周溝から出土しており、特にその南西隅部の分布が濃かった。その他、球形の土

錘(12)、台石(13)、砥石(14)、こも編み石としての使用が想定される磨石(15~21・23)とこも編み石(22)の出土があり、凹石(24)の出土も見られた。

規模 全体径(周溝含む)：12.5×11.6m

住居本体径：(737)×(500)cm

〔周溝〕 幅：97~302cm 深さ：26cm

〔掘り方周溝〕(東側) 長さ：(380)cm 幅：(40)cm

(南側) 長さ：(531)cm 幅：(52)cm

(西側) 長さ：389cm 幅：7~50cm 深さ：12cm

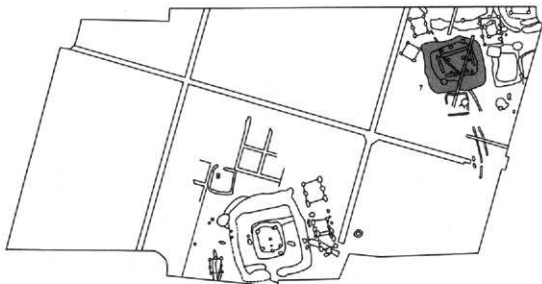
(北側) 長さ：647cm 幅：22~68cm 深さ：18cm

〔柱穴1〕 径：54×51cm 深さ：33cm

〔柱穴2〕 径：54×51cm 深さ：32cm

〔柱穴3〕 径：60×60cm 深さ：40cm

〔柱穴4〕 径：57×54cm 深さ：38cm



(B-B'断面)

〔住居絶縁後の埋土〕

- 1：黒褐色土：As-B混入
- 2：黒褐色土：僅かにAs-C混入
- 3：暗褐色土：焼土粒・黄褐色シルト粒混入。平安朝住居埋土と同じと考えられる
- 4：黒褐色土：As-Cと黄褐色シルト混入
- 5：黒色土：黄褐色シルト混入。崩落土と考えられる
- 6：黒褐色土：As-C・黄褐色シルト粒混入
- 7：黒褐色土：9層に比しAs-C少ない
- 8：黒褐色土：As-C僅かに混入
- 9：黒色土：所謂As-C混黒色土〔7号住居周溝埋土〕
- 10：黒色土：As-C混入。9層に粘性強い

- 11：黒色土：As-C混入。9・10層に比しAs-C少ない

- 12：黒色土：As-C密に混入
- 13：黒褐色土：黄褐色シルト混入
- 14：黒色土：黄褐色シルト混入。粘性強
- 15：黒褐色土：僅かにAs-C混入。崩落土と考える
- 16：黒褐色土：にぶい黄褐色シルト混入〔地山層土〕
- 17：黒褐色土：As-C混入だがAs-C少ない
- 18：黒褐色土：やや砂質

(A-A'断面)

〔住居絶縁後の埋土〕

- 1：黒褐色土：As-B混土。中世
- 2：暗褐色土：As-Cと僅かな黄褐色シルト混入

- 3：黒褐色土：2層に比しAs-C少ない

4：黒色土：As-C混黒土

〔7号住居周溝埋土〕

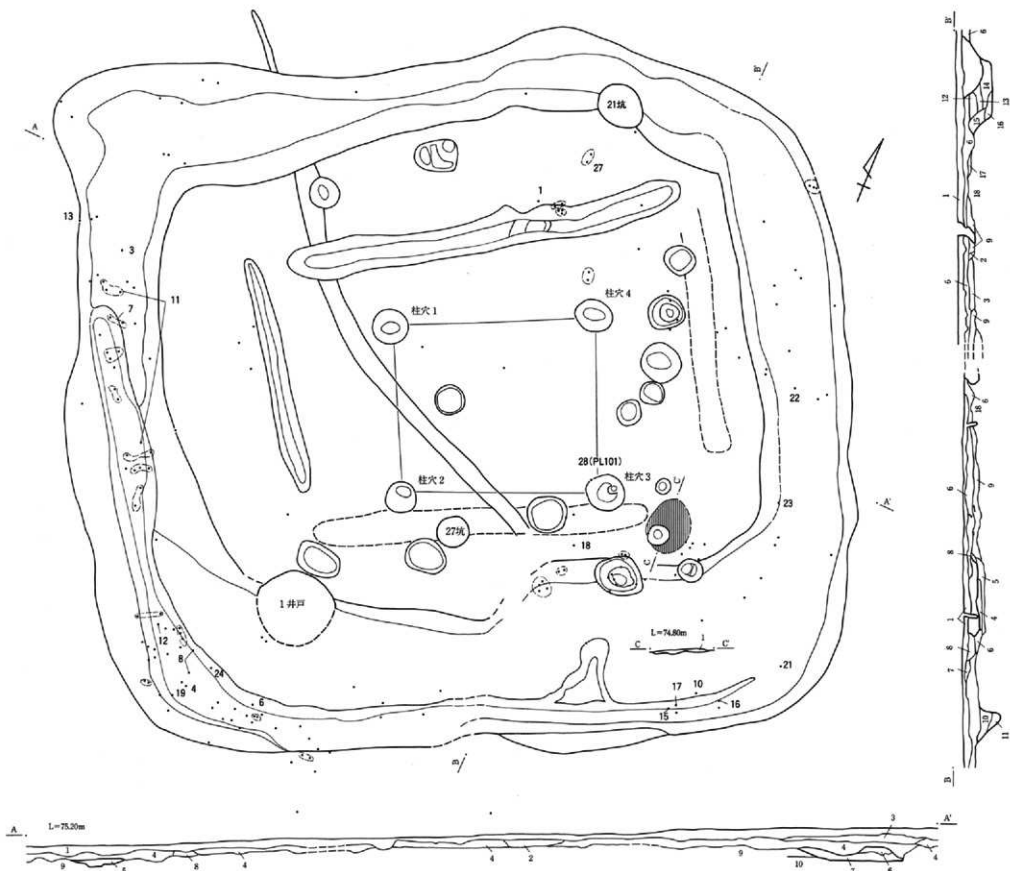
- 5：黒褐色土：2層に比しAs-C密に混入
 - 6：黒褐色土：褐色粘質土とAs-C混入
 - 7：黒褐色土：As-Cとにぶい黄褐色シルト混入
- 〔地山層土〕
- 8：黒褐色土：As-C僅かに混入
 - 9：黒褐色土：やや砂質
 - 10：黒褐色土：にぶい黄褐色シルト混入

(C-C'断面)

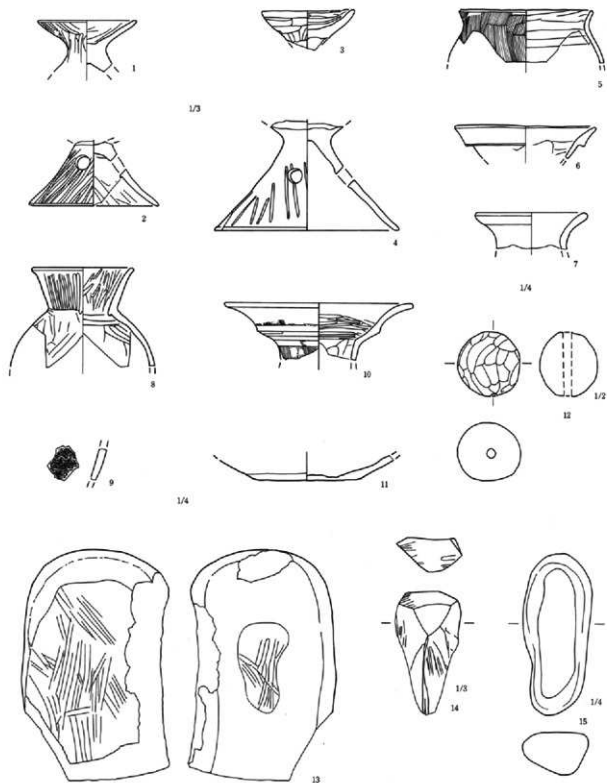
〔焼土跡埋土〕

- 1：黒褐色粘質土：As-C・焼土粒・黄褐色土混入

第203図の1 7-3-7号住居



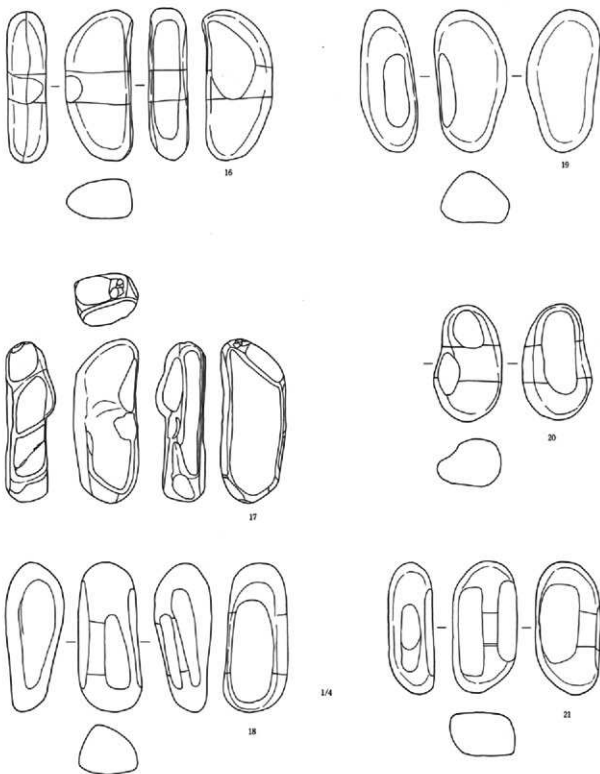
第203図の2 7-3-7号住居



第204図 7-3-7号住居出土遺物(その1)

構造 上述のように本住居は周溝を持つ堅穴住居であるが、上位部分が後世の耕作等によって削られて

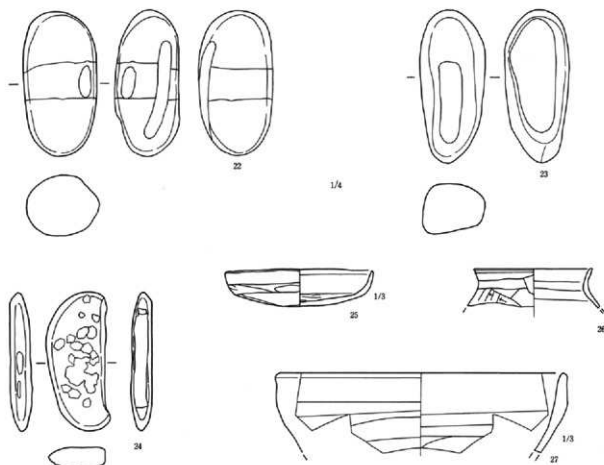
掘り方面を確認できたに過ぎないため、全体の構造を詳らかにすることはできなかった。



第206図 7-3-7号住居出土遺物（その2）

本住居の住居本体のプランは横長の長方形を呈するようである。しかし周溝の形状はやや崩れていてその幅員も一定しないのであるが、本来は住居本体

よりは正方形に近い形状の隅丸方形プランの掘削ラインを呈していたものと判断される。尚、その北東部はもともと欠かれていたようである。



第206図 7-3-7号住居出土遺物(その3)

周溝の幅員には広狭があり、概して南側が広く北側が狭いものの、凡そ180cm程が平均的幅員であったようである。また南側の溝から西側溝中南部にかけては、南側では南壁沿いの、西側では溝中央の溝底面から幅49～68cm、深さ10～15cmを測る小溝が更に掘削されている。尚、7-3-3・6号溝と異なり、本住居の周溝には開口部等は設けられていない。

竪穴住居の本体は周溝に囲まれた東西9.2m、南北7.9m以内の区域の中央より40cm程北に寄った位置に在るが、上述のように周溝のプランがやや不整形であるため住居本体と周溝との間の空間も東側では27～58cmと狭く、南側では40～135cm、西側では130～160cm、北側では25～158cmと幅がある。また住居本体と周溝間の区画の南東隅部では東西66cm、南北89cmを測る楕円形を呈する焼土の分布域が在ったが、位置的に炉とは考えられない。尚、

6-2-65号住居でも同様の位置に焼土の分布する箇所が確認されている。

住居本体は掘り方を有している。掘り方には周溝状の掘り込みが掘削されているが、北側と東側は連続していた様子が窺えるものの、西側の溝はその南端に、北側の溝はその西端に途切る箇所がある。また南東部も欠けていたようである。

一方、後世の掘削が掘り方まで及んでいたため床上の構造は不明瞭で、灰や貯蔵穴等も明らかにできなかった。一方、掘り方方面では幾つかのピットを確認したが、このうち4基については柱穴と認識された。認識した柱穴は東西にやや長い方形の配置を成すもので、住居中央よりは南に寄る位置に掘削され、掘り方の南側周溝に接している。住居の形態に鑑みて東西方向を旨方向と想定するが、柱間は桁間で270cmと281cm梁間で315cmと320cmを測った。

第2章 発見された遺構と遺物

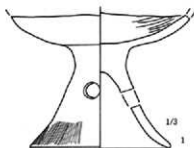
(5) 7-3-8号住居 (第207図、図版84・101・102)

概要 本住居は7区北東部に位置し、7-3-6・7・10・11号住居と近接する。

本住居の遺存状況は良好ではなく、僅かに掘り方面の一部を調査できたに過ぎなかった。また本住居は7-3-10号住居、7-3-1号竪穴遺構及び7-3-25号土坑と重複し、後2者には切られているが、10号住居との新旧は明確には特定できなかったものの、遺構確認順位の関係から本住居の方が新しいものと判断される。

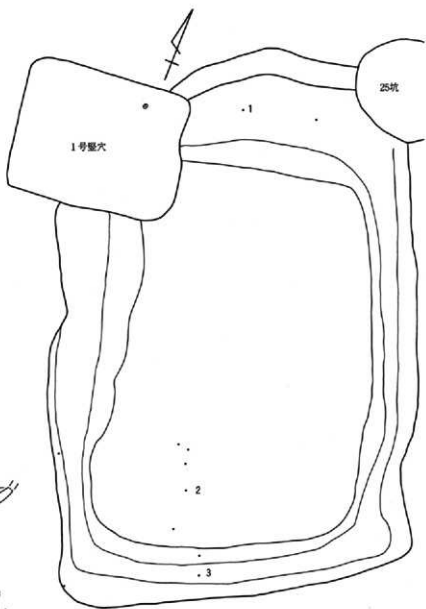
本住居からは上位層からの掘り込みに伴う遺物を含む若干量の土器類の出土を見たが、その主体は土師器高坏(1)等古墳時代前期所産の遺物であった。こうした土器類の他、凹石(2)やこも瀧み石(3)も見られた。このような出土遺物、特に土器の状態から、本住居も周囲の7区3面の竪穴住居と同様3世紀末葉の所産ではないかと判断される。

規模 径：8.7×5.9m
〔掘り方周溝〕 幅：49
～194cm 深さ：22cm

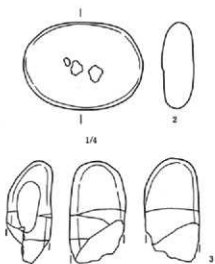
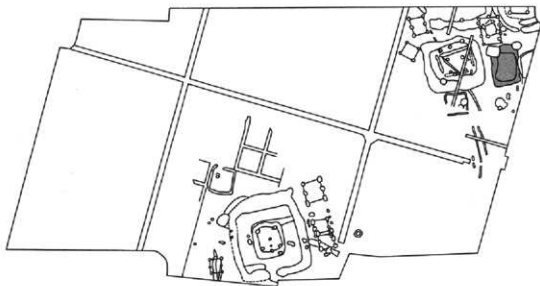


構造 上述のように本住居は掘り方まで後世の掘削が及んでいたため、その大半の状況を詳らかにすることはできなかったのであるが、以下のような所見を得ることはできた。

本住居のプランについては北東隅部を25号土坑、北西隅部を1号竪穴遺構に切られるためはっきりしないのであるが、現況に於いては主軸を北北西-南南東に持つ縦長の隅丸方形のプランをベースとして、北東角部が欠け或いは折れを有する形状を呈するものであろうと判断される。



第207図の1 7-3-8号住居と出土遺物



第207図の2 7-3-8号住居と出土遺物

本住居は掘り方を有しており、掘り方には周溝状の掘り込みが施されている。この周溝状の掘り込みは箱掘り状を呈するもので、深さは概ね一定であるが、その幅員は東側と南側では70～80cm程で、西側の南端部では50cm程、西側の過半と北側の中・東部では150cmを越える規模があって一定していない。また北西隅部は狭くなっている様子が窺える。尚、掘り方の埋土の記録も残せていない。

また掘り方面でも高位部分の構造明瞭ではないので、床面より上の状況は全く確認することはできなかった。加えて貯蔵穴、柱穴は掘り方面に於いても確認することはできなかった。

(6) 7-3-9号住居(第208図、図版84・102)

概要 本住居は方形の圍繞遺構で、平地式住居と判断される。7区北東部に位置し、7-3-2号井戸に切られて遺存状況は不良である。

本住居からは僅かな量の上位層からの混入物を含む若干量の土師器片の出土が見たが、その主体を成すものは古墳時代前期の遺物であった。この中にある土師器の器台(1・2)と壺(3)から、本住居は周囲の堅穴住居同様概ね3世紀末葉の所産として把握される。

規模 確認範囲：4.7×3.2m

〔周溝〕 幅：20cm 深さ：6cm

〔炉〕 径：88×(80)cm 深さ：7cm

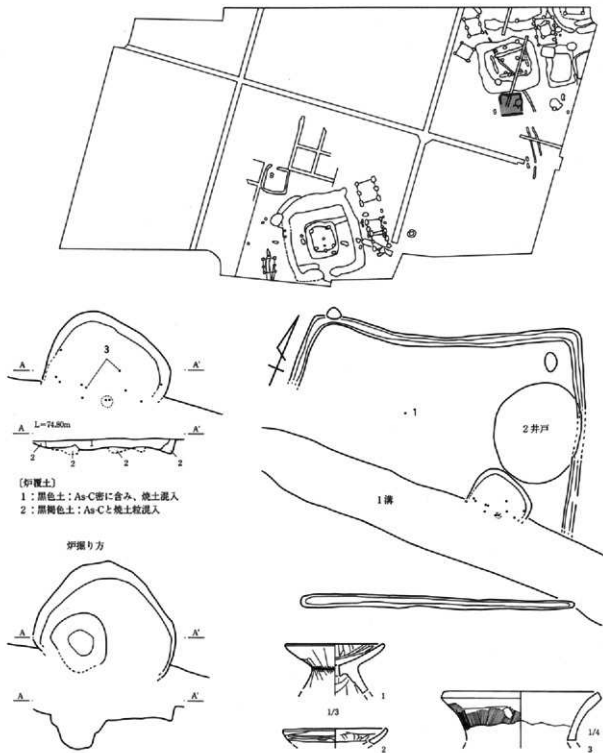
〔炉掘り方〕 径：109×95cm 深さ：10cm

〔炉掘り方ピット〕 径：44×42cm 深さ：34cm

構造 上述のように本住居の遺存状況は良好ではないため、その全容は詳らかにできなかった。

本住居のプランは東北東-西南西に主軸を持つ長方形様のものであるが、北辺は陥没するように南向きに屈曲し、東辺は東側に膨らむ。

さて本住居は住居の断面に関する記録が残されていないため、床面・掘り方の有無は確認できなかったが、周溝や炉の関連遺構の確認から床面に近い位置であろうと解釈される。



〔印覆土〕

- 1：黒色土：As-C密に含み、焼土混入
2：黒褐色土：As-Cと焼土粒混入

伊張り方

第208図 7-3-9号住居と出土遺物

周溝は南西部を除いて確認されたが、遺構の依存状況に鑑み、恐らくは壁際を一周していたものと想定している。尚、周溝は幅員や深さは一定していて、比較的整った形態を見せている。

また住居東部のやや南寄りには軸方向が住居の軸方向に対して45°程傾く隅丸方形プランを呈する地床炉が確認されている。炉は1層土に覆われたもの(第208図の左側上)が当初の燃燒面であったものと

判断している。この炉は掘り方(第208図の左側下)を持っており、その規模は燃焼部に対して一回り大きく、これを焼土粒を含む黒褐色土で埋め戻して燃焼面を造っている。また炉の掘り方のやや西寄りには方形プランの柱穴様のピットが確認されたが、このピットは別遺構の可能性もある。

このように炉や周溝を確認することはできたが、柱穴等他の遺構を確認することはできなかった。

(7) 7-3-10号住居(第209図、図版84)

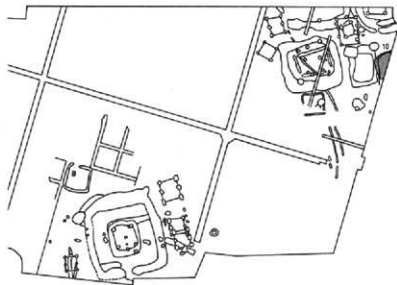
概要 本住居は7区北東部に位置する方形の囲繞遺構で、平地式住居と思慮される。遺存状況は不良で、加えて住居の過半が調査区外に在るため、その一部を調査できたに過ぎなかった。

本住居はその西端が7-3-8号住居と重複するが、新旧を明確は特定できなかったものの、8号住居の調査終了後に本住居が確認、調査されていることから本住居の方が古いものと判断される。

本住居に出土遺物なく時期の特定には至らなかったが、3面に調査されていることから古墳時代中期以前、上述のように8号住居より古いとするならば3世紀末葉以前の所産として把握されよう。

規模 確認範囲：5.2×3.1m

[周溝] 幅：44cm 深さ：14cm



第209図 7-3-10号住居

構造 上述のように、本住居はその過半が調査区外に在るためその全容を詳らかにできなかったが、確認範囲の状況から、北西-南東方向に軸を持つ隅丸方形のプランを呈するものと判断される。

また土層断面の記録も残せなかったため掘り方の有無は特でせず、調査面が床面なのか掘り方に入っているのかも特定できなかった。

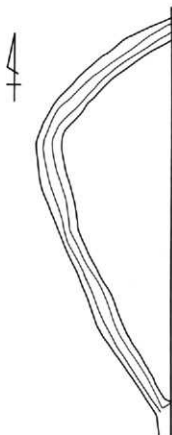
確認した遺構には周溝がある。周溝は箱塚状で幅員・底面の変化も少なく比較的整った形状を呈している。しかし乍ら柱穴、貯蔵穴、炉などは確認できなかった。

(8) 7-3-11号住居(第210図、図版83・84・102)

概要 本住居は7区北東隅に部に所在する。

7-3-6号掘立柱建物と重複するが、断面写真の観察から本住居の方が新しいことを確認した。

本住居には僅かな量の上位層に属する土師器片や弥生土器壺片(1)を含む出土遺物を得たが、その



第2章 発見された遺構と遺物

中心は古墳時代前期の土器片であった。時期特定には至らなかったが、出土遺物と遺構の構造から推して3世紀末葉頃の所産であろうと判断している。

尚、西側周溝は調査時点では38号溝として処理している。

規模 確認範囲：10.6×5.3m

〔住居本体確認範囲〕 576×381cm

〔周溝（東側）〕 幅：(177)cm 深さ：17cm

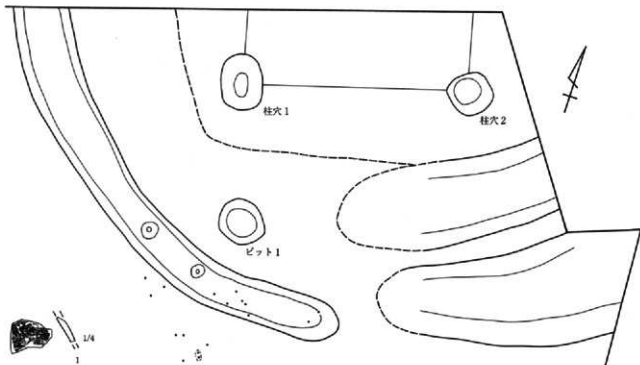
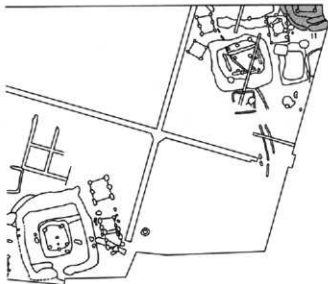
〔周溝（西側）〕 幅：91cm 深さ：28cm

〔掘り方周溝〕 幅：134cm 深さ：13cm

〔柱穴1〕 幅：66×89cm 深さ：33cm

〔柱穴2〕 幅：72×65cm 深さ：22cm

〔ピット1〕 幅：74×70cm 深さ：8cm



第210図 7-3-11号住居と出土遺物

構造 本住居は周溝を持つ堅穴住居であるが、上述のようにその過半が調査区外に在り、また大きく削平されているため全容は詳らかにできなかった。

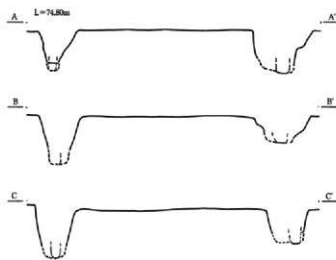
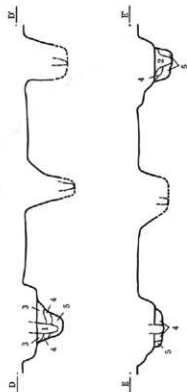
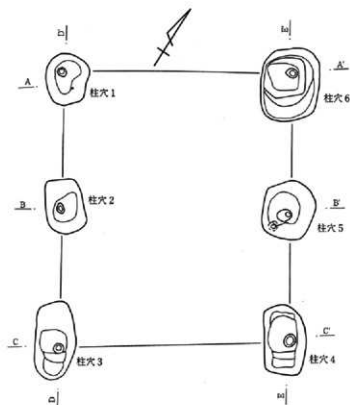
確認範囲での周溝の掘削ラインは円形に近く、住居本体は方形若しくは隅丸方形のプランを呈するものであった。

周溝は70cm程途切れて東西に分かれて喰い違う

が、東側の周溝は西側に対し倍以上の幅員を持つ。

一方、住居本体は北北西-南南東に軸を持ち、東側周溝と同様の規模・形状を持つ周溝状の掘り込みを伴う掘り方を有する。床面或いは炉は確認できなかったが、掘り方面に於いて規模の大きい柱穴2基を確認したが、その柱間は355cmを測る。

尚、住居の入り口は周溝の途切れる南側に在る。

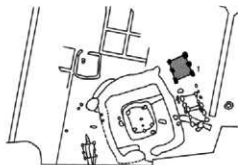


〔柱穴埋土〕

- 1: 褐色粘質土: 下層は5層土の類似土が入る
- 2: 暗褐色土: As-C・稲灰色シルト・黄褐色シルト混入。種まきなし

〔柱穴覆土〕

- 3: 黒褐色土: As-C混黒色土と黄褐色シルト混入
- 4: 暗褐色土: As-C混黒色土と黄褐色シルト粒多く混入
- 5: 黒褐色土: 黒色粘質土と主に黄褐色シルト混入



第211図 7-3-1号掘立柱建物

(9) 7-3-1号掘立柱建物 (第211図、図版85・102)

概要 本掘立柱建物は7区中南部、7-3-3号住居北寄りの東側に位置する。

土師器等を出土したが、時期は特定できなかった。

しかし3面の遺構で、出土遺物が3号住居同様上位層からの流入もあるが古墳時代前期の遺物を中心とすること、律令期に多い棟持柱を持つ建物でないことから、概ね4～5世紀の所産と把握される。

第2章 発見された遺構と遺物

規模 範囲：4.4×5.2m

建物規模：3.7×4.3m

〔柱穴1〕 径：71×80cm 深さ：65cm

〔柱穴2〕 径：65×72cm 深さ：76cm

〔柱穴3〕 径：66×130cm 深さ：79cm

〔柱穴4〕 径：65×116cm 深さ：52cm

〔柱穴5〕 径：83×98cm 深さ：47cm

〔柱穴6〕 径：86×117cm 深さ：65cm

〔梁間間尺〕 365～370cm (平均 368cm)

〔桁間間尺〕 198～226cm (平均 207cm)

構造 本建物は棟持柱を持たない1×2間の掘立柱建物である。主軸は北西-南東方向にあり、柱間は梁間が桁間に対して平均で1.78倍の規格を有する。

柱穴のプランは多様だが概ね隅丸方形を基本とし、底面は平底気味である。柱は柱痕や途中段階の形状観察から凡そ径10～15cm程と判断されるが、建物重量は石守の値(1986)で450kg程と推定されることから推して高床式ではなく平地式の建物であったと推定される。

④ 7-3-2号掘立柱建物(第212図、図版85・102)

概要 本掘立柱建物は7区中南部、7-3-3号住居の東側に位置する。7-3-3号掘立柱建物と重複するが新旧は特定できなかった。

古い時期の土師器片僅か2片と剥片1点(1)を出土しただけで時期特定には至らなかったが、7-3-1号掘立柱建物同様3面の遺構で、棟持柱を持たないことから凡そ4・5世紀の所産と認識される。

規模 範囲：3.7×4.3m

建物規模：3.1×3.1m

〔柱穴1〕 径：77×128cm 深さ：68cm

〔柱穴2〕 径：94×99cm 深さ：83cm

〔柱穴3〕 径：50×69cm 深さ：63cm

〔柱穴4〕 径：59×112cm 深さ：65cm

〔柱穴5〕 径：60×67cm 深さ：53cm

〔柱穴6〕 径：59×63cm 深さ：68cm

〔梁間間尺〕 295～308cm (平均 299cm)

〔桁間間尺〕 142～167cm (平均 155cm)

構造 本建物も主軸が北西-南東方向を向く、棟持柱を持たない1×2間の掘立柱建物であるが、柱間は桁間に対して平均で梁間が約2倍(1.94倍)の規格を有する。また桁間は南北で広さが異なり北半は南半に対して1.15倍とやや広い。

柱穴のプランは多様で、柱穴1・4は隅丸長方形、柱穴2は隅丸台形、柱穴3は楕円形、柱穴5・6は隅丸方形を呈する。また断面に見られる柱痕と途中段階の平面観察所見から柱は径8～16cm程と想定され、従って建物重量は石守の値(1986)で370kg程と推定されるため、本建物も1号掘立柱建物と同じく平地式建物であったと想定される。

⑤ 7-3-3号掘立柱建物(第213図、図版85・102)

概要 本掘立柱建物は7区中南部に位置し、新旧は特定できなかったが北端部が7-3-2号掘立柱建物と重複し、7-3-36号溝に切られる。

本建物からは柱穴から3世紀末葉の土師器壺(1)僅か2点が出土しただけで時期の特定には至らなかった。しかし、本建物も3面に確認された遺構で棟持柱を持たないことから4～5世紀の所産として把握することができる。

規模 範囲：4.1×4.3m

建物規模：3.0×3.6m

〔柱穴1〕 径：71×111cm 深さ：50cm

〔柱穴2〕 径：(60)×54cm 深さ：54cm

〔柱穴3〕 径：83×108cm 深さ：60cm

〔柱穴4〕 径：86×104cm 深さ：50cm

〔柱穴5〕 径：62×82cm 深さ：50cm

〔柱穴6〕 径：70×97cm 深さ：46cm

〔梁間間尺〕 288～302cm (平均 297cm)

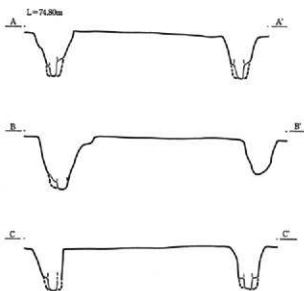
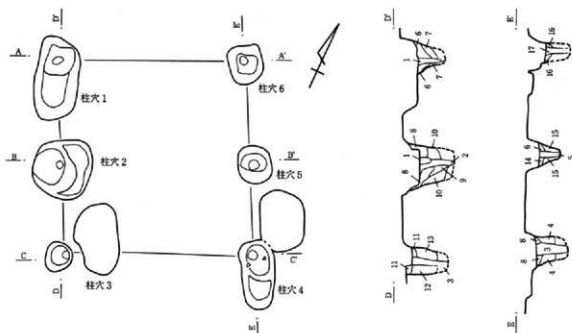
〔桁間間尺〕 155～180cm (平均 166cm)

構造 本建物も7-3-1・2号掘立柱建物同様に主軸が北西-南東方向を向く、棟持柱を持たない1×2間の掘立柱建物である。建物の平面形は比較的整った長方形を呈しているが、西側列の中位の柱穴(柱穴2)の掘削位置はやや南に寄っている。また柱間は桁間に対して梁間が平均で1.79倍の規模であった。

第3節 7区の遺構と遺物



柱穴のプランは柱穴1・4～6は隅部の形状に違いはあるものの隅丸長方形を呈しており、柱穴2は方形を呈している。また柱穴3は底面が方形様を呈するものの確認面に於いては楕円形を呈するものであった。柱の径は断面に見られた柱痕と途中段階でのプランの観察から見ると、1・2号掘立柱建物と異なり16～24cm程と太いものであった。従って本建物は石守の値(1986)で1,110kg程と1・2号掘



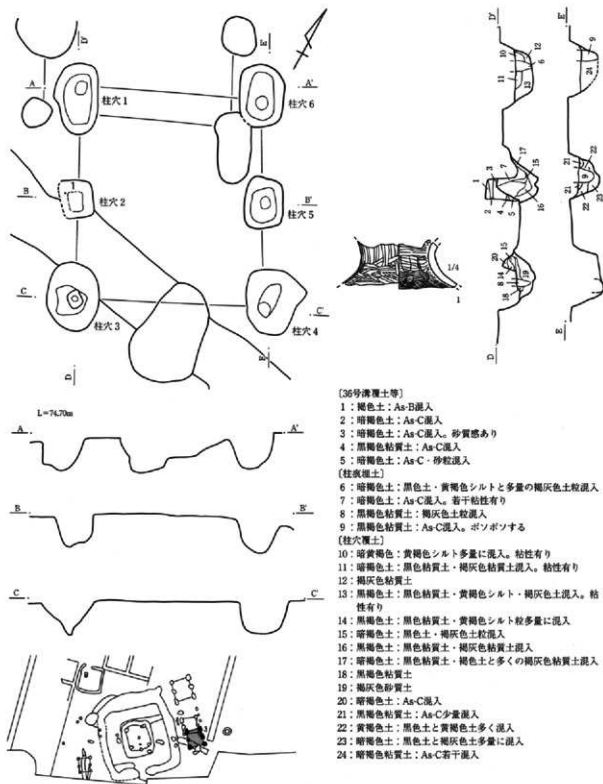
〔柱痕埋土〕

- 1：褐色土：ブロックでゴロゴロする
- 2：暗褐色粘質土：黄褐色シルト混入。10層に比し盛り高い
- 3：暗褐色土：褐色土及び黄褐色土粒混入土多く混入。締まりなし
- 4：褐色土：ブロックでゴロゴロする
- 5：黒褐色土：褐色粘質土と黒色土混入。締まりなし

〔柱穴埋土〕

- 6：黒色粘質土
- 7：黄褐色土：黒色土と多量の地山シルト混入
- 8：黒褐色粘質土
- 9：暗褐色粘質土
- 10：暗褐色粘質土：黄褐色シルト混入
- 11：黒褐色土：A-C混黒色土と黄褐色土多く混入
- 12：暗褐色土：褐色粘質土と黒色土混入。粘性有り
- 13：暗褐色土：褐色粘質土と黄褐色土粒多く混入
- 14：褐色土：黒色土粒混入
- 15：褐色シルト質土
- 16：暗褐色土：黒色土と褐色土混入
- 17：黒褐色土：黒色粘質土・褐色土混入

第212図 7-3-2号掘立柱建物



立柱建物に対し2倍近い荷重に耐えられるものであり高床式となりうるものであるが、建物の平面形態の近似から1・2号獨立柱建物同様平地式建物であったものと考えている。

第213図 7-3-3号獨立柱建物と出土遺物

(2) 7-3-4号掘立柱建物 (第214図)

概要 本建物は7区中南部に位置し、新旧は特定できなかったが谷地形に伴う溝状の窪地と重複する。

出土遺物は古墳時代前半期の土師器3片だけで時期は特定できなかったが、3面の遺構であり、棟持柱を持たないことから概ね4・5世紀の所産と認識される。

規模 範囲：3.0×3.4m

建物規模：2.3×2.9m

〔柱穴1〕 径：41×49cm 深さ：34cm

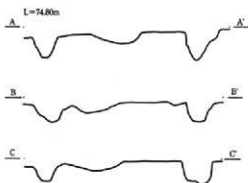
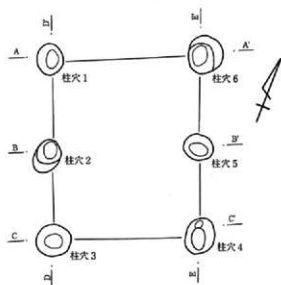
〔柱穴2〕 径：41×54cm 深さ：23cm

〔柱穴3〕 径：56×52cm 深さ：24cm

〔柱穴4〕 径：44×55cm 深さ：29cm

〔柱穴5〕 径：48×39cm 深さ：32cm

〔柱穴6〕 径：55×56cm 深さ：43cm



〔梁間間尺〕 229~234cm (平均 232cm)

〔桁間間尺〕 142~148cm (平均 145cm)

構造 本建物は主軸が北北西-南南東方向を向く、棟持柱を持たない1×2間の掘立柱建物である。柱間は桁間に対して梁間が平均で1.61倍の広さを持つ。

柱穴のプランは柱穴1・2・5が楕円形、柱穴3が円形、柱穴4・6が隅丸方形を呈する。高、本建物もその形態的近似から7-3-1~3号掘立柱建物と同じく平地式建物であったと推定される。

(3) 7-3-5号掘立柱建物 (第215図、図版85)

概要 本建物は7区北東部、7-3-6号住居の西側に中南部に位置する。

古墳時代前期中心の土師器が若干量出土したが、時期は特定に至らなかった。しかし本建物は3面の遺構であり、柱穴の覆土と、棟持柱を持たないことから概ね4・5世紀の所産と認識される。

規模 範囲：3.5×4.9m

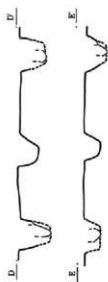
建物規模：2.9×3.6m

〔柱穴1〕 径：64×62cm
深さ：46cm

〔柱穴2〕 径：54×59cm
深さ：26cm

〔柱穴3〕 径：52×54cm
深さ：42cm

〔柱穴4〕 径：69×55cm
深さ：52cm



第214図 7-3-4号掘立柱建物

第2章 発見された遺構と遺物

〔柱穴5〕 径：47×49cm 深さ：34cm

〔柱穴5〕 径：48×61cm 深さ：35cm

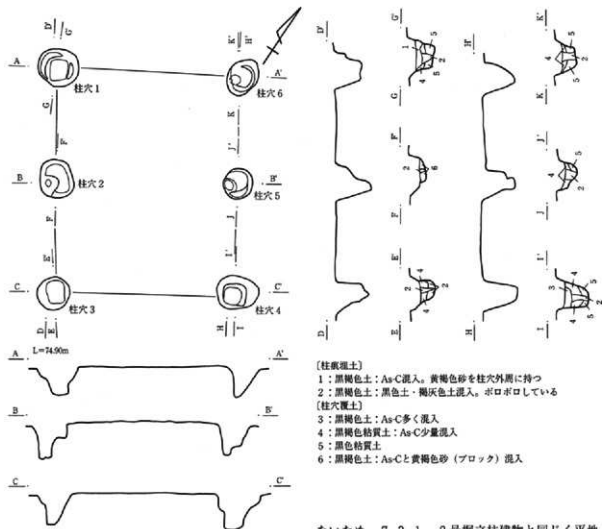
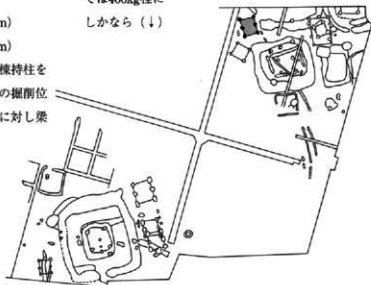
〔梁間間尺〕 283～290cm (平均 287cm)

〔桁間間尺〕 170～183cm (平均 178cm)

構造 本建物は北西-南東方向に主軸取る横持柱を持たない1×2間の掘立柱建物である。柱の掘削位置は比較的整っており、柱間は平均で桁間に対し梁間の方が1.61倍程の長い。

柱穴のプランは何れも底面は隅丸方形を呈しているが、確認面では柱穴1・4・6が楕円形、柱穴2が隅丸方形、柱穴3・5が円形を呈する。また柱の径は断面に見える柱痕の観察からは7

～15cm程と想定されるもので、石守の値(1986)では400kg程に
しかなら(↓)



第215図 7-3-5号掘立柱建物

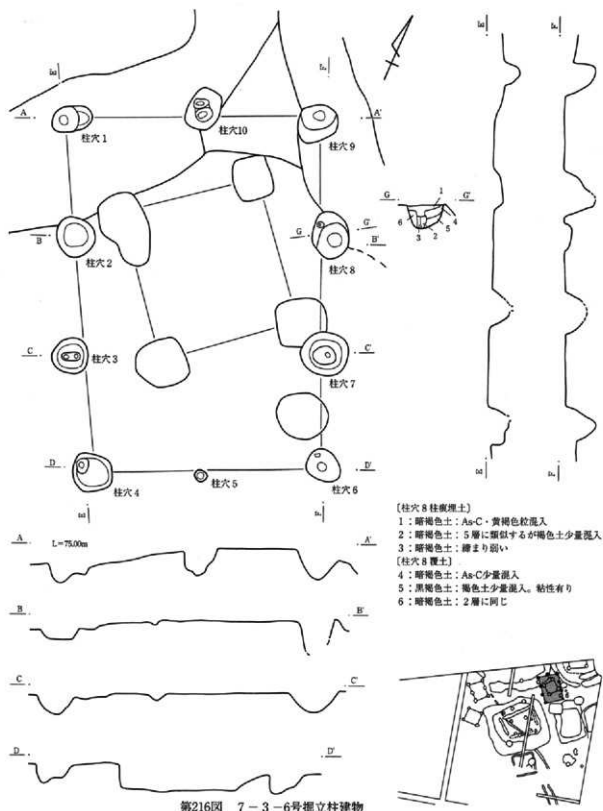
ないため、7-3-1・2号掘立柱建物と同じく平地式建物であったものと判断される。

(4) 7-3-6号掘立柱建物 (第216図、図版85)

概要 本建物は7区北東部に位置する。

7-3-7号掘立柱建物が本建物に入れ子になるよ

うに重なり、一方建物の北側では7-3-6号住居と切り合うが、何れに対しても新旧を特定することはできなかった。



- [柱穴8 柱痕埋土]
- 1: 暗褐色土: As-C・黄褐色粒混入
 - 2: 暗褐色土: 5層に類似するが褐色土少量混入
 - 3: 暗褐色土: 締まり弱い
- [柱穴8 覆土]
- 4: 暗褐色土: As-C少量混入
 - 5: 黒褐色土: 褐色土少量混入。粘性有り
 - 6: 暗褐色土: 2層に同じ

第2章 発見された遺構と遺物

本建物からは上位層からの流れ込みを含む若干量の土師器片の出土があった。その中心は古墳時代前期の遺物であるが、時期特定には至らなかった。3面に発見調査されたことと、柱穴8の覆土の観察所見とを併せて4～5世紀の所産と考えられるが、棟持柱を有する律令期的な掘立柱建物であるため、あまり古い段階の所産ではない可能性も考慮される。

規模 範囲：4.7×6.3m

建物規模：4.1×5.7m

〔柱穴1〕 径：64×40cm 深さ：28cm

〔柱穴2〕 径：58×62cm 深さ：19cm

〔柱穴3〕 径：56×57cm 深さ：32cm

〔柱穴4〕 径：61×60cm 深さ：29cm

〔柱穴5〕 径：(18)×(18)cm 深さ：45cm

〔柱穴6〕 径：56×47cm 深さ：30cm

〔柱穴7〕 径：77×69cm 深さ：37cm

〔柱穴8〕 径：58×74cm 深さ：51cm

〔柱穴9〕 径：65×60cm 深さ：47cm

〔柱穴10〕 径：52×66cm 深さ：44cm

〔梁間間尺〕 173～218cm (平均 195cm)

〔桁間間尺〕 187～199cm (平均 178cm)

構造 本建物は北西-南東方向に主軸取る、7区3面に調査された掘立柱建物群の中で唯一棟持柱を有する2×3間の掘立柱建物である。柱の掘削位置は長方形プランに配列して比較的整っているものの、棟持柱である柱穴5と10、及び側柱の柱穴3と8は若干外側に出ている。柱間は桁間、梁間共に1.9m程の長さでほぼ等しい。

柱穴のプランは、柱穴5は底面附近のみの確認であったので不明であるが、柱穴1・8が楕円形、柱穴2・3・7が円形、柱穴4・10が方形、柱穴6・9が隅丸方形を呈する。またその形態は柱穴2～4が筒状である以外は楕円状を呈するものである。一方、柱は柱穴8の断面に見られた柱痕の観察からは径12cm程と想定されるが、仮に全ての柱の径がこれによれば建物の重量は石守の値(1986)で750kg程となり、本建物は平地式の建物であったと推定される。

(19) 7-3-7号掘立柱建物 (第217図、図版85)

概要 本建物は7区北東部に在り、7-3-6号掘立柱建物の中程に入れ子になるように重複するが新旧を特定することはできなかった。

本建物からの出土遺物はなく、また遺構形態からも時期の推定に与するようなデータが得られなかったため時期も特定できなかった。尚、現状では3面に確認、調査されている遺構であるため5世紀以前の所産と考えたい。

規模 範囲：3.1×5.2m

建物規模：2.2×2.5m

〔柱穴1〕 径：74×117cm (74×73cm)

深さ：52cm

〔柱穴2〕 径：84×74cm 深さ：69cm

〔柱穴3〕 径：82×80cm 深さ：64cm

〔柱穴4〕 径：59×68cm 深さ：54cm

〔梁間間尺〕 223～224cm (平均 224cm)

〔桁間間尺〕 241～249cm (平均 245cm)

構造 本建物は北西-南東方向に主軸取る1×1間の掘立柱建物である。柱の掘削位置は方形に近い長方形で比較的整った配列を見せている。梁間に対する桁間は平均で100:109でほぼ等しい。

柱穴のうち柱穴1の南側は別のビットであると判断されるため北側部分を以て本建物の柱穴とすると、柱穴1～4は共に方形に近い隅丸方形のプランを呈する。掘削形態は箱状で深くしっかりしている。尚、柱の規模等を想定することはできず、建物の構造も想定できなかった。

(20) 7-3-8号掘立柱建物 (第217図)

概要 本建物は7区北東部に在り、7-3-7号住居の北西隅の西側、7-3-5号掘立柱建物の南に位置している。他遺構との重複は認められなかった。

本建物に出土遺物は認められず、時期の特定にも至らなかった。また7-3-7号掘立柱建物と同様に遺構形態からも時期の推定に与するデータはなく、3面に確認、調査されている遺構であるため、現時点では5世紀以前の所産と考えたい。

規模 範囲：3.3×

3.8m

建物規模：2.7×

3.2m

〔柱穴1〕 径：50

×53cm 深さ：

12cm

〔柱穴2〕 径：54

×58cm 深さ：

29cm

〔柱穴3〕 径：46

×60cm 深さ：

16cm

〔柱穴4〕 径：58

×76cm 深さ：

14cm

〔梁間間尺〕 262

～269cm (平均

266cm)

〔桁間間尺〕 292

～323cm (平均

308cm)

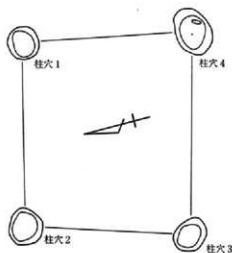
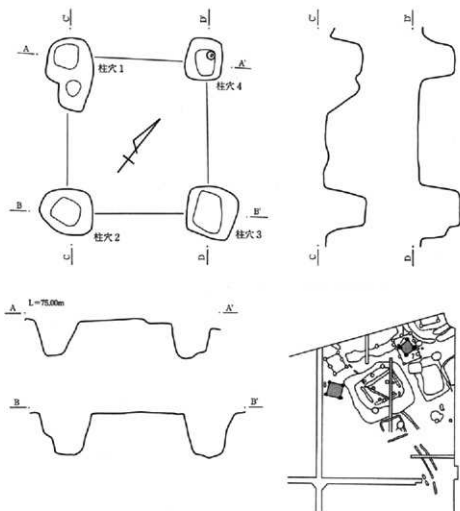
構造 本建物は東北東-西南西方向に主軸取る1×1間の掘立柱建物である。柱の配置は南側に広がる台形状を成す。柱位置は柱穴中央に想定したが、梁間に対して桁間は1:1.1~1.2と長い。

柱穴のプランは何れも楕円形で、掘削形態は円筒状を呈する。尚、本建物も柱の規模等を想定する記録が得られず、建物の構造も想定できなかった。

(17) 7-3-35号溝 (第218図、図版85・102)

概要 本溝は7区中南部、7-3-3号住居の北西側周溝の外側に重なるように位置する。また南側で7-3-18号土坑とも重複するが、新旧は特定できなかった。

本溝には須恵器甕(2)等上位層からの流入品を含む多くの出土遺物があったが、中心を成す3世紀末葉の壺(1)等古墳時代前期の土師器片が本溝の時期を示すものと判断される。



第217図 7-3-7・8号掘立柱建物

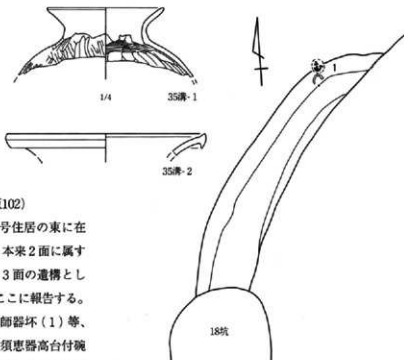
また、掘削意図は特定できなかったが、堅穴住居の周溝或いは掘り方の可能性も考慮される。

第2章 発見された遺構と遺物

規模 長さ：6.1m 幅：124cm以上
深さ：10cm

構造 本溝は3号住居周溝から西側に出て、走向を南西に転じ、同周溝に沿って弧を描き乍走向を南に転じて18号土坑に達する。

掘削形態は箱型状を呈する。



⑩ 7-3-36号溝 (第218図、図版102)

概要 本溝は7区中南部、7-3-3号住居の東に在って、7-3-3号掘立柱建物を切る。本来2面に属する遺構であるが、調査・整理段階で3面の遺構として処理し、2面に含めなかったためここに報告する。

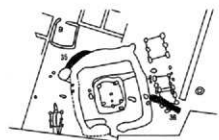
本溝に於いては9世紀前半期の土師器坏(1)等、古墳時代以降の出土遺物を得たが、須恵器高台付碗(2)の出土から、本溝は10世紀前半期頃の所産と判断される。

尚、掘削意図を特定することはできなかった。

規模 長さ：6.7m 幅：120cm 深さ：32cm

構造 本溝は3号住居周溝から東に出て、極緩に弧を描き乍走向を東北東に変ずる。

掘削形態は箱型状を呈する。



〔清理後の土層〕

1：褐色土：As-B混入

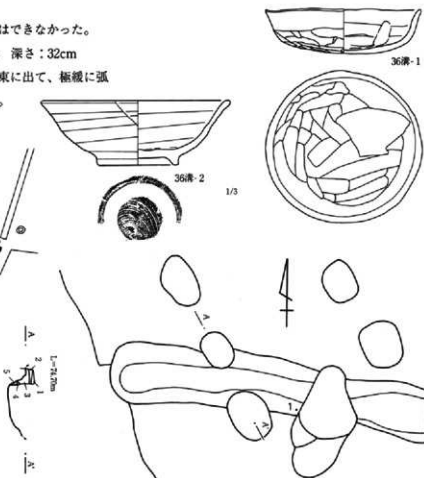
[36号溝覆土]

2：暗褐色土：As-C混入

3：暗褐色土：As-C混入。砂質感あり

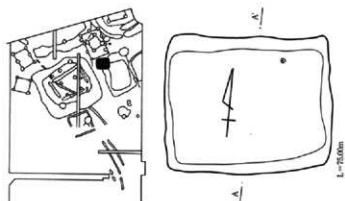
4：黒褐色粘質土：As-C混入

5：暗褐色土：As-C・砂粒混入



第218図 7-3-35・36号溝と出土遺物

第3節 7区の遺構と遺物



第219図 7-3-1号竪穴状遺構

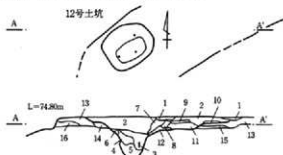
(19) 7-3-1号竪穴状遺構 (第219図、図版85)

概要 本遺構は7区北東部に位置する。7-3-8号住居と重複するが、本遺構の方が新しい。

出土遺物はなく時期は特定できなかったが、覆土と重複関係から概ね4～5世紀の所産と判断される。

尚、本遺構はその規模から推して竪穴住居の可能性も有するが、掘削意図は特定されなかった。

規模 径：265×220cm 深さ：40cm



[土坑埋没後の土層]

- 1：暗褐色土：As-B混入
- [12号土坑覆土]
- 2：黒褐色土：As-C・褐色土・黄褐色シルト混入
- 3：暗褐色土：焼土粒・褐色土・As-C混入
- 4：暗褐色土：3層同様だがAs-C混入しない
- 5：黒褐色土：黒色粘質土と褐色土混入
- 6：黒色粘質土
- 7：黒褐色土：As-C混黒色土
- 8：暗褐色土：As-C混黒色土と焼土粒・砂混入
- 9：乳白色砂層：砂岩か
- 10：黄褐色土：黒色粘質土と多量の焼土粒混入
- 11：黒色土：As-Cと多量の褐色土混入
- 12：黒褐色土：焼土多量に混入
- [3号住居掘り方覆土]
- 13：7層に同じ
- 14：11層に同じ
- 15：黒褐色土：As-C少量混入の黒色粘質土に褐色土混入
- 16：黒褐色土：As-C含まない黒色土

第220図 7区3面の土坑群と出土遺物(その1)

【竪穴埋没後の土層】

- 1：黒褐色砂質土：As-B多量に含む
- 2：1層に比しAs-B少なく黒色粘質土混入
- [1号竪穴覆土]
- 3：黒褐色土：やや砂質、As-C含む
- 4：3層に同じだが黄褐色砂ブロックで混入
- 5：黒褐色土：やや砂質、As-C・黄褐色砂微量に含む
- 6：4層土に黒色粘質土混入
- 7：4層に同じだが砂質強く黄褐色砂のブロック大きい
- 8：黒褐色土：やや砂質
- 9：黒褐色土：やや砂質、黄褐色土多く混入。崩落土か
- 10：黒色土：やや粘質。崩落土と思われる

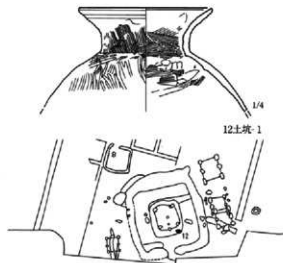
構造 東西に主軸を取る、長方形のプランを呈する。しっかりした箱形の形態を呈する。

(20) 7-3-12・22・27号土坑

(第220～221図、図版86・102)

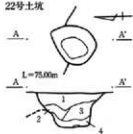
概要 7-3-12号土坑は7区中南部に位置し、7-3-3号住居を切る。また7-3-22・27号土坑は7区北東部に在って22号土坑は7-3-3号井戸を切る。

12号土坑では3世紀末業の土師器壺(1)等古墳時代前期頃の遺物が出土したが、As-C混黒色土を掘り込み、焼土を含むため竪穴住居の竈掘り方、或いは7～12層の竈を切る柱穴で竈出現期以降の所産と思慮される。一方22・27号土坑に出土遺物はなく、覆土の観察から22号土坑は15世紀後半以降の概ね中



第2章 発見された遺構と遺物

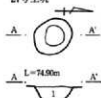
22号土坑



〔22号土坑覆土〕

- 1: 褐灰色土: 黒色・黄褐色シルトとAs-B混入
- 2: 褐灰色砂質土: 黒色シルト混入
- 3: 褐灰色土: As-Bと黄褐色シルト混入
- 4: 褐灰色土: As-Bと黒色・黄褐色シルト混入

27号土坑



〔27号土坑覆土〕

- 1: 暗褐色土: As-B混入

世末業、27号土坑は凡そ中世の所産と認識され、共にその形態から柱穴と想定される。

尚、このように12号土坑は2面、22・27号土坑は1面に属するが、3面に発見、調査し、整理段階でも上位面に含まなかったためこの項で報告した。

規模 (12号土坑) 径: 78×67cm 深さ: 58cm

(22号土坑) 径: 78×60cm 深さ: 28cm

(27号土坑) 径: 64×52cm 深さ: 29cm

構造 プランは12号土坑が土坑本体で隅丸方形、22号土坑は楕円形、27号土坑は円型を呈する。

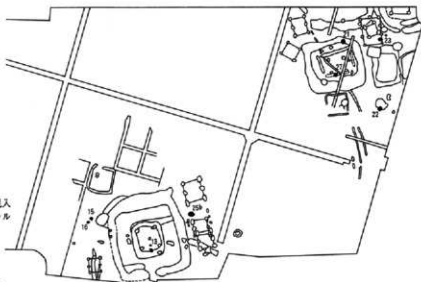
掘削形態には共に柱穴状で、12・27号土坑は丸底、22号土坑は楕鉢状の底面形態である。

(5) 7区3面の土坑群(その1一柱穴一)

(第221図、図版86・102)

概要 上述の7-3-12・22・27号土坑を除いて7区3面では11基の土坑を調査したが、次にこのうち柱穴の可能性が考えられる7-3-13・15・16・21・23・25b号土坑の6土坑について報告する。

13~16・25b号土坑は7区中南部、21・23号土坑は北東部に位置し、21号土坑が7-3-7号住居と、23号土坑が7-3-6号掘立柱建物と重複するが新旧をは特定することはできなかった。

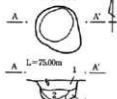


13号土坑



13土坑-1

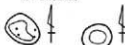
21号土坑



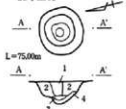
〔21号土坑覆土〕

- 1: 暗褐色土: 焼土粒・炭化物とAs-Cらしき軽石混入
- 2: 暗褐色土: 1層に比しやや粘性あり。焼土粒・炭化物混入
- 3: 黒褐色土: 4層に比し粘性強
- 4: 黒褐色土: やや粘性。埋没時の崩落土と思われる
- 5: 黒色粘質土: 粘性強。黄褐色シルト粒混入

15・16号土坑



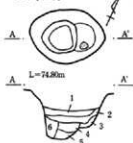
23号土坑



〔23号土坑覆土〕

- 1: 黒褐色土: やや粘質、白色軽石混入。柱痕か
- 2: 灰褐色土: 黒色土混入
- 3: 褐灰色粘質土: 粘性強い。柱跡の底に粘土を敷いている
- 4: 黒色土: やや粘質、黄褐色砂ブロックで混入

25b号土坑



〔25b号土坑覆土〕

- 1: 黒色土: As-C混入
- 2: 黒褐色土: 黄褐色砂質土混入
- 3: 黒色土: 粘性やや強
- 4: 黒褐色土: やや砂質感あり
- 5: 黒褐色土: 粘性4層に比し強いが硬
- 6: 黒色粘質土: 粘性強

第221図 7区3面の土坑群と出土遺物(その2)

また13号土坑は3世紀末葉の土師器小型甕(1)等を含む古墳時代前期を中心とする、15・(25)号土坑からも古墳時代前期中心の何れも若干量の出土遺物を得たが時期特定には至らず、概ね4～5世紀の所産であるに過ぎない。

規模 (13号土坑) 径:

60×54cm 深さ:35cm

(15号土坑) 径:48×39cm

深さ:16cm

(16号土坑) 径:48×39cm

深さ:16cm

(21号土坑) 径:80×70cm

深さ:26cm

(23号土坑) 径:76×70cm

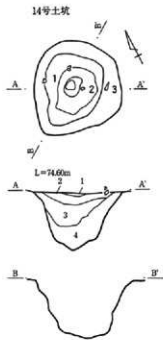
深さ:37cm

(25b号土坑) 径:120×84cm

深さ:89cm

構造 ブランは13・21・23号土坑が隅丸方形、15・16・25b号土坑が楕円形を呈するが、25b号土坑は下位では隅丸方形を呈する。

またその形態は13・15・16・23号土坑が碗形、21・25b号土坑がロウト状を呈するが、23号土坑は底面に荷重によるらしい塑性変形が見られ粘土が貼られる。尚土層断面等による柱の太さは21号土坑が23cm以上、23号土坑が16cm、25号土坑が26cm以上であった。



【土坑埋没後の土層 (Hr-FA上洪水層土)】

1: 暗褐色土: As-C・黒色シルト粒混入

【14号土坑覆土】

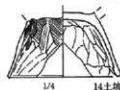
2: 黒色土: As-C多く含む

3: 暗褐色土: 黄褐色シルトと褐色シルト粒混入

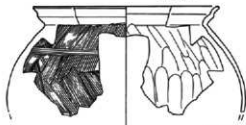
4: 黒色粘質土: 炭化物混入。粘性強い



14土坑-1

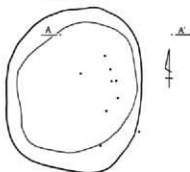


14土坑-2

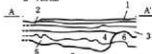


14土坑-3

18号土坑



L=74.90m



【土坑埋没後の土層】

1: 黒色粘質土: As-B下木田耕土

2: 暗灰色粘質土: 粘性強。洪水層土

3: にぶい黄褐色土: Hr-FA粒含む洪水層土

【18号土坑覆土】

4: 暗褐色土: 黒色・黄褐色シルトとAs-C混入

5: 黒色土: 黄褐色シルトとAs-C混入

【地山層 (3号住居周溝覆土)】

6: As-C混黒色土

7: にぶい黄褐色土: 黒色シルト混入

19号土坑



L=74.90m



【古代～中世の土層】

1: 黒色粘質土: As-BF木田耕土

2: 暗褐色土: As-B混入。中世

【3号住居周溝覆土】

3: 黄褐色土: As-C・褐色シルト層かに混入

4: 黄褐色土: As-C・Hr-FA粒混入

5: As-C混黒色土

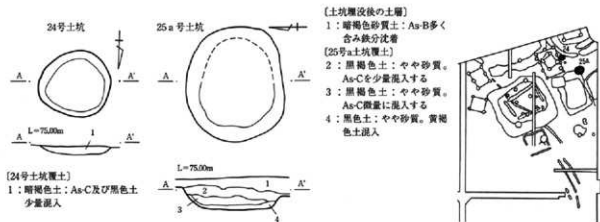
【19号土坑覆土】

6: 暗褐色シルト質土: As-C混入

7: 暗褐色土: 6層に比しAs-C少なく粘性強い。鉄分多く混入

8: 黒褐色粘質土: 粘性強。のろ状に土坑底部に堆積

第222図 7区3面の土坑群と出土遺物(その3)



第223図 7区3面の土坑群(その4)

㊦ 7区3面の土坑群(その2)

(第222～223図、図版86)

概要 7区3面で上位層及び柱穴の可能性のあるもの以外の土坑としては、7-3-14・18・19・24・25a号土坑の5基がある。このうち18号土坑は7-3-3号住居・7-3-35号溝と、19号土坑は3号住居と、24号土坑は7-3-6号掘立柱建物と、25a号土坑と7-3-8号住居と重複するが、18号土坑が3号住居・35号溝を、25a号土坑が8号住居を切る以外は新旧関係を特定できなかった。

このうち14号土坑は土師器高坏(1)・台付甕(2・3)の出土から概ね3世紀末葉の所産と判断される。また25a号土坑も古墳時代前期頃の土師器片の出土を見たが時期の特定に至らず、18・19・24号土坑と併せて4・5世紀の所産と把握されるに過ぎなかった。

また、これらの土坑の掘削意図は特定できなかった。

規模 (14号土坑) 径：160×148cm 深さ：97cm

(18号土坑) 径：260×216cm 深さ：29cm

(19号土坑) 径：100×(80)cm 深さ：49cm

(24号土坑) 径：116×104cm 深さ：20cm

(25a号土坑) 径：186×156cm 深さ：22cm

構造 14・18・24・25a各土坑のプランは隅丸方形を呈するが、このうち18・19号土坑は円形に近い。また19号土坑はその南側を調査できたに過ぎないので詳らかでないが、楕円形を呈するものと想定される。

掘削形態は14・19号土坑が楕円形を呈し、18・24・25a号土坑は箱状を呈する。

〔土坑掘削後の土層〕

1：暗褐色砂質土：As-B多く
含み鉄分沈着

〔25号a土坑覆土〕

2：黒褐色土：やや砂質。

As-Cを少量混入する

3：黒褐色土：やや砂質。

As-C微量に混入する

4：黒色土：やや砂質。黄褐色土混入

㊦ 7-3-1号井戸(第224図、図版86)

概要 本井戸は7区北東部に位置し、7-3-7号住居の周溝南西部で重複するが、新旧関係を特定することはできなかった。

本井戸からは古墳時代前期頃の土師器が僅か3片出土しただけで、時期を特定することはできなかった。但し覆土にはAs-Cが含まれ、一方Hr-FAが含まれていないため概ね4・5世紀の所産として把握することはできよう。

湧水層はアグリの状態から確認面下60cm余り、底面から45cm程の位置にあったことが窺われるのであるが、側壁の自然堆積層の記録が残されていないため、湧水層を特定することはできなかった。

規模 径：130×125cm 深さ：105cm

〔井筒部〕 径：68×74cm

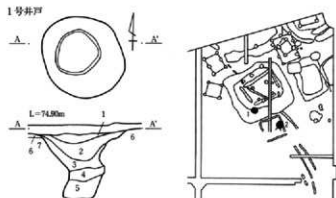
構造 本井戸は井筒朝顔型の井戸である。

プランは楕円形を呈するが、井筒部のプランは隅丸方形に近い円形状を呈している。

底面は平底で底面附近は筒状を呈する。井戸全体の中程やや下寄りて東側が10cm程挟れてアグリを形成していることが記録されているが、アグリの全容は不明である。尚、井戸の上位は開いている。

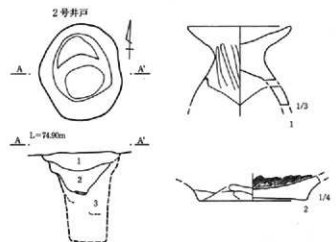
㊦ 7-3-2号井戸(第224図、図版103)

概要 本井戸は7区北東部に位置し、調査の途中までは26号土坑として処理していたが、その後掘削のし直しによって井戸と認定されている。



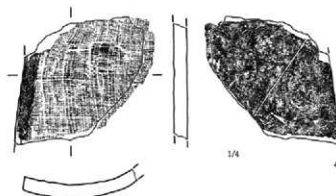
〔1号井戸覆土〕

- 1: 黒褐色土: 黄褐色土粒と僅かなAs-C混入
 - 2: 暗褐色土: 黄褐色土粒多量に混入。やや砂質
 - 3: 黒褐色土: やや粘質
 - 4: 黒褐色土: 3層より粘性強
 - 5: 黒色土: 粘性強
- 〔地山層〕
- 6: As-C混黒色土
 - 7: 褐色土



〔2号井戸覆土〕

- 1: 黒褐色土: As-B・As-Cと黄褐色土粒混入
- 2: 黒褐色土: 黄褐色シルト粒混入
- 3: 黒色土: 粘性強。黄褐色シルト混入



第224図 7-3-1・2号井戸と出土遺物

本井戸は7-3-9号住居の東壁近くで同居居と重複しているが、本井戸の方が新しい。

本井戸からは3世紀末葉の土師器高坏(1)・壺(2)など古墳時代前期の土師器片を中心とした時期の出土遺物を得ているが、律令期の須恵器碗(3)や女瓦(4)の出土も見られ、最上位の1層にはAs-Bが含まれることから律令期以降の所産と判断される。従って本井戸は本来2面或いは1面に属させるべきものであるが、3面に発見、調査し、整理段階でも1・2面に含めて処理しなかったためこの項で報告することとした。

尚、本井戸は井戸認定後の記録が不充分であったため、アグリや湧水層の位置を確認或いは推定することはできなかった。

規模 径: 152×130cm 深さ: 139cm

〔井筒部〕 径: 90×73cm

構造 本井戸は井筒朝顔型の井戸である。

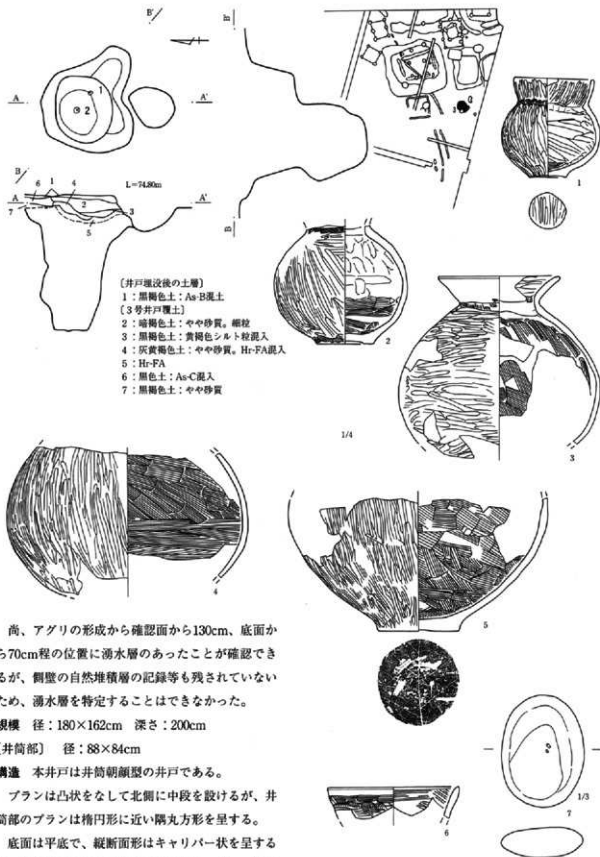
プランは隅丸の五角形槽を呈しているが、井筒部のプランは楕円形を呈するものである。

底面は平底で井筒部は高さ1m程を測るが、細かい形状は明瞭ではない。アグリの有無も確認できなかった。上位は北側に中段を有して開く。

☒ 7-3-3号井戸(第225図、図版86・103・104)

概要 本井戸は7区北東部に位置し、7-3-22号土坑と重複し、これに切られている。

本井戸からは板砂片と思われるもの(8)や律令期の土器類等上位層に属する遺物も出土しているが、その主体を成すものは古墳時代前期の土師器類であった。また覆土上位にはHr-Fがクレター状に堆積していることから、Hr-FA降下の6世紀初頭段階には既に埋没していたことが確認される。従って本井戸は古墳時代前・中期の所産として把握されるのであるが、土師器の小型壺(1)や壺(2~4)、甕(5)の出土から概ね3世紀末葉の所産であろうと判断されるものである。その他、本井戸からは磨石等の遺物の出土も見られた。



尚、アグリの形成から確認面から130cm、底面から70cm程の位置に湧水層のあったことが確認できるが、側壁の自然堆積層の記録等も残されていないため、湧水層を特定することはできなかった。

規模 径：180×162cm 深さ：200cm

〔井筒部〕 径：88×84cm

構造 本井戸は井筒朝顔型の井戸である。

プランは凸状をなして北側に中段を設けるが、井筒部のプランは楕円形に近い隅丸方形を呈する。

底面は平底で、縦断面形はキャリバー状を呈するが、やや井戸のやや下寄りの壁面が3～22cm程抉れて、アグリが形成されている。

第225図 7-3-3号井戸と出土遺物

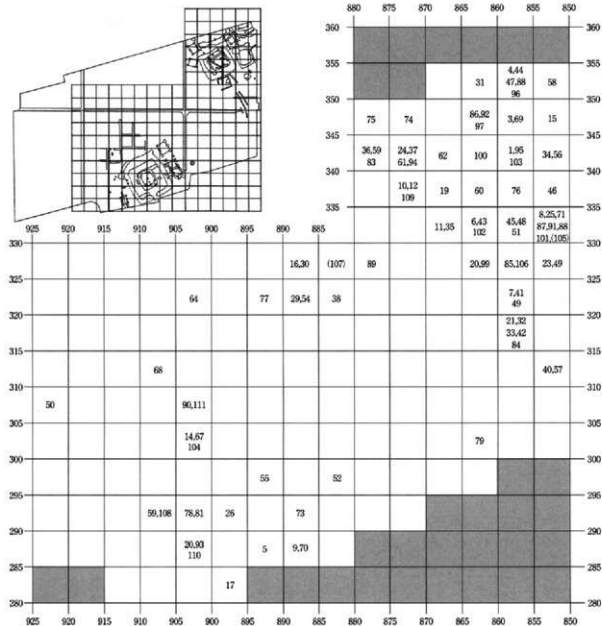
⑨ 7区3面遺構外の遺物

(第226～235図、図版104～111)

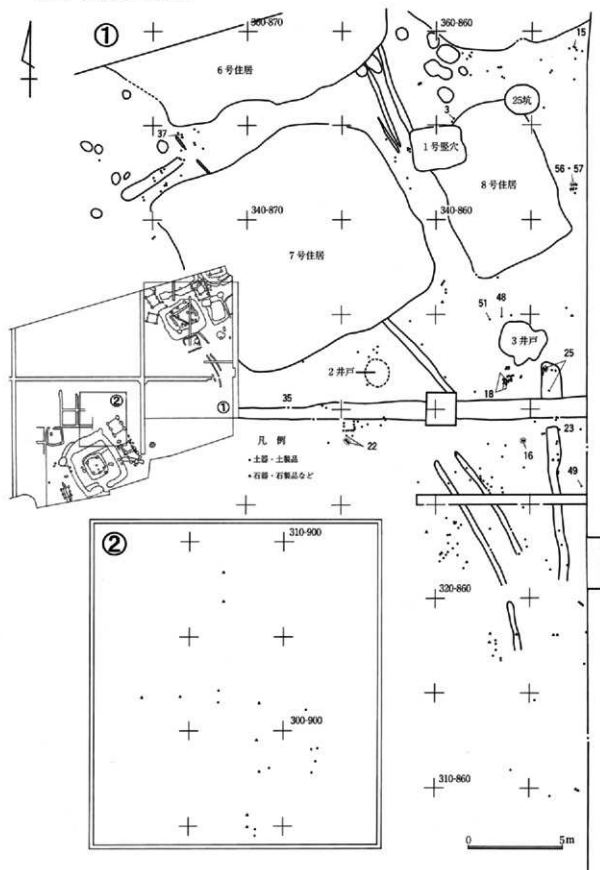
概要 本稿では7区3面の遺構以外から出土した遺物を取り扱うが、分離が完全にはできなかったため、一部2面の遺物や遺構内の出土遺物も含まれている。

3面に於いては住居等の分布域である中南部と北西部の微高地部分に於いて古墳時代前期の遺物を中心に、上位層である平安時代を中心とする2面或いは1面からの流入品、或いは下位層の縄文時代の遺物も含む多量の出土遺物を得た。

これらの出土遺物には、3世紀末葉を中心とする古墳時代前期の土師器器台(1)・高坏(2～6)・埴(7)・小型壺(8)、弥生土器(9・15・16・20・23)や土師器(10～14・17～19・21・22・24・25・112)の壺、弥生土器と考えられるもの(26)や土師器(27・28)の甕、同じく土師器の台付甕の脚部(29・30・113)、また土錘(31～44・116～118)もあり、上位層のものでは古墳時代後期の小型甕(47)や奈良(114)・平安時代(45・46)の坏或いは台付甕(48)などの土師器、奈良時代の坏(49・51)や高台[303頁へ]

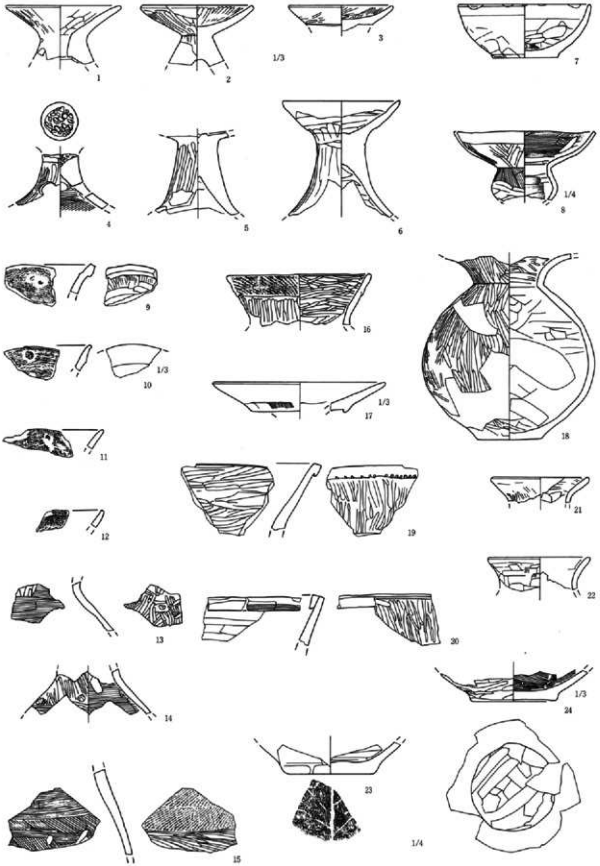


第226図 7区3面遺構外取り上げ遺物出土グリッド概念図

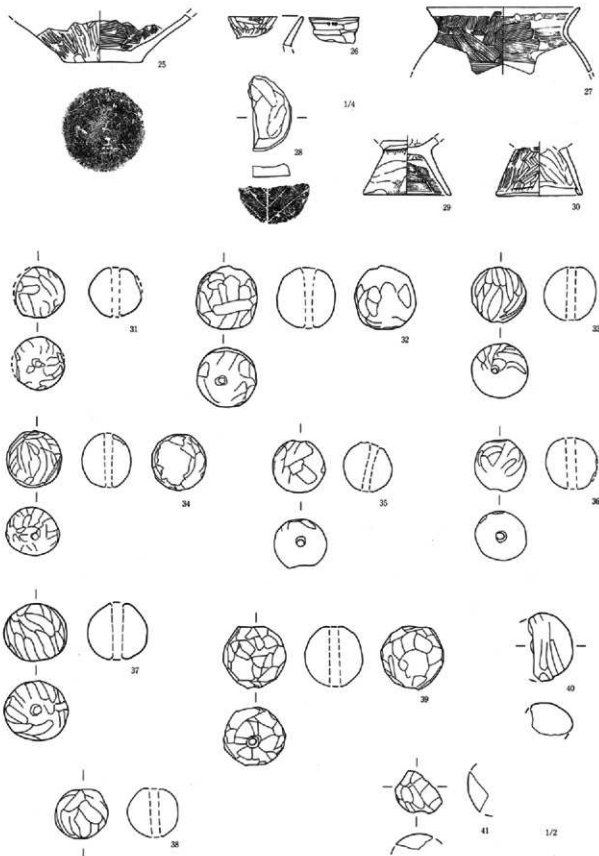


第227図 7区3面遺構外出土遺物分布図

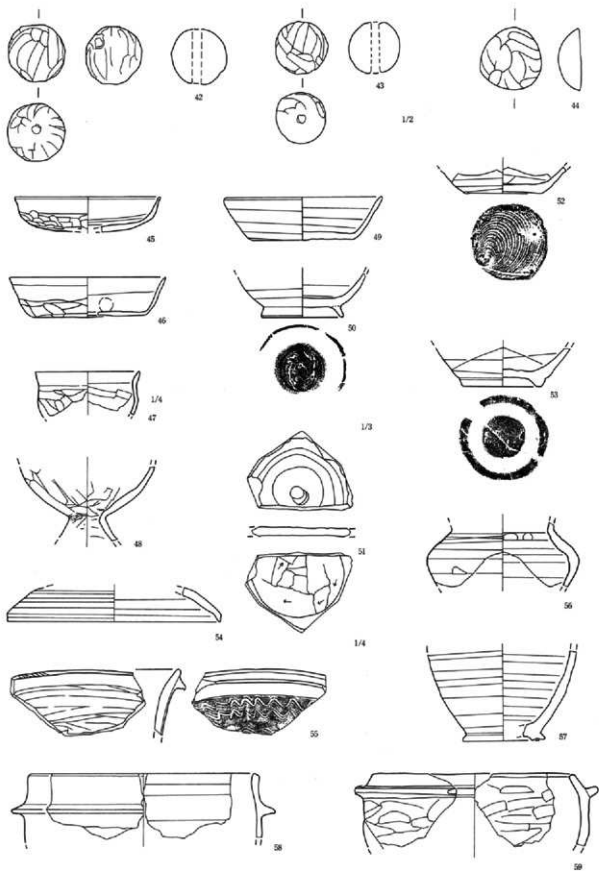
第3節 7区の遺構と遺物



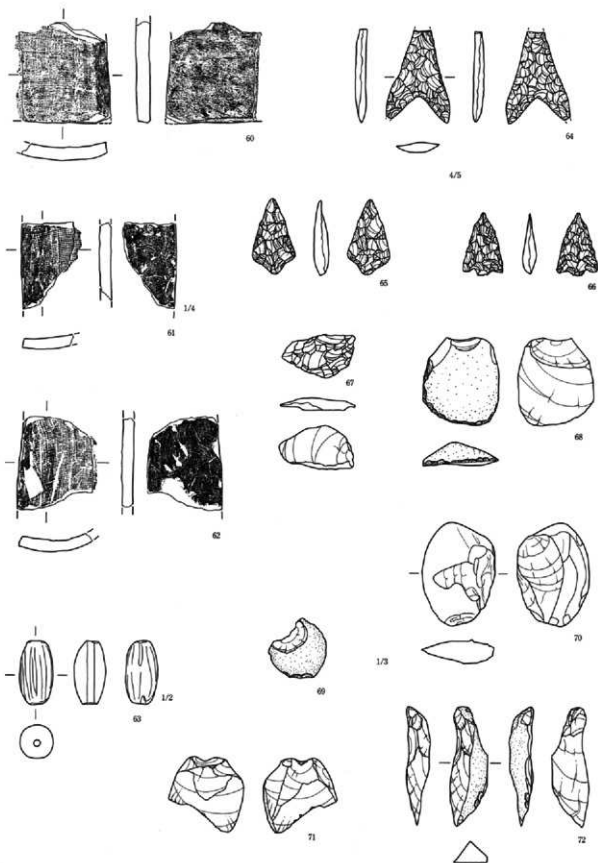
第228図 7区3面遺構外の出土遺物(その1)



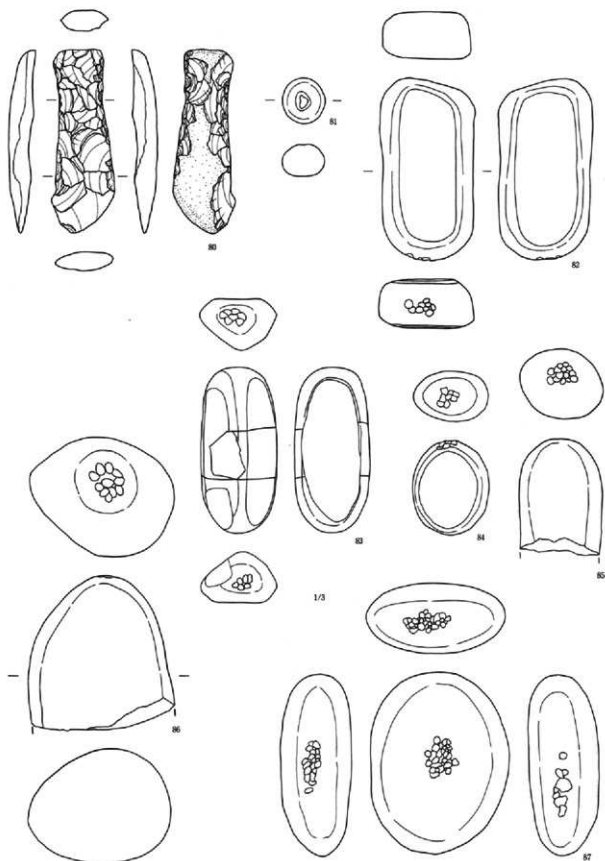
第229図 7区3面遺構外の出土遺物(その2)



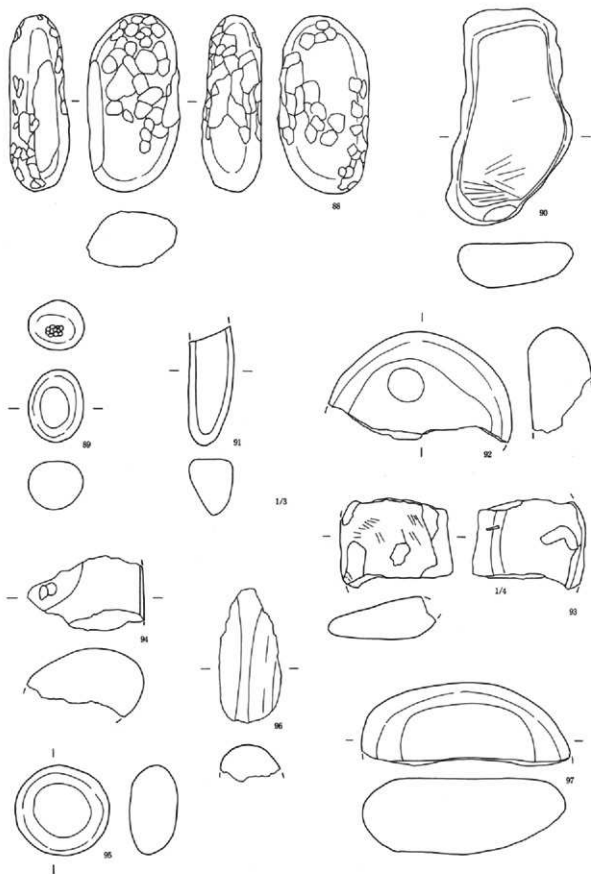
第230図 7区3面遺構外の出土遺物(その3)



第231図 7区3面遺構外の出土遺物(その4)



第232図 7区3面遺構外の出土遺物（その5）（73～79はP L110）



第233図 7区3面遺構外の出土遺物(その6)

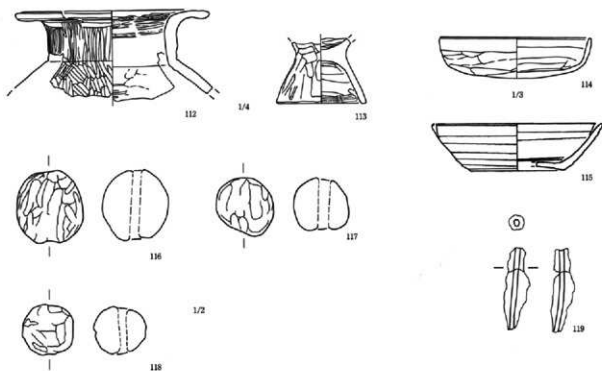


第234図 7区3面遺構外の出土遺物 (その7) (111はP L 110)

付碗 (50)・短頸壺 (56) や平安時代に属する坏 (52・115)・高台付碗 (53)・蓋 (54)・甕 (55)

そして短頸壺 (57) 等の須恵器や羽釜 (58・59)、女瓦 (60~62) があり、古墳時代後期以降の時期に属する土鍬 (63) 等の土器、土製品も見られた。また縄文時代の石鏃 (64~66)、スクレーパー (67~70)、フレーク (71~79)、打製石斧 (80)、凹石 (81) に加え、時期不特定の磨石 (82・90~103)、敲石 (83~89)、こも編み石 (104~107)、砥石 (108・109) といった石器、石製品の出土もあり、或いは板碑片と思われるもの (110・111) や角釘 (119) も採集されている。

第2章 発見された遺構と遺物



第235図 7区3面遺構外の出土遺物（その8）

第3章 5～7区小結

第1節 自然科学分析

(1) はじめに

本節では6区の土壌を資料とした実施した科学分析について記載する。この科学分析は株式会社古環境研究所に委託、実施したもので、同社は平成10年10月28日に現地にてサンプリング調査を行い、1999年（平成11年）3月4日付で分析結果の報告書（以下「分析報告書」とする）を提出している。この報告書については一部を除きそのまま次頁（306頁）以下に掲載している。

この分析報告書中変更したのは、サンプリング位置・地点名の誤りと図及び図・表・写真番号である。このうち図についてはテフラ・放射性炭素年代測定とプラント・オパール、花粉分析の三者について作製、提出されているが、図中の柱状図が同一のものを使用していたため、紙数の都合上合成し、一つの図として掲載した。また図・表・写真番号は、本報告書の記載に準拠して付したので記しておく。高、分析報告書には元々個々の鑑定者名は記されていなかった。

(2) 科学分析の委託と鑑定要件

本科学分析は平成10年10月15日に委託されたもので、鑑定要件は次のようなものであった。

①委託内容

本遺跡では多種のテフラが確認されている。テフラの中には、噴出年代の明らかにされている示標テフラがあり、これらとの層位関係を求め、遺構の構築年代や遺跡立地の堆積年代を明らかにする。また、本遺跡立地における遺構検出黒色土直下の腐敗土壌及び調査面下2m程のテフラ下泥炭層の木片について年代を明らかにするとともに、遺跡の立地した環境を復元する。

②分析内容

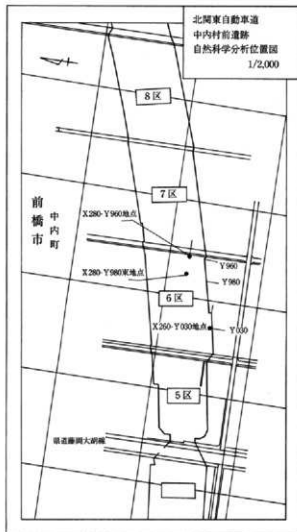
遺構及び土層の年代に関する資料を得るためにテフラ検出分析と屈折率測定を行う。

遺跡下の植物遺体について年代に関する資料を得るために放射性炭素年代測定を行う。



また、花粉分析を行い古環境復元を行う。

水田遺構について、植物珪酸体分析を行い、遺跡土壌から微化石を検出分析し、イネの消長を検討する。



第236図 科学分析サンプリング位置図

(3) 「群馬県、中内村前遺跡の自然科学分析」

株式会社 古環境研究所

1. 中内村前遺跡の土層とテフラ

1. はじめに

前橋台地に分布する後期更新世以降の堆積物中には、浅間火山や榛名火山をはじめとする北関東地方とその周辺の火山の他、九州地方の鬼界カルデラなど遠方の火山に由来するテフラ（火山砕屑物、いわゆる火山灰）が多く認められる。テフラの中には、噴出年代が明らかにされている指標テフラがあり、これらとの層位関係を遺跡で求めることで、遺構の構築年代や遺物包含層の堆積年代を知ることができるようになっている。

そこで中内村前遺跡においても、土層や遺構の年代に関する資料を得るためにテフラ検出分析と屈折率測定を行うことになった。調査分析の対象となった地点は、6区X280-Y980東地点、6区X280-Y980、6区X260-Y030の3地点である。

2. 土層の層序

(1) 6区X280-Y980東地点

6区X280-Y980東地点では、下位より暗灰色泥層（層厚10cm以上）、木本類の植物遺体混じり暗褐色泥炭層（層厚5cm）、成層したテフラ層（層厚29cm）、木本類の植物遺体混じり灰色砂層（層厚28cm）、層理の発達した凝灰質灰色砂層（層厚33cm）、円磨された白色軽石混じり灰色砂層（層厚10cm、軽石の最大径18mm）、灰褐色砂礫層（層厚57cm、礫の最大径27mm）、灰色砂層（層厚18cm）、若干褐色がかった灰色砂層（層厚27cm）、暗灰色土（層厚6cm）、黒色土（層厚10cm）、黒褐色土（層厚19cm）、黒色土（層厚13cm）が認められる（第237図-1）。

これらのうち成層したテフラ層は、下部の黄白色軽石層（層厚25cm、軽石の最大径7mm）と上部の成層した桃灰色火山砂質細粒火山灰層（層厚4

cm）からなる。

(2) 6区X280-Y980地点

6区X280-Y980では、下位より灰色粘質土（層厚10cm以上）、褐灰色土（層厚11cm）、黒灰色土（層厚5cm）、灰色軽石に富む暗灰色土（層厚6cm、軽石の最大径4mm）、黒色粘質土（層厚5cm）、白色軽石混じり黄色細粒火山灰層（層厚2cm、軽石の最大径5mm）、灰色砂質土（層厚6cm）、暗褐色土（層厚7cm）、暗灰色土（6cm）、暗褐色土（4cm）、褐灰色粗粒火山灰層（層厚7cm）、黒褐色砂質土（層厚8cm）、黄色砂質土（層厚10cm）、黄灰色土（層厚4cm）、灰色土（層厚18cm）が認められる（第237図-1）これらのうち、褐灰色粗粒火山灰層については、その層相から1108（天仁元年）に浅間火山から噴出した浅間B軽石テフラ（As-B, 新井, 1979）に同定される。

発掘調査では、白色軽石混じり黄色細粒火山灰層の直下から、水田遺構が検出されている。

(3) 6区X260-Y030地点

6区X260-Y030では、下位より亞円礫混じり灰色砂層（層厚24cm以上）、灰色砂質土（層厚13cm）、砂混じり暗灰色土（層厚15cm）、黒灰色土（層厚8cm）、灰色軽石に富む暗灰色土（層厚5cm、軽石の最大径4mm）、黒灰色粘質土（層厚5cm）、白色軽石混じり黄色細粒火山灰層（層厚1cm、軽石の最大径3mm）、灰色砂質土（層厚12cm）、暗灰色土（層厚5cm）、黒色土（層厚0.2cm）成層したテフラ層（層厚5.5cm）、黒灰色砂質土（層厚7cm）、黄色砂層（層厚1cm）、灰色砂質土（層厚13cm）、黄褐色砂質土（層厚7cm）、灰色土（層厚12cm）、褐灰色土（層厚5cm）、灰色表土（層厚23cm）が認められる（第237図-2）。

これらのうち、成層したテフラ層は、下位より青灰色細粒火山灰層（層厚0.3cm）、褐灰色粗粒火山灰層（層厚5cm）からなる。このテフラ層については、その層相からAs-Bに同定される。

3. テフラ検出分析

(1) 分析方法

6区X280-Y980東地点、6区X280-Y980、6区X260-Y030の3地点において採取された合計10点の資料を対象にテフラ検出分析を行い、示標テフラの検出同定を試みた。テフラ検出分析の手順は、次のとおりである。

- 1) 資料10gを秤量。
- 2) 超音波洗浄により泥分を除去。
- 3) 80℃で恒温乾燥。
- 4) 実顕顕微鏡下でテフラ粒子の量や特徴を観察

(2) 分析結果

テフラ検出分析の結果を表1に示す。6区X280-Y980東地点では、資料番号11の軽石層とくに多くの白色軽石(最大径5.7mm)が含まれている。軽石の斑品には、斜方輝石が含まれている。このテフラは、層相を合わせて考慮すると、約1.3~1.4万年前に浅間火山から噴出した浅間板鼻黄色軽石(As-YP, 新井, 1962, 町田・新井, 1992)に同定される。その上位の資料番号10にも、白色軽石(最大径7.1mm)が多く含まれている。

さらに資料番号7や5には、スポンジ状によく発泡した白色軽石(最大径1mm)や、あまり発泡の良くない灰色軽石(最大径0.9mm)がごく少量含ま

地 点	試料	軽石の量	軽石の色調	軽石の砂最大径
6区X280-Y980東	1	+	灰色	1.3
	3	-	-	-
	5	+	灰、白	0.9, 1.1
	7	+	白	1
	9	-	-	-
	10	+++	白	7.1
6区X280-Y980	11	++++	白	5.7
	1	+++	白	2.2
	2	+++	白	4.3
6区X260-Y030	1	++	灰白	1.2

++++:とくに多い, +++:多い, ++:中程度,
+:少ない, -:認められない, 最大径の単位は, mm.

第1表 中内村前遺跡におけるテフラ検出分析結果

れている。最上位の資料番号1には、スポンジ状に比較的良好に発泡した灰白色軽石(最大径1.3mm)が少量検出された。この軽石は、その特徴から4世紀中葉に浅間火山から噴出した浅間C軽石(As-C, 新井, 1979)に由来すると考えられる。ただしAs-Cの主な包含層は、資料番号1の直上の土層に相当する。

6区X280-Y980では資料2及び1ともに、発泡があまり良くない白色軽石(最大径4.3mm)が多く含まれている。この軽石の斑品には、斜方輝石や角閃石が含まれており、6世紀初頭に標名火山から噴出した標名ニッ岳洪川テフラ(Hr-FA, 新井, 1979, 坂口, 1986, 早田, 1989, 町田・新井, 1992)または6世紀中葉に標名火山から噴出した標名ニッ岳伊香保テフラ(Hr-FP, 新井, 1962, 坂口, 1986, 相田, 1989, 町田・新井, 1992)に由来すると考えられる。資料番号2については屈折率測定を行い、同定精度の向上を図った(後述)。

6区X260-Y030では、資料1にスポンジ状に比較的良好に発泡した灰白色軽石(最大径1.3mm)が少量含まれている。この軽石は、その特徴からAs-Cに由来すると考えられる。

4. 屈折率測定

(1) 測定試料と測定方法

示標テフラとの同定精度を向上させるために、6区X280-Y980東地点の試料番号10および6区X280-Y980の試料番号2の2資料について、温度一定型位相差法(新井, 1972, 1993)により屈折率を行った。

(2) 測定結果

屈折率測定の結果を表2に示す。6区X280-Y980東地点の試料番号10には、重鉱物として斜方輝石や単斜輝石のほか、ごく少量の角閃石が認められた。火山ガラス(n)および斜方輝石(γ)の屈折率は、各々1.501-1.503と1.708-1.711である。これらの特徴は、As-YPに含まれるテフラ粒子のそれと一致する。したがって、試料番号10に含まれるテフ

地 点	試料	重 鉱 物	屈 折 率
6区X280-Y980東	10	opx>cpx, (ho)	g (n) : 1.501-1.503 opx (γ) : 1.708-1.711
6区X280-Y980	2	opx, ho (cpx, ep)	g (n) : 1.501-1.502 opx (γ) : 1.708-1.712 ho (γ) : 1.672-1.678

g: 火山ガラス, opx: 斜方輝石, cpx: 単斜輝石, ho: 角閃石,
ep: 綠帘石, 屈折率は, 温度一定型相差法 (新井, 1972, 1993) による

第2表 中内村前遺跡における屈折率測定結果

ラ粒子は, As-YPの噴火に伴って放出されたテフラ粒子の可能性が非常に大きい。

6区X280-Y980の試料番号2には, 重鉱物として斜方輝石や角閃石のほか, ごく少量の単斜輝石や綠帘石が認められた。火山ガラス (n), 斜方 (γ), 角閃石 (n2) の屈折率は, 順に1.501-1.502と1.709-1.712である。これらの特徴は, Hr-FAに含まれるテフラと一致する。したがって, 試料番号2のテフラはHr-FAに同定される。このことから, 本地点において検出された水田遺構は, Hr-FAに覆われていると考えられる。

II. 中内村前遺跡 6区における放射線炭素年代測定

1. 試料と方法

試料の採取地点	試料	種 類	前 処 理 ・ 調 整	測定法
X280-Y290東	¹⁴ C-1	腐食質土壌	酸洗浄・低濃度処理・ベンゼン合成	β線法
X280-Y980東	¹⁴ C-2	木片	酸-アルカリ-酸洗浄・ベンゼン合成	β線法

2. 測定結果

試料	¹⁴ C年代 (年BP)	δ ¹³ C (‰)	補正 ¹⁴ C年代 (年BP)	暦 年 代	測定No. Beta-
¹⁴ C-1	5700±60	-22.9	5740±609	交点: BC4565 2σ: BC4750 To 4460 1σ: BC4690 To 4605	125277
¹⁴ C-2	13590±80	-229.8	13510±80	交点: - 2σ: - 1σ: -	125278

5. 小結

中内村前遺跡において, 地質調査とテフラ検出分析さらさら屈折率測定を行った。その結果, 下位より浅間板鼻黄色軽石 (As-YP, 約1.3~1.4万年前), 浅間C軽石 (As-C, 4世紀中葉), 榛名二ツ岳浅川テフラ (Hr-FA, 6世紀初頭), 浅間Bテフラ (As-B, 1108年) が検出された。発掘調査により検出された水田遺構の層位は, Hr-FAの直下にある。

文献

- 新井房夫 (1962) 関東盆地北西部地域の第四紀層年, 群馬大学紀要自然科学編, 10, p.1-76.
新井房夫 (1979) 関東地方北西部の縄文時代遺構の示すテフラ層, 考古学ジャーナル, no.53, p.41-52.
町田 洋・新井房夫 (1992) 火山灰アトラス, 東京大学出版会, 276p.
坂口 一 (1986) 榛名山二ツ岳起源FA・FP層下の土師器と須恵器, 群馬県教育委員会編「荒砥北原遺跡・今井神社古墳群・荒砥青堀遺跡」, p.103-119.
早田 勉 (1989) 6世紀における榛名火山の2回の噴火とその災害, 第四紀研究, p.297-312.

1) ^{14}C 年代測定値

資料の $^{14}\text{C}/^{12}\text{C}$ 比から、単純に現在(1950年AD)から何年前(BP)かを計算した値。 ^{14}C の半減期は5,568年を用いた。

2) $\sigma^{13}\text{C}$ 測定値

資料の測定 $^{14}\text{C}/^{12}\text{C}$ 比を補正するための炭素安定同位体比($^{13}\text{C}/^{12}\text{C}$)。この値は標準物質(PDB)の同位体比から千分偏差(‰)で表す。

3) 補正 ^{14}C 年代値

$\sigma^{13}\text{C}$ 測定値から資料の炭素の同位体分別を知り、 $^{14}\text{C}/^{12}\text{C}$ の測定値に補正値を加えた上で算出した年代。

4) 暦年代

過去の宇宙線強度の変動による大気中の ^{14}C 濃度の変動を補正することにより、暦年代(西暦)を算出した。補正には年代既知の樹木年輪の ^{14}C の詳細な測定値を使用した。この補正は10,000年BPより古い資料には適用できない。暦年代の交点とは補正 ^{14}C 年代値と暦年代補正曲線との交点の暦年代値を意味する。 1σ (68%確立率)・ 2σ (95%確率)は、補正 ^{14}C 年代値の偏差の幅を補正曲線に投影した暦年代幅を示す。

III. 中内村前遺跡におけるプラント・オパール分析

1. はじめに

植物珪酸体は、植物の細胞内にガラスの主成分である珪酸(SiO_2)が蓄積したものであり、植物の枯れたあとも微化石(プラント・オパール)となって土壤中に半永久的に残っている。プラント・オパール分析は、この微化石を遺跡土壌などから検出する分析であり、イネの消長を検討することで埋蔵水田跡の検証や探査が可能である(藤原・杉山, 1984)。

2. 資料

資料は、6区X280-Y980と6区X260-Y030地点か

ら採取された13点である。資料採取箇所を分析結果の柱状図に示す。

3. 分析法

プラント・オパールの抽出と定量は、プラント・オパール定量分析法(藤原, 1976)をもとに、次の手で行った。

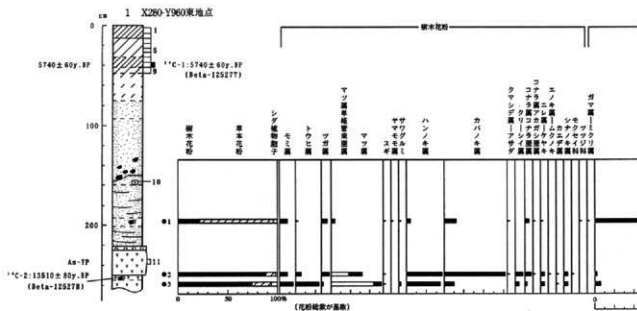
- 1) 資料を 105°C で24時間乾燥(絶乾)
- 2) 資料約1gに対し直径約 $40\mu\text{m}$ のガラスビーズを約0.02g添加(電子分析天秤により0.1mgの精度で秤量)
- 3) 電気炉灰化法(550°C ・6時間)による脱有機物処理
- 4) 超音波水中照射(300W ・ 42kHz ・10分間)による分散
- 5) 沈底法による $20\mu\text{m}$ 以下の微粒子除去
- 6) 封入剤(オイキット)中に分散してプレパラート作成
- 7) 検鏡・計数。

同定は、イネ科植物の機動細胞に由来するプラント・オパールをおもな対象とし、400倍の偏光顕微鏡下で行った。計数は、ガラスビーズ個数が400以上になるまで行った。これはほぼプレパラート1枚分の精査に相当する。資料1gあたりのガラスビーズ個数に、計算されたプラント・オパールとガラスビーズの個数の比率をかけて、資料1g中のプラント・オパールの個数を求めた。

また、おもな分類群についてはこの値に資料の仮比重と各植物の換算係数(機動細胞珪酸体1個あたりの植物体乾重、単位:10・5g)をかけて、単位面積で層厚1cmあたりの植物体生産量を算出した。イネ(赤米)の換算係数は2.94、ヨシ属(ヨシ)は6.31、ススキ属(ススキ)は1.24、タケ亜科は0.48である。

4. 分析結果

水田跡(稲作跡)の検討が主目的であることから、同定および定量はイネ、ヒエ属、ヨシ属、ススキ属型、タケ亜科(おもにネザサ節)の主要な5分類群



第237図の1 科学分析土層柱状図、プラント・オパール分析結果、花粉分析ダイアグラム

に限定した。これらの分類群について定量を行い、その結果を第1表および第237図-1・2に示した。写真図版112・113に主要な分類群の顕微鏡写真を示す。

5. 考察

(1) 水田跡の検討

水田跡（稲作跡）の検証や検査を行う場合、一般にイネのプラント・オパールが資料1gあたり5,000個以上と高い密度で検出された場合に、そこで稲作が行われていた可能性が高いと判断している。ただし、関東周辺では密度3,000個/g程度でも水田遺構が検出されていることから、ここでは判断の基準を3,000個/gとして検討を行った。

検出密度（単位：×100個/g）

分類群	学名	6 [X280-Y980東									6 [X280-Y980				
		3	4	4'	5	6	7	8	9	1	2	3	4	5	
イネ	<i>Oryza sativa</i> (domestic rice)	76	67	53	52	36	23			38	98	15			
ヨシ属	<i>Phragmites</i> (reed)	23	15	22	23	23	30	15	23		106	38	68		
ススキ属型	<i>Miscanthus</i> type	23	15	30	15	30	8	45	8	23	30	8	30		
タケ茎科	Bambusoideae (Bamboo)	8	30	105	30	23	15	38	8	15	15	30	45	30	

測定生産量（単位：kg/m²・cm）

イネ	<i>Oryza sativa</i> (domestic rice)	2.23	1.98	1.55	1.54	1.11	0.66			1.12	2.89	0.45		
ヨシ属	<i>Phragmites</i> (reed)	1.44		0.95	1.42	1.43	1.43	1.90	0.95	1.45		6.70	2.37	4.26
ススキ属型	<i>Miscanthus</i> type	0.28		0.19	0.37	0.19	0.37	0.09	0.56	0.09	0.28	0.38	0.09	0.37
タケ茎科	Bambusoideae (Bamboo)	0.04	0.14	0.51	0.14	0.11	0.07	0.18	0.04	0.07	0.07	0.15	0.22	0.14

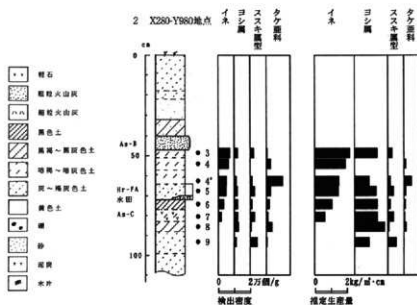
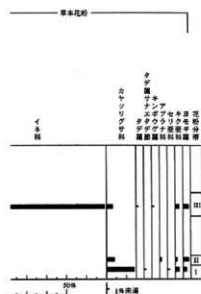
※試料は乾比重を1.0と仮定して算出。

第3表 群馬県、中内村前遺跡におけるプラント・オパール分析結果

1) 6区X280-Y980地点（第237図-1）

As-B直下層（資料1）からAs-Cの下層（試料9）までの層準について分析を行った。その結果、As-B直下層（試料1）からAs-C混層（試料7）までの各層からイネが検出された。このうち、As-B直下層（試料1）では密度が7,600個/gと高い値であり、その下層（試料4～5）でも5,200～6,700個/gと高い値である。また、水田遺構が検出されたHr-FA直下層（試料6）でも3,800個/gと比較的高い値である。したがって、これらの層準では稲作が行われていた可能性が高いと考えられる。

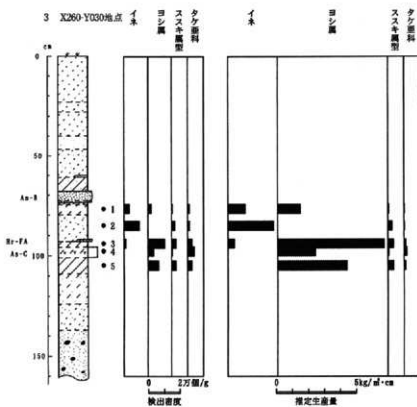
As-C混層（試料23）では密度が2,300個/gと比較的低い値である。イネの密度が低い原因としては、



稲作が行われていた期間短かったこと、土層の堆積速度が速かったこと、洪水などによって耕作土が流出したこと、および上層や他所からの混入などが考えられる。

2) 6区X260-Y030地点 (第237図-2)

As-B直下(試料1)からAs-C下層(試料5)までの層準について分析を行った。その結果、As-B直下層(試料1)からHr-FA直下層(試料3)までの各層からイネが検出された。このうち、As-Bの下層(試料2)では密度が9,800個/gと高い値であり、As-B直下層(試料1)でも3,800個/gと比較的高い値である。したがって、これらの層準では稲作が行われていた可能性が高いと考えられる。Hr-FA直下層(試料3)では密度が1,500個/gと低い値である。



第237図の2 科学分析土層柱状図、プラント・オパール分析結果、花粉分析ダイアグラム

(2) 堆積環境の推定

ヨシ属は比較的湿ったところに生育し、ススキ属やタケ亜科は比較的乾いたところに生育している。このことから、これらの植物の出現状況を検討する

ことによって、堆積当時の環境（乾燥・湿潤）を推定することができる。おもな分類群の推定生産量（図の右側）によると、イネ以外ではおおむねヨシ属が優勢であり、特に6区X260-Y030地点のAs-C前後層ではヨシ属が圧倒的に卓越していることが分かる。

以上のことから、稲作が開始される以前の遺跡周辺は、ヨシ属などが生育する湿地的環境であったと考えられ、Hr-FA直下層の時期にそこを利用して水田稲作が開始されたものと推定される。なお、稲作の開始以降もヨシ属が多く見られることから、水田雑草などとしてヨシ属が生育していた可能性も考えられる。

6. まとめ

プラント・オパール分析の結果、水田遺構が検出された機名山二ツ岳澁川テフラ（Hr-FA、6世紀初頭）直下層からはイネが大量に検出され、同層で稲作が行われていたことが分析的に検証された。また浅間Bテフラ（As-B、1108年）直下層やHr-FAの上層などでも稲作が行われていた可能性が高いと判断された。

本遺跡周辺は、稲作が開始される以前はヨシ属などが生育する湿地的な環境であったと考えられ、Hr-FA直下層の時期にそこを利用して水田稲作が開始されたものと推定される。

文献

- 藤原宏志 (1976) プラント・オパール分析法の基礎的研究 (1) — 数種イネ科栽培植物の種類・体積率と定量分析法 —, 考古学と自然科学, 9, p.15-29.
藤原宏志・杉山真二 (1984) プラント・オパール分析法の基礎研究 (5) — プラント・オパール分析による水田址の探査 —, 考古学と自然科学, 17, p.73-85.

IV. 中内村前遺跡における花粉分析

1. 試料

試料は、6区X280-Y980地点から採取された3点である。試料採取箇所を分析結果の柱状図に示す。

2. 方法

花粉粒の分離抽出は、基本的には中村 (1973) を

参考にして、試料に以下の物理化学処理を施して行った。

- 1) 5%水酸化カリウム溶液を加え15分間湯煎する。
- 2) 水洗した後、0.5mmの篩で礫などの大きな粒子を取り除き、沈殿法を用いて砂粒の除去を行う。
- 3) 25%フッ化水素酸溶液を加えて30分放置する。
- 4) 水洗した後、氷酢酸によって脱水し、アセトリシス処理（無水酢酸9：1濃硫酸のエルドマン氏液を加え1分間湯煎）を施す。
- 5) 再び氷酢酸を加えた後、水洗を行う。
- 6) 沈渣に石灰酸フクシンを加えて染色を行い、グリセリンゼリーで封入しプレパラートを作製する。

以上の物理・化学の各処理間の水洗は遠心分離（1500rpm、2分間）の後、上澄みを捨てるという操作を3回繰り返して行った。検鏡はプレパラート作成後直ちに、生物顕微鏡によって300～1000倍で行った。

花粉の同定は、鳥倉 (1973) および中村 (1980) をアトラスとして、所有の現生標本との対比で行った。結果は同定レベルによって、科、亜科、属、亜属、節および種の階級で分離した。複数の分類群にまたがるものはハイフン（-）で結んで示した。なお、科・亜科や属の階級の分類群で一部が属や節に細分できる場合はそれらを別の分類群とした。

3. 結果

(1) 分類群

出現した分類群は、樹木花粉21、草本花粉10、シダ植物胞子2形態の計33である。これらの学名と和名および粒数を第4表に示し、主要な分類群を写真に示す。以下に出現した分類群を記す。

〔樹木花粉〕

モミ属、トウヒ属、ツガ属、マツ属、マツ属単雄管東亜属、スギ、ヤマモモ属、サワグルミ、ハンノキ属、カバノキ属、クマシヤ属—アサダ、クリ、シイ属、コナラ属コナラ亜属、コナラ属アカガシ亜属、ニレ属—ケヤキ、エノキ属ムクノキ、カエデ属、シナノキ属、モクセイ科、ツツジ科

〔草本花粉〕

ガマ属-ミクリ属、イネ科、カヤツリグサ科、タテノキ属、タテノキ属サナエタテ節、キンボウグ属、アブラナ科、セリ亜科、キク亜科、ヨモギ属
[シダ植物胞子]

単条溝胞子、三条溝胞子

(2) 花粉群集の特徴

As-YPの下層(試料3)では、マツ属単維管束亜属、トウヒ属、モミ属などの針葉樹およびハンノキ属(生態上からハンノキとみなされる)やカバノキ

分 類		6 EX280-Y960 グリッド東		
学 名	群 名	1	2	3
Arboreal pollen 樹木花粉				
<i>Abies</i>	モミ属	12	15	26
<i>Picea</i>	トウヒ属	2	13	43
<i>Tsuga</i>	ツガ属	10	15	5
<i>Pinus</i>	マツ属	7	27	13
<i>Pinus subgen. Haploxyylon</i>	マツ属単維管束亜属	2	37	78
<i>Cryptomeria japonica</i>	スギ	1	2	3
<i>Myrica</i>	ヤマモモ属	1		
<i>Pterocarya rhoifolia</i>	サワグルミ	2		4
<i>Alnus</i>	ハンノキ属	5	72	58
<i>Betula</i>	カバノキ属	21	120	18
<i>Carpinus-Ostrya japonica</i>	クマシタ属-アサダ	1	1	
<i>Castanea crenata-Castanopsis</i>	クリ		14	9
<i>Quercus subgen. Lepidobalanus</i>	コナク属コナク亜属	6	13	5
<i>Quercus subgen. Cyclobalanopsis</i>	コナク属カガシ亜属	1	2	
<i>Ulmus-Zelkova serrata</i>	ニレ属-ケヤキ	1	7	8
<i>Celtis-Aphananthe aspera</i>	エノキ属-ムクノキ		1	
<i>Acer</i>	カエデ属		1	1
<i>Tilia</i>	シナノキ属		9	6
<i>Oleaceae</i>	モクセイ科		3	
<i>Eriaceae</i>	ツツジ科		1	
Nonarboreal pollen 草本花粉				
<i>Typha-Sparganium</i>	ガマ属-ミクリ属	1		
<i>Gramineae</i>	イネ科	226	4	9
<i>Cyperaceae</i>	カヤツリグサ科	9	16	49
<i>Polygonum sect.</i>	ケダマ属	3		
<i>Polygonum sect. Persicaria</i>	タテノキ属サナエタテ節			1
<i>Ranunculus</i>	キンボウグ属	1		
<i>Cruciferae</i>	アブラナ科		4	
<i>Apiodeae</i>	セリ亜科			1
<i>Asteroidaeae</i>	キク亜科	5	5	8
<i>Artemisia</i>	ヨモギ属	9	11	7
Fern spore シダ植物胞子				
Monolate type spore	単条溝胞子	14	7	20
Trilate type spore	三条溝胞子		2	1
Arboreal pollen 樹木花粉				
Nonarboreal pollen	草本花粉	73	352	277
Total pollen	花粉総数	254	40	75
Unknown pollen	花科未定花粉	327	302	352
Unknown pollen	未定花粉	5	4	5
Fern spore	シダ植物胞子	5	4	5
Helminth eggs	寄生虫卵	14	9	21
	明らかでない消化残渣	(-)	(-)	(-)
	明らかでない消化残渣	(-)	(-)	(-)

第4表 中内村前遺跡における花粉分析結果

属などの広葉樹が優占する。草本花粉はカヤツリグサ科が比較的高率に出現する。As-YP直下層(試料2)では、カバノキ属が高率になり、マツ属単維管束亜属、トウヒ属、モミ属などの針葉樹が減少する。As-YPの上層(試料1)では、イネ科が圧倒的に優占し、樹木花粉は低率になる。

4. 花粉分析から推定される植生と環境

浅間坂鼻黄色軽石(As-YP, 約1.3~1.4万年前)の下層の堆積当時は、ハンノキの湿地林やカバノキ

属などの落葉広葉樹林が分布しており、周辺地域にはゴヨウマツ類(マツ属単維管束亜属)、トウヒ属、モミ属を主とする重高山帯(重寒帯)針葉樹林が優勢に分布していたと推定される。草本では抽水植物を主とするカヤツリグサ科が多く、ハンノキと伴に湿地に生育していたと考えられる。これらの植生から、寒冷でやや乾燥した気候が示唆される。As-YP直下層では、乾燥地を好むカバノキ属の森林が拡大し、ゴヨウマツ類、トウヒ属、モミ属を主とする針葉樹林が縮小したと考えられる。このことから、気候の乾燥化が示唆される。

As-YPの上層では、ヨシ属などのイネ科を主とする草本が極めて優勢な植生が展開したと推定される。周辺はカバノキ属の森林が優勢であり、寒冷で乾燥した気候下にあったと推定される。

文献

- 中村純(1973)花粉分析, 古今書院, p.82-110.
島倉巳三郎(1973)日本植物の花粉形態, 大阪市自然学博物館収蔵目録第5集, 60p.
中村純(1980)日本産花粉の標本, 大阪自然史博物館収蔵目録第13集, 91p.

V. 中内村前遺跡出土木材の樹種同定

1. 試料

試料は、6区X280-Y980グリッドの東地点のAs-YP上位と下位から採取された2点の材である。

2. 方法

カミソリを用いて、新鮮な基本的三断面（木材の横断面、放射断面、接線断面）を作製し、生物顕微鏡によって60～600倍で観察した。樹種同定は解剖学的形質および現生標本との対比によって行った。

3. 結果

結果を第5表に示し、主要な分類群の顕微鏡写真を示す。以下に同定根拠となった特徴を記す。

a. トウヒ属 *Picea* マツ科 PL112～114

仮道管、放射柔細胞、放射仮道管および垂直、水平両樹脂道を取り囲むエビセリウム細胞から構成される針葉樹材である。

横断面：早材から晩材への移行はゆるやかで、晩材部に正常な垂直樹脂道が見られる。

放射断面：放射柔細胞の分野壁孔は典型的なトウヒ型で、1分野に3～6個存在する。放射仮道管の有縁壁孔対の断面は、壁孔縁の先端が角張っているもの、壁孔縁に鋸歯状の突起を持つものが多く、孔口も小さい。

接線断面：放射組織は単列で1～20細胞高であるが、水平樹脂道を含むものは紡錘形を呈する。

b. フジ *Wisteria floribunda* DC. マメ科

PL112～114

横断面：年輪のはじめに大型で丸い道管が、1～2列配列する環孔材である。晩材部では中型の道管

試料	出土地点	樹種 (和名/学名)
材1	As-YP上位	フジ <i>Wisteria floribunda</i> DC.
材2	As-YP下位	トウヒ属 <i>Picea</i>

第5表 中内村前遺跡の樹種同定結果

のほかにごく小型の道管が多数集合して木部柔組織とともに接線方向の帯状に配列する。

放射断面：道管の穿孔は単穿孔である。小道管の内壁にはらせん肥厚が存在する。放射組織は同性に近い異性である。

接線断面：放射組織は同性に近い異性放射組織で、1～8細胞幅である。

4. 所見

浅間板鼻黄色軽石 (As-YP, 約1.3～1.4万年前)の下位から検出された材はトウヒ属、上位から検出された材はフジと同定された。トウヒ属はアカエゾマツ、エゾマツ、トウヒがあり、アカエゾマツとエゾマツは北海道に自生し、トウヒは関東山地、中部山岳地、大台ヶ原に自生する。温帯上部から寒冷な亜寒山帯ないし亜寒帯に分布する常緑針葉樹である。フジは本州、四国、九州に分布する、つる性の落葉木本であり、河辺や沢沿いの森林に多く自生する。

文献

佐伯浩・原田浩 (1985) 針葉樹材の細胞、木材の構造、文永堂出版、p.20-48

佐伯浩・原田浩 (1985) 広葉樹材の細胞、木材の構造、文永堂出版、p.49-100

(4) 科学分析報告に対する所見

以上のように株式会社古環境研究所提出の科学分析報告書を掲載した。科学分析委託のまとめとして報告された所見を埋蔵文化財サイドとして鑑定要件に照らして若干検討してみたと思う。

① 年代

鑑定要件の第一は「遺構の構築年代や遺跡立地の堆積年代を明らかにする」ためのテフラの分析と遺構検出黒色土直下の腐敗土壌及び調査面下2m程のテフラ下泥炭層の木片について年代を明らかにすることであった。

これに対し鑑定ではAs-B、Hr-FA、As-C、As-YPが確認され、調査段階で認識、処理してきたテフラが地質学的にも確認されることになった。但し、報文中のAs-Cの4世紀中葉という年代は考古学的

には20年ほど前の古い見解であり、調査段階（最近まで）では4世紀初頭、現在では3世紀末葉（或いは4世紀初頭）とするのが一般的である。

また出土炭化物の放射性炭素年代測定も実施したが、As-C下の「黒ぼく土」の炭化物にはB.P.5,740±60年という年代が与えられた。黒ぼく土は縄文時代以降形成されたと考えられている土壌であるが、当遺跡に於いても少なくとも縄文時代中期には黒ぼく土が形成されていたことを確認することができた。一方フジと同定されたAs-YP下の前橋泥炭層出土炭化物にはB.P.13,510±80年という年代が与えられた。

② 環境復元

鑑定要件の二点目は花粉分析によるAs-YP降下前後の遺跡の立地した環境の復元であった。

これについて鑑定所見は、前橋泥炭層形成期には周辺地域には重高山帯（巫索帯）針葉樹林があり、遺跡地には湿地林や落葉広葉樹林が分布していること、しかしAs-YP直下層では針葉樹林が縮小し、乾燥地を好むカバノキ属の森林の拡大、As-YP上位層では周辺はカバノキ属の森林となり、遺跡地ではイネ科を主とする草本が極めて優勢で、寒冷乾燥した気候であったと報告している。出土木材の鑑定所見もこの傾向を示している。本遺跡の更新世末期は乾燥化が漸次進行し、環境の変化する時期ではあったことが確認されたが、旧石器遺跡の形成は認め

られなかった。

③ イネの消長の検討

三点目の鑑定要件は水田遺構についてプラント・オパール（植物珪酸体）分析を行い、イネの消長を検討することであった。

鑑定の結果、イネのプラント・オパールはHr-FA直下層で多量に検出され、Hr-FAの上層やAs-B直下層などでも稲作の可能性が高いという成績が得られた。またHr-FA下水田は、それ以前にヨシ属などが生育する湿地的な土地を利用したものとされている。

この結果を遺構に照らしてみると、Hr-FA・As-B層直下には水田遺構があり、Hr-FA上にもHr-FA・FP洪水層による埋没水田が確認されているので水田耕作の実施は考古学的にも明らかである。問題なのはHr-FA下水田の下位である。発掘調査ではHr-FA下水田下にはAs-Cの復旧水田と判断した水田址が確認されているが、鑑定ではイネのプラント・オパールは東側のX280-Y980東地点では水田とされ得る基準の3000個/gに対し、2300個/gが確認されたものの、特にAs-C復旧水田と位置的に一致するはずの西側のX260-Y030地点では全く確認できていない。こうした分析結果に対しては、復旧水田が開削時点で放棄されているか、或いは開墾時の掘削は別として耕作が試料の採取位置まで及んでいなかった等が考えられるが、現時点で結論を導き出すことはできなかった。

第2節 5～7区小結

(1) 5～7区の調査の概略

以上のように6～7区では多くの遺構を発見、調査し、遺物の出土を見てきた。各区に於ける概要は第2章1～3節の冒頭に述べてきたので重複するが、以下にその概要をまとめる。

6区の中央～中南部と北東部に微高地があって低地部が広がる5・6区と微高地をA形に谷地形が切る7区では中世以降の溝・土坑が確認されたが、特に6区に於いては鉤形プランの溝で有機的に結合す

る2箇所の屋敷遺構とその間の郭状に使用された区画を確認した。この屋敷遺構群は概ね15世後半以降のものであった。また、5・7区ではAs-B降下後の復旧水田も発見された。

As-B降下時点（1108）では低地・谷地部を中心に水田址が広がっていた。また6区中央～中南部の微高地を中心に6・7区で9世紀前半期を中心とする時期の集落が展開し、低地部ではHr-FA・FP洪水埋没の水田址が確認された。また5～7区の低地部では6世紀初頭のHr-FA埋没水田が確認された。尚、古墳時代後期～平安時代の土地利用については

自然地形に基づいて土地利用から、律令期に入ってから桑里区画に基づいた土地利用へと移行することも確認された。

その下位、6区中東部と7区中南部、北東部で3世紀末葉の集落が確認された。また、6区西部ではAs-Cの復旧水田を確認したが、プラント・オパール分析では水田としては認められなかった。

(2) 周溝をもつ建物

上述のように6・7区の3地点からは弥生時代～古墳時代への移行期に当る時期の竪穴住居10軒と溝2条、土坑12基、井戸1基が確認され、在地系、東海系、北陸系の要素の見られる出土遺物が得られた。こうした遺構、遺物の中で注目されたのは6軒の周溝を伴う住居遺構であった。以下、この周溝を伴う住居遺構（以下「周溝をもつ建物」¹⁾とする）について若干の検討を行いたいと思う。

① 北陸地方における研究

周溝をもつ建物は東北から九州にかけての全国で確認（岡本1998）されている。こうした建物は高橋保が新潟県柏崎市の下谷地遺跡で周溝状の土坑群を伴う遺構（高橋1971）、久々忠義が富山県上市町の江上A遺跡の建物（SB14）と溝（SD03）を検討する中で登呂遺跡のものに近似した建物を想定（久々1981）したのを始めとして北陸地方で認識されるようになったものである。その後、南久和は周溝の形態を平面形態で3タイプ、断面形態で2タイプに分類して、弥生時代中期から古墳時代前期のものから平地式建物の可能性が高いと評価し（南1991）、岡本淳一郎は周溝を伴う建物は北陸以外に起源を持つもので、竪穴のものとは平地式のものがあると指摘し、周溝については土坑タイプ、広溝タイプ、狭溝タイプの3タイプに分類して、後述するように北陸地方の事例を通してそれぞれの継続時期を示している（岡本1997）。

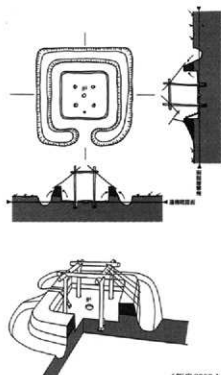
② 関東地方における研究

一方、関東に於ける周溝を持つ建物の研究は周溝墓研究の延長線上にあり、加納俊輔（加納1992）に

よる埼玉県鍛冶谷・新田口遺跡や伊藤敏行・及川良彦（伊藤・及川1996）による豊島馬場遺跡の方形周溝墓の検討を通して、「方形周溝墓」の中に別用途の遺構も含まれるのではないかとする疑義を発端に研究が始まっている。その後、方形周溝墓同士の切り合いに疑問を呈した飯島義雄（飯島1998）、及川良彦（及川1998）らによって方形周溝墓の一部が墓ではなく周溝をもつ（有する）建物であると認識されるに至る。飯島は北陸・越後、群馬県、埼玉県、茨城県の事例を検討し、周溝を持つ建物について大阪府長原遺跡（今津1991）の周堤をもつ竪穴住居を標準的なイメージとして、北陸・畿内・関東では周溝を持つ建物が安定的に存在すると指摘した。また、こうした「周溝半盛土竪穴式住居」のイメージが当時の墓に反映したとの解釈を示している。一方、及川は後の武蔵を中心とする関東と北陸、東海地方の事例を分析して平面的に中央の一箇所が途切れる中央（幅広）陸橋型の方形周溝墓とされていたものを建物跡として分析し、低地部に見られ、東海では弥生時代中・後期、北陸では弥生時代中期から古墳時代前期、関東では古墳時代初期から一般的になって古墳時代中期まで検出されるとしている。

こうした及川や飯島の周溝を持つ建物という考え方に対して福田聖は方形周溝墓の見直しを行い（福田1999abc・2000ab）、方形周溝墓と周溝をもつ建物の特徴を抽出して両者の相同と相違を示し、周溝を持つ建物の識別の目安を示しているが、「安易に振り分ける危険を感じる」とその識別の難しさを指摘している（福田2000b）。また嶋村一志は東京都の豊島馬場遺跡の発掘調査報告書で及川、飯島の指摘を検討しつつ方形周溝墓群の分析を行い、周溝墓として肯定される要素、否定される要素、住居として肯定される要素、否定される要素を示している（嶋村1999）。しかし嶋村は住居的に慎重な立場を取っており、周溝墓群が集落であった可能性も残しつつ墓域であったとの立場を取っている。

一方、同じ年に及川良彦は新たな資料を追加検証して周溝を持つ建物の存在を再確認し（及川1999）、



第238図 「周溝を持つ建物」の推定復元

或いは周溝の平面形態の変化が弥生時代後期から古墳時代前期にかけての南関東に於ける竪穴住居の変化と一致することを指摘した(及川2000)。また嶋村と共に豊島馬場遺跡の周溝墓を報告(長瀬1999)した長瀬は同遺跡の集落墓群の再検討を行い、これらを周溝墓と周溝を持つ建物跡に分離する作業を実施(長瀬2000)している。一方群馬県の三和工業団地I遺跡例を検討した坂口一は、竪穴住居の壁溝から(トンネル等を使用して)直接排水するものがあることを報告し、こうした壁溝を利用する排水施設を持つものの施工者が「東海地方東部から直接的な移住と見るのが妥当」と結論付けている(坂口1999)。飯島義雄は周溝を持つ建物の復元案を提示し(第238図)、加えて周溝を持つ建物の一部に見られる連結溝に着目して、上屋部に降った雨水を最終的に居住域外に誘導する「排水溝」と解釈している(飯島2000)。春山秀行は坂口の示した壁溝を利用した排水施設を持つ建物が丘陵上にも分布するのに対し、一般的なのが低地帯の遺跡に限定されるという立地の違いを指摘し、北陸系土器の流入との関連を示唆している(春山2002)。

③ 群馬県下の周溝を持つ建物

現在、知る限りに於いて群馬県下では6遺跡、26軒の“周溝をもつ建物”が認識されている。次に、これに下掘が形態の検討等からその可能性を考えた2例を加えた“建物”の概要を述べたいと思う。尚、本書を含め各報告書に掲載された実測図には作図対象に差異があり、或いは建物(住居)に伴わない、或いは重複が認識される遺構の記載も見られたため、検討を行うに当っては各図を下掘(石守)の判断で加筆修正した平面図を使用することとする。²⁾

a. 上之手八王子遺跡

群馬県内で最も早く当該の遺構が認識されていたのは烏川と関越自動車道の交差点に程近い佐波郡玉村町上之手の上之手八王子遺跡³⁾である。上之手八王子遺跡の建物(住居)が周溝をもつことは調査当時から認識されていたが、一連の研究の中で初めて取り上げたのは飯島義雄(飯島1998)であった。建物は何れも4世紀前半期のBH・102・116・149・161・176号住居(以下本稿では「八王子102・116・149・161・176」と表記する)の5軒である。

八王子102の建物本体は径6m強の方形を呈する竪穴住居で、主軸は北北西を向く。周溝は直径15m程の円形プランを呈する幅狭の浅い掘り込みのもので、西側に開口部があるようである。

八王子116の建物本体は径7m程の竪穴住居で、主軸は概ね北を向く。周溝は東西幅16m程の南に開くコ字形プランを呈する幅広の浅い掘り込みのもので、東側で北側或いは本建物の北を西側から巻くように入る溝と合流して南東方向続いている。

八王子149の建物本体は径7m程の方形様のプランを呈する竪穴住居で、主軸は北北東を向く。周溝は二重になっており、内側のものは直径12m程の円形または隅丸方形を呈する幅狭のもので、外側のものは直径20m程の幅広の隅丸方形プランを呈する。双方共掘り込みは浅く開口部が無い可能性がある。

八王子161の建物本体は床面の一部が残された竪穴住居⁴⁾である。周溝は主軸が北西を向く径15×16

m程の隅丸方形プランを呈する幅広の浅い掘り込みのもので、東側南端に開口部がある。

八王子176の建物本体は径7m弱の方形を呈する堅穴住居で、主軸は北北西を向く。周溝は二重にあり、内側のは直径13m程の幅狭のもの、外側のは直径18m程の幅広のもので共に隅丸方形のプランを呈する浅い掘り込みのものである。内側の周溝では南側中央のやや東寄り、外側の周溝では東側南端に開口部がある。また、外側の周溝は南西隅で北西から流下してくる溝に合流し、東南東方向に流れている。

b. 上之手八王子遺跡 (追加)

上之手八王子遺跡には2基の方形周溝状遺構がある。調査段階では堅穴住居としては認識されず、一方「積極的に方形周溝墓とする根拠はなかった」(玉村町1991)と報告されている。しかし、1号方形周溝状遺構(以下「八王子1」と表記する)は報告書中の実測図の検討から周溝は南辺が開口し、接続溝を伴う八字状のプランを呈する可能性が考慮されたために、一方2号方形周溝状遺構(以下「八王子2」と表記する)は東側隅部に開口部が、西側隅部には連結溝に伴うものかと思われる分岐箇所があり、柱穴と思われるピットが見られたことなどから、共に周溝を持つ建物と解釈した。時期は出土遺物から八王子1は3世紀末葉(～4世紀前半)、八王子2は4世紀前半期と判断される。

八王子1の建物本体は認められない。周溝は径9m弱のやや小型の隅丸方形プランを呈する幅広の浅い掘り込みのもので、南側が大きく開口する。

八王子2には建物本体のもので判断される柱間3m程の柱穴らしいピット二箇所がある。周溝は径13×12m程の隅丸方形プランを呈する幅広の浅い掘り込みのもので、西側隅部が南方向に向かって短く分岐している。飯島義雄の言う接続溝に続くものと解釈した。

c. 三和工業団地1遺跡

三和工業団地1遺跡⁶⁾は北関東自動車道伊勢崎インターチェンジ近くの伊勢崎市三和町の台地上に立地する遺跡である。発見された周溝をもつ建物は12号住居(以下「三和12」と表記する)の1軒で、時期は出土遺物から3世紀末葉～4世紀初頭と判断される。尚、本稿では扱わないが三和12と同様壁溝から堅穴外に排水し、排水溝を共有する形式の堅穴住居9号住居が東側下流部で確認されている。

三和12の建物本体は径5.5×5m程の横長の長方形プランを呈する堅穴住居で、主軸は北西を向く。主たる周溝は径12m程の丸形プランのもので、住居南西壁の中程壁溝から出る鉤形の周溝が前者の南西隅から伸びる排水溝に垂直に接続する。周溝は共に幅狭で掘り込みは深い。

d. 上之手石塚遺跡

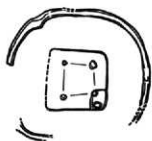
上之手石塚遺跡⁶⁾は上之手八王子遺跡の南に近接して位置する。周溝をもつ建物は59号住居(以下「石塚59」と表記する)の1軒である。時期は出土遺物から(3世紀末葉～)4世紀前半と判断される。

石塚59は建物本体が径6m程の方形プランの堅穴住居で、主軸は北北西を向く。周溝は径12m強の方形プランの幅狭のもので、掘り込みはやや浅い。

e. 横手湯田遺跡

本遺跡の西部、前橋市南西の横手町・亀里町・鶴光路町にまたがる横手湯田遺跡⁷⁾の第13面からはA区1号住居跡、B区1～5号住居跡、D区1号住居跡の(以下本稿では「湯田A1・B1・B2・B3・B4・B5・D1」と表記する)の7軒の周溝をもつ建物を確認している。何れも微高地上に造られ、3世紀末葉の所産と把握されるが湯田B4は少し古い要素も持つ。

湯田A1の建物本体は恐らく主軸を北に向ける4本柱の建物であるが、攪乱が大きく堅穴住居なのか平地建物かを含め構造は不詳である。周溝は10m程で方形プランを呈するやや幅広で浅い掘り込みのものであり、南側中央に狭い開口部がある。



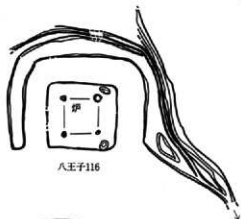
八王子102
(上之手八王子遺跡)



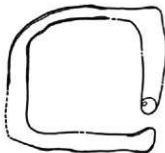
八王子149



八王子176



八王子116



八王子161



八王子1



三和12 (三和工業団地I遺跡)



石塚59
(上之手石塚遺跡)



湯田A1
(横手湯田遺跡)



八王子2



湯田B1



湯田B2



湯田B3



湯田B4



湯田B5



湯田D1

第239図 群馬県地域の周溝をもつ建物(その1)(石守による加筆修正図)

湯田B1の建物本体は竪穴式か平地式の建物か不明だが、掘り方を有するため前者の可能性を持つ。周溝は直径13×14m程の隅丸方形プランで幅広の浅い掘り込みのものである。主軸は概ね北を向き、北東隅部に開口部があるようである。

湯田B2の建物本体は中央に地床炉を確認したのみである。周溝は径15×13m程の隅丸方形プランを呈する幅広の浅い掘り込みのもので、南側に開口部があるようである。

湯田B3の建物本体の形態は竪穴式か平地式かを含め明瞭でないが、柱間3m程の柱穴が残る。幅狭の浅い掘り込みの周溝の一部が北辺と東辺に確認された。土坑が連続したもののようにも見受けられる。開口部は北側にある。

湯田B4の建物本体は竪穴式か平地式か判然としないが、地床炉を持ち柱間3.5m程の柱穴が残る。周溝は直径16m弱で円形プランの幅広の浅い掘り込みのもので、南側に開口部を持ち、その西側の周溝は方形様に広がっている。

湯田B5の建物本体は確認されなかったが、遺構全体として主軸は北西を向く。周溝は径12m程の隅丸方形を呈する幅広の浅い掘り込みのもので、南側西端に開口部を持つ。

湯田D1では位置的に柱穴と判断されるピットが残る。本体建物は北北西を向くようで、周溝は全体として径8×7m程の隅丸方形プランの幅広の浅い掘り込みのものであるが、西側の溝だけは内側に入り込んで幅狭である。南東と西側に開口部を持つ。

e. 横手早稲田遺跡

横手早稲田遺跡¹⁰横手湯田遺跡の北側に近接する、前橋市南西の横手町に所在する遺跡である。この横手早稲田遺跡の第5面からはⅡ区1号住居、Ⅲ区1～4・6の（以下本稿では「早稲田Ⅱ1・Ⅲ1・Ⅲ2・Ⅲ3・Ⅲ4・Ⅲ6」と表記する）の6軒の周溝をもつ建物を確認している。早稲田Ⅱ1・Ⅲ1・Ⅲ3・Ⅲ4・Ⅲ6は3世紀末葉の所産として把握され、早稲田Ⅲ2も古墳時代前期の住居として認識さ

れる。

早稲田Ⅱ1の建物本体は柱間3m程の柱穴2基と地床炉を有する平地建物と思われるものである。周溝は径14m以上の隅丸方形プランを呈する幅狭の浅い掘り込みのものである。

早稲田Ⅲ1の建物本体は径3.5m程の主軸が北を向く竪穴住居で、焼失家屋であった。周溝は直径9m強の円形プランを呈する幅狭の浅い掘り込みのもので、南側西寄りに開口部を持つ。

早稲田Ⅲ2は柱穴と炉を確認したが、竪穴住居か平地式建物かは不明。南側に幅狭の浅い掘り込みの周溝の一部が残る。

早稲田Ⅲ3の建物本体は径5m強の竪穴住居で、主軸は北を向く。建物本体の北西に幅狭の浅い掘り込みの周溝と思われるものが見られる。

早稲田Ⅲ4の建物本体は径6m程の竪穴住居で、主軸は北西を向く。南に開口部を持つ幅広の浅い溝が南東と西側を包み、伴件不明の溝が北に延びる。

早稲田Ⅲ6の建物本体は径5m弱の竪穴住居で、主軸は北を向く。南辺が開口し、几字形プランを呈する幅広の浅い周溝が西、北、東側を半周する。

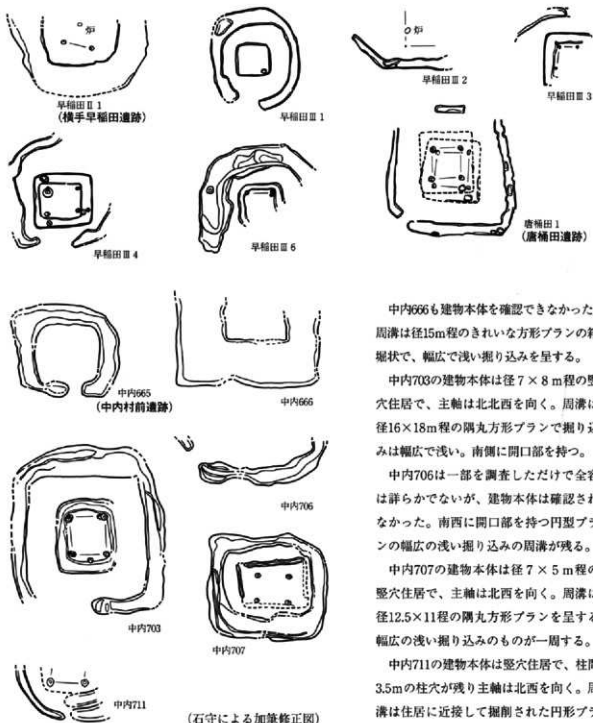
f. 唐桶田遺跡

唐桶田遺跡¹⁰は群馬県東部の太田市脇屋の大間々扇状地上に立地する。この遺跡の周溝をもつ建物（以下「唐桶田1」とする）は第1方形周、2・4号住居として報告されているもので、飯島義雄（飯島2003）が詳細に検討を行い、周溝をもつ建物として評価したものである。

唐桶田1の建物本体は重複する2軒の竪穴住居で、共に径6m前後を測り、主軸は北及び北北西を向く。周溝は幅狭の浅い溝で、南西隅部に開口部を持つ。また周溝底部に土埃様の深い掘削も見られる。

g. 中内村前遺跡

本遺跡では6区65・66号住居、7区3・6・7・11号住居の（以下では「中内655・666・703・706・707・711」と表記する）の6軒の周溝をもつ建物を確認し



第240図 群馬県地域の周溝をもつ建物(その2)

た。何れも3世紀末葉の所産として把握している。

中内665の建物本体は確認されなかった。径11m程の隅丸方形プランを呈する幅広の浅い掘り込みのもので、南側に開口部を持つ中央障極型を呈する。

中内666も建物本体を確認できなかった。周溝は径15m程のきれいな方形プランの箱掘り状で、幅広で浅い掘り込みを呈する。

中内703の建物本体は径7×8m程の竪穴住居で、主軸は北北西を向く。周溝は径16×18m程の隅丸方形プランで掘り込みは幅広で浅い。南側に開口部を持つ。

中内706は一部を調査しただけで全容は詳らかでないが、建物本体は確認されなかった。南西に開口部を持つ円型プランの幅広の浅い掘り込みの周溝が残る。

中内707の建物本体は径7×5m程の竪穴住居で、主軸は北西を向く。周溝は径12.5×11程の隅丸方形プランを呈する幅広の浅い掘り込みのものが一周する。

中内711の建物本体は竪穴住居で、柱間3.5mの柱穴が残り主軸は北西を向く。周溝は住居に近接して掘削された円形プランの幅狭の浅い掘り込みのものである。

④ 群馬県下の周溝をもつ建物の傾向

以上のように群馬県下で“周溝をもつ建物”として調査された6遺跡、26軒建物と、その可能性を考え或いは指摘された2遺跡3軒の遺構について概要を述べてきた。これら29遺構のうち八王子1、湯田

B5、中内665・666・706は本体の建物が確認されなかったことから周溝墓である可能性も考慮される。また残る28遺構についても周溝と内画との出土遺物の比較、検討が充分行い得なかったことから、周溝と内画（の遺構）とが確実に一つの遺構と断定するには至らなかったのであるが、少なくとも建物の確認された23遺構については建物が周溝の中に収まっていることなどから推して周溝をもつ建物である可能性が高いものと判断している。

さて、建物を確認できなかったものなど10遺構を除く23遺構の建物本体について見ると、堅穴住居が17軒、平地式住居と認識されるもの1軒、堅穴住居の掘り方構造を勘案すれば平地式建物であった可能性が考慮されるのではあるが、堅穴式、平地式何れの建物かが判別できなかったものが6軒あった。このように県内の調査例としては堅穴住居に伴うものが主流を占めていることが窺われる。

次に上述の23軒のうち、本体建物のパーツの少なかった湯田B2、湯田D1、早稲田Ⅱ2、そして周溝の一部しか確認されていない早稲田Ⅲ3と北側で溝が開いている早稲田Ⅳ4を除く19例を取り上げて若干の検討を行ってみたいと思う。

この19例の建物本体は堅穴住居15軒、平地式建物1軒で、その何れか判別のつかなかったものが3軒であった。これらの建物は凡そ6～13m、平均で径9.1m程を測る周溝に囲まれた内画に建てられており、その設置位置は建物本体の輪郭或いは柱穴の特定できなかつた八王子2・149、湯田B1を除く何れの建物も内画中央付近に建物の中心がくるものであった。また建物の規模は堅穴住居では径が凡そ2～2.5m、平均2.5m程を測った。また建物の外周と周溝の内縁までの距離には長短があったが、堅穴住居では平均で2m（1～26m）程を測った。

周溝は一重のものが殆どであったが、八王子149・176は二重であった。また平面形態が方形を基調とするものは八王子2・149（外）・161・176（内・外）、石塚59、湯田A1・B3、唐樋田1、中内703・707の10軒で、円形を基調とするものは八王

子102・149（内）、湯田B1・B4、早稲田Ⅱ1・Ⅲ1、中内711の7軒、几字状を呈するものは八王子116、三和12、早稲田Ⅲ6の3軒であった。尚、三和12は南側に鉤形の溝が付属している。周溝の幅は幅広と見られるものが八王子2・116・149（外）・161、湯田B1・B3・B4、早稲田Ⅱ1・Ⅲ6、中内703・707の10軒で、幅狭と見られるものが八王子102・176（内・外）・149（内）、三和12、石塚59、湯田A1、早稲田Ⅲ1、唐樋田1、中内711の10軒11条であった。また確認面の位置によって差異が出るが、周溝の深さは三和12だけが深く、他の17軒は浅いものであった。

⑤ 周溝をもつ建物の形態分類

このように県下の周溝を持つ建物の周溝は形態的にバラエティーがあり、分類もできそうであるが、北陸地方に於いては南久和（南1991）、岡本淳一郎（岡本1997）らによって既に周溝の形態分類が試みられている。このうち南は周溝の形状について

A1タイプ 平面形態は馬蹄形または略環状、半環状になっていて、周溝は途切れ入り口となっているもので、「水溜りタイプ」とでもいうべきもの。

A2タイプ 平面形態はA1タイプと同じで、「刃の端部以外のどこか」で他の排水路に連続しているもので、明らかに排水機能を意識して作られているもの。

Bタイプ 周溝の一端が、「の」字と「し」字が連続して「のし」状に他の溝や崖などにつながっており、明らかに排水用の周溝とかがえられるもの。「排（放）水タイプ」とでもいうべきもの。周溝の途中に枝溝がつくものもある。の2種類3形態に分類し、その他「直線状のもの、屈曲しているが圍繞しないものなどがある」としている。また断面形態については「広浅タイプ」と「細深タイプ」に二分されると分類している。

一方、岡本は土坑が連続して周溝状をなし周溝を持つ「土坑タイプ」と周溝を持つ「広溝タイプ」防

湿・排水機能を重視した「狭溝タイプ」に大別している。

下掲は両氏の種類を勘案し、群馬県下の周溝をもつ建物の周溝の形態に鑑みて以下のような分類を考えた。まず周溝のラインについては

圍繞型 周溝が一周するもの（また一周すると想定されるもの）

開口型 周溝の一部（主に南辺）に開口部が見られる、或いは開口部に準じた溝幅の狭まる箇所のあるもの。

馬蹄型 周溝が馬蹄形または八字状を呈するもの。

の3形態に分類し、圍繞型と開口型では更に

方形型 方形、或いは隅丸方形を基調とするもの

円形型 円形を基調とするもの

に分けた。また溝の幅については岡本分類に指摘されたような広狭があるため

広溝型 凡そ150cm以上の溝幅を有するもの

狭溝型 凡そ150cm以下の溝幅であるもの

の2形態に分類した。高、幅広の方形圍繞型に分類した湯田B3は南分類による「土坑タイプ」の可能性がある。また、溝の深さについては「浅」「深」があるが、後者は三和12の1軒のみであった。

以上の形態分類によって群馬県下の19軒の周溝をもつ建物を分類したのが第241図である。分類した建物は資料の時期が近似することもあって、特に時期差は認められなかった。

⑥ 若干の所見

上記のように群馬県下の“周溝を持つ建物”について形態分類を試みた。以下、こうした作業を通して得られた多少の所見を述べてみたいと思う。

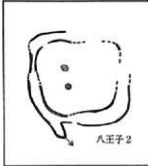




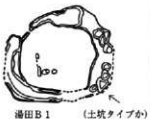






群馬県に於いて、周溝を持つ建物は弥生時代から古墳時代の移行期に突然現れるものであり、前の時期に先行するような遺構の存在を知らない。また確認していない資料も少なくないと思われるのははっきりとしたことは申し上げられないが、5形態のうち圍繞型は北陸地方に、開口型は南関東に、馬蹄型は

東海地方に多く見られる。従って周溝を持つ建物は少なくとも東海、北陸、南関東の各地域から持ち込まれた建築方法であろうと判断されるのである。

溝幅について岡本（1997）は、広溝タイプは北陸地方では「ほとんどが平野上に立地し、狭幅タイプも平野上に立地するものが多いが、丘陵上に立地するものも見られる」としている。これに対し群馬県下の周溝をもつ建物でも狭溝型の三和12が台地上に在って、狭溝型、広溝型の双方を含む他の建物が低地部を中心にあることから、群馬県地方でも北陸地方と同様の分布状態のあったことが確認された。また広溝型、狭溝型の周溝は、北陸地方では前者が弥生時代中期中葉から古墳時代前期後半、後者が弥生時代中期後葉から古墳時代前期後半に見られる（岡本1997）ため、群馬県下の例も時期的に重疊はない。しかし土坑タイプは岡本（1997）によると弥生時代中期前葉から弥生時代後期後半にかけてのものであるため、仮に湯田B1の東側周溝と湯田B3が岡本分類の土坑タイプに属するならば、こうした土木施工が北陸地方で消滅してからも少しの間、群馬県地方で続けられていたことになるのである。

また圍繞周溝型と開口周溝型に見られる方形、円形の形態的相違について、及川良彦は弥生時代後期の円形から終末期の隅丸方形、古墳時代前期の方形へ変化する南関東の竈穴住居変遷と一致すると指摘している（及川1999）が、群馬県下では円形型、方形型の双方が（3世紀末葉～4世紀前半期）同時期に并存し、また県内の弥生時代後期から古墳時代前期の建物のプランは方形または長方形を呈するため、南関東で見られた住居形態の変更に伴う変化としては認められなかった。群馬県地域でのこうした形態的相違については、寧ろ南関東或いは北陸の周溝の掘削形態がそのまま持ち込まれているためではないかと思慮されるのである。



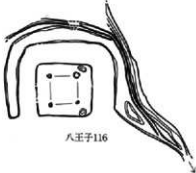


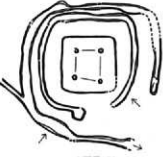


さて、周溝をもつ建物の周溝について岡本淳一郎（岡本1997）は、「土坑タイプと幅広タイプ」は「防湿機能もあるが掘削土を周堤の盛り土とし」、「狭溝タイプは周溝が防湿・排水機能を重視し周堤への盛

	圓 繞 型		開 口
	円 形 型	方 形 型	円 形 型
広 溝 型	 八王子2	 八王子149	 湯田B4
	 早稲田II1	 中内707	 湯田B1 (土坑タイプか)
狭 溝 型	 八王子102	 石塚59	 早稲田III1
	 八王子149	 湯田B3 (土坑タイプ)	 中内711

第241図の1 群馬県地域の周溝をもつ建物の分類

土はされなかった」と解釈している。群馬県地域の建物では狭溝型の周溝の建物であっても周堤が設けられていたと考えるものの、周溝を持つ建物が三和12例を除いて低地部に建築されている点を考慮すれば防湿、防水、排水機能を念頭に置いていた可能性

は大いにあり得ることで、そうした機能を考えるのが一般的であろう。また飯島義雄（飯島2000）は連結溝の存在に着目して連結溝が「雨水対策を主とした排水溝」であると解釈しているが、今回取り上げた県内各遺跡では土地の傾斜が概ね北西から南南

型 方 形 型	馬 蹄 型	
 <p>八王子161</p>  <p>中内703</p>	 <p>八王子116</p>  <p>早稲田 6</p>	広 溝 型
 <p>湯田 A 1</p>  <p>八王子176</p>	 <p>三和12</p>  <p>唐橋田 1</p>	狭 溝 型

第241図の2 群馬県地域の周溝をもつ建物の分類

東方向にあり、開口型や馬蹄型の建物の開口部が南に多いことも流入する雨水対策を裏付けると考えられ得るのである。

しかし、中内村前遺跡や湯田遺跡では低地部の中でも谷地を避けて微高地に選地して建築しており、

中内村前遺跡では周溝を持たない堅穴住居も同時に建築されている。更に平地式建物と想定される掘立柱建物が周溝を持つ建物と同時期であるとするならば、単に防水、防湿、排水機能があるからというだけでは説明がつかないように、また建物本体の規模からは主要建物だからともいい切れなように思う。寒ろ下掘は（それが実際にどの程度実用に供したかは別として）周溝を持つ建物跡は防水・防湿・排水機能を伴う建物低地部でのそうした土地に於ける建築施工法の一つと認識されていて、建物建設に当って、東海・北陸・南関東の各地域から伝えられた設計法或いは工法を実際に施工してみたものの痕跡ではなかったかと考えるのである。

⑦ 終わりに

以上のように、群馬県地域の周溝をもつ建物を概観し、若干の考察を試みてきた。紙面と時間的な制約、更には下掘の力不足によって十分な分析、検討を行うことはできなかったのであるが、上述のように群馬県地域に於ける周溝をもつ建物の建築が、低地部での建物建築に当って、東海、北陸、南関東の各地域で低地部での建物建築で行われていた施工技術・方法が活用され、実際に建築が施されたものであると解釈したのである。中内村前遺跡の周溝をもつ建物についても北陸地方や南関東地域の施工方法が施されたと思われる形態的な特長を見出すことができるのであるが、一方で当該建物の出土遺物にも在地系、東海系（南関

東系)、北陸系の技法が施された土器類を見ることが出来る。こうした状況を見るに、本遺跡に対しては(ヒトの移動の有無は別として)遺物だけではなく、遺構についてもそうした広域からの技術(或いは作法)の流入または導入、そして活用が行われていたことが想定できるように思うのである。

さて、本遺跡に於ける周溝をもつ建物は飯島義雄氏の指摘を受けた調査担当が検討、認定したもので、下掘も妥当であると判断して整理作業を行ってきたものである。発掘調査から整理作業にかけてのこうした判断に大きな間違いはなかったと思うが、本節での検討作業を通して、少なくとも群馬県地域ではある形態を以て単純に周溝を持つ建物とするにはまだまだデータの蓄積が充分ではないように感じたのである。上述のような成果はあったものの、一方で周溝を持つ建物の認定に当っては、飯島義雄が唐樋田1)に対して行った(飯島2003)ような詳細な検討を行っていく必要があるように感じるのである。

最後に本節執筆に当って情報の提供などの協力を戴いた同僚の相京建史、友廣哲也、緒貫邦男の各氏に感謝申し上げたい。

註

- 1) 周溝をもつ建物には他にも「周溝を有する建物」といった別の呼び方もあるが、本稿では最初になった建物の名称を記した岡本淳一郎(1997)と本報告書を最初に提示した飯島義雄(飯島1998)に倣って「周溝をもつ建物」を使用することとした。
- 2) 加藤修正は報告書の平面図及び周囲の等高線、断面図、エレベーション図、断面に基づいて行った。しかし下掘の判断に基づくもので、報告書に当って比較検討願えれば幸いである。
- 3) 玉村町教育委員会「上之乎八王手遺跡」1991 8-23・39-41頁
- 4) 報告書の実測図には貯蔵穴等をもとに復元したとする径8×6m程の建物本体が図示されていたが、周溝との軸方向にズレが見られたため、修正図には採用しなかった。
- 5) 財団法人群馬県歴史文化財調査事業団「三和工業団地1遺跡(2)一編文・古墳・奈良・平安時代他編」1999 31-37頁
- 6) 玉村町教育委員会「上之乎石塚遺跡」2000 6-7頁
- 7) 財団法人群馬県歴史文化財調査事業団「横手南川川遺跡・横手遺田遺跡」1991 115-118・121-122頁
- 8) 報告書の実測図には建物本体のラインが図示されていたが、周溝との軸方向にズレが見られたため、また、印とされる近接した二箇所焼土跡も図示されていたが、灰の堆積も見られ消失家屋と判断されたため、共に修正図には採用しなかった。
- 9) 財団法人群馬県歴史文化財調査事業団「亀塚平塚遺跡・横手宮田遺跡・横手早稲田遺跡・横手南川川遺跡」2001 166-173・237-252・257-261頁
- 10) 太田市教育委員会「唐樋田遺跡発掘調査報告書」1999 10-15・84-85頁

- 11) 周溝については、時代は下がるがH-FP被覆の住居跡でしばしば確認されている。下掘は一般の堅穴住居跡の壁跡に見られる所謂三角堆積はその残欠であると解釈(石守晃『堅穴住居と堅穴住居遺構について』『研究紀要17』財団法人群馬県歴史文化財調査事業団 1999)しており、堅穴掘削時の排土の処理として周溝を設けることは一般的に行われていたと考えている。

文献

- 飯島義雄 1998 『古墳時代前期における「周溝をもつ建物」の意義』『群馬県立歴史博物館紀要 第19号』 65-78頁
- 飯島義雄 1999 『古墳時代前期集落の研究における排水溝の意義』『佐藤史学追悼論文集 一所懸命』佐藤史学を偲ぶ会 225-235頁
- 飯島義雄 2003 『古墳時代前期における「周溝をもつ建物」の意義』『利根川 24・25』利根川同人 384-393頁
- 伊藤敏行・及川直彦 1996 『第二章 東京都の方形周溝墓』『関東の方形周溝墓』同成社 71頁
- 今津啓子 1991 『杉中物太郎氏による建設工事に伴う長原遺跡発掘調査(N 89-8)略報』『平成元年度 大阪市内埋蔵文化財包蔵地発掘調査報告書(財)大阪市文化財協会 129-147頁
- 岡本淳一郎 1997 『「周溝をもつ建物」について』『埋蔵文化財調査概要 一平成8年度一』財団法人富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所 133-139頁
- 岡本淳一郎 1998 『張生時代周溝遺構に関する一考察』『富山考古学研究会 紀要 創刊号』財団法人富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所 48-50頁
- 及川直彦 1998 『関東地方の低地遺跡の再検討』『青山考古 第15号』青山考古学会 1-34頁
- 及川直彦 1999 『関東地方の低地遺跡の再検討(2)』『青山考古 第16号』青山考古学会 35-65頁
- 及川直彦 2001 『関東地方の低地遺跡の再検討(3)』『青山考古 第18号』青山考古学会 85-144頁
- 加納勉介 1992 『方形周溝墓研究の再出発』『西相模の三・四世紀 方形周溝墓をめぐって』東海大学校地内遺跡調査団 260頁
- 久々忠義 1981 『6. 江上A遺跡』『北陸自動車道遺跡調査報告一上市町遺構編一』上市町教育委員会 12-14頁
- 飯口 一 1999 『2. 周溝の巡る住居について』『三和工業団地1遺跡(2)一編文・古墳・奈良・平安時代編一』財団法人群馬県歴史文化財調査事業団 262-265頁
- 嶋村一志 1999 『第1章 小穴1』『豊島馬場遺跡II』東京都北区教育委員会 1999 362-364頁
- 高橋 保 1979 『1. 遺構の性格について』『北陸自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書 下谷地遺跡』新潟県教育委員会 41-42頁
- 長瀬 出 1999 『第V章 第2節 方台部に建物址を伴う「周溝墓」について』『豊島馬場遺跡II』東京都北区教育委員会 1999 353-361頁
- 長瀬 出 1999 『東京都豊島馬場遺跡における「方形周溝墓」の再検討』『法政考古学 第26集』法政考古学会 200 1-26頁
- 福田 聖 1999a 『埼玉県における低地の周溝墓と建物跡(1)一一周溝墓とは何かを探るための試み一』『埼玉考古』埼玉考古学会 31-54頁
- 福田 聖 1999b 『埼玉県における低地の周溝墓と建物跡(2)一一周溝墓とは何かを探るための試み一』『研究紀要 第15号』財団法人埼玉県歴史文化財調査事業団 35-71頁
- 福田 聖 1999c 『埼玉県における低地の周溝墓と建物跡(3)一一周溝墓とは何かを探るための試み一』『土曜考古』埼玉考古学会 59-80頁
- 福田 聖 2000a 『埼玉県における低地の周溝墓と建物跡(4)一一周溝墓とは何かを探るための試み一』『埼玉考古』埼玉考古学会 65-78頁
- 福田 聖 2000b 『方形周溝墓の再発見(6)の歴史(歴史3)同成社

【おわりに】

本書では平成9年～10年にかけて行われた中内村前遺跡の発掘調査のうち、5～7区の調査成果を報告した。特に弥生時代から古墳時代にかけての時期の集落址が目目され、考察においても当該期で最近注目されている周溝を持つ建物を取り上げた。本書が第1分冊同様、前橋市南部の歴史研究に活用願えれば幸いである。

ところで、第2分冊作製中に特に印象的な二つのできごとがあった。一つは本年3月末日を持って当遺跡の整理班で活躍してくれた高橋真紀子氏が定年退職を迎えたことである。氏のさりとした立ち居振舞いは、スムーズな仕事の進行に役かってくれたものである。長年のご尽力に感謝申し上げたい。

もう一つはとても悲しい出来事だが、本遺跡の発掘調査時のチームリーダー下城正氏が去る5月17日、52歳の若さで逝去されたことである。完成した版下を眺めながら現場で奮闘する氏の姿を思い出し、発掘調査を共にする機会を失ったことに気付き悲しみを新たにされた。ご冥福をお祈り申し上げた

い。

さて、第2分冊に伴う整理作業は、煩雑な図面の処理や予定外に出てきた遺物との格闘となった。今回も頼りない担当を支えて整理班諸氏には尽力戴いた。巻末にスナップ写真を掲載して感謝の意を表したい。また飛び込み仕事で保存処理室、写真室、3スペース（機械実測）班の諸氏の手も再三煩わせた。心よりの感謝を申し上げたい。

最後になるが、第2分冊の作製にご支援を賜った日本道路公団、群馬県教育委員会、前橋市教育委員会、いろいろな面で適切な助言、協力を賜った関係各位や同僚諸氏に感謝して稿を閉じたいと思う。

【参考文献】（本文掲載分を除く）

- 石守晃「独立性建物の重量に関する一試験」『研究紀要3』財団法人群馬県歴史文化財調査事業団1986
- 坂口一・三浦寛子「奈良・平安時代の土器の編年」『群馬県史研究24』群馬県史編さん委員会1986
- 財団法人群馬県歴史文化財調査事業団『荒砥菟子遺跡』（中沢信編）2000
- 中村和男「獨立柱建物の用途を推測するための建築学的アプローチ」『財団法人茨城県教育財団 研究ノート 10号』2001



遺物一覽

遺物一覧

5区の出土遺物

5-1 5区1面の出土遺物

5-1-1号線跡

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	41-000201	焼夷跡	-	-	底部・線部等小

5-1-Aa-B下水田(覆土)

No	資料番号	資料名称	測定値(cm)	形状・整形・異態等の特徴	備考	図面番号	図版番号
1	10-000501	施釉陶器碗	口径(10.2) 残高 4.6	体一底部欠。赤褐色釉、貫入	近世か	第11図-1	PL-7
2	10-000502	施釉陶器急須	注口径 1.5 残高 4.1	注口部片。内面も施釉。蓋蓋し部分割離	近・戦代	第11図-2	PL-7
3	10-000503	施釉陶器甕蓋鉢	底径(20) 残高 3.9	胴一底部破片。内外面施釉。底部上底で内面若干摩耗	現代	第11図-3	PL-7

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考	No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
4	11-001501	土師器甕口縁部	1	8	古墳時代前期中心	15	11-001512	陶器碗底部	1	28	
5	11-001502	土師器甕体部	3	4	古墳時代前期中心	16	11-001513	陶器急須体部	1	10	
6	11-001503	土師器甕体部	2	5	古墳時代前期中心	17	11-001514	施釉陶器碗口縁部	3	13	
7	11-001504	土師器甕口縁部	1	6	平安時代中心	18	11-001515	施釉陶器碗体部	2	9	
8	11-001505	土師器甕体部	2	3	平安時代中心	19	11-001516	施釉陶器甕口縁部	1	10	
9	11-001506	土師器甕口縁部	3	5	平安時代中心	20	11-001517	磁器碗口縁部	1	10	江戸時代
10	11-001507	土師器坏体一底部	3	5	平安時代中心	21	11-001518	磁器碗底部	1	2	大正時代
11	11-001508	土師器甕口縁部	1	10	平安時代中心	22	11-001519	磁器碗底部	1	4	戦代
12	11-001509	瀬志器甕口縁部	1	2		23	21-001301	黒色安山岩割片	1	2	
13	11-001510	瀬志器碗底部	1	8		24	41-000202	鏡片か?	2	2	
14	11-001511	陶器甕体部	1	20		25	91-000401	ボタン	1	1	

5-1-グロット出土遺物

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
250-100Aa-B下永田グロット出土遺物					
1	11-001520	土師器甕体部	1	2	古墳時代前期中心
250-075Aa-B下グロット出土遺物					
2	11-001521	土師器甕体部	1	2	平安時代中心

5-1-葦原部

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考	No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-001522	土師器坏底部	2	3	平安時代中心	2	11-001523	瀬志器甕体部	1	52	

5-1-耕作土

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考	No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-001524	土師器坏口縁部	1	2	平安時代中心	2	11-001525	土師器坏体一底部	1	2	平安時代中心

5-1 5区2面の出土遺物

5-2-11号フタド

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-001526	瀬志器甕体部	1	120	

5-2-1号井戸

No	資料番号	資料名称	測定値(cm)	形状・整形・異態等の特徴	備考	図面番号	図版番号
1	10-000504	土師器坏	口径(14.0) 残径(8.6) 残高 1.9	1/4。口縁～体部内面破損で、底部内面寛部で、体部外面～底面数割り体部破損で	8世紀後半	第16図-1	PL-7
2	10-000505	土師器甕	口径(20.0) 残高 6.9	口縁～肩部片。コ字状口縁。口縁破損で、肩内面内面寛部で破損で、外周瓦割り	9世紀前半	第16図-2	PL-7

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考	No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
3	11-001527	土師器甕体部	7	31	古墳時代前期中心	6	11-001530	土師器坏口縁部	9	50	平安時代中心
4	11-001528	土師器甕口縁部	6	47	平安時代中心	7	11-001531	土師器坏底部	60	180	平安時代中心
5	11-001529	土師器甕体部	23	40	平安時代中心	8	11-001532	瀬志器甕体一底部	3	20	

5-2-2号井戸

No	資料番号	資料名称	数量	重量(kg)	備考
1	11-001534	須恵器焼口縁部	1	2	現代

5-2-C 湧下水田 (フクド)

No	資料番号	資料名称	数量	重量(kg)	備考
1	11-001535	土師器壺体部	9	56	古墳時代前期中心
2	11-001536	土師器壺体部	1	10	古墳時代前期中心
3	11-001537	土師器焼口縁部	1	20	平安時代中心
4	11-001538	土師器壺体部	29	61	平安時代中心
5	11-001539	土師器杯口縁部	1	6	平安時代中心
6	11-001540	土師器杯体一底部	26	42	平安時代中心
7	11-001541	土師器杯底部	12	20	平安時代中心

No	資料番号	資料名称	数量	重量(kg)	備考
8	11-001542	須恵器壺体部	1	10	
9	11-001543	須恵器焼口縁部	3	10	
10	11-001544	須恵器壺体部	1	2	
11	11-001545	須恵器壺体一底部	2	10	
12	11-001546	瓦	1	30	近・現代
13	11-000101	炭化物	4	2	

5-2 遺

No	資料番号	資料名称	測定値(m)	形状・彫刻・装飾等の特徴	備考	図面番号	図版番号
1	20-00201	石鏡	径 3.1×1.5 厚 0.5	有茎鏡。縁部二等辺三角形をなす	黒色頁岩	第1958-1	PL7
2	10-000506	灰褐色陶鏡	鏡径 7.6 残高 2.3	腰部下位から高台部。内部に施釉	10世紀初期、大塚	第1920-2	PL7
3	10-000507	土師器小皿蓋	口径(5.0) 残高 3.0	口縁一帯破断片。表面面寛れる。肩部内面施釉で	3世紀末葉	第1920-3	PL7

No	資料番号	資料名称	数量	重量(kg)	備考
4	11-001548	土師器壺体部	15	92	古墳時代前期中心
5	11-001549	土師器台付壺口縁部	2	8	古墳時代前期中心
6	11-001550	土師器台付壺体部	1	1	古墳時代前期中心
7	11-001551	土師器壺体部	30	192	古墳時代前期中心
8	11-001552	土師器壺底部	1	30	古墳時代前期中心
9	11-001553	土師器管口縁部	1	2	古墳時代前期中心
10	11-001554	土師器焼口縁部	1	2	平安時代中心

No	資料番号	資料名称	数量	重量(kg)	備考
11	11-001555	土師器壺体部	15	62	平安時代中心
12	11-001556	土師器杯口縁部	3	11	平安時代中心
13	11-001557	土師器杯体一底部	24	33	平安時代中心
14	11-001558	土師器杯底部	9	17	平安時代中心
15	11-001559	須恵器壺体部	2	78	
16	11-001560	須恵器焼口縁部	1	10	
17	11-001561	須恵器壺体一高台部	2	30	

5-グリット出土遺物

No	資料番号	資料名称	数量	重量(kg)	備考
975-065グリット出土遺物					
1	11-001562	土師器焼口縁部	1	1	平安時代中心
2	11-001563	土師器杯体一底部	2	3	平安時代中心
250-080グリット出土遺物					
3	11-001564	土師器壺体部	9	52	古墳時代前期中心
4	11-001565	土師器壺体部	2	2	平安時代中心
5	11-001566	土師器杯体一底部	8	15	平安時代中心
6	11-001567	須恵器焼口縁部	1	10	
7	11-001568	須恵器壺底部	1	35	
250-085グリット出土遺物					
8	11-001569	土師器壺体部	1	2	古墳時代前期中心
9	11-001570	土師器杯口縁部	1	2	古墳時代前期中心
10	11-001571	土師器壺体部	1	4	古墳時代前期中心
250-120グリット出土遺物					
11	11-001572	土師器焼口縁部	1	1	平安時代中心
255-080グリット出土遺物					
12	11-001573	土師器壺体部	2	20	古墳時代前期中心
13	11-001574	土師器杯体一底部	5	3	平安時代中心
14	11-001575	土師器壺体部	1	4	古墳時代前期中心
255-085グリット出土遺物					
15	11-001576	土師器壺体部	7	30	古墳時代前期中心
16	11-001577	土師器杯口縁部	2	2	平安時代中心
17	11-001578	土師器杯体一底部	2	1	平安時代中心
18	11-001579	須恵器焼口縁部	1	9	

No	資料番号	資料名称	数量	重量(kg)	備考
255-100グリット出土遺物					
19	11-001580	土師器焼口縁部	1	9	平安時代中心
20	11-001581	土師器杯底部	1	1	平安時代中心
255-105グリット出土遺物					
21	11-001582	土師器壺体部	1	8	古墳時代前期中心
22	11-001583	土師器杯口縁部	1	2	平安時代中心
23	11-001584	土師器杯体部	2	2	平安時代中心
24	11-001585	須恵器壺底部	1	98	
255-120グリット出土遺物					
25	11-001586	土師器台付壺体部	1	2	古墳時代前期中心
26	11-001587	土師器杯体一底部	2	2	平安時代中心
27	11-001588	須恵器高台付壺体一底部	1	10	
28	11-001589	須恵器陶器体部	1	2	
255-125グリット出土遺物					
29	11-001590	土師器杯口縁部	2	2	平安時代中心
30	11-001591	土師器杯体一底部	2	2	平安時代中心
270-065グリット出土遺物					
31	11-001592	土師器杯体一底部	1	1	平安時代中心
270-080グリット出土遺物					
32	11-001593	須恵器壺体部	1	2	平安時代中心
33	11-001594	須恵器壺体一底部	1	6	C まじり黒
270-085グリット出土遺物					
34	11-001595	土師器焼口縁部	2	10	古墳時代前期中心
35	11-001596	土師器壺体部	4	10	古墳時代前期中心

遺物一覧

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(kg)	備考	No.	資料番号	資料名称	数量	重量(kg)	備考
270-085グリット出土遺物						270-800グリット出土遺物					
36	11-001507	土器器体-底部	8	17	平安時代中心	56	11-001618	土器器体部	1	10	古墳時代前期中心
37	11-001508	須恵器碗体部	1	2	平安時代中心	57	11-001619	土器器体部	1	2	平安時代中心
38	11-001509	須恵器碗体-底部	6	23	平安時代中心	58	11-001620	土器器体底部	3	6	平安時代中心
39	11-001600	須恵器碗口縁部	1	3	平安時代中心	275-085グリット出土遺物					
270-100グリット出土遺物						59	11-001621	土器器体部	2	5	古墳時代前期中心
40	11-001602	土器器体部	9	10	古墳時代前期中心	60	11-001622	土器器体部	1	2	平安時代中心
41	11-001603	土器器体部	4	2	平安時代中心	61	11-001623	土器器体底部	2	4	平安時代中心
270-105グリット出土遺物						275-100グリット出土遺物					
42	11-001604	土器器体口縁部	1	34	平安時代中心	62	11-001624	土器器体環状部	1	20	古墳時代前期中心
43	11-001605	土器器体部	4	3	平安時代中心	275-120グリット出土遺物					
44	11-001606	土器器体口縁部	2	2	平安時代中心	63	11-001625	土器器体部	2	2	古墳時代前期中心
45	11-001607	土器器体-底部	3	30	平安時代中心	64	11-001626	土器器体口縁部	1	3	平安時代中心
46	11-001608	土器器小型器体部	1	3	平安時代中心	275-125グリット出土遺物					
270-120グリット出土遺物						65	11-001627	土器器体部	3	6	古墳時代前期中心
47	11-001609	土器器体口縁部	1	6	古墳時代前期中心	66	11-001628	土器器体部	1	3	古墳時代前期中心
48	11-001610	土器器体部	1	1	古墳時代前期中心	67	11-001629	土器器体部	2	1	平安時代中心
49	11-001611	土器器体口縁部	1	2	平安時代中心	68	11-001630	土器器体口縁部	2	3	平安時代中心
50	11-001612	土器器体-底部	1	1	平安時代中心	69	11-001631	土器器体底部	3	5	平安時代中心
270-125グリット出土遺物						70	11-001632	須恵器碗体部	2	3	
51	11-001613	土器器体部	4	5	古墳時代前期中心	280-080グリット出土遺物					
52	11-001614	土器器体環状部	1	2	古墳時代前期中心	71	11-001633	土器器体口縁部	3	14	平安時代中心
53	11-001615	土器器体部	1	2	古墳時代前期中心	280-090グリット出土遺物					
54	11-001616	土器器体-底部	4	2	平安時代中心	72	11-001634	土器器体部	1	1	古墳時代前期中心
55	11-001617	須恵器碗体部	1	30		73	11-001635	土器器体口縁部	3	12	平安時代中心
						74	11-001636	土器器体-底部	10	14	平安時代中心

6区の出土遺物

6-1 6区1面の出土遺物

6-1-4号溝

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-001637	土器器底片	2	3	平安時代中心
2	11-001638	土器器口縁部	2	6	平安時代中心

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
3	11-001639	土器器体一底部	2	12	平安時代中心

6-1-5号溝

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-001640	土器器底片	1	10	古墳時代前期中心
2	11-001641	土器器口縁部	1	9	平安時代中心
3	11-001642	土器器底片	1	7	平安時代中心

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
4	11-001643	土器器口縁部	1	1	平安時代中心
5	11-001644	土器器体一底部	4	14	平安時代中心
6	11-001646	土器器高口縁部	1	9	平安時代中心

6-1-9号溝

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-001647	土器器体一底部	1	1	平安時代中心

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
2	11-001648	軟質陶器内耳溝片	1	19	

6-1-13号溝

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-001649	土器器底片	5	60	古墳時代前期中心
2	11-001650	土器器台付頸部	1	30	古墳時代前期中心
3	11-001651	土器器体部	1	4	古墳時代前期中心
4	11-001652	土器器口縁部	1	30	古墳時代前期中心
5	11-001653	土器器底片	5	50	古墳時代前期中心
6	11-001654	土器器口縁部	10	39	平安時代中心
7	11-001655	土器器底片	27	109	平安時代中心

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
8	11-001656	土器器底片	1	2	平安時代中心
9	11-001657	土器器口縁部	20	74	平安時代中心
10	11-001658	土器器体一底部	29	101	平安時代中心
11	11-001659	土器器口縁部	2	29	平安時代中心
12	11-001660	須恵器器底片	5	64	
13	11-001661	須恵器器口縁部	1	8	
14	11-001662	軟質陶器器底片	1	37	

6-1-14号溝

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-001663	土器器体一底部	5	18	平安時代中心

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
2	11-001664	須恵器器底片	1	1	

6-1-15号溝

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-001665	土器器口縁部	12	38	平安時代中心
2	11-001666	土器器体一底部	17	53	平安時代中心
3	11-001667	須恵器器口縁部	6	26	

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
4	11-001668	須恵器器底片	12	31	
5	11-001669	須恵器器口縁部	2	6	
6	11-001670	須恵器器体一底部	1	2	

6-1-16号溝

No	資料番号	資料名称	測定値(cm)	形状・形態・調整等の特徴	備考	図面番号	図面番号
1	20-000032	磨石	残存 6.8×5.5×2.6	河床石破片。磨跡が残る	流紋岩	物24図-1	PL48

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
2	11-001671	土器器口縁部	1	4	平安時代中心
3	11-001672	土器器底片	1	1	平安時代中心

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
4	11-001673	土器器体一底部	3	16	平安時代中心
5	11-001674	須恵器器底片	1	5	

6-1-18号溝

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-001675	土器器底片	2	3	平安時代中心

遺物一覧

6-1-20号溝

No	資料番号	資料名称	測定値(cm)	形状・整形・調整等の特徴	備考	図面番号	図版番号
1	10-000508	土器器環	口径(11.3) 高さ 4.1	1/6。口縁直線で、体一部部外周直り、内面直線で	6世紀後半		PL53
2	10-000509	青磁碗	径 3.5×2.9 高さ 1.8	口縁部破片。浅きやぐだれ、色調やや茶が掛かる	慶長系系		PL53
3	10-000510	青磁碗	径 3.5×3.4 高さ 0.4	口縁部破片。浅きやぐだれる	慶長系系		PL53
4	10-000511	青磁碗	径 3.7×4.4 高さ 1.0	胴部破片。残高4.2cm。色調やや茶が掛かる	慶長系系		PL53
5	10-000512	軟質陶器鉢	口径(32.4) 径 13.8	1/6。口縁一箇部中心に1/6。表裏面直りで調整。裏面外面直りで調整。体部分割に「 π 」の痕。内面下方部残存調整	15世紀後半頃		PL53
6	10-000513	軟質陶器鉢	径 8.2×8.2 高さ 1.55	片口付直破片。口縁部平ら。内面の片口に母線の彫刻。外面に黄の裏面残る	15世紀前半頃か		PL53
7	10-000514	軟質陶器鉢	径 12.3×8.8 高さ 1.3	口縁部破片。口縁部平ら。内面口縁直りに母線の彫刻。外面に黄の裏面残る	15世紀前半頃か		PL53
8	10-000515	軟質陶器鉢	径 8.6×6.7 高さ 0.95	片口付直破片。器内やや湾く。口縁部丸まる	15世紀後半頃か		PL54
9	10-000516	軟質陶器鉢	径 9.0×9.0 高さ 1.1	口縁部破片。器内やや湾く。口縁部丸まる	15世紀後半頃か		PL54
10	10-000517	軟質陶器鉢	径 9.9×12.5 高さ 1.1	口縁一箇所破片。器内やや湾く。口縁部平らで内に入る	15世紀後半頃か		PL54
11	10-000518	焼締陶器鉢	径 14.2×11.2 高さ 11.0	口縁破片。常滑産。口縁部外反して上下両面に引かれる			PL54
12	10-000519	軒平瓦	径 11.7×6.5	上縁残る破片。厚薄い。外面直調整。内面に黄の裏面残る			PL54
13	20-000303	石製鉢	口径(27.4) 径高 10.4	1/5。幅2cm程の片口付く。内面磨耗痕調整	熊牧庵石宝山岩		PL54
14	20-000304	石製鉢	径 14.3×11.2 径高 10.0	1/4。上面磨耗により平ら。底一部内面に磨耗痕	熊牧庵石宝山岩		PL56
15	20-000305	石臼	口径(22.0) 径高 8.3	上下1/4。下側磨耗欠損。磨合せ面磨耗調整。径5cm程の磨合部一箇所残る	熊牧庵石宝山岩		PL55
16	20-000306	石臼	残存 9.4×6.7×5.9	上白破片。磨合せ面残る	熊牧庵石宝山岩		PL55
17	20-000307	五輪等風輪	径 11.2×11.20 径高 14.3	磨合部と蓋部平直欠損。磨合面丸方形形跡。蓋部上面に幅1.5cm。径を1cm程の調整	熊牧庵石宝山岩		PL54
18	20-000308	磁石	径 4.9×4.6 径高 1.8	上下両面。表・左右両面に研磨痕。表裏面に直破片残り。裏面に直りによる磨耗痕残る	磁石石		PL55
19	20-000309	磁石	径 3.0×2.7 径高 1.9	下位欠損。表裏・左右両面に研磨痕。右面に直破片残る	磁石石		PL56
20	20-000310	磁石	径 3.4×3.0 径高 10.3	下位欠損し。裏面同様に。表裏・左右両面に研磨痕残る。中央は磨耗面。径2.1×1.5cmと取まる	ダイヤイト		PL55
21	20-000311	磁石	径 3.2×2.9 径高 4.4	上端付直破片。欠損多し。表裏・左右面に研磨痕残る	磁石石		PL55
22	20-000312	磁石	径 2.7×2.5 径高 2.7	上下位欠損。表面と左右両面に研磨痕残る	磁石石		PL55
23	20-000313	磁石	4.3×3.5×9.05	上下両部と表面に磨打痕。表裏面に挟み研磨痕残る	熊牧庵石宝山岩		PL55
24	20-000314	磁石	3.8×3.05×11.05	上下両部に磨打痕残り。表面に研磨面となつて平らになつてい	熊牧庵石宝山岩		PL56
25	20-000315	磨石	4.5×4.3×4.4	磨打を呈し。全面に磨打痕残る。側面を中心に磨打痕見られる	熊牧庵石宝山岩		PL56
26	40-000202	煎製鉄湯	9.4×8.9×3.3	鉄分多い	-		PL55

No	資料番号	資料名称	数量	数量(θ)	備考
27	11-001676	土器器環口縁部	1	20	古墳時代前期中心
28	11-001677	土器器環体部	2	10	古墳時代前期中心
29	11-001678	土器器環体部	6	57	平安時代中心
30	11-001679	土器器環口縁部	5	13	平安時代中心
31	11-001680	土器器環体一部部	12	46	平安時代中心
32	11-001681	土器器環体部	1	4	平安時代中心
33	11-001682	土器器環口縁部	1	15	平安時代中心
34	11-001683	土器器環体部	1	46	平安時代中心
35	11-001684	土器器環体一部部	1	4	平安時代中心
36	11-001685	煎製鉄湯	1	132	
37	11-001686	煎製鉄湯合付鉄湯一底部	2	12	平安時代

No	資料番号	資料名称	数量	数量(θ)	備考
38	11-001687	煎製鉄湯	1	48	瓦輪
39	11-001688	焼締陶器器体部	21	1718	
40	11-001689	軟質陶器鉢口縁部	9	790	
41	11-001690	軟質陶器鉢体部	11	123	
42	11-001691	軟質陶器鉢体部	7	1223	
43	11-001692	軟質陶器内耳筒体部	1	44	
44	11-001693	肥前磁器	1	14	
45	21-001302	破片	1		
46	21-001303	石	10	2328	
47	31-000102	自然水			

6-1-21号溝

No	資料番号	資料名称	測定値(cm)	形状・整形・調整等の特徴	備考	図面番号	図版番号
1	10-000520	土器器高坏	径 7.2 径高 8.0	胴部縁口部破片。紋り後外周直り。内面直線で	5世紀		PL56
2	20-000316	打製石斧	11.8×(7.7)×2.4	分銅型。一部欠損。左右非対称	黒色頁岩		PL58
3	10-000521	軟質陶器鉢	直径(12.5) 径高 6.8	胴一底部1/3。器内厚い。外面に指痕残残り。内面直調整	14世紀か		PL56
4	10-000522	軟質陶器鉢	径 14.8×8.7 高さ 1.9	口縁一箇所破片。器内やや湾く。内面下位に磨耗痕	15世紀後半頃か		PL56
5	20-000317	磁石	径 15.0×7.9× 16.1	大形の磁石片。上面に凹面とつた研磨面を有す	熊牧庵石宝山岩		PL57
6	20-000318	磁石	径 1.9×1.8 径高 5.5	両端磨欠損。錠付。上下・左右の4面に研磨面残す	磁石石		PL57
7	20-000319	台石	残存 6.5×9.1×6.4	立方体の石材使用。上面に研磨面を持つ	ひん岩		PL57
8	20-000320	石臼	径(26.0) 径高 7.9	下白3%。非貫通の心棒孔あり。径1.7cm。裏面凹面	熊牧庵石宝山岩		PL57

No	資料番号	資料名称	数量	重量(kg)	備考	No	資料番号	資料名称	数量	重量(kg)	備考
9	11-001694	土師器壺体部	4	23	古墳時代前期中心	14	11-001699	須恵器壺体部	1	42	
10	11-001695	土師器壺体部	1	18	古墳時代前期中心	15	11-001700	須恵器壺体口縁部	2	87	
11	11-001696	土師器杯口縁部	1	2	平安時代中心	16	11-001701	須恵器壺体体部	2	414	
12	11-001697	土師器杯体一部	12	37	平安時代中心	17	11-001702	須恵器壺体体部	13	1044	
13	11-001698	土師器高坏体部	1	50	平安時代中心	18	21-001304	石	2	2457	

6-1-22号溝

No	資料番号	資料名称	数量	重量(kg)	備考	No	資料番号	資料名称	数量	重量(kg)	備考
1	11-001703	土師器壺体部	1	2	古墳時代前期中心	3	11-001705	土師器杯口縁部	3	4	平安時代中心
2	11-001704	土師器壺体部	2	4	平安時代中心	4	11-001706	土師器杯体一部	3	11	平安時代中心

6-1-23号溝

No	資料番号	資料名称	数量	重量(kg)	備考	No	資料番号	資料名称	数量	重量(kg)	備考
1	11-001707	土師器壺口縁部	1	4	平安時代中心	4	11-001710	土師器杯体一部	2	6	平安時代中心
2	11-001708	土師器壺体部	1	2	平安時代中心	5	11-001711	須恵器壺体部	1	55	
3	11-001709	土師器杯口縁部	1	3	平安時代中心						

6-1-25号溝

No	資料番号	資料名称	数量	重量(kg)	備考	No	資料番号	資料名称	数量	重量(kg)	備考
1	11-001712	土師器壺口縁部	1	2	古墳時代前期中心	5	11-001716	土師器壺口縁部	1	2	古墳時代前期中心
2	11-001713	土師器壺体部	3	14	古墳時代前期中心	6	11-001717	土師器壺体部	1	8	平安時代中心
3	11-001714	土師器壺口縁部	1	20	古墳時代前期中心	7	11-001718	土師器杯口縁部	1	1	平安時代中心
4	11-001715	土師器壺体部	3	90	古墳時代前期中心						

6-1-26号溝

No	資料番号	資料名称	数量	重量(kg)	備考	No	資料番号	資料名称	数量	重量(kg)	備考
1	11-001719	土師器壺体部	1	20	古墳時代前期中心	4	11-001722	須恵器壺体部	1	70	
2	11-001720	土師器壺体部	2	10	古墳時代前期中心	5	21-001305	石	2	13	
3	11-001721	土師器壺口縁部	1	2	古墳時代前期中心						

6-1-27号溝

No	資料番号	資料名称	数量	重量(kg)	備考	No	資料番号	資料名称	数量	重量(kg)	備考
1	11-001723	土師器壺体部	2	22	古墳時代前期中心	4	11-001726	土師器杯口縁部	7	32	平安時代中心
2	11-001724	土師器壺体部	1	10	古墳時代前期中心	5	11-001727	土師器杯体一部	6	38	平安時代中心
3	11-001725	土師器壺体部	6	8	平安時代中心						

6-1-29号溝

No	資料番号	資料名称	調査値(cm)	形状・彫形・調整等の特徴	備考	国庫番号	国庫番号
1	20-000321	打製石斧	保存 6.3×3.4 厚1.1	小型の短棒型。一端欠損	細粒輝石安山岩	第25図-1	PL48

No	資料番号	資料名称	数量	重量(kg)	備考	No	資料番号	資料名称	数量	重量(kg)	備考
2	11-001728	弥生土底	1	6		4	11-001730	土師器杯体一部	2	2	平安時代中心
3	11-001729	土師器杯口縁部	1	5	平安時代中心						

6-1-30号溝

No	資料番号	資料名称	数量	重量(kg)	備考
1	11-001731	土師器壺体部	1	20	古墳時代前期中心

6-1-31号溝

No	資料番号	資料名称	数量	重量(kg)	備考	No	資料番号	資料名称	数量	重量(kg)	備考
1	11-001732	土師器壺体部	1	20	古墳時代前期中心	5	11-001736	土師器杯体一部	10	20	平安時代中心
2	11-001733	土師器壺口縁部	1	2	平安時代中心	6	11-001737	須恵器壺体部	3	86	
3	11-001734	土師器壺体部	6	22	平安時代中心	7	11-001738	須恵器壺体部	1	6	
4	11-001735	土師器杯口縁部	5	11	平安時代中心	8	21-001306	石	1	60	

遺物一覧

6-1-32号溝

No	資料番号	資料名称	数量	重量(kg)	備考
1	11-001730	土師器壺底部	1	53	古墳時代前期中心

6-1-33号溝

No	資料番号	資料名称	数量	重量(kg)	備考
1	11-001740	土師器壺体部	1	2	古墳時代前期中心
2	11-001741	土師器壺体部	3	5	平安時代中心
3	11-001742	土師器坏体一部	5	7	平安時代中心
4	11-001743	須恵器壺体部	2	15	

6-1-44号溝

No	資料番号	資料名称	数量	重量(kg)	備考
1	11-001744	土師器壺口縁部	2	10	古墳時代前期中心
2	11-001745	土師器壺体部	1	2	古墳時代前期中心
3	11-001746	土師器壺底部	1	30	古墳時代前期中心
4	11-001747	土師器壺口縁部	17	65	平安時代中心
5	11-001748	土師器壺体部	76	161	平安時代中心
6	11-001749	土師器坏口縁部	31	89	平安時代中心
7	11-001750	土師器坏体一部	78	118	平安時代中心
8	11-001751	須恵器壺口縁部	7	49	
9	11-001752	須恵器壺体部	10	330	
10	11-001753	須恵器壺底部	9	76	
11	11-001754	須恵器壺体部	5	79	

6-1-72号溝

No	資料番号	資料名称	数量	重量(kg)	備考
1	21-001307	石	3	67	

6-1-1土坑

No	資料番号	資料名称	数量	重量(kg)	備考
1	11-001755	土師器壺体部	3	20	古墳時代前期中心
2	11-001756	土師器壺底部	1	50	古墳時代前期中心
3	11-001757	土師器壺台座部	1	50	古墳時代前期中心
4	11-001758	土師器壺口縁部	1	3	平安時代中心
5	11-001759	土師器壺体部	9	20	平安時代中心
6	11-001760	土師器坏体部	6	10	平安時代中心
7	11-001761	須恵器高台付碗高台部	1	3	

6-1-3土坑

No	資料番号	資料名称	数量	重量(kg)	備考
1	11-001762	土師器壺体部	1	1	平安時代中心

6-1-7土坑

No	資料番号	資料名称	測定値(mm)	形状・彫形・調査等の特徴	備考	図面番号	図版番号
1	10-000523	かわらけ	口径 8.0 器高 1.9	右側転輪軸成形。底面丸調整。口縁部に僅かな凸。	15世紀末～16世紀	第29図-1	PL48
2	10-000524	かわらけ	口径 8.0 器高 1.8	右側転輪軸成形。底面丸調整。口縁部に僅かな凸。	15世紀末～16世紀	第29図-2	PL48
3	40-000200	銅鏡「大定遠宝」	径 2.525×2.515 厚 0.125	本鏡	初鏡621年	第29図-3	PL48
4	40-000204	銅鏡「元元遠宝」か	径 2.449×2.440 厚 0.135	破片。本鏡の可能性有り	初鏡1179年	第29図-4	PL48
5	40-000205	銅鏡「元祐遠宝」	径 2.390×2.340 厚 0.145	鏡文は鏡写しで判読が難しい。裏面は平らである	鏡跡鏡	第29図-5	PL48
6	40-000206	銅鏡「元符遠宝」	径 2.410×2.425 厚 0.230	鏡文は鏡写しで判読が難しい。非銅質で裏面のはやや平ら	鏡跡鏡	第29図-6	PL48
7	40-000207	銅鏡「元(辨)遠宝」	径 2.420×2.425 厚 0.149	鏡文は鏡写しで判読が難しい。孔は狭く裏面は平らである。	鏡跡鏡	第29図-7	PL48
8	40-000208	銅鏡「政和遠宝」	径 2.420×2.425 厚 0.149	孔は丸孔で、裏面はやや平らである	鏡跡鏡	第29図-8	PL48
9	40-000209	銅鏡「洪武遠宝」	径 2.300×2.305 厚 0.160	鏡文は判読難。孔は狭く、鏡底もやや荒れている。厚い	鏡跡鏡	第29図-9	PL48
10	40-000210	銅鏡「永楽遠宝」	径 2.589×2.590 厚 0.145	孔小さく、鏡底も荒れる。仕上げやや不良	鏡跡鏡	第29図-10	PL48
11	40-000211	銅鏡「朝鮮遠宝」	径 2.360×2.395 厚 0.155	孔小さく、鏡文は鏡写ししか。仕上げやや不良	鏡跡鏡	第29図-11	PL48
12	40-000212	銅鏡「門口遠宝」	径 2.405×2.430 厚 0.160	鏡文判読困難。非同質で厚い。裏面平ら	鏡跡鏡	第29図-12	PL48
13	40-000213	銅鏡	径 2.455 厚 0.135	鏡文判読不能。鍍金より見られ、不足箇所有り。裏面平ら	鏡跡鏡	第29図-13	PL48
14	40-000214	銅鏡	径 2.425×2.400 厚 0.135	鏡文判読不能。非銅質。鏡底荒れ、裏面平ら	鏡跡鏡	第29図-14	PL48
15	40-000215	銅鏡	厚 0.125	破片。鏡文判読不能。仕上げ不良。裏面平ら	鏡跡鏡	第29図-15	PL48
16	40-000216	銅鏡	径 2.340×2.375 厚 0.155	鏡文不詳。鏡底荒れる。裏面はやや平らである	鏡跡鏡	第29図-16	PL49
17	40-000217	銅鏡	径 2.400 厚 0.135	鏡文判読不能。仕上げ・鏡底も不良。裏面平らである	鏡跡鏡	第29図-17	PL48

6-1-8土坑

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-001763	土師器壺体部	5	30	平安時代中心
2	11-001764	土師器壺底部分	1	2	平安時代中心
3	11-001765	土師器坏流部	2	4	平安時代中心

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
4	11-001766	土師器埴輪口縁部	1	5	平安時代中心
5	11-001767	須恵器埴輪口縁部	1	10	

6-1-9土坑

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-001768	土師器埴輪口縁部	6	30	平安時代中心
2	11-001769	土師器壺体部	2	3	平安時代中心

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
3	11-001770	土師器埴輪口縁部	4	20	平安時代中心
4	11-001771	土師器坏体一底部	7	10	平安時代中心

6-1-11土坑

No	資料番号	資料名称	測定値(cm)	形状・外形・調整等の特徴	備考	図面番号	図版番号
1	10-000525	土師器坏	口径13.4 残高3.9	1/4、口縁一帯は内面種釉で、底部内面種釉で、体部外面は黒褐色顔料を施した種釉で		9世紀前半	種63図1 PL58

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
2	11-001772	土師器埴輪口縁部	5	10	平安時代中心
3	11-001773	土師器壺体部	26	91	平安時代中心
4	11-001774	土師器坏体一底部	33	92	平安時代中心

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
5	11-001775	須恵器埴輪口縁部	11	20	
6	11-001776	須恵器埴輪口縁部	2	10	
7	11-001777	須恵器埴輪底部分	1	4	

6-1-12土坑

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-001778	土師器埴輪口縁部	2	10	平安時代中心
2	11-001779	土師器壺体部	9	30	平安時代中心
3	11-001780	土師器壺底部分	1	10	平安時代中心
4	11-001781	土師器埴輪口縁部	1	5	平安時代中心

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
5	11-001782	土師器坏底部分	14	20	平安時代中心
6	11-001783	須恵器埴輪口縁部	2	4	
7	11-001784	須恵器壺体部	1	2	

6-1-14土坑

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-001785	土師器壺体部	2	40	古墳時代前期中心
2	11-001786	土師器埴輪口縁部	1	20	古墳時代前期中心

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
3	11-001787	土師器壺体部	1	2	平安時代中心
4	11-001788	土師器坏底部分	2	4	平安時代中心

6-1-27土坑

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-001789	土師器壺体部	2	3	平安時代中心

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
2	11-001790	土師器埴輪口縁部	1	5	平安時代中心

6-1-30土坑

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-001791	土師器壺体部	1	2	古墳時代前期中心

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
2	11-001792	土師器壺体部	1	5	平安時代中心

6-1-33土坑

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-001793	土師器壺体部	4	4	平安時代中心
2	11-001794	土師器埴輪口縁部	1	2	平安時代中心

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
3	11-001795	土師器坏体一底部	2	4	平安時代中心

6-1-35土坑

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-001796	土師器坏体一底部	3	25	平安時代中心

6-1-37土坑

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-001797	土師器坏体一底部	5	21	平安時代中心

遺物一覧

6-1-41・42土坑

No	資料番号	資料名称	数量	重量(kg)	備考
1	11-001798	土層部遺体部	1	30	古墳時代前期中心
2	11-001799	土層部環口縁部	1	12	平安時代中心

No	資料番号	資料名称	数量	重量(kg)	備考
3	11-001800	土層部環体-底部	1	3	平安時代中心

6-1-43土坑

No	資料番号	資料名称	数量	重量(kg)	備考
1	11-001801	環形器環口縁部	1	6	

6-1-47土坑

No	資料番号	資料名称	数量	重量(kg)	備考
1	11-001802	土層部環体-底部	1	6	平安時代中心
2	11-001803	環形器遺体部	1	12	

No	資料番号	資料名称	数量	重量(kg)	備考
3	11-001804	瓦輪陶器碗	1	3	

6-1-52土坑

No	資料番号	資料名称	数量	重量(kg)	備考
1	11-001805	土層部環口縁部	1	11	古墳時代前期中心

6-1-54・55土坑

No	資料番号	資料名称	数量	重量(kg)	備考
1	11-001806	土層部遺体部	1	5	平安時代中心

6-1-53土坑

No	資料番号	資料名称	数量	重量(kg)	備考
1	11-001807	土層部環口縁部	1	5	平安時代中心
2	11-001808	土層部環体-底部	2	4	平安時代中心

No	資料番号	資料名称	数量	重量(kg)	備考
3	11-001809	器種特定せず	1	1	

6-1-56土坑

No	資料番号	資料名称	数量	重量(kg)	備考
1	11-001810	土層部遺体部	1	2	古墳時代前期中心
2	11-001811	土層部遺体部	3	12	平安時代中心

No	資料番号	資料名称	数量	重量(kg)	備考
3	11-001812	土層部環体-底部	6	21	平安時代中心

6-1-59～58土坑

No	資料番号	資料名称	測定値(cm)	形状・整形・調整等の特徴	備考	図面番号	図版番号
1	20-000322	磨石	4.2×3.8×13.0	河床磨使用。左右側面に研削面残す	砂岩	第33図-1	PL49

No	資料番号	資料名称	数量	重量(kg)	備考
2	11-001813	土層部台付環口縁部	1	36	古墳時代前期中心
3	11-001814	土層部遺体部	3	10	平安時代中心
4	11-001815	土層部環底部	1	6	平安時代中心

No	資料番号	資料名称	数量	重量(kg)	備考
5	11-001816	土層部環口縁部	1	9	平安時代中心
6	11-001817	土層部環体-底部	3	8	平安時代中心
7	11-001818	環形器遺体部	1	14	

6-1-60・76土坑

No	資料番号	資料名称	測定値(cm)	形状・整形・調整等の特徴	備考	図面番号	図版番号
1	10-000526	瓦輪陶器碗	底径 8.5 残高 2.6	胴-底部1/3、内外面輪縁	10世紀初葉、大原	第34図-1	PL49

No	資料番号	資料名称	数量	重量(kg)	備考
2	11-001819	土層部遺体部	1	4	古墳時代前期中心
3	11-001820	土層部環口縁部	1	5	平安時代中心

No	資料番号	資料名称	数量	重量(kg)	備考
4	11-001821	土層部環口縁部	1	2	平安時代中心
5	11-001822	土層部環体-底部	6	12	平安時代中心

6-1-66土坑

No	資料番号	資料名称	数量	重量(kg)	備考
1	11-001823	土層部遺体部	2	9	平安時代中心
2	11-001824	土層部環口縁部	1	1	平安時代中心

No	資料番号	資料名称	数量	重量(kg)	備考
3	11-001825	土層部環体-底部	12	26	平安時代中心

6-1-67土坑

No	資料番号	資料名称	数量	重量(kg)	備考
1	11-001826	土師器壺体部	2	35	古墳時代前期中心
2	11-001827	須恵器壺体部	1	157	

6-1-69土坑

No	資料番号	資料名称	数量	重量(kg)	備考
1	11-001829	土師器壺体部	2	18	平安時代中心
2	11-001830	土師器坏口縁部	1	5	平安時代中心

6-1-70土坑

No	資料番号	資料名称	数量	重量(kg)	備考
1	11-001832	土師器坏体一底部	1	22	平安時代中心

6-1-72土坑

No	資料番号	資料名称	数量	重量(kg)	備考
1	11-001833	土師器壺体部	2	5	古墳時代前期中心
2	11-001834	土師器壺体部	1	6	古墳時代前期中心
3	11-001835	土師器壺体部	1	3	平安時代中心

6-1-74土坑

No	資料番号	資料名称	数量	重量(kg)	備考
1	11-001839	土師器壺体部	1	6	古墳時代前期中心

6-1-75土坑

No	資料番号	資料名称	数量	重量(kg)	備考
1	11-001841	土師器壺体部	1	14	古墳時代前期中心

6-1-79土坑

No	資料番号	資料名称	数量	重量(kg)	備考
1	11-001843	土師器壺体部	1	19	古墳時代前期中心
2	11-001844	土師器坏体一底部	4	9	平安時代中心

6-1-84・85土坑

No	資料番号	資料名称	数量	重量(kg)	備考
1	11-001846	土師器壺体部	2	5	平安時代中心

6-1-86土坑

No	資料番号	資料名称	数量	重量(kg)	備考
1	11-001848	土師器壺体部	2	6	平安時代中心
2	11-001849	土師器坏体一底部	2	7	平安時代中心

6-1-89土坑

No	資料番号	資料名称	数量	重量(kg)	備考
1	11-001851	土師器壺体部	3	15	古墳時代前期中心
2	11-001852	土師器壺体部	3	40	古墳時代前期中心
3	11-001853	土師器壺体部	3	4	平安時代中心

6-1-99・100土坑

No	資料番号	資料名称	数量	重量(kg)	備考
1	11-001857	土師器坏口縁部	1	23	平安時代中心

6-1-67・68土坑

No	資料番号	資料名称	数量	重量(kg)	備考
1	11-001838	土師器坏体一底部	1	2	平安時代中心

No	資料番号	資料名称	数量	重量(kg)	備考
3	11-001831	土師器坏体一底部	1	2	平安時代中心

No	資料番号	資料名称	数量	重量(kg)	備考
4	11-001839	土師器坏口縁部	2	14	平安時代中心
5	11-001837	土師器坏口縁部	2	22	在地
6	11-001838	土師器坏体一底部	1	13	平安時代中心

No	資料番号	資料名称	数量	重量(kg)	備考
2	11-001840	土師器台付壺脚部	1	5	古墳時代前期中心

6-1-78土坑

No	資料番号	資料名称	数量	重量(kg)	備考
1	11-001842	土師器壺体部	1	1	古墳時代前期中心

6-1-80土坑

No	資料番号	資料名称	数量	重量(kg)	備考
1	11-001845	土師器坏体一底部	2	3	平安時代中心

No	資料番号	資料名称	数量	重量(kg)	備考
2	11-001847	須恵器碗体一底部	2	4	

No	資料番号	資料名称	数量	重量(kg)	備考
3	11-001850	須恵器碗体一底部	1	5	

No	資料番号	資料名称	数量	重量(kg)	備考
4	11-001854	土師器坏口縁部	1	3	平安時代中心
5	11-001855	土師器坏体一底部	4	9	平安時代中心
6	11-001856	須恵器壺体部	1	13	

No	資料番号	資料名称	数量	重量(kg)	備考
2	11-001858	土師器壺体部	2	9	平安時代中心

遺物一覽

6-1-103土坑

No	資料番号	資料名称	数量	重量(kg)	備考
1	11-001859	土師器坏口緣部	1	9	平安時代中心

No	資料番号	資料名称	数量	重量(kg)	備考
2	11-001860	土師器坏体-底部	1	4	平安時代中心

6-1-104土坑

No	資料番号	資料名称	数量	重量(kg)	備考
1	11-001861	土師器坏口緣部	1	50	古墳時代前期中心
2	11-001862	土師器坏口緣部	1	1	平安時代中心
3	11-001863	土師器坏体部	2	1	平安時代中心

No	資料番号	資料名称	数量	重量(kg)	備考
4	11-001864	土師器坏口緣部	1	7	平安時代中心
5	11-001865	土師器坏体-底部	3	6	平安時代中心
6	11-001866	須恵器碗底面	1	25	

6-1-105土坑

No	資料番号	資料名称	数量	重量(kg)	備考
1	11-001867	土師器坏体部	2	20	古墳時代前期中心
2	11-001868	土師器坏口緣部	1	1	平安時代中心
3	11-001869	土師器坏体部	11	22	平安時代中心

No	資料番号	資料名称	数量	重量(kg)	備考
4	11-001870	土師器坏口緣部	3	14	平安時代中心
5	11-001871	土師器坏体-底部	7	26	平安時代中心
6	11-001872	須恵器坏体部	1	3	

6-1-106土坑

No	資料番号	資料名称	数量	重量(kg)	備考
1	11-001873	土師器坏体部	2	5	平安時代中心
2	11-001874	土師器坏体-底部	6	16	平安時代中心

No	資料番号	資料名称	数量	重量(kg)	備考
3	11-001875	須恵器碗底面	1	5	

6-1-106土坑

No	資料番号	資料名称	数量	重量(kg)	備考
1	11-001876	土師器坏体部	1	8	平安時代中心
2	11-001877	土師器坏口緣部	1	1	平安時代中心

No	資料番号	資料名称	数量	重量(kg)	備考
3	11-001878	土師器坏体-底部	3	10	平安時代中心
4	11-001879	須恵器坏口緣部	2	12	

6-1-114土坑

No	資料番号	資料名称	数量	重量(kg)	備考
1	11-001880	土師器坏体部	2	48	古墳時代前期中心
2	11-001881	土師器坏体部	1	5	平安時代中心

6-1-115土坑

No	資料番号	資料名称	数量	重量(kg)	備考
1	11-001882	土師器坏体部	1	8	古墳時代前期中心
2	11-001883	須恵器坏体部	2	29	

6-1-116土坑

No	資料番号	資料名称	数量	重量(kg)	備考
1	11-001884	土師器坏口緣部	1	2	平安時代中心

No	資料番号	資料名称	数量	重量(kg)	備考
2	11-001885	土師器坏体-底部	3	5	平安時代中心

6-1-125・126土坑

No	資料番号	資料名称	数量	重量(kg)	備考
1	11-001886	土師器坏体部	5	50	古墳時代前期中心
2	11-001887	土師器坏体部	1	2	平安時代中心

No	資料番号	資料名称	数量	重量(kg)	備考
3	11-001888	土師器坏口緣部	1	4	平安時代中心
4	11-001889	土師器坏体-底部	4	11	平安時代中心

6-1-133土坑

No	資料番号	資料名称	数量	重量(kg)	備考
1	11-001890	土師器坏体部	1	12	平安時代中心

6-1-149土坑

No	資料番号	資料名称	数量	重量(kg)	備考
1	11-001891	土師器坏口緣部	1	1	平安時代中心
2	11-001892	土師器坏体部	1	7	平安時代中心

No	資料番号	資料名称	数量	重量(kg)	備考
3	11-001893	土師器坏体-底部	5	15	平安時代中心

6-1-150土坑

No	資料番号	資料名称	測定値(cm)	形状・整形・調整等の特徴	備考	図面番号	図版番号
1	50-00060	焼骨	1.5×3.5×0.5	長骨片	大骨片	-	PL49

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
2	11-001894	土器器身底部	1	2	古墳時代前期中心

6-1-151土坑

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-001895	土器器口縁部	1	1	平安時代中心

6-1-152土坑

No	資料番号	資料名称	測定値(cm)	形状・整形・調整等の特徴	備考	図面番号	図版番号
1	10-000527	焼埴陶器鉢蓋	直径 8.0 残高 1.1	底部。右辺和輪縁整形。内面に格子状の節目、軸垂	近状	敷04図-1	PL58
2	30-000101	木片	1.9×1.2×8.1	破片。削り痕残る	杭小	-	PL58

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
3	11-001896	土器器口縁部	3	38	平安時代中心
4	11-001897	土器器身底部	10	42	平安時代中心

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
5	11-001898	土器器口縁部	1	10	平安時代中心
6	11-001899	土器器口縁部-底部	5	9	平安時代中心

6-1-153土坑

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-001900	土器器身底部	1	3	平安時代中心

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
2	11-001901	土器器口縁部-底部	2	12	平安時代中心

6-1-156土坑

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-001902	土器器身底部	2	17	平安時代中心

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
2	11-001903	土器器口縁部-底部	3	14	平安時代中心

6-1-157土坑

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-001904	土器器身底部	1	2	平安時代中心

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
2	11-001905	土器器口縁部-底部	1	40	古墳時代前期中心

6-1-162土坑

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-001906	土器器身底部	1	2	古墳時代前期中心

6-1-169土坑

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-001907	土器器身底部	2	3	平安時代中心
2	11-001908	土器器口縁部	1	1	平安時代中心

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
3	11-001909	須志器身底部	1	27	
4	11-001910	須志器口縁部	1	4	

6-1-172土坑

No	資料番号	資料名称	測定値(cm)	形状・整形・調整等の特徴	備考	図面番号	図版番号
1	10-000528	土器器蓋	口径(2.4) 残高 6.5	口縁-唇部片。口縁横溝で。唇部内面横溝で。唇部外縁直り	8世紀後半	敷151図-1	PL70

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
2	11-001911	土器器身底部	7	29	平安時代中心
3	11-001912	土器器口縁部	1	5	平安時代中心

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
4	11-001913	土器器口縁部-底部	4	22	平安時代中心

6-1-173土坑

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-001914	土器器身底部	2	14	平安時代中心
2	11-001915	土器器口縁部	3	20	平安時代中心

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
3	11-001916	土器器口縁部-底部	2	12	平安時代中心

遺物一覧

6-1-176土坑

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考	No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-001917	土器器坪口縁部	1	8	平安時代中心	2	11-001918	土器器坪体一点部	1	12	平安時代中心

6-1-179土坑

No	資料番号	資料名称	測定値(cm)	形状・形制・調整等の特徴	備考	図面番号	図説番号
1	10-000529	須恵器坪	口径(12.1) 高さ 4.1	1/4。回転軸輪盤形。底面未切り。内外面黒色処理			9世紀前半 第37図-1 PL49

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考	No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
2	11-001919	土器器坪体部	1	20	古墳時代前期中心	5	11-001922	土器器坪口縁部	1	1	平安時代中心
3	11-001920	土器器坪体部	1	18	古墳時代前期中心	6	11-001923	須恵器器坪口縁部	1	2	
4	11-001921	土器器坪体部	1	7	平安時代中心						

6-1-1 井戸

No	資料番号	資料名称	測定値(cm)	形状・形制・調整等の特徴	備考	図面番号	図説番号
1	30-000102	つるべ形手杓	長 4.0×2.0 高さ 29.1	両端部に径5mm程と中央上部に径3mm程の穿孔。一部に石目表面硬化			第405図-1 PL49

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考	No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
2	11-001924	土器器坪体部	1	20	古墳時代前期中心	5	11-001927	土器器坪体一点部	1	1	平安時代中心
3	11-001925	土器器坪体部	2	16	古墳時代前期中心	6	11-001928	軟質陶器器坪口縁部	1	118	
4	11-001926	土器器坪口縁部	3	14	平安時代中心						

8区1面遺構外の遺物

No	資料番号	資料名称	測定値(cm)	形状・形制・調整等の特徴	備考	図面番号	図説番号
1	10-000530	土器器坪	口径(12.5) 高さ 4.5	1/2。口縁輪盤で。体一底部外面見張り	8世紀後半		第450図-1 PL49
2	10-000531	土器器坪	口径(12.4) 高さ 3.9	破片。口縁輪盤で。体一底部外面見張り、内面端で縁部隆起	9世紀前半		第452図-2 PL49
3	10-000532	土器器坪	口径(11.3) 高さ 3.1	破片。口縁輪盤で。体一底部外面見張り、内面端で縁部隆起	9世紀前半		第453図-3 PL49
4	10-000533	土器器坪	口径(11.3) 高さ 3.9	1/3。口縁輪盤で。体一底部外面見張り、内面端で。底部内面に「△」の刻番	9世紀前半		第454図-4 PL49
5	10-000534	土器器坪	口径(13.6) 高さ 3.6	破片。口縁輪盤で。体一底部外面見張り、内面端で	9世紀前半		第455図-5 PL51
6	10-000535	土器器坪	口径(12.5) 高さ 4.3	破片。口縁輪盤で。体一底部外面見張り、内面端で	9世紀前半		第456図-6 PL50
7	10-000537	土器器坪	口径(12.5) 高さ 3.5	1/3。口縁輪盤で。体一底部外面見張り、内面端で漆塗痕が残る	9世紀後半		第457図-7 PL50
8	10-000536	土器器坪	口径(12.4) 高さ 3.0	1/3。口縁輪盤で。体一底部外面見張り、内面端で	9世紀前半		第458図-8 PL50
9	10-000538	漆付土器器坪	口径 2.4×1.2 厚 0.4	土器器坪底部破片。内面に漆皮残付番	漆工関連か		第459図-9 PL51
10	10-000539	須恵器器坪	口径 7.1 厚 0.9	回転軸輪盤形。底面回転造り	8世紀前半		第459図-10 PL50
11	10-000540	須恵器器坪	口径(13.9) 高さ 3.6	1/6。右回転軸輪盤形。回転未切り。底面に磨痕残る	9世紀後半		第459図-11 PL50
12	10-000541	須恵器器坪	口径(13.7) 高さ 3.6 底径 4.5	1/4。右回転軸輪盤形。回転未切り後。底面周縁に回転痕調整。酸化処理。内面磨きで底面に黒色処理。底面に「方」の刻番	10世紀後半		第460図-12 PL51
13	10-000542	須恵器器坪	口径(7.0) 高さ 3.4	体一底部1/4。右回転軸輪盤形。回転未切り	11世紀後半		第460図-13 PL50
14	10-000543	土器器坪	口径(11.4) 高さ 3.0	坏面破片の突起で磨きで削り取った面。外部内面・底部外面に位置異なる。坏面外面黒色。底部の縁部で	4世紀前半		第460図-14 PL51
15	10-000544	土器器坪	口径 9.6 高さ 8.0 底径 7.4 高さ 1.4	作成良好。底部内面に黒漆塗痕。口縁高く磨削部。口縁輪盤で。器部外面・体一底部内面見張り。器部外面・器部内面見張り	6世紀前半		第460図-15 PL51
16	10-000545	土器器坪付置	縦径 7.3 高さ 5.4	漆皮良好部一層破片。器部外面見張り、内面見張り。器部輪盤で。内面見張り	9世紀後半		第460図-16 PL51
17	10-000546	土器器坪	口径 4.4×4.1 厚 0.45	体形扁平。外面に粘土(燧灰付付付)。漆付番	9世紀		第460図-17 PL51
18	10-000547	須恵器器坪	口径() 高さ 10.6	口縁一底部破片。磨削部。酸化処理痕	10世紀後半		第460図-18 PL51
19	10-000548	須恵器器坪	口径 5.2 高さ 4.5	水漬に使用か。角付△形の磨み付き。黒口縁部痕跡	8世紀後半		第460図-19 PL51
20	10-000549	からけ	口径 7.2 高さ 1.8	灯明皿。左回転軸輪盤形。口縁に漆付番	15世紀後半		第460図-20 PL51
21	10-000550	軟質陶器器坪	口径 10.9 高さ 9.9	口縁やや内湾し。口縁尖る。使用痕跡	14世紀後半		第460図-21 PL51
22	10-000551	軟質陶器器坪	口径 13.0 高さ 7.3	口縁丸まる。使用痕跡	15世紀前半		第460図-22 PL51
23	20-000324	石鏡	径 1.8 幅 1.3	小型の無蓋鏡。面として両面が見られる	チャート		第460図-23 PL51
24	20-000325	磁石	縦径 5.3 幅 3.9 厚 1.8	下位穴部。縦裂口残る。上面と左側面に磨痕。表面左石面に磨痕。残存下部は厚3.4mmと厚く全周まで使用。	流紋岩		第460図-24 PL52
25	20-000326	磁石	残存 1.2×1.3×2.4	先端部破片。左側欠損。表面に磨痕残る	磁石		第460図-25 PL52

No.	資料番号	資料名称	測定値(cm)	形状・整形・調整等の特徴	備考	図面番号	図説番号
26	20-000327	磨石	11.2×5.4×4.4	上端に磨打痕、右側面に研磨痕あり。中位に磨耗痕ある	堀野原石堂山岩 こも羅石に転用	第46図-26	PL52
27	20-000328	磨石	8.4以上×5.2×(1.5)	下位欠角。上端に磨打痕。中位に磨耗痕ある	堀野原石堂山岩 こも羅石に転用	第46図-27	PL52
28	20-000329	磨石	10.9×5.4×3.5	下位欠角。上端に磨打痕。右側面に研磨跡×折れ。磨耗痕ある	堀野原石堂山岩 こも羅石に転用	第46図-28	PL52
29	20-000330	磨石	12.5×5.8×4.1	表面磨面に磨打痕あり。表面に6.4×5.1cmの研磨面	堀野原石堂山岩 こも羅石に転用	第46図-29	PL52
30	20-000331	磨石	9.9×9.1×3.2	表面に研磨面。裏面に弱い研磨面	文象黒岩	第47図-30	PL52
31	20-000332	白石	残存 8.0×6.4×3.3	破片。表面に漆、鉄片付着	破片に使用済み 磁器質粉岩	第47図-31	PL51
32	20-000333	こも羅石	8.4×3.2×1.8	中位に磨耗痕ある	埋藏岩	第47図-32	PL52
33	20-000335	こも羅石	8.8×3.8×2.4	中位に磨耗痕ある	〇ム岩	第47図-33	PL52
34	20-000334	こも羅石	11.8以上×6.1×4.0	中位に磨耗痕ある	堀野原石堂山岩	第47図-34	PL52
35	40-000218	鋼鉄「水俣通定」	径 2.130	破片。本銃。	複製。1408年	第47図-35	PL52
36	40-000219	鋼鉄「朝味通定」	径 2.410×2.410 厚 0.130	孔やや狭い。不足部ある可能性あり。裏面やや平ら	複製銃小	第47図-36	PL52
37	40-000220	鋼鉄「皇武通定」中	径 2.325×2.310 厚 0.180	銃文刻線や中筋。孔丸気味。裏面やや平ら	複製銃	第47図-37	PL52
38	40-000221	鋼鉄「皇武通定」	径 2.360 厚 0.135	銃文刻線や中筋。仕上げ不凡。銃孔やや狭い。裏面やや平ら	複製銃	第47図-38	PL52
39	40-000222	鋼鉄「丹元定」	径 2.445×2.440 厚 0.130	跡写し。孔小さく。裏面やや平ら	複製銃	第47図-39	PL52
40	40-000223	鋼鉄「□口通定」	径 2.325×2.310 厚 0.145	銃文刻線困難。銃孔丸気味。裏面平ら	複製銃	第47図-40	PL52
41	40-000224	鋼鉄「□口通定」	径 2.260 厚 0.100	銃文刻線困難。丸孔丸気味。裏面やや平ら	複製銃	第47図-41	PL52
42	40-000225	鋼鉄	径 2.440×2.540 厚 0.160	銃文刻線不能。孔小さく。裏面より残る。裏面やや平ら	複製銃	第47図-42	PL53
43	40-000226	鋼鉄	径 2.250×2.330 厚 0.140	銃文刻線不能。仕上げやや不凡。孔や小さく。丸孔丸気味。裏面平ら	複製銃	第48図-43	PL53
44	40-000227	鋼鉄	径 2.7×2.7 厚 0.140	銃文刻線不能。銃孔丸気味。仕上げやや不凡。裏面平ら	複製銃	第48図-44	PL53
45	40-000228	鉄線	径 4.5×3.1 厚 0.7	逆刻の深い溝状の字模。先端と差別・差部は欠損	中筋小	第48図-45	PL53
46	40-000229	刀子	径 6.7×6.7 厚 6.2	茎部破片。角柱状を呈し、先端で刃割で決まる		第48図-46	PL53
47	40-000230	角削	径 6.6×6.6 厚 10.2	両端欠角。上側横断面円形を呈す	5寸削小	第48図-47	PL53
48	40-000231	鉄製品	径 1.0×0.6 厚 0.5	両端欠角。扁平な箱形で両端が表裏逆方向に薄くなる	用途不詳	第48図-48	PL53
49	40-000232	鉄製品	径 0.9×0.8 厚 3.0	欠損品。く字状を呈す。先端角付。先端円柱状。	用途不詳	第48図-49	PL53

No.	資料番号	資料名称	数量	数量	備考
6-1-1 類					
50	11-001929	土器器口縁部	14	120	古墳時代前期中心
51	11-001930	土器器身腹部	72	485	古墳時代前期中心
52	11-001931	土器器身腹部	1	40	古墳時代前期中心
53	11-001932	土器器口縁部	3	36	古墳時代前期中心
54	11-001933	土器器身腹部	81	517	古墳時代前期中心
55	11-001934	土器器身腹部	5	13	古墳時代前期中心
56	11-001935	土器器口縁部	87	87	平安時代中心
57	11-001936	土器器身腹部	378	967	平安時代中心
58	11-001937	土器器口縁部	41	143	平安時代中心
59	11-001938	土器器身一底部	1124	2153	平安時代中心
60	11-001939	土器器口縁部	23	92	平安時代中心
61	11-001940	土器器口縁部	43	312	平安時代
62	11-001941	土器器口縁部	1	11	古墳時代後期
63	11-001942	土器器口縁部	2	17	古墳時代後期(6世紀末-7世紀初)
64	11-001943	土器器口縁部	2	44	平安時代中心
65	11-001944	土器器口縁部	3	15	平安時代中心
66	11-001945	土器器身一底部	2	55	平安時代中心
67	11-001946	土器器口縁部	11	93	戦国時代
68	11-001947	土器器身腹部	61	379	戦国時代
69	11-001948	土器器身腹部	2	23	戦国時代
70	11-001949	土器器身一底部	49	210	戦国時代
71	11-001950	土器器口縁部	14	70	奈良時代・戦国時代
72	11-001951	土器器口縁部	6	43	古墳時代後期(7世紀末-8世紀初)
73	11-001952	土器器身腹部	1	35	平安時代中心
74	11-001953	磁器器口縁部	8	316	
75	11-001954	磁器器身腹部	73	2484	
76	11-001955	磁器器身腹部	2	27	
77	11-001956	磁器器身腹部	5	50	薄手
78	11-001957	磁器器身腹部	1	8	薄手
79	11-001958	磁器器身台付碗口縁部	72	300	石
80	11-001959	磁器器身台付碗腹部	63	290	石
81	11-001960	磁器器身腹部	2	54	鉄

No.	資料番号	資料名称	数量	数量	備考
6-1-1 類					
82	11-001961	磁器器身台付碗高台部	1	20	
83	11-001962	磁器器身腹部	3	13	
84	11-001963	磁器器身腹部	1	10	
85	11-001964	磁器器身台付碗一底部	26	416	
86	11-001965	磁器器身台付碗口縁部	37	400	
87	11-001966	磁器器身台付碗口縁部	4	13	戦国時代
88	11-001967	磁器器身台付碗腹部	6	20	戦国時代
89	11-001968	磁器器身台付碗腹部	3	30	戦国時代
90	11-001969	磁器器身口縁部	1	21	
91	11-001970	磁器器身腹部	1	40	
92	11-001971	磁器器身口縁部	1	81	
93	11-001972	磁器器身腹部	11	628	
94	11-001973	磁器器身口縁部	1	19	
95	11-001974	磁器器身腹部	1	95	
96	11-001975	磁器器身一底部	6	190	
97	11-001976	磁器器身一底部	2	292	
98	11-001977	磁器器身腹部	2	9	
99	11-001978	平瓦	4	156	
100	11-001979	土管	2	34	
101	11-001980	肥後磁器	2	7	
102	11-001981	瀬戸産陶器	3	16	
103	11-001982	中国	1	4	龍泉洞系
104	11-001983	不明磁器	2	8	近代
105	11-001984	不明磁器	2	11	近代
106	11-001985	磁器碗	1	10	現代
107	11-001986	磁器器身腹部	1	5	
108	11-001987	磁器器身腹部	2	70	
109	11-001988	磁器器身腹部	13	300	
110	21-001308	磨石	2	104	
111	21-001309	石	6	103	
112	11-004919	非磁器碗	1	10	
113	41-000203	鉄	1	2	
114	41-000204	高橋小僧	1	28	

遺物一覧

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考	No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
6-1 龍島地						6-1 一起					
115	11-001989	土師器壺口縁部	8	72	古墳時代前期中心	170	11-002049	土師器壺口縁部	4	30	古墳時代前期中心
116	11-001990	土師器壺腹部	40	410	古墳時代前期中心	171	11-002050	土師器壺腹部	97	480	古墳時代前期中心
117	11-001991	土師器壺口縁部	4	40	古墳時代前期中心	172	11-002051	土師器壺腹部	4	50	古墳時代前期中心
118	11-001992	土師器壺腹部	35	290	古墳時代前期中心	173	11-002052	土師器壺口縁部	3	40	古墳時代前期中心
119	11-001993	土師器壺底部	4	54	古墳時代前期中心	174	11-002053	土師器壺底部	2	20	古墳時代前期中心
120	11-001994	土師器台付甕(口縁部)	7	50	古墳時代前期中心	175	11-002054	土師器壺口縁部	4	18	古墳時代前期中心
121	11-001995	土師器台付甕体部	12	28	古墳時代前期中心	176	11-002055	土師器壺腹部	5	20	古墳時代前期中心
122	11-001996	土師器高耳罐部	1	50	古墳時代前期中心	177	11-002056	土師器高耳口縁部	1	20	古墳時代前期中心
123	11-001997	土師器埴土部	2	10	古墳時代前期中心	178	11-002057	土師器高耳底部	1	15	古墳時代前期中心
124	11-001998	土師器壺口縁部	3	8	平安時代中心	179	11-002058	土師器台付壺口縁部	1	1	古墳時代前期中心
125	11-001999	土師器壺腹部	5	20	平安時代中心	180	11-002059	土師器台付壺体部	4	10	古墳時代前期中心
126	11-002000	土師器壺口縁部	1	2	平安時代中心	181	11-002060	土師器台付壺腹部	1	10	古墳時代前期中心
127	11-002001	土師器埴土部	2	10	平安時代中心	182	11-002061	土師器壺台体部	2	10	古墳時代前期中心
128	11-002002	土師器高耳罐部	6	26	平安時代中心	183	11-002062	土師器壺口縁部	68	264	平安時代中心
129	11-002009	須恵器壺口縁部	3	112		184	11-002063	土師器壺体部	437	978	平安時代中心
130	11-002010	須恵器壺体部	116	3632		185	11-002064	土師器壺底部	4	142	平安時代中心
131	11-002011	須恵器壺底部	2	24		186	11-002065	土師器壺口縁部	9	78	平安時代
132	11-002012	須恵器壺口縁部	15	41		187	11-002066	土師器壺体部	14	201	古墳時代後期
133	11-002013	須恵器壺体部	14	50		188	11-002067	土師器埴土部	197	382	平安時代中心
134	11-002014	須恵器壺底部	15	124		189	11-002068	土師器高耳一底部	24	84	平安時代中心
135	11-002015	須恵器壺体一底部	17	290		190	11-002069	土師器高耳部	3	12	平安時代中心
136	11-002016	須恵器壺	2	17		191	11-002070	土師器埴土部	57	280	平安時代
137	11-002017	須恵器高台付壺口縁部	85	296		192	11-002071	土師器埴土部	15	107	奈良時代
138	11-002018	須恵器高台付壺体部	16	73		193	11-002072	土師器埴土部	2	78	平安時代中心
139	11-002019	須恵器高台付壺底部	60	611		194	11-002073	土師器壺体一底部	6	181	平安時代中心
140	11-002020	須恵器高台付壺口縁部	2	240		195	11-002074	土師器高耳口縁部	13	94	古墳時代後期
141	11-002021	須恵器壺体部	3	63		196	11-002075	土師器高耳罐部	6	113	平安時代中心
142	11-002022	軟質陶器すり鉢	1	46		197	11-002076	須恵器壺口縁部	6	28	
143	11-002023	軟質陶器鉢口縁部	1	7		198	11-002077	須恵器壺体部	1	1	
144	11-002024	軟質陶器鉢体部	22	523		199	11-002078	須恵器壺体一底部	14	77	
145	11-002025	軟質陶器	3	37		200	11-002079	須恵器壺体部	1	19	
146	11-002026	陶器	2	5		201	11-002080	陶器	1	20	
147	11-002027	不明陶器	1	23	近代	202	11-002081	土管	10	361	
148	21-001310	石	2	122		6-1 粟長土					
6-1 フタフ						203	11-002083	土師器壺口縁部	1	6	古墳時代前期中心
149	11-002028	土師器壺体部	22	134	古墳時代前期中心	204	11-002084	土師器壺体部	10	40	古墳時代前期中心
150	11-002029	土師器壺底部	2	46	古墳時代前期中心	205	11-002085	土師器壺体部	23	108	古墳時代前期中心
151	11-002030	土師器壺体部	15	88	古墳時代前期中心	206	11-002086	土師器埴土部	5	9	平安時代中心
152	11-002031	土師器壺口縁部	1	20	古墳時代前期中心	207	11-002087	土師器埴土部	2	4	平安時代中心
153	11-002032	土師器壺口縁部	46	196	平安時代中心	208	11-002088	土師器壺口縁部	4	14	平安時代中心
154	11-002033	土師器壺体部	282	544	平安時代中心	209	11-002089	土師器壺体一底部	9	28	平安時代中心
155	11-002034	土師器壺底部	2	11	平安時代中心	210	11-002090	須恵器高台付壺体一底部	1	4	
156	11-002035	土師器埴土部	57	310	平安時代中心	6-1 粟平土					
157	11-002036	土師器埴土部	15	43	平安時代中心	211	11-002091	土師器台付壺体部	1	2	古墳時代前期中心
158	11-002037	土師器埴土部	23	116	平安時代	212	11-002092	土師器壺口縁部	74	287	平安時代中心
159	11-002038	土師器埴土部	2	14	古墳時代後期	213	11-002093	土師器壺体部	307	725	平安時代中心
160	11-002039	土師器埴土部	3	21	奈良時代	214	11-002094	土師器壺底部	3	14	平安時代中心
161	11-002040	土師器高耳罐部	5	36	平安時代中心	6-1 粟長土					
162	11-002041	土師器壺口縁部	1	5	平安時代中心	215	11-002095	土師器壺口縁部	4	37	古墳時代後期
163	11-002042	須恵器壺	1	10		216	11-002096	土師器埴土部	342	938	平安時代中心
164	11-002043	須恵器壺体部	4	65		217	11-002097	土師器埴土部	34	237	奈良時代
165	11-002044	須恵器壺口縁部	3	6		218	11-002098	土師器埴土部	84	194	平安時代
166	11-002045	須恵器壺体一底部	7	10		219	11-002099	土師器壺口縁部	8	49	平安時代中心
167	11-002046	甍前磁器	1	5		220	11-002100	須恵器壺口縁部	2	64	
168	11-002047	不明磁器	2	26	近代	221	11-002101	須恵器壺体部	52	990	
169	11-002048	瀬戸焼陶器	1	17		222	11-004820	軟質陶器	7	234	

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考	No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
6-1-東表土						6区1 館東南西					
228	11-002102	須恵器壺底部	3	55		252	11-002142	須恵器高台付残片-底部	1	7	
224	11-002103	須恵器甕口縁部	20	100		253	11-002143	土師器坏体-底部	24	93	平安時代中心
225	11-002104	須恵器甕底部	27	117		254	11-002144	須恵器甕口縁部	2	10	
226	11-002105	須恵器高台脚部	1	11		6-1-東半					
227	11-002106	不明陶器	2	9		255	11-002146	土師器壺底部	3	18	古墳時代前期中心
6区1 南東部						256	11-002147	土師器壺底部	5	46	古墳時代前期中心
228	11-002107	土師器壺底部	1	1	古墳時代前期中心	257	11-002148	土師器高台付壺体	1	3	古墳時代前期中心
229	11-002108	土師器壺口縁部	41	194	平安時代中心	258	11-002157	須恵器甕底部	1	20	
230	11-002109	土師器壺底部	109	286	平安時代中心	6区1 南表土					
231	11-002110	土師器壺底部	5	35	平安時代中心	259	11-002149	土師器壺口縁部	22	105	平安時代中心
232	11-002111	土師器環口縁部	128	157	平安時代中心	260	11-002150	土師器壺底部	103	241	平安時代中心
233	11-002112	土師器坏体-底部	12	350	平安時代中心	261	11-002151	土師器壺底部	3	22	平安時代中心
234	11-002113	土師器環口縁部	18	115	平安時代	262	11-002152	土師器環口縁部	30	75	平安時代中心
235	11-002114	土師器坏体	1	6	奈良時代	263	11-002153	土師器坏体-底部	116	347	平安時代中心
236	11-002115	須恵器壺底部	3	71		264	11-002154	土師器環口縁部	11	58	平安時代
237	11-002116	須恵器甕口縁部	15	63		265	11-002155	須恵器甕口縁部	1	1	
238	11-002117	須恵器甕体-底部	7	35		266	11-002156	須恵器甕体-底部	8	17	
6区1 館東南西角部						267	11-002158	土師器壺底部	1	6	古墳時代前期中心
239	11-002128	土師器壺底部	1	8	古墳時代前期中心	268	11-002159	須恵器壺底部	1	3	
240	11-002129	土師器壺口縁部	18	136	平安時代中心	269	11-002160	須恵器高台付残片-底部	1	7	
241	11-002130	土師器壺底部	20	92	平安時代中心	270	11-002161	須恵器甕体-底部	2	7	
242	11-002131	土師器環口縁部	13	45	平安時代中心	271	11-002162	陶器	1	4	
243	11-002132	土師器坏体-底部	43	185	平安時代中心	272	11-002163	陶器	1	5	未鑑定
244	11-002133	土師器環口縁部	14	119	平安時代	273	11-002164	軟質陶器	1	29	
245	11-002134	須恵器甕体-底部	2	51		274	11-002165	土師器壺底部	1	4	平安時代中心
246	11-002135	須恵器甕口縁部	1	6		275	11-002166	土師器高台付壺口縁部	1	1	平安時代中心
6区1 館東南西						276	11-002167	須恵器壺口縁部	19	95	
247	11-002136	土師器壺口縁部	5	25	平安時代中心	277	11-002168	須恵器壺底部	60	167	
248	11-002137	土師器壺底部	12	43	平安時代中心	278	11-002169	須恵器壺底部	1	1	
249	11-002138	土師器壺底部	2	29	平安時代中心	279	11-002170	土師器環口縁部	35	78	平安時代中心
250	11-002139	土師器環口縁部	12	35	平安時代中心	280	11-002171	土師器坏体-底部	81	203	平安時代中心
251	11-002140	土師器坏体-底部	24	93	平安時代中心	281	11-002175	土師器環口縁部	12	60	平安時代

6-1-石塚遺

No	資料番号	資料名称	測定値(cm)	形状・彫形・調整等の特徴	備考	図面番号	図版番号
1	20-000336	瓦輪等水輪	24.7×23.4×厚3.5	下面に指定の出納を有する。表面見丸るが比較的大に造られる。	二ツ糸石	第44図-1	PL49
2	20-000337	板碑台石	41.2×23.4×厚2.0	上面に85.3×25.3cm、深さ10.1cmのフツが削られる。表面と裏面にハツリ痕あり。	二ツ糸石	第44図-2	PL50

66-1-Aa-B 下水面面出土遺物は363頁に掲載。

遺物一覧

6-2 6区2面の出土遺物

6-2-1号住居

No	資料番号	資料名称	測定値(cm)	形状・彫形・調整等の特徴	備考	図面番号	図版番号
1	10-000552	土師器杯	口径15.6 高さ4.5	口縁縁線で、外部外面削り状指痕で、内面無で、底面無刻り	8世紀前半。破片	第65図-1	PL58
2	10-000553	土師器杯	口径11.8 底径10.0 高さ3.6	1/2。口縁縁線で、外部外面削り状指痕で、内面無で、表面左回りの彫刻り。底面内面無で	9世紀前半	第65図-2	PL58
3	10-000554	土師器杯	口径12.0 高さ2.9	破片。口縁縁線で、外部外面削り状指痕で、内面無で、表面左回りの彫刻り	9世紀前半。破片	第65図-3	PL58
4	10-000555	須恵器蓋	外径6.7×2.5 高さ2.5	片舟-片部破片。回転軸輪彫形。天井部外面左回りの彫刻り	8-9世紀	第65図-4	PL58
5	10-000556	土師器蓋	口径23.4 高さ8.7	口縁-肩部片。口縁縁線で、外部外面削り、内面無で	8世紀後半	第65図-5	PL58
6	10-000557	土師器蓋	口径5.0 高さ5.5	高-腰部破片。外面削り、内面無で	8-9世紀	第65図-6	PL58
7	20-000337	砥石	7.1×2.9×2.3	表面左右面に唇面を付し表面は滑面する。上表面裏面に貫通孔。左側面と上表面から貫通孔に尖角状孔が穿たれる	南北朝	第66図-7	PL58
8	40-000233	角釘	径1.1×1.0 長さ10.4	円錐筒状。長い四角角錐を呈する。		第66図-8	PL58

9	11-002176	土師器蓋口縁部	29	142	平安時代	14	11-002181	須恵器蓋口縁部	1	22	
10	11-002177	土師器蓋体部	147	342	平安時代	15	11-002182	須恵器蓋体部	1	4	薄い・奈良時代
11	11-002178	土師器蓋底部	7	64	平安時代	16	11-002183	須恵器蓋体部	9	311	
12	11-002179	土師器杯口縁部	71	252	平安時代中心	17	11-002184	須恵器高台付碗底面	1	12	
13	11-002180	土師器杯体一部	134	387	平安時代中心						

6-2-2号住居

No	資料番号	資料名称	測定値(cm)	形状・彫形・調整等の特徴	備考	図面番号	図版番号
1	10-000558	須恵器杯	口径13.5 高さ4.2	破片。右回転軸輪彫形。底面回転糸切り	9世紀後半	第67図-1	PL59
2	10-000559	須恵器杯	口径11.6 高さ3.0	3/4。右回転軸輪彫形。底面回転糸切り	9世紀後半	第67図-2	PL59
3	10-000560	土師器埴	口径19.2 高さ4.8	破片。口縁縁線で、体一部外面左回りの彫刻り、内面無で	6世紀後半	第67図-3	PL59
4	10-000561	土師器蓋	外径7.7×5.9 高さ0.4	口縁破片。口縁縁線で、外部外面削り、内面無で	8世紀後半	第67図-4	PL59
5	10-000562	土師器杯	口径6.2×3.7 高さ1.8	破片。内面に滑面を付し厚く付着。口縁縁線で、体一部外面削り、内面無で	8世紀前半	第68図-5	PL59
6	10-000563	土師器杯	口径11.8 底径10.4 高さ3.5	1/3。口縁縁線で、外部外面削り状指痕で、底面削り。体一部内面無で	9世紀後半	第68図-6	PL59
7	10-000564	須恵器杯	口径13.6 高さ3.4	破片。右回転軸輪彫形。底面に高台の淵縁	9世紀後半	第68図-7	PL59

8	11-002185	土師器蓋口縁部	24	126	平安時代中心	18	11-002195	須恵器蓋口縁部	10	35	
9	11-002186	土師器蓋体部	154	493	平安時代	19	11-002196	須恵器蓋体一部	7	18	
10	11-002187	土師器蓋底部	3	40	平安時代						
11	11-002188	土師器杯口縁部	55	114	平安時代	20	11-002197	土師器蓋口縁部	4	10	平安時代中心
12	11-002189	土師器杯口縁部	11	94	平安時代中心	21	11-002198	土師器蓋口縁部	1	22	古墳時代後期(7C前半)
13	11-002190	土師器杯口縁部	4	32	古墳時代後期(7C後半)	22	11-002199	土師器蓋体部	52	140	平安時代
14	11-002191	土師器杯体一部	130	372	平安時代中心	23	11-002200	土師器蓋底部	1	15	平安時代
15	11-002192	須恵器蓋口縁部	1	13		24	11-002201	土師器杯口縁部	10	18	平安時代
16	11-002193	須恵器蓋体部	8	125		25	11-002202	土師器杯口縁部	3	23	平安時代中心
17	11-002194	須恵器蓋体部	1	5	薄い	26	11-002203	土師器杯体一部	48	130	平安時代中心
						27	11-002204	須恵器蓋体一部	2	41	

6-2-3号住居

No	資料番号	資料名称	測定値(cm)	形状・彫形・調整等の特徴	備考	図面番号	図版番号
1	10-000565	須恵器蓋	口径48.0 高さ9.0	口縁破片。口縁部上下に引く。	平安時代中	第69図-1	PL59
2	10-000566	土師器蓋	口径30.5×17.0 高さ5.3	口縁下部一部破片。唇面削り。口縁縁線で、外部外面削り、内面無で。字状口縁	8世紀後半-9世紀	第69図-2	PL59
3	20-000338	砥石	3.1×1.9×(10.5)	両面鋭欠状。表面左右面に唇面。表面は唇面により湾曲	南北朝	第69図-3	PL59
4	20-000339	こも編み石	5.7×3.2×16.3	一部欠損。両床面を用い、中央に帯状の磨耗面を呈		第69図-4	PL60
5	10-000567	須恵器杯	口径13.5 底径6.8 高さ3.5	1/2。酸化忌成状。右回転軸輪彫形。底面回転糸切り状指痕、高低唇縁	9世紀後半	第69図-5	PL59
6	10-000568	土師器杯	口径12.0 高さ3.3	1/6。口縁縁線で、外部外面削り、表面削り、内面無で	9世紀後半	第70図-6	PL59
7	10-000569	土師器埴	口径20.0 底径13.7 高さ7.7	1/6。口縁縁線で、体一部外面削り、内面無で	6世紀後半	第70図-7	PL59
8	10-000570	土師器蓋	口径30.2 高さ7.0	口縁-肩部片。口縁縁線で、外部外面削り、内面無で	8世紀後半	第70図-8	PL59

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
塚上					
9	11-002206	土師器壺口縁部	20	210	平安時代中心
10	11-002206	土師器壺体-底部	71	316	平安時代中心
11	11-002207	土師器壺底部	2	15	平安時代中心
12	11-002208	土師器環口縁部	32	129	平安時代中心
13	11-002209	土師器環体-底部	24	118	平安時代中心

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
14	11-002210	土師器壺体-底部	1	46	平安時代中心
15	11-002211	須恵器轆轤口縁部	3	36	
16	11-002212	須恵器轆轤体-底部	2	19	
掘り方					
17	11-002213	土師器壺口縁部	4	41	平安時代中心
18	11-002214	土師器壺底部	28	101	平安時代中心

6-2-4号住居

No	資料番号	資料名称	測定値(mm)	形状・整形・調整等の特徴	備考	原簿番号	図版番号
1	10-000571	土師器環	口径 11.4 底径 7.5 高さ 2.8	3/4. 口縁内溝1線あり。外周部は板で、底面は段削り。内周部-底部は溝で	9世紀後半	第71図-1	PL60
2	10-000572	土師器環	口径 12.3 底径 8.9 高さ 3.5	(口縁内溝、内面1線) 溝付溝。口縁溝あり。外周部は溝で。底面段削り。内面溝あり。	9世紀後半	第71図-2	PL60
3	10-000573	須恵器高台付碗	口径 12.3 底径 3.6	3/4. 一部還元胎成。左回転軸線型。底面回転軸調整	9世紀前半	第72図-3	PL60
4	10-000574	須恵器高台付碗	口径 15.5 底径 6.5	3/4. 右回転軸線型。底面溝で調整後「部」の刻番	9世紀前半	第72図-4	PL60
5	10-000575	須恵器鉢	口径 5.4 底径 2.9	1/3. 右回転軸線型。底面糸切りで2度の切り直し	9世紀後半	第72図-5	PL60
6	40-000201	刀子小	径 0.8×0.5 残長 2.5	扁平小型の鉄片。両端が欠損する		第72図-6	PL60
7	10-000576	土師器壺	口径 8.2 底径 3.5	腰-底部破片。外周段削り。内面数溝あり	5世紀小	第72図-7	PL60
8	10-000577	土師器壺	口径 18.2 底径 5.6	口-胴部破片。口縁溝あり。胴部外周段削り。内面数溝あり	8世紀後半	第72図-8	PL60

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
塚上					
9	11-002215	土師器壺口縁部	17	90	平安時代中心
10	11-002216	土師器壺体部	91	218	平安時代中心
11	11-002217	土師器壺底部	1	10	平安時代中心
12	11-002218	土師器環口縁部	19	51	平安時代中心
13	11-002219	土師器環体-底部	99	245	平安時代中心
14	11-002220	土師器環体-底部	4	21	奈良時代
15	11-002221	土師器環体-底部	29	114	平安時代中心
16	11-002222	須恵器轆轤体部	2	26	

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
17	11-002223	須恵器壺底部	2	11	
18	11-002224	須恵器轆轤口縁部	11	54	
19	11-002225	須恵器轆轤体-底部	6	34	
掘り方					
20	11-002226	土師器壺口縁部	2	11	平安時代中心
21	11-002227	土師器壺体部	7	19	平安時代中心
22	11-002228	土師器環体-底部	3	15	平安時代中心
23	11-002229	土師器環体-底部	1	3	平安時代中心
24	11-002230	須恵器轆轤体-底部	2	12	

6-2-5号住居

No	資料番号	資料名称	測定値(mm)	形状・整形・調整等の特徴	備考	原簿番号	図版番号
1	10-000578	土師器環	口径 12.0 底径 3.2	破片。口縁溝あり。体-底部外周段削り。内面数溝あり	8世紀前半	第73図-1	PL60
2	10-000579	土師器壺	口径 18.4 底径 5.8 高さ 18.2	1/2. 口縁粗毛目付溝あり。唇部粗毛目による溝で。内面溝あり。腰-胴部内面溝あり。底面口縁溝あり	4世紀後半	第73図-2	PL60
3	10-000580	土師器壺	口径 16.3 底径 6.2 高さ 21.2	1/3. 口縁外段削り。内面粗毛目付溝あり。体外部粗毛目。内面数溝あり。底面平底文あり	4世紀後半	第73図-3	PL61

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
4	11-002231	土師器壺口縁部	17	78	平安時代中心
5	11-002232	土師器壺体部	93	197	平安時代中心
6	11-002233	土師器環口縁部	27	65	平安時代中心
7	11-002234	土師器環体-底部	77	185	平安時代中心
8	11-002235	須恵器轆轤体部	1	8	器内薄い

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
9	11-002236	須恵器轆轤口縁部	5	17	
掘り方					
10	11-002237	土師器壺口縁部	2	11	平安時代中心
11	11-002238	土師器壺体部	15	64	平安時代中心
12	11-002239	土師器環体-底部	12	35	平安時代中心

6-2-5・13号住居

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-002240	土師器壺口縁部	13	35	平安時代中心
2	11-002241	土師器壺体部	30	84	平安時代中心
3	11-002242	土師器壺底部	2	14	平安時代中心
4	11-002243	土師器環口縁部	18	51	平安時代中心

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
5	11-002244	土師器環体-底部	47	96	平安時代中心
6	11-002245	土師器轆轤口縁部	1	3	平安時代中心
7	11-002246	須恵器轆轤体部	1	3	
8	11-002247	須恵器轆轤底部	1	8	

遺物一覧

6-2-6号住居

No	資料番号	資料名称	測定値(cm)	形状・変形・調整等の特徴	備考	図記番号	図版番号
1	10-000581	土師器坏	口径(11.9) 底径 3.2	1/4。口縁縁線で、体一底部内面縁線で、外面直張り	9世紀前半	第74図-1	PL61
2	10-000582	須恵器坏	口径 13.1 底径 8.0 高さ 4.0	1/3。右回軸線型。底面回転調整	9世紀前半	第74図-2	PL61
3	20-000940	こも瀬A石	1.6×1.2×3.6	小さな河床石を用いる。中に帯状の磨耗痕跡が認められる	消磁腐灰岩	第74図-3	PL61
4	40-000234	鏡片	2.3×1.1×3.8	片割が平らであるが底面は凹凸が見られる。用途不明	スラブか	—	PL61
5	10-000583	土師器坏	口径 12.6 底径 3.7	2/3。口縁縁線で、体一底部内面縁線で、外面直張り	9世紀前半	第74図-5	PL61
6	20-000941	磁石	5.6×2.5×(7.4)	扁平片。真裏左右面に縦溝が見える。裏面に溝状の滑痕。左右両面は付着黒み汚染がみられる	流紋岩	第74図-6	PL61
7	10-000584	土師器壺	口径(18.4) 高さ 14.6	口縁一胴部片。口縁縁線。胴部内面直張り、外面直張り	8世紀後半	第75図-1	PL61

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考	No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
8	11-002248	土師器壺口縁部	79	255	平安時代	12	11-002252	土師器坏体一底部	141	470	平安時代中心
9	11-002249	土師器壺体部	238	808	平安時代	13	11-002253	須恵器壺体部	4	58	
10	11-002250	土師器壺底部	4	38	平安時代中心	14	11-002254	須恵器坏体一底部	12	101	
11	11-002251	土師器坏口縁部	98	78	平安時代中心	15	11-002255	須恵器壺口縁部	10	20	

6-2-7号住居

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考	No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-002256	土師器壺口縁部	7	29	平安時代中心	5	11-002260	土師器坏体一底部	65	164	平安時代中心
2	11-002257	土師器壺体部	41	88	平安時代中心	6	11-002261	須恵器壺口縁部	2	4	
3	11-002258	土師器壺底部	1	16	平安時代中心	7	11-002262	須恵器壺体部	2	7	
4	11-002259	土師器坏口縁部	17	41	平安時代中心	8	11-002263	須恵器壺底部	1	27	

6-2-8号住居

No	資料番号	資料名称	測定値(cm)	形状・変形・調整等の特徴	備考	図記番号	図版番号
1	10-000585	土師器坏	口径(12.0) 底径 3.6	1/4。口縁縁線で、内面体一底部縁線で、外面体直張り	9世紀前半	第77図-1	PL61
2	10-000586	土師器坏	口径(11.8) 底径 3.3	1/4。口縁一内面体部縁線で、底部内面直張り、外面体部直張り	9世紀前半	第77図-2	PL61
3	10-000587	土師器坏	口径 11.8 底径 7.7 高さ 3.0	2/4。口縁一内面体部縁線で、底部内面直張り、外面体部直張り	9世紀前半	第77図-3	PL61
4	10-000588	土師器坏	底径 6.7×8.5 厚さ 0.6	底面破片。底面に墨書。「□」子、小		第77図-4	PL62
5	10-000589	須恵器坏	口径 12.5 底径 3.1	右回軸線型。底面回転調整	9世紀前半	第77図-5	PL62
6	10-000590	須恵器坏	口径(11.0) 底径 3.7	右回軸線型。底面回転未切り	9世紀前半	第77図-6	PL61
7	10-000591	須恵器坏	口径 12.6 底径 3.5	右回軸線型。底面回転未切り後回転調整	9世紀前半	第77図-7	PL62
8	10-000592	須恵器破小瓶	口径(3.6) 底径 3.8	胴部一高台部1/2。軸線型で薄手	9世紀小	第77図-8	PL62
9	10-000593	須恵器壺	口径(26.8) 高さ 18.5	口縁一胴部破片。胴部内面同心円。外面片持ち	6-9世紀破片	第77図-9	PL62
10	20-000942	磁石(こも瀬A石)	5.4×3.8×13.2	上端部に微粒痕跡。中に帯状の磨耗痕跡	ひん岩	第78図-10	PL62

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考	No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
11	11-002264	土師器壺口縁部	77	315	平安時代	16	11-002269	須恵器壺口縁部	2	3	薄い
12	11-002265	土師器壺体部	335	783	平安時代	17	11-002270	須恵器壺体部	5	193	薄い
13	11-002266	土師器壺底部	9	30	平安時代中心	18	11-002271	須恵器壺口縁部	30	57	
14	11-002267	土師器坏口縁部	128	478	平安時代	19	11-002272	須恵器壺体部	12	43	
15	11-002268	土師器坏体一底部	236	595	平安時代	20	11-002273	須恵器壺底部	7	78	

6-2-9号住居

No	資料番号	資料名称	測定値(cm)	形状・変形・調整等の特徴	備考	図記番号	図版番号
1	10-000594	土師器坏	口径(11.3) 底径 3.8	破片。口縁一底部内面直張り、体部外面直張り、底部内面直張り、外面直張り	9世紀前半	第79図-1	PL62

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考	No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
2	11-002274	土師器壺口縁部	3	10	平安時代中心	5	11-002277	土師器坏体一底部	29	84	平安時代中心
3	11-002275	土師器壺体部	18	45	平安時代中心	6	11-002278	須恵器壺底部	1	10	
4	11-002276	土師器坏口縁部	9	34	平安時代中心	7	11-002279	須恵器壺口縁部	1	1	

6-2-10号住居

No	資料番号	資料名称	測定値(m)	形状・整形・調整等の特徴	備考	図面番号	図版番号
1	10-00059	須恵器環	口径 11.6 底径 4.8 残高 3.5	2/3、右側軸輪輪郭形。底部平切り。肩部外面磨削り。片岩含む			9世紀後半 第80図-1 PL62
2	10-00056	土師器埴	口径(21.0) 残高 3.4	破片。口縁微蝕で。外部外面磨削り、内面左回りの磨蝕			6世紀後半 第80図-2 PL62
3	10-00057	土師器埴	口径(21.0) 残高 2.7	破片。口縁微蝕で。体一底部外面磨削り、内面微蝕			6世紀後半 第80図-3 PL62
4	10-00058	須恵器埴	底径 5.6 残高 3.2	口径欠損。3/4、右側軸輪輪郭形。底部平切り。片岩含む			9世紀後半 第81図-4 PL62
5	10-00059	須恵器環	口径(13.5) 残高 2.6	口縁一帯破断片。右側軸輪輪郭形			9世紀後半 第81図-5 PL62

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
床土					
6	11-002280	土師器甕口縁部	8	61	平安時代中心
7	11-002281	土師器甕口縁部	1	4	石田川
8	11-002282	土師器甕体部	33	123	平安時代中心
9	11-002283	土師器環口縁部	5	6	平安時代中心
10	11-002284	土師器環口縁部	6	2	平安時代
11	11-002285	土師器環口縁部	7	45	奈良時代
12	11-002286	土師器環口縁部	1	5	古墳時代後期

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
13	11-002287	土師器杯体一底部	22	107	平安時代中心
14	11-002288	須恵器甕体部	2	46	
15	11-002289	須恵器杯体一底部	1	28	
16	11-002290	須恵器甕口縁部	1	1	
掘り方					
17	11-002291	土師器甕体部	1	5	平安時代中心
18	11-002292	土師器杯体一底部	3	11	平安時代中心

6-2-12号住居

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
床土					
1	11-002280	土師器甕口縁部	6	38	平安時代中心
2	11-002284	土師器甕体部	33	113	平安時代中心
3	11-002285	土師器甕体部	1	12	平安時代中心
4	11-002286	土師器環口縁部	13	58	平安時代中心
5	11-002287	土師器杯体一底部	31	81	平安時代中心
6	11-002288	土師器甕口縁部	1	2	平安時代中心

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
7	11-002289	須恵器甕体部	2	5	薄い
掘り方					
8	11-002300	土師器甕口縁部	3	14	平安時代中心
9	11-002301	土師器甕体部	8	25	平安時代中心
10	11-002302	土師器環口縁部	6	32	平安時代中心
11	11-002303	土師器杯体一底部	6	18	平安時代中心

6-2-13号住居

No	資料番号	資料名称	測定値(m)	形状・整形・調整等の特徴	備考	図面番号	図版番号
1	10-00060	土師器環	口径 11.4 底径 3.1 径 0.5×0.6 径 2.4.3	1/4、口縁微蝕で。外面体形微蝕で。底面磨削り。体一底部内面磨蝕			9世紀前半 第83図-1 PL62
2	40-00025	鉄製品		両側欠損。上位扁平、下位各状で変型			用途不明 第83図-2 PL62
3	10-00061	須恵器双耳甕	底径 2.4 残高 5.2	肩一底面。径 3mmの孔を一つ一つの肩を持つ。肩部外面と底面外面に有孔部。底面に同軸並列2孔			9世紀 第84図-3 PL62
4	10-00062	土師器甕	口径(21.0) 残高 5.2	口縁一帯破断片。口縁微蝕で。肩部外面磨削り。内面微蝕			9世紀前半 第84図-4 PL63

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
床土					
5	11-002304	土師器甕口縁部	10	60	平安時代中心
6	11-002305	土師器甕体部	94	253	平安時代中心
7	11-002306	土師器甕体部	4	30	石田川
8	11-002307	土師器甕体部	1	11	平安時代中心
9	11-002308	土師器環口縁部	38	194	平安時代中心
10	11-002309	土師器杯体一底部	66	208	平安時代中心
11	11-002310	須恵器甕体部	2	6	
12	11-002311	須恵器環口縁部	2	10	
13	11-002312	須恵器杯体一底部	1	3	

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
床土					
14	11-002313	須恵器甕口縁部	1	2	
掘り方					
15	11-002314	土師器甕口縁部	9	66	平安時代中心
16	11-002315	土師器甕体部	42	147	
17	11-002316	土師器甕体部	1	1	石田川
18	11-002317	土師器環口縁部	22	86	平安時代中心
19	11-002318	土師器杯体一底部	7	75	平安時代中心
20	11-002319	須恵器環口縁部	1	4	
21	11-002320	須恵器杯体一底部	1	6	

6-2-15号住居 ※ "15号住居" は何れかの住居に重複して付された番号と判断されるが、何れの住居かは不明

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-002321	土師器甕口縁部	1	2	平安時代中心

遺物一覧

6-2-16号住居

No	資料番号	資料名称	測定値(cm)	形状・彫形・調整等の特徴	備考	図面番号	図版番号
1	10-00063	土師器台付甕	口径 9.2 底径 7.0 残高 10.4	定形に造い、口縁・胴部横溝で、胴体一部内面寛狭で、外部外周直削り	9世紀後半	第85図-1	PL63
2	10-00064	土師器甕	口径 12.5 残高 11.2	1/5、底面欠損、口縁横溝で、外部内面寛狭で、外面上位横削り、下部直削りの筒形	9世紀後半	第85図-2	PL63
3	10-00065	土師器甕	口径 18.4 残高 5.5	口縁一部3/4、口縁横溝で、肩部内面寛狭で、外面横位の直削り	9世紀後半、道位横溝付に使用	第85図-3	PL63
4	10-00066	須恵器高台付甕	口径(14.0) 底径 6.8 残高 5.1	1/5、赤褐色黒色転写。右面斜縁輪彫形。底面に直削り直削り残存。付高台	9世紀後半	第85図-4	PL63
5	10-00067	土師器杯	口径(12.7) 残高 5.9	破片、体一部内面に浅溝付。口縁横溝で、体一部内面寛狭で、外面直削り	7世紀後半	第85図-5	PL63
6	10-00068	土師器杯	底径 7.5 残高 2.2	体一部、内面寛狭で、外面直削り	9世紀後半	第85図-6	PL63
7	20-000343	磁石	8.2×7.2×(15.2)	片割欠損。先端に鋭行痕、裏面に縦溝面残存	石高門緑岩	第85図-7	PL63

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考	No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
8	11-002322	土師器甕口縁部	2	70	平安時代中心	12	11-002326	土師器杯体一部	26	66	平安時代中心
9	11-002323	土師器甕体部	37	137	平安時代中心	13	11-002327	土師器台付甕部	2	124	平安時代中心
10	11-002324	土師器甕底部	1	8	平安時代中心	14	11-002328	須恵器甕口縁部	1	11	
11	11-002325	土師器杯口縁部	8	42	平安時代中心	15	11-002329	須恵器甕体部	1	1	

6-2-17号住居

No	資料番号	資料名称	測定値(cm)	形状・彫形・調整等の特徴	備考	図面番号	図版番号
1	10-00069	土師器杯	口径(11.0) 残高 2.8	破片、口縁一部内面寛狭で、外部外周直削り、底部内面寛狭で、外面直削り	9世紀前半	第85図-7	PL63

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考	No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
2	11-002330	土師器甕口縁部	2	11	平安時代中心	4	11-002332	土師器杯口縁部	12	33	平安時代中心
3	11-002331	土師器甕体部	21	41	平安時代中心	5	11-002333	土師器杯体一部	26	59	平安時代中心

6-2-18号住居

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考	No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-002334	土師器甕口縁部	1	11	平安時代中心	4	11-002337	土師器杯体一部	9	40	平安時代中心
2	11-002335	土師器甕体部	4	11	平安時代中心	5	11-002338	須恵器甕口縁部	1	3	
3	11-002336	土師器杯口縁部	4	23	平安時代中心						

6-2-19号住居

No	資料番号	資料名称	測定値(cm)	形状・彫形・調整等の特徴	備考	図面番号	図版番号
1	10-00010	土師器杯	口径 13.2 残高 3.0	1/4、口縁横溝で、内面体一部内面寛狭で、外面体部直削り残溝で、左削りの底面直削り	9世紀前半	第86図-1	PL63
2	10-00011	土師器杯	口径(12.6) 残高 2.8	1/3、口縁横溝で、内面体一部内面寛狭で、外面体部直削り残溝で、左削りの底面直削り	9世紀前半	第86図-2	PL63
3	10-00012	須恵器高台付甕	口径 11.9 残高 4.9	5%、横成良好。右面斜縁輪彫形。底面に直削り直削り	9世紀前半	第86図-3	PL63
4	10-00013	須恵器甕小	口径(19.4) 残高 3.5	破片、口縁横溝で、底部内面寛狭で、外面直削り	8世紀小	第86図-4	PL64
5	10-00014	土師器甕	口径(23.2) 残高 17.0	口縁一部片。口縁横溝で、肩部内面寛狭で、外面直削り	8世紀後半	第86図-5	PL64
6	10-00015	土師器甕	口径(20.8) 残高 11.3	口縁一部片。口縁横溝で、肩部内面寛狭で、外面直削り	9世紀前半	第86図-6	PL63
7	10-00016	土師器甕	底径 7.0 残高 6.0	体一部片。内面寛狭で体底部横溝で、外面直削り	8-9世紀	第86図-7	PL63
8	20-000344	磁石	5.4×4.4×14.4	河原産使用。上面と右側面に磁着面が見られ、中央に帯状の磨耗残存	石炭の磁着も掘入りに転用	第86図-8	PL64
9	20-000345	磁石	7.2×3.9×(8.5)	下半欠損。上面に鋭行直削り、下に帯状の磨耗残存	磁着磁石石炭の磁着も掘入りに転用	第86図-9	PL64
10	10-00017	須恵器甕	口径(22.6) 残高 12.0	口縁一部1/4、口縁横溝で、肩部内面寛狭で、外面直削り	8世紀	第86図-10	PL64
11	40-000236	刀子	残行 8×1.8 厚1.5	基部先端、刃部過半欠損。背突き出し、刃部斜削りにより大きく括弧		第86図-11	PL64

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考	No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
12	11-002339	土師器甕口縁部	29	190	平安時代中心	14	11-002341	土師器甕底部	4	27	平安時代中心
13	11-002340	土師器甕体部	376	730	平安時代中心	15	11-002342	土師器杯口縁部	116	422	平安時代中心

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
床上					
16	11-002343	土師器坏体→底部	270	841	平安時代中心
17	11-002344	土師器埴口縁部	2	19	平安時代中心
18	11-002345	土師器台付蓋胴部	1	33	平安時代中心
19	11-002346	須恵器碗底部	1	1	
掘り方					
20	11-002352	須恵器蓋体部	2	20	

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
掘り方					
21	11-002347	須恵器坏体→底部	5	14	
22	11-002348	須恵器埴口縁部	4	16	
23	11-002349	土師器埴口縁部	1	11	平安時代中心
24	11-002350	土師器蓋体部	5	136	平安時代中心
25	11-002351	土師器坏体→底部	2	11	平安時代中心

6-2-20号位置

No	資料番号	資料名称	測定値(cm)	形状・彫形・調整等の特徴	備考	図面番号	図版番号
1	10-000616	須恵器坏	口径(11.2) 高さ 3.7	右回軸轆轤型。底面用軸承切り状。腰部は調整		9世紀前半	朝9004-1 PL64

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考	No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
2	11-002353	土師器蓋体部	11	31	平安時代中心	4	11-002355	土師器坏体→底部	13	31	平安時代中心
3	11-002354	土師器坏口縁部	1	10	平安時代中心	5	11-002356	土師器高年臀部	1	6	平安時代中心

6-2-21号位置

No	資料番号	資料名称	測定値(cm)	形状・彫形・調整等の特徴	備考	図面番号	図版番号
1	10-000619	土師器坏	口径(11.2) 高さ 3.6	1/4、外面体部に「字」(小)の彫書。口縁調整で、体一底面凸部異様。体部外面彫り状で、底面調整		9世紀後半	朝9104-1 PL64

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考	No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
床上						掘り方					
2	11-002357	土師器蓋体部	13	30	平安時代	6	11-002361	土師器蓋体部	17	38	平安時代
3	11-002358	土師器坏口縁部	16	40	平安時代中心	7	11-002362	土師器坏口縁部	16	56	平安時代中心
4	11-002359	土師器坏体→底部	22	57	平安時代中心	8	11-002363	土師器坏体→底部	20	63	平安時代中心
5	11-002360	須恵器埴口縁部	3	9		9	11-002364	須恵器埴口縁部	3	23	

6-2-22号位置

No	資料番号	資料名称	測定値(cm)	形状・彫形・調整等の特徴	備考	図面番号	図版番号
1	10-000620	土師器坏	口径(11.2) 高さ 3.2	破片。口縁調整で。体形外面調整で、体一底面内面調整で、底面調整		9世紀前半	朝9104-1 PL64

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考	No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
2	11-002365	土師器埴口縁部	1	10	平安時代中心	4	11-002367	土師器坏口縁部	6	19	平安時代中心
3	11-002366	土師器蓋体部	8	22	平安時代中心	5	11-002368	土師器坏体→底部	13	46	平安時代中心

6-2-25号位置

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-002369	土師器坏底部	2	21	褐色処理

6-2-26号位置

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-002370	土師器埴口縁部	1	4	平安時代中心
2	11-002371	土師器蓋体部	6	18	平安時代中心
3	11-002372	土師器坏口縁部	7	38	平安時代中心

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
4	11-002373	土師器坏体→底部	10	35	平安時代中心
5	11-002374	須恵器蓋体部	6	166	
6	11-002375	須恵器碗体→底部	1	4	

6-2-27号位置

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-002376	土師器埴口縁部	3	13	平安時代中心
2	11-002377	土師器蓋体部	16	57	平安時代中心
3	11-002378	土師器坏口縁部	5	28	平安時代中心
4	11-002379	土師器坏体→底部	19	39	平安時代中心

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
5	11-002380	須恵器埴口縁部	1	34	鉄質
6	11-002381	須恵器蓋体部	3	69	鉄質
7	11-002382	須恵器埴口縁部	1	6	

遺物一覧

6-2-20号住居

No	資料番号	資料名称	測定値(m)	形状・彫形・調整等の特徴	備考	図面番号	図版番号
1	10-000621	土師器坏	口径(12.5) 底径(7.7) 残高 3.5	1/2。口縁一体部内面直線で、体部外面直線挿入。底部内面直線挿入。底面直線。底面直線。	9世紀後半	第96図-1	PL64
2	10-000622	土師器坏	口径 11.4 底径 3.4	2/3。口縁直線で、体部内外面直線挿入。底部内面直線で、体部外面直線挿入。	9世紀後半	第96図-2	PL64
3	20-000346	砥石	4.3×3.9×12.8	河床産物。表面左右面に磨面痕あり、中に帯状の磨痕直線。	こもあみ石に転用	第96図-3	PL64
4	20-000347	台石	16.7×(10.6)×18.7	下部欠損。河床産の一面に磨面と幾丁痕跡残る	磨粒輝石安山岩	第96図-4	PL64

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考	No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
席上						10	11-002389	須恵器壺体部	1	45	
5	11-002384	土師器壺口縁部	2	11	平安時代中心	11	11-002390	須恵器壺口縁部	1	11	
6	11-002385	土師器壺体部	15	38	平安時代中心	12	11-002391	須恵器壺体部	2	12	
7	11-002386	土師器壺体部	1	14	石田川	掘り方					
8	11-002387	土師器坏口縁部	10	37	平安時代中心	13	11-002392	土師器坏体部	3	8	平安時代中心
9	11-002388	土師器坏体一部	27	109	平安時代中心	14	11-002393	土師器坏体一部	3	12	平安時代中心

6-2-29号住居

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考	No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-002394	土師器壺口縁部	4	11	平安時代中心	4	11-002397	土師器坏口縁部	6	26	平安時代中心
2	11-002395	土師器壺体部	8	25	平安時代中心	5	11-002398	土師器坏体一部	5	18	平安時代中心
3	11-002396	土師器壺底部	1	10	平安時代中心	6	11-002399	須恵器壺口縁部	1	12	

6-2-30号住居

No	資料番号	資料名称	測定値(m)	形状・彫形・調整等の特徴	備考	図面番号	図版番号
1	10-000623	須恵器蓋	口径(10.5) 残高 2.2	破片。左面軸線輪郭形。蓋上半部外面右回りの旋削り。頂部縁貼付跡で		第99図-1	PL65

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考	No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
2	11-002400	土師器壺口縁部	2	45	平安時代中心	4	11-002402	土師器坏口縁部	4	28	平安時代中心
3	11-002401	土師器壺体部	3	17	平安時代中心	5	11-002403	軟質陶器	2	67	

6-2-31号住居

No	資料番号	資料名称	測定値(m)	形状・彫形・調整等の特徴	備考	図面番号	図版番号
1	10-000624	須恵器蓋	口径 13.5 残高 2.8	ほぼ定形。右面軸線輪郭形。縁貼付跡。蓋外面頂部付近左回りの回転痕あり	9世紀中葉 埼玉土師産か	第99図-1	PL65
2	10-000625	土師器坏	口径(11.9) 残高 3.1	1/4。口縁直線で、体部内外面直線挿入。底部内面直線で、体部外面直線挿入。	9世紀前半	第99図-2	PL65
3	40-000251	鉄製杖具	4.7×2.2×11.1	斜鋭欠損。長さ4.6×6.2×1.2cm。下部に真鍮線が長くかすがりとく不明		第99図-3	PL65
4	40-000252	鉄製工具	残存9.5×1.5×0.8	柄部は長さ6.1cmで径9×6mmの水貫れる。溝は幅6mmで下地が露され、横断面丸尻入長方形の縁金貫貫る。身は径12×6mm、長さ2.7cmの直方体で先端平らに加工	元は鑿か。用途不明	第99図-4	PL65
5	10-000626	磁甎体小	3.8×2.5×3.1	粘質土の焼土化したもの塊		—	PL65
6	10-000627	土師器壺	残存2.8×6.1 底 9.5	破片破片。表面刷毛目。内面磨き。上位に焼土した層層焼土付着	古土に土師。焼材に転用か。	第100図-6	PL65

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考	No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
7	11-002404	土師器壺口縁部	11	49	平安時代中心	13	11-002410	須恵器壺口縁部	1	25	
8	11-002405	土師器壺体部	73	273	平安時代中心	14	11-002411	須恵器壺体部	2	18	
9	11-002406	土師器壺底部	3	45	平安時代中心	15	11-002412	須恵器壺口縁部	1	12	
10	11-002407	土師器坏口縁部	4	7	古墳時代後期	16	11-002413	須恵器壺底部	1	5	
11	11-002408	土師器坏口縁部	31	163	磨面帯を1点含む。平安時代中心	17	11-002414	須恵器蓋	1	7	
12	11-002409	土師器坏体一部	62	209	磨面帯を1点含む。平安時代中心	18	11-002415	スレート	1	12	

6-2-32号住居

No	資料番号	資料名称	測定値(cm)	形状・整形・調整等の特徴	備考	図面番号	図版番号
1	10-000628	土師器杯	口径(11.4) 高さ 3.5	破片、口径一体部内面残片で、底部内面残片で、底部内面残り	9世紀前半	第103図-1	PL65

No	資料番号	資料名称	数量	数量	備考	No	資料番号	資料名称	数量	数量	備考
2	11-002416	土師器甕口縁部	13	70	平安時代中心	7	11-002421	須恵器甕体部	1	44	
3	11-002417	土師器甕体部	79	165	平安時代中心	8	11-002422	須恵器甕体部	1	5	
4	11-002418	土師器杯口縁部	44	160	平安時代中心	9	11-002423	須恵器甕体部	2	3	
5	11-002419	土師器杯体一底部	73	167	平安時代中心	10	11-002424		1	3	焼文
6	11-002420	土師器高坏胴部	1	20	平安時代中心						

6-2-33号住居

No	資料番号	資料名称	測定値(cm)	形状・整形・調整等の特徴	備考	図面番号	図版番号
1	10-000629	土師器杯	口径(11.7) 高さ 3.8	破片、口径縁部で、体一底部内面残片で、体部外面残り	9世紀前半	第102図-1	PL65
2	10-000630	須恵器蓋	フタ径 3.2 高さ 3.1	蓋部片、右側縁縁部、縁部打付、頂部右方面左方面の凹部残り	9世紀前半	第102図-2	PL65

No	資料番号	資料名称	数量	数量	備考	No	資料番号	資料名称	数量	数量	備考
床土						7	11-002429	須恵器甕体部	2	5	
3	11-002425	土師器甕口縁部	2	6	平安時代中心	8	11-002430	軟質陶器	1	17	
4	11-002426	土師器甕体部	26	83	平安時代中心						
5	11-002427	土師器杯口縁部	34	132	平安時代中心						
6	11-002428	土師器杯体一底部	46	184	平安時代中心						

6-2-34号住居

No	資料番号	資料名称	測定値(cm)	形状・整形・調整等の特徴	備考	図面番号	図版番号
1	10-000631	須恵器杯	口径 6.7 高さ 1.9	蓋一底部片、右側縁縁部、底面左側の凹部調整	9世紀後半	第102図-1	PL65
2	10-000632	土師器杯	口径(11.6) 高さ 3.8	1/4、口径から体部内面残片で、体部外面残り	9世紀前半	第103図-1	PL65
3	10-000633	土師器杯	口径 13.5 高さ 3.2	1/2、縁部と蓋部の延長部、口径から体部内面残片で、体部外面残り	9世紀前半	第103図-3	PL65
4	20-000350	磁石	5.4×4.1×12.7	上側一部欠損。上側に打痕。中に帯状の焼痕	この磁石に利用		PL66
5	10-000634	土師器杯	口径 12.5 高さ 3.9 口径 12.7 高さ 3.7	1/2、底面欠損、蓋部と蓋部の延長部、口径縁部で、内面体部一底部残片で、外面体部残り	9世紀前半	第103図-5	PL65
6	10-000635	土師器甕	口径(20.2) 高さ 16.0	口径一体部片、口径縁部で、体部内面残片で、外面残り	9世紀前半	第103図-6	PL65

No	資料番号	資料名称	数量	数量	備考	No	資料番号	資料名称	数量	数量	備考
7	11-002433	土師器甕口縁部	1	8	平安時代中心	9	11-002435	土師器杯口縁部	6	16	平安時代
8	11-002434	土師器甕体部	13	87	平安時代中心	10	11-002436	土師器杯体一底部	12	55	平安時代中心

6-2-35号住居

No	資料番号	資料名称	測定値(cm)	形状・整形・調整等の特徴	備考	図面番号	図版番号
1	10-000636	須恵器碗	口径(12.1) 高さ 3.5	口径一体部破片、左側縁縁部	9世紀前半	第104図-1	PL66

No	資料番号	資料名称	数量	数量	備考	No	資料番号	資料名称	数量	数量	備考
床土						6	11-002441	土師器杯口縁部	34	92	平安時代中心
2	11-002437	土師器杯口縁部	2	14	平安時代中心	7	11-002442	土師器杯口縁部	3	10	古墳時代後期
3	11-002438	土師器杯体一底部	5	9	平安時代中心	8	11-002443	土師器杯体一底部	67	187	平安時代中心
張り方						9	11-002444	須恵器甕体部	2	20	
4	11-002439	土師器甕口縁部	9	37	平安時代中心	10	11-002445	須恵器甕口縁部	7	18	
5	11-002440	土師器甕体部	52	130	平安時代中心	11	11-002446	須恵器甕体部一底部	4	22	

6-2-36号住居

No	資料番号	資料名称	測定値(cm)	形状・整形・調整等の特徴	備考	図面番号	図版番号
1	20-000351	こも編み石	5.7×3.3×11.9	河床敷使用。中に帯状の磨耗痕	敷文層に使用 石の磨耗	第105図-1	PL66

遺物一覧

No	資料番号	資料名称	数量	重量(kg)	備考	No	資料番号	資料名称	数量	重量(kg)	備考
2	11-002447	土師器壺口縁部	3	15	平安時代中心	4	11-002449	土師器杯口縁部	3	15	平安時代中心
3	11-002448	土師器壺体部	6	32	平安時代中心	5	11-002450	土師器杯体一底部	3	13	平安時代中心

6-2-37号住居

No	資料番号	資料名称	測定値(cm)	形状・整形・調整等の特徴	備考	図面番号	図版番号
1	20-000352	磁石	径 3.8×1.8 残長 6.3	上段欠損。表面左右面に研磨面残る。表面裏面磨削跡著	磁石	第105図-1	PL66

No	資料番号	資料名称	数量	重量(kg)	備考	No	資料番号	資料名称	数量	重量(kg)	備考
2	11-002451	土師器壺口縁部	1	4	平安時代中心	4	11-002453	土師器杯口縁部	2	8	平安時代中心
3	11-002452	土師器壺体部	4	8	平安時代中心						

6-2-38号住居

No	資料番号	資料名称	測定値(cm)	形状・整形・調整等の特徴	備考	図面番号	図版番号
1	10-000637	土師器杯	口径14.0 残高 4.0	破片。口縁一底部内面磨滅。底部内面磨滅で。体一底部外面磨削した後、体部磨滅	9世紀前半	第106図-1	PL66

No	資料番号	資料名称	数量	重量(kg)	備考	No	資料番号	資料名称	数量	重量(kg)	備考
破上						7	11-002459	須恵器壺体一底部	1	8	
2	11-002454	土師器壺口縁部	3	12	平安時代中心	磨り方					
3	11-002455	土師器壺体部	8	23	平安時代中心	8	11-002460	土師器壺口縁部	1	3	平安時代中心
4	11-002456	土師器壺底部	1	4	平安時代中心	9	11-002461	土師器壺体部	3	7	平安時代中心
5	11-002457	土師器杯口縁部	1	8	平安時代中心	10	11-002462	土師器杯口縁部	8	29	平安時代中心
6	11-002458	土師器杯体一底部	8	23	平安時代中心	11	11-002463	土師器杯体一底部	9	22	平安時代中心

6-2-39号住居

No	資料番号	資料名称	測定値(cm)	形状・整形・調整等の特徴	備考	図面番号	図版番号
1	10-000638	須恵器杯	口径 12.9 底径 16.0 残高 4.0	1/3。右部断輪軸形状。底部断輪未切り	9世紀後半	第107図-1	PL66
2	20-000353	磨石	4.6×3.1×8.2	河床礫使用。表面に研磨面残す	滑輪礫質岩	第107図-2	PL66

No	資料番号	資料名称	数量	重量(kg)	備考	No	資料番号	資料名称	数量	重量(kg)	備考
3	11-002464	土師器壺口縁部	4	39	平安時代中心	7	11-002466	須恵器壺	1	2	
4	11-002465	土師器壺体部	6	18	平安時代中心	8	11-002469	須恵器壺口縁部	2	28	
5	11-002466	土師器杯口縁部	2	2	平安時代中心	9	11-002470	須恵器壺底部	1	11	
6	11-002467	土師器杯体一底部	1	1	平安時代中心						

6-2-40号住居

No	資料番号	資料名称	測定値(cm)	形状・整形・調整等の特徴	備考	図面番号	図版番号
1	10-000639	土師器壺	口径 21.8 残高 11.5	口縁一底部片。口縁磨滅で。体部内面磨滅で、外面磨削り	9世紀前半	第108図-1	PL66

No	資料番号	資料名称	数量	重量(kg)	備考	No	資料番号	資料名称	数量	重量(kg)	備考
2	11-002471	土師器壺口縁部	5	22	平安時代中心	5	11-002474	土師器杯体一底部	4	16	平安時代中心
3	11-002472	土師器壺体部	9	120	平安時代中心	6	11-002475	須恵器壺口縁部	1	1	
4	11-002473	土師器杯口縁部	2	17	平安時代中心						

6-2-41号住居

No	資料番号	資料名称	測定値(cm)	形状・整形・調整等の特徴	備考	図面番号	図版番号
1	10-000640	土師器杯	口径19.8 残高 7.3	破片。口縁磨滅で。体一底部内面磨滅で、外面磨削り後体部磨滅	9世紀前半	第109図-1	PL66

No	資料番号	資料名称	数量	重量(kg)	備考	No	資料番号	資料名称	数量	重量(kg)	備考
2	11-002476	土師器壺口縁部	1	3	平安時代中心	5	11-002479	土師器杯口縁部	4	8	平安時代中心
3	11-002477	土師器壺体部	4	11	平安時代中心	6	11-002480	須恵器壺口縁部	2	6	
4	11-002478	土師器壺体一底部	28	71	平安時代中心	7	11-002481	須恵器壺体一底部	4	12	

6-2-42号住居

No	資料番号	資料名称	測定値(cm)	形状・形制・調整等の特徴	備考	図面番号	図版番号
1	10-000641	土師器坏	口径(11.2) 高さ 3.3	瓶片。口縁一体部内面磨面で、底部内面磨面で、体部一面外周箇所より後体部指痕で	9世紀後半		新110図-1 PL.66

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
床上					
2	11-002482	土師器壺口縁部	2	10	平安時代中心
3	11-002483	土師器壺体部	41	102	平安時代中心
4	11-002484	土師器坏口縁部	11	53	平安時代中心
5	11-002485	土師器坏体一部	44	124	平安時代中心

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
6	11-002486	須恵器壺体部	1	42	
7	11-002487	須恵器坏体一部	1	3	
8	11-002488	須恵器壺体一部	1	11	
掘り方					
9	11-002489	土師器壺口縁部	1	5	平安時代中心

6-2-43号住居

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-002490	土師器壺口縁部	9	43	平安時代中心
2	11-002491	土師器壺体部	42	83	平安時代中心
3	11-002492	土師器壺底部	1	7	平安時代中心
4	11-002493	土師器坏口縁部	20	63	平安時代中心
5	11-002494	土師器坏体一部	67	141	平安時代中心
6	11-002495	須恵器壺体部	1	234	
7	11-002496	須恵器蓋	1	3	

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
8	11-002497	須恵器壺口縁部	3	9	
9	11-002498	須恵器壺体部	1	2	
10	11-002499	須恵器壺底部	1	9	
11	11-002500	須恵器高台付壺口縁部	1	3	
12	11-002501	軟質陶器口縁部	1	3	
13	11-002502	軟質陶器体部	1	32	

6-2-44号住居

No	資料番号	資料名称	測定値(cm)	形状・形制・調整等の特徴	備考	図面番号	図版番号
1	10-000642	土師器坏	口径(11.2) 高さ 3.6	瓶片。体一部の内面磨面。口縁一体部内面磨面で、底部内面磨面で、体部一面外周箇所より後体部指痕で	9世紀後半		新112図-1 PL.66

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
床上					
2	11-002503	土師器壺口縁部	2	34	平安時代中心
3	11-002504	土師器壺体部	27	79	平安時代
4	11-002505	土師器坏口縁部	7	10	平安時代中心
5	11-002506	土師器坏口縁部	1	3	奈良時代
6	11-002507	土師器坏口縁部	2	6	平安時代
7	11-002508	土師器坏体一部	25	67	平安時代
8	11-002509	土師器壺口縁部	1	11	平安時代中心
9	11-002510	須恵器壺体部	1	3	

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
10	11-002511	軟質陶器口縁部	1	49	
掘り方					
11	11-002512	土師器坏口縁部	3	17	奈良時代
12	11-002513	土師器坏口縁部	1	3	奈良時代・塔状
13	11-002514	土師器坏口縁部	1	5	平安時代
14	11-002515	土師器坏体一部	14	37	平安時代中心
15	11-002516	土師器壺口縁部	3	8	平安時代中心
16	11-002517	土師器壺体部	9	38	平安時代
17	11-002518	須恵器蓋	1	6	

6-2-45号住居

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-002519	土師器壺体部	3	7	平安時代中心
2	11-002520	土師器坏口縁部	4	10	平安時代中心

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
3	11-002521	土師器坏体一部	4	21	平安時代中心

6-2-46号住居

No	資料番号	資料名称	測定値(cm)	形状・形制・調整等の特徴	備考	図面番号	図版番号
1	10-000643	灰輪陶器立口瓶	口径(8.5) 高さ 6.6	口縁下部～肩部1/2。口縁と肩部外周に自然輪郭小る	9世紀前半以降		新114図-1 PL.66
2	40-000237	鉄鉢	4.6×4.4×6.8	鉄分多い。何らかの製製品の可能性も残る			PL.66

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
床上					
3	11-002522	土師器壺口縁部	2	13	平安時代中心
4	11-002523	土師器壺体部	10	30	平安時代中心
5	11-002524	土師器坏口縁部	1	1	平安時代中心
6	11-002525	土師器坏体一部	17	29	平安時代中心

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
7	11-002526	須恵器壺体部	4	219	
掘り方					
8	11-002527	土師器壺体部	1	2	平安時代中心
9	11-002528	土師器坏体一部	3	12	平安時代中心

遺物一覧

6-2-47号住居

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-002529	土師器壺体部	5	6	平安時代中心
2	11-002530	土師器環口縁部	6	12	平安時代中心

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
3	11-002531	土師器坏体一底部	11	35	平安時代中心

6-2-48号住居

No	資料番号	資料名称	測定値(cm)	形状・彫形・調査等の特徴	備考	図面番号	図版番号
1	10-000644	須恵器高台付碗	口径(14.6) 底径7.2 器高6.0	1/3.右面転輪縁部。底面高台付縁部で、「帯」(ホ)の別表参照	9世紀後半	第110図-1	PL67
2	20-000054	磁石	4.8×3.1×7.8	小型の河本鏡使用。表面と右側面に研磨跡の通り、中心に常法に研削痕あり	この器入石に転写模範碑石を写す	第110図-2	PL66

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
3	11-002532	土師器壺口縁部	13	93	平安時代中心
4	11-002533	土師器壺体部	26	243	平安時代中心
5	11-002534	土師器壺底部	1	10	平安時代中心
6	11-002535	土師器環口縁部	13	53	平安時代中心

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
7	11-002536	土師器坏体一底部	55	221	平安時代中心
8	11-002537	須恵器壺体部	1	50	
9	11-002538	須恵器環口縁部	3	19	
10	11-002539	須恵器壺底部	2	17	

6-2-49号住居

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-002540	土師器壺口縁部	2	5	平安時代中心
2	11-002541	土師器壺体部	24	113	平安時代中心
3	11-002542	土師器壺底部	1	13	平安時代中心

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
4	11-002543	土師器環口縁部	5	21	平安時代中心
5	11-002544	土師器坏体一底部	8	37	平安時代中心
6	11-002545	須恵器環口縁部	1	1	

6-2-50号住居

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-002546	土師器壺体部	4	16	平安時代中心
2	11-002547	土師器環口縁部	1	3	平安時代中心
3	11-002548	土師器坏体一底部	4	20	平安時代中心

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
4	11-002549	須恵器環口縁部	2	3	
5	11-002550	須恵器壺体一底部	3	13	

6-2-51号住居

No	資料番号	資料名称	測定値(cm)	形状・彫形・調査等の特徴	備考	図面番号	図版番号
1	10-000645	土師器坏	口径(13.5) 器高3.2	破片。口縁部で、体一底部内面側で後製材状の層状痕、外周周角あり	9世紀中葉	第110図-1	PL67

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
2	11-002551	土師器壺口縁部	1	12	平安時代中心
3	11-002552	土師器壺体部	68	165	平安時代中心
4	11-002553	土師器壺底部	2	3	平安時代中心
5	11-002554	土師器環口縁部	23	89	平安時代中心

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
6	11-002555	土師器環口縁部	2	27	平安時代中心
7	11-002556	須恵器環口縁部	2	8	
8	11-002557	須恵器壺体一底部	4	13	

6-2-52号住居

No	資料番号	資料名称	測定値(cm)	形状・彫形・調査等の特徴	備考	図面番号	図版番号
1	10-000646	土師器坏	口径(14.8) 残高3.3	1/2.内面黒色処理。口縁部で、体一底部内面側で、外面周角り後製材状の層状痕	9世紀前半	第120図-1	PL67
2	10-000647	土師器坏	口径(12.7) 残高(7.3) 器高3.5	1/2.外面黒色処理。内面黒色処理の縁部。口縁部で、体一底部内面側で、内周周角あり	9世紀中葉	第120図-2	PL67

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
3	11-002558	土師器壺口縁部	1	8	平安時代中心
4	11-002559	土師器壺体部	14	29	平安時代中心
5	11-002560	土師器壺体部	1	10	奈良時代以前

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
6	11-002561	土師器環口縁部	5	20	平安時代中心
7	11-002562	土師器坏体一底部	9	20	平安時代中心

6-2-53号住居

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-002563	土師器壺体部	1	1	平安時代中心
2	11-002564	土師器環口縁部	1	8	平安時代中心

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
3	11-002565	土師器坏一底部	1	2	平安時代中心

6-2-54号住居

No	資料番号	資料名称	数量	重量(kg)	備考
1	11-002566	土師器壺口縁部	1	12	平安時代中心
2	11-002567	土師器壺体部	4	6	平安時代中心

No	資料番号	資料名称	数量	重量(kg)	備考
3	11-002568	土師器杯口縁部	2	7	平安時代中心

6-2-55号住居

No	資料番号	資料名称	数量	重量(kg)	備考
1	11-002569	土師器壺体部	1	4	平安時代中心

No	資料番号	資料名称	数量	重量(kg)	備考
2	11-002570	土師器杯口縁部	2	10	平安時代中心

6-2-56号住居

No	資料番号	資料名称	測定値(cm)	形状・彫形・調整等の特徴	備考	図面番号	図版番号
1	10-000648	土師器杯	口径 13.8 残高 4.0	1/4。口縁微曲。体一底部内面直線で、外面微削り後体部微欠		9世紀後半	第124図-1 PL67

No	資料番号	資料名称	数量	重量(kg)	備考
2	11-002571	土師器壺口縁部	3	23	平安時代中心
3	11-002572	土師器壺体部	38	178	平安時代中心
4	11-002573	土師器杯口縁部	9	51	平安時代中心

No	資料番号	資料名称	数量	重量(kg)	備考
5	11-002574	土師器杯体一底部	8	17	平安時代中心
6	11-002575	土師器台付壺脚部	1	31	平安時代中心
7	11-002576	須恵器口縁部	1	2	

6-2-57号住居

No	資料番号	資料名称	測定値(cm)	形状・彫形・調整等の特徴	備考	図面番号	図版番号
1	10-000649	須恵器杯	口径 12.3 5.8 残高 3.9	3/4。内面丸れる。右側輪軸彫形。底部回転未切り	9世紀後半	第125図-1 PL67	

No	資料番号	資料名称	数量	重量(kg)	備考
2	11-002577	土師器壺口縁部	2	12	平安時代中心
3	11-002578	土師器壺体部	10	30	平安時代中心
4	11-002579	土師器杯口縁部	9	71	平安時代中心

No	資料番号	資料名称	数量	重量(kg)	備考
5	11-002580	土師器杯体一底部	19	40	平安時代中心
6	11-002581	須恵器脚部	1	3	

6-2-58号住居

No	資料番号	資料名称	測定値(cm)	形状・彫形・調整等の特徴	備考	図面番号	図版番号
1	10-000650	土師器杯	口径 12.4 残高 3.2	薄片。口縁微曲。体一底部内面直線で、外面微削り後体部微欠		9世紀後半	第126図-1 PL67

No	資料番号	資料名称	数量	重量(kg)	備考
2	11-002582	土師器壺口縁部	2	15	平安時代中心
3	11-002583	土師器壺底部	1	3	平安時代中心
4	11-002584	土師器杯口縁部	1	8	平安時代中心
5	11-002585	土師器杯体一底部	4	19	平安時代中心

No	資料番号	資料名称	数量	重量(kg)	備考
6	11-002586	須恵器壺体部	3	107	
7	11-002587	須恵器脚部一底部	5	33	
8	11-002588	軟質陶器	1	45	

6-2-61号住居

No	資料番号	資料名称	数量	重量(kg)	備考
1	11-002589	土師器杯口縁部	1	8	平安時代中心

No	資料番号	資料名称	数量	重量(kg)	備考
2	11-002590	土師器杯体一底部	3	7	平安時代中心

6-2-62号住居

No	資料番号	資料名称	測定値(cm)	形状・彫形・調整等の特徴	備考	図面番号	図版番号
1	10-000651	須恵器壺	残存9.8×6.1 厚 1.4	体部破片。下縁に輪筋みの凹線痕が残る。外面可及直線で、内面微欠	平安朝か	第129図-1 PL67	

6-2-63号住居

No	資料番号	資料名称	測定値(cm)	形状・彫形・調整等の特徴	備考	図面番号	図版番号
1	10-000652	土師器壺	口径(22.0) 残高(7.8)	口一肩部1/4。口縁微曲。肩部内面直線で、外面微削り	9世紀前半	第130図-1 PL67	
2	10-000653	須恵器杯	口径(13.1) 残高 3.8	1/2。右側輪軸彫形。底部回転未切り。縁部直線で	9世紀後半	第130図-2 PL67	
3	10-000654	須恵器杯	口径 12.0 残高 4.9	一部欠損。右側輪軸彫形。底部回転未切り直	9世紀後半	第130図-3 PL67	

遺物一覧

No	資料番号	資料名称	数量	重量(kg)	備考	No	資料番号	資料名称	数量	重量(kg)	備考
4	11-002591	土師器壺体部	3	8	平安時代中心	6	11-002593	土師器坏体一部	2	16	平安時代中心
5	11-002592	土師器坏口縁部	1	8	平安時代中心	7	11-002594	須恵器碗体一部	1	3	

6-2-64号住居

No	資料番号	資料名称	測定値(cm)	形状・彫形・調整等の特徴	備考	国庫番号	国庫番号
1	10-000682	須恵器煎茶釜	残高 3.4	口縁下位一層部破片。外部面に横位の発露で		8世紀	第13235-1 PL67

6-2-65号住居

No	資料番号	資料名称	測定値(cm)	形状・彫形・調整等の特徴	備考	国庫番号	国庫番号
1	10-000683	土師器高坏	口径(12.8) 残高 4.8	坏部3/4。胴一箇部外面磨削り後、内外面全面発露	3世紀末葉	第13235-1	PL67
2	10-000684	土師器高坏	残高 4.4	坏部ほぼ完成。内外面粗毛目調整後発露	3世紀末葉	第13235-2	PL68
3	10-000685	土師器台付壺	口径 11.5 残高 3.7	口縁一層部1/2。S字状口縁。口縁縁部で外面に車状工具による彫突。肩部内面発露で、外脚部毛目	3世紀末葉	第13235-3	PL68
4	10-000686	土師器台付壺	口径(12.4) 残高 6.8	口縁一層部片。口縁部縁部で、上部に指輪による強い凹線跡。内内面粗毛目後、肩部内面下位発露で	4世紀前半か	第13235-4	PL68
5	10-000687	土師器壺	胴径 20.4 残高 6.8	胴部一層部片。淡黄色。外面と口縁内面発露、肩部内面発露で	3世紀末葉	第13235-5	PL68
6	10-000688	土師器壺	口径(18.4) 底径 4.8 器高 24.3	2/3。口縁縁部で、肩部下位に横位の指露で、体部外面残毛目。内面上位発露で、下位発露り。底部外面発露り、表面上げ灰灰味で焼	3世紀末葉	第13235-6	PL68
7	10-000689	土師器壺	口径(17.0) 底径 5.2 残高 25.0	1/3。灰白色。口縁縁部で、肩部下位に横位の指露で、体一箇部内外面残毛目。底部外面発露りで、表面上げ灰灰味で焼	3世紀末葉	第13235-7	PL68
8	20-000355	石核	6.1×4.7×10.8	左側面に表面から4片の剥片剥離の痕跡残る	黒色頁岩	第13235-8	PL68
9	20-000356	石核	10.6×5.5×12.6	下部切断。左側面上位に剥離痕	黒色頁岩	第13235-9	PL68

No	資料番号	資料名称	数量	重量(kg)	備考	No	資料番号	資料名称	数量	重量(kg)	備考
10	11-002595	土師器壺口縁部	7	33	平安時代中心	20	11-002605	土師器高坏体部	1	5	平安時代中心
11	11-002596	土師器壺口縁部	1	3	南朝	21	11-002606	土師器高坏口縁部	2	69	平安時代中心
12	11-002597	土師器壺体部	25	83	平安時代中心	22	11-002607	須恵器壺口縁部	1	17	
13	11-002598	土師器壺体部	13	28	南朝り・未注記	23	11-002608	須恵器壺体部	3	79	
14	11-002599	土師器壺体部	9	46	S字状口縁	24	11-002609	須恵器坏口縁部	1	4	
15	11-002600	土師器坏口縁部	18	78	平安時代中心	25	11-002610	須恵器坏体一部	1	7	
16	11-002601	土師器坏口縁部	12	30	南朝り・未注記	26	11-002611	須恵器碗口縁部	2	14	平安時代
17	11-002602	土師器坏体一部	32	103	平安時代中心	27	11-002612	須恵器碗底部	2	12	平安時代
18	11-002603	土師器坏体一部	18	46	南朝り・未注記	28	11-002613	鉄製刀部	1	37	
19	11-002604	土師器高坏口縁部	1	25	平安時代中心	29	21-002102	石	3	578	

6-2-66号住居

No	資料番号	資料名称	測定値(cm)	形状・彫形・調整等の特徴	備考	国庫番号	国庫番号
1	10-000690	土師器高坏	口径(11.3) 残高 3.2	口縁破片。内外面発露	3世紀末葉	第13235-1	PL69
2	10-000691	土師器壺	口径(12.2) 残高 10.9	口縁一層部。口縁縁部で、肩部内面発露で、外面発露り	3世紀末葉	第13235-2	PL69
3	10-000692	土師器壺	底径 4.5 残高 4.3	胴一箇部片。内面発露で、肩部外面粗毛目。表面上げ灰灰味で焼	3世紀末葉	第13235-3	PL69
4	20-000357	打製石斧	5.6×12.5×2.6	磨製。風化による割れあり。中位が楕状に盛り上がる	黒色頁岩	第13235-4	PL69
5	20-000358	打製石斧	4.2×(10.2)×1.4	方形の分銅型。上端部欠損。全体に薄手	カンフウェルネス	第13235-5	PL69
6	20-000359	磨石	15.7×(16.7)×4.5	下位欠損。表面面に剥離残る。表面に磨痕跡残る	黒石の可能性有 粗粒輝石安山岩	第13235-6	PL69
7	20-000360	磨石	9.2×(11.5)×5.1	河床石使用。上下両面に粗打痕。表面に磨痕跡残る		第13235-7	PL69

No	資料番号	資料名称	数量	重量(kg)	備考	No	資料番号	資料名称	数量	重量(kg)	備考
8	11-002614	土師器壺体部	5	8	平安時代中心	11	11-002617	須恵器碗口縁部	1	6	
9	11-002615	土師器壺体一部	7	38	平安時代中心	12	21-002105	石	1	369	
10	11-002616	須恵器壺体部	2	35							

6-2-1号竪立柱建物

No	資料番号	資料名称	数量	重量(kg)	備考
Pit 1					
1	11-002618	土師器坏体-底部	1	6	平安時代中心
Pit 2					
2	11-002619	土師器壺体部	4	17	平安時代中心
3	11-002620	土師器坏体-底部	4	12	平安時代中心
Pit 3					
4	11-002621	土師器壺体部	1	3	平安時代中心

No	資料番号	資料名称	数量	重量(kg)	備考
Pit 3					
5	11-002622	土師器坏口縁部	1	1	平安時代中心
6	11-002623	土師器坏体-底部	4	9	平安時代中心
Pit 4					
7	11-002624	土師器坏体-底部	3	7	平安時代中心
Pit 5					
8	11-002625	土師器壺口縁部	2	13	平安時代中心

No	資料番号	資料名称	数量	重量(kg)	備考
Pit 5					
9	11-002626	土師器壺体部	3	6	平安時代中心
10	11-002627	土師器坏口縁部	2	5	平安時代中心
11	11-002628	土師器坏体-底部	2	8	平安時代中心
12	11-002629	須恵器焼口縁部	1	3	
Pit 7					
13	11-002630	土師器坏口縁部	2	12	平安時代中心
14	11-002631	土師器坏体-底部	3	14	平安時代中心

No	資料番号	資料名称	数量	重量(kg)	備考
Pit 8					
15	11-002632	土師器壺体部	1	3	平安時代中心
16	11-002633	土師器坏口縁部	1	12	平安時代中心
17	11-002634	土師器坏体-底部	3	7	平安時代中心
18	11-002635	須恵器焼口縁部	1	7	

6-2-4号溝

No	資料番号	資料名称	測定値(cm)	形状・整形・調整等の特徴	備考	図面番号	国版番号
1	10-000603	土師器坏	口径 14.8 残高 3.1	破片。口縁残断で、体-底部内面直線で、外面直線形	5世紀前半	表130図-1	PL69
2	40-000238	スラガカ	3.4×1.7×1.5	小片。鉄分少ない。	-	-	PL69
3	40-000239	スラガカ	残存3.2×1.8×1.3	小片。鉄分少ない。彫紋残る	-	-	PL69

No	資料番号	資料名称	数量	重量(kg)	備考
4	11-002636	土師器壺口縁部	1	20	古墳時代前期中心
5	11-002637	土師器壺体部	2	30	古墳時代前期中心
6	11-002638	土師器坏体-壺口縁部	2	52	古墳時代前期中心
7	11-002639	土師器壺体部	5	38	古墳時代前期中心

No	資料番号	資料名称	数量	重量(kg)	備考
8	11-002640	土師器壺口縁部	2	11	平安時代中心
9	11-002641	土師器壺体部	3	15	平安時代中心
10	11-002642	土師器坏口縁部	4	24	平安時代中心
11	11-002643	土師器坏体-底部	4	23	平安時代中心

6-2-4号溝

No	資料番号	資料名称	数量	重量(kg)	備考
1	11-002644	土師器壺体部	3	60	古墳時代前期中心
2	11-002645	土師器壺口縁部	1	10	古墳時代前期中心
3	11-002646	土師器壺体部	6	43	平安時代中心

No	資料番号	資料名称	数量	重量(kg)	備考
4	11-002647	土師器坏口縁部	1	12	平安時代中心
5	11-002648	土師器坏体-底部	7	93	平安時代中心

6-2-47号溝

No	資料番号	資料名称	数量	重量(kg)	備考
1	11-002649	土師器壺体部	2	10	古墳時代前期中心

6-2-48号溝

No	資料番号	資料名称	数量	重量(kg)	備考
1	11-002650	土師器壺体部	1	10	古墳時代前期中心

6-2-51号溝

No	資料番号	資料名称	数量	重量(kg)	備考
1	11-002651	土師器壺体部	6	20	古墳時代前期中心
2	11-002652	土師器壺口縁部	1	9	古墳時代前期中心
3	11-002653	土師器壺口縁部	4	30	平安時代中心
4	11-002654	土師器壺体部	11	53	平安時代中心

No	資料番号	資料名称	数量	重量(kg)	備考
5	11-002655	土師器坏口縁部	3	13	平安時代中心
6	11-002656	土師器坏体-壺体部	5	13	平安時代中心
7	11-002657	須恵器壺体部	4	160	
8	11-002658	瀬戸黄陶陶器	1	4	

6-2-52号溝

No	資料番号	資料名称	測定値(cm)	形状・整形・調整等の特徴	備考	図面番号	国版番号
1	10-000604	土師器坏	口径 11.2 残高 4.8	破片。外周面直線部のみ残断。口縁直線で、体-底部内面直線で、外面直線形	6世紀前半	表130図-1	PL69

No	資料番号	資料名称	数量	重量(kg)	備考
2	11-002659	土師器壺体部	2	10	古墳時代前期中心
3	11-002660	土師器壺口縁部	2	50	古墳時代前期中心

No	資料番号	資料名称	数量	重量(kg)	備考
4	11-002661	土師器壺体部	1	20	古墳時代前期中心
5	11-002662	土師器坏口縁部	1	6	平安時代中心

遺物一覧

6-2-54号溝

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考	No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-002663	土師器壺体部	2	14	古墳時代前期中心	3	11-002664	土師器杯体一部	1	7	平安時代中心
2	11-002664	土師器壺体部	5	14	古墳時代前期中心						

6-2-55号溝

No	資料番号	資料名称	測定値(cm)	形状・整形・調整等の特徴	備考	図面番号	図版番号
1	40-000240	鏝	19.2×4.0×0.5	先端欠損。内側し損耗弱い。右上に折り返し		第143図-1	PL69

6-2-56号溝

No	資料番号	資料名称	測定値(cm)	形状・整形・調整等の特徴	備考	図面番号	図版番号
1	10-000665	土師器杯	口径 12.8 高さ 3.3	1/2。口縁一体部内面施で。体部外面施で。底部内面施で。底面丸張り	8世紀後半	第144図-1	PL69
2	10-000666	土師器杯	口径 4.0×3.5 底 0.45	口縁破片。口縁横施で。体部外面丸張り	6世紀前半	第144図-2	PL70
3	10-000667	土師器台付蓋	直径 10.8 残高 5.8	胴部。内面下縁折返しなし。内外面刷毛目	3世紀末葉	第144図-3	PL110

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考	No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
4	11-002666	土師器壺口縁部	2	20	古墳時代前期中心	9	11-002671	土師器壺体部	31	112	平安時代中心
5	11-002667	土師器壺体部	9	90	古墳時代前期中心	10	11-002672	土師器壺体部	1	12	平安時代中心
6	11-002668	土師器壺口縁部	1	5	古墳時代前期中心	11	11-002673	土師器壺口縁部	13	54	平安時代中心
7	11-002669	土師器壺体部	4	54	古墳時代前期中心	12	11-002674	土師器壺体部	1	13	
8	11-002670	土師器壺口縁部	2	17	平安時代中心						

6-2-57号溝

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考	No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-002675	土師器壺口縁部	1	10	6C前半	2	11-002676	土師器壺体一部	2	5	平安時代中心

6-2-58号溝

No	資料番号	資料名称	測定値(cm)	形状・整形・調整等の特徴	備考	図面番号	図版番号				
1	10-000668	土師器杯	口径 14.0 残高 3.0	1/4。口縁から体部内面施で。体一部内面施で。体一部外面施で。底面丸張り	8世紀後半～9世紀前半	第144図-1	PL69				
No	資料番号	資料名称	数量 <td>重量(g) <td>備考</td> <td>No</td> <td>資料番号</td> <td>資料名称</td> <td>数量 <td>重量(g) <td>備考</td> </td></td></td>	重量(g) <td>備考</td> <td>No</td> <td>資料番号</td> <td>資料名称</td> <td>数量 <td>重量(g) <td>備考</td> </td></td>	備考	No	資料番号	資料名称	数量 <td>重量(g) <td>備考</td> </td>	重量(g) <td>備考</td>	備考
2	11-002677	土師器壺口縁部	1	2	平安時代中心	3	11-002678	土師器壺体部	2	7	平安時代中心

6-2-59号溝

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考	No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-002679	土師器壺体部	1	2	古墳時代前期中心	3	11-002681	土師器壺体一部	1	2	平安時代中心
2	11-002680	土師器壺体部	1	20	古墳時代前期中心						

6-2-61号溝

No	資料番号	資料名称	測定値(cm)	形状・整形・調整等の特徴	備考	図面番号	図版番号
1	10-000669	土師器杯	口径 11.2 高さ 3.2	3/4。口縁施で。体一部内面施で。体部外面施で。底面丸張りの施あり	8世紀後半～9世紀前半	第143図-1	PL69
2	10-000670	土師器壺	直径 15.0 残高 4.2	胴一部。破片片着風入。内面施で。外面丸施で		第143図-2	PL69

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考	No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
3	11-002682	土師器壺口縁部	1	2	古墳時代前期中心	6	11-002685	土師器壺口縁部	2	6	平安時代中心
4	11-002683	土師器壺体部	5	54	古墳時代前期中心	7	11-002686	土師器壺体一部	2	10	平安時代中心
5	11-002684	土師器壺体部	1	5	平安時代中心						

6-2-62号溝

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考	No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-002687	土師器壺口縁部	5	30	古墳時代前期中心	5	11-002689	土師器壺体部	11	64	古墳時代前期中心
2	11-002688	土師器壺体部	9	40	古墳時代前期中心	6	11-002690	土師器壺口縁部	1	20	古墳時代前期中心

遺物一覧

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考	No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
5	11-002691	土師器壺口縁部	4	30	平安時代中心	8	11-002694	土師器坏底部	4	20	平安時代中心
6	11-002692	土師器壺体部	6	30	平安時代中心	9	11-002695	須恵器壺体部	1	20	
7	11-002693	土師器坏口縁部	1	5	平安時代中心	10	11-002696	須恵器壺体部	2	8	

6-2-83号溝

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-002697	土師器壺体部	6	35	古墳時代前期中心

5-2-87号溝

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考	No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-002698	土師器壺体部	2	50	古墳時代前期中心	2	11-002699	土師器壺口縁部	1	30	古墳時代前期中心

6-2-72号溝

No	資料番号	資料名称	測定値(cm)	形状・彫形・調整等の特徴	備考	図面番号	図取番号
1	10-000671	土師器壺	口径(17.1) 高さ 6.4	口縁一肩部1/4。赤味帯かる。口縁横溝で。肩部外面削い 鬚毛目。内面寛輪で。	3世紀末葉	第145図-1	PL70
2	10-000672	土師器壺	口径(15.8) 高さ 3.5	口縁一肩部1/4。口縁外面寛輪で。口縁・口縁内面と肩部 外面削毛目。内面内寛輪で。	3世紀末葉	第145図-2	PL70
3	10-000673	土師器壺	口径(14.4) 高さ 14.5	口縁一肩部3/4。口縁横溝で。体部内面寛輪で。外面やや 削毛目。	3世紀末葉	第145図-3	PL70
4	10-000674	土師器壺	口径(12.0) 高さ 7.7	口縁一肩部1/4。口縁外面寛輪で。口縁・口縁内面と肩部 外面削毛目。肩部内面寛輪で。	3世紀末葉	第145図-4	PL70
5	10-000675	土師器壺	口径(6.4) 高さ 7.5	唇一底部1/2。底部僅かに上げ部。肩部外面上段寛輪で。 下段一底部寛輪あり。唇一底部内面寛輪有る。	3世紀末葉	第145図-5	PL70
6	10-000676	土師器小壺蓋	口径 12.2 縦径8.6 高さ 12.2	口縁一部欠損するもほぼ完成。口縁横溝で。体一底部外面 削毛目。内面寛輪で。	3世紀末葉	第145図-6	PL70

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考	No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
7	11-002700	土師器壺口縁部	2	30	古墳時代前期中心	12	11-002705	土師器壺口縁部	1	4	平安時代中心
8	11-002701	土師器壺体部	8	40	古墳時代前期中心	13	11-002706	土師器壺体部	5	10	平安時代中心
9	11-002702	土師器壺口縁部	4	16	古墳時代前期中心	14	11-002707	土師器坏口縁部	1	5	平安時代中心
10	11-002703	土師器壺体部	8	48	古墳時代前期中心	15	11-002708	土師器坏体一底部	6	15	平安時代中心
11	11-002704	土師器台付壺脚部	3	30	古墳時代前期中心	16	21-002106	石	3	62	

6-2-183号土坑

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-002709	須恵器壺体部	1	40	

6-2-198号土坑

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考	No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-002710	土師器壺口縁部	1	50	古墳時代前期中心	2	11-002711	土師器壺体部	4	200	古墳時代前期中心

6-2-172号土坑

No	資料番号	資料名称	測定値(cm)	形状・彫形・調整等の特徴	備考	図面番号	図取番号
1	10-000677	土師器壺	口径 21.3 高さ(6.8)	口縁一肩部残片。口縁横溝で。肩部内面寛輪で。外面一底 部削毛目。	5世紀後半一9世紀前半	第151図-1	PL70

6-2-202号土坑

No	資料番号	資料名称	測定値(cm)	形状・彫形・調整等の特徴	備考	図面番号	図取番号
1	10-000678	土師器坏	口径(11.6) 高さ (10.0) 高さ 2.6	残片。器面に凹凸が見られる。口縁横溝で体一底部内面寛 輪で。体部外面削毛目後輪で。底部削毛目。	5世紀後半一9世紀前半	第150図-1	PL70

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考	No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
2	11-002712	土師器壺口縁部	1	8		3	11-002713	土師器坏口縁部	4	25	平安時代中心

遺物一覧

6-2-205号土坑

No	資料番号	資料名称	測定値(cm)	形状・變形・調整等の特徴	備考	図面番号	図版番号
1	10-000679	土師器杯	口径(11.8) 残高(3.5)	1/3。口縁傾斜で、体一底部内面凹曲で、外周部張り落し部あり	8世紀後半～9世紀前半	第151図-1	PL70
2	10-000680	須恵器蓋	口径 18.5 高さ 5.1	1/4。右回軸線傾斜形。頂部外周部凹曲部あり。環状紐	8世紀中～後葉	第151図-2	PL70

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考	No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
3	11-002714	土師器坏体一底部	3	9	平安時代中心	4	11-002715	須恵器蓋	1	5	

6-2-206号土坑

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考	No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-002716	土師器蓋体部	7	15	平安時代中心	2	11-002716	土師器坏体一底部	4	6	平安時代中心

6-2-207号土坑

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考	No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-002719	土師器羹口縁部	1	6	平安時代中心	4	11-002722	須恵器蓋体部	1	3	
2	11-002720	土師器蓋体部	6	12	平安時代中心	5	11-002723	須恵器羹口縁部	1	6	
3	11-002721	土師器坏体一底部	1	3	平安時代中心						

6-2-208号土坑

No	資料番号	資料名称	測定値(cm)	形状・變形・調整等の特徴	備考	図面番号	図版番号
1	10-000681	土師器杯	口径(11.1) 残高(3.7)	1/4。内面直線有心。口縁傾斜で、体一底部内面凹曲で、外周部張り落し部あり	8世紀後半～9世紀前半	第150図-1	PL70

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考	No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
2	11-002724	土師器羹口縁部	8	38	平安時代中心	5	11-002727	土師器坏口縁部	10	44	
3	11-002725	土師器蓋体部	30	39	平安時代中心	6	11-002728	土師器坏体一底部	12	63	
4	11-002726	土師器蓋底部	1	42	平安時代中心						

6-2-213号土坑

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考	No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-002729	土師器羹口縁部	1	10	平安時代中心	4	11-002732	土師器坏体一底部	5	15	平安時代中心
2	11-002730	土師器蓋体部	4	6	平安時代中心	5	11-002733	須恵器蓋体部	1	3	
3	11-002731	土師器坏口縁部	6	21	平安時代中心	6	11-002734	須恵器蓋底部	1	21	

6-2-214号土坑

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考	No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-002735	土師器羹口縁部	6	38	平安時代中心	4	11-002738	土師器坏口縁部	6	37	平安時代中心
2	11-002736	土師器蓋体部	22	118	平安時代中心	5	11-002739	土師器坏体一底部	2	9	平安時代中心
3	11-002737	土師器蓋底部	1	31	平安時代中心	6	11-002740	須恵器蓋体部	1	5	

6-2-215号土坑

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考	No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-002741	土師器蓋体部	1	3	平安時代中心	3	11-002743	土師器坏体一底部	1	5	平安時代中心
2	11-002742	土師器坏口縁部	1	2	平安時代中心						

6-2-217号土坑

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考	No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-002744	土師器羹口縁部	2	44	平安時代中心	3	11-002746	土師器坏体一底部	3	9	平安時代中心
2	11-002745	土師器蓋体部	2	8	平安時代中心						

6-2-218号土坑

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-002747	土師器坏口縁部	1	8	平安時代中心

6-2-219号土坑

No	資料番号	資料名称	数量	測定値 (mm)	備考
1	11-002749	土器器身体一部	8	16	平安時代中心

No	資料番号	資料名称	数量	測定値 (mm)	備考
2	11-002749	土器器身体一部底	1	2	平安時代中心

6区水田出土遺物

6-1-Aa-B下水田圃・耕作土

No	資料番号	資料名称	測定値 (mm)	形状・形制・調整等の特徴	備考	図面番号	図版番号
1	10-000682	土器器身	口径(22.0) 高さ 7.3	口縁一部破片。コ字状口縁。口縁直線で、肩部内面直線で、外周直線。	9世紀前半 高麗系土器	第42図-1	PL71
2	10-000683	須恵器杯	口径(12.0) 高さ (7.0) 器高 3.7	口縁一部破片。右回転縦輪整形。底面回転糸切り	9世紀前半 水田圃出土 須恵器	第42図-2	PL71
3	10-000681	石匙	(9.15)×(9.1)×1.4	縦長の石匙。左右両側刃部、上下端部欠損	高麗系土器 須恵器	第42図-3	PL71

No	資料番号	資料名称	数量	測定値 (mm)	備考
6-1 水田圃					
4	11-002750	土器器身口縁部	4	13	平安時代中心
5	11-002751	土器器身体一部	110	195	平安時代中心
6	11-002752	土器器身口縁部	29	61	平安時代中心
7	11-002753	土器器身体一部底	48	91	平安時代中心
8	11-002754	土器器身体一部底	1	7	平安時代中心
9	11-002755	須恵器納口縁部	5	11	
10	11-002756	須恵器納体一部底	3	6	
11	11-002757	鉄質陶器	4	94	
12	11-002759	須恵器器身体一部	2	38	
6-1 水田圃フタド					
13	11-002766	須恵器器身体一部	1	31	
14	11-002767	須恵器器身体一部底	1	10	

No	資料番号	資料名称	数量	測定値 (mm)	備考
6-1-Aa-B下水田圃耕作土					
15	11-002768	土器器身口縁部	14	53	平安時代中心
16	11-002769	土器器身体一部	60	133	平安時代中心
17	11-002769	土器器身体一部	2	26	平安時代中心
18	11-002771	土器器身口縁部	18	67	平安時代中心
19	11-002772	土器器身体一部底	45	126	平安時代中心
20	11-002773	土器器身口縁部	1	10	平安時代中心
21	11-002774	須恵器器身体一部	11	435	
22	11-002775	須恵器納口縁部	5	12	
23	11-002776	須恵器器身体一部底	7	55	

6区2面遺構外の出土遺物(グリット取り上げ遺物)

No	資料番号	資料名称	測定値 (mm)	形状・形制・調整等の特徴	備考	図面番号	図版番号
1	10-000684	土器器身台	口径(13.1) 器高 3.2	脚部欠損。受皿部3/4。内外面粗毛目調整後磨き	4世紀後半 275-380G	第158図-1	PL71
2	10-000685	土器器身	口径(14.4) 器高 4.3	口縁一部破片。口縁直線で、体一部内面直線で、外面直線。腹面直線で、	4世紀後半 290-375G	第158図-2	PL71
3	10-000686	土器器身	口径(13.0) 器高 5.2	1/4。口縁一部内面直線で、底面内面直線で、体一部内面直線で、	4世紀後半 285-315G	第158図-3	PL71
4	10-000687	土器器身	口径(11.8) 高さ 9.3 器高 3.2	1/2。口縁一部内面直線で、底面内面直線で、体一部外周直線で、	4世紀後半 270-380G	第158図-4	PL71
5	10-000688	土器器身	口径 12.0 高さ 19.5 器高 3.0	一底欠損。口縁一部内面直線で、体部外周直線で、底面内面直線で、外面直線。	4世紀後半 290-390G	第158図-5	PL71
6	10-000689	土器器身	口径(12.1) 器高(12.9)	1/4。器高欠損。口縁直線で、体一部内面直線で、体部外周直線、外面直線。	4世紀後半 285-375G	第158図-6	PL71
7	10-000690	土器器身	口径(11.6) 高さ (8.3) 器高 3.0	1/4。口縁一部内面直線で、体部内面直線で、底面内面直線、底面直線。	4世紀後半 295-390G	第158図-7	PL71
8	10-000691	土器器身	口径 7.4 高さ 0.8	器一部破片。内面直線で、底面直線で、外面直線。底面中央内外面に磨きとる	平安朝前 270-295G	第158図-8	PL72
9	10-000692	須恵器杯	口径(13.8) 高さ (10.0) 器高 3.8	口縁一部破片。右回転縦輪整形。底面回転糸切り直線、腹面直線直線。	4世紀後半 280-380G	第158図-9	PL72
10	10-000693	須恵器杯	口径(12.6) 器高 3.6	1/2。底面の片削元端直線。右回転縦輪整形。底面に回転糸切り直線。	4世紀後半 280-380G	第158図-10	PL71
11	10-000694	須恵器器身	口径(12.9) 高さ (6.9) 器高 3.1	口縁一部破片。やや幅広い灰色を呈す。右回転縦輪整形。底面回転糸切り	4世紀後半 280-380G	第158図-11	PL72
12	10-000695	須恵器高台付納	口径(11.3) 高さ 6.0 器高 3.6	2/3。高台付。磨化後磨成で磨きとる。内面直線で、外面直線。右回転縦輪整形。底面に回転糸切り直線。	4世紀後半 270-320G	第158図-12	PL71

遺物一覧

No	資料番号	資料名称	測定値(mm)	形状・形制・調整等の特徴	備考	国研番号	図版番号
13	10-000696	土師器	口径 底径 高さ 口径(9.7) 底径 9.2	口縁欠損。肩一底部2/3。底部内面土厚調整で、下半部一底面内面無縁。底部内面も目。底面調整完全。	9 世紀前半 295-310G 黒丸石山古 290-310G	第1508 -13	PL71
14	10-000697	土師器	口径(9.7) 底径 9.2	胴部破片。器底欠れる。外面無縁り	9 世紀前半 280-380G	第1508 -14	PL72
15	10-000698	須恵器鉢蓋	底径(11.5) 器高 上部 10.7 下部 11.1	胴一胴部片と底部一底面片。暗灰色で焼成良好輪縁成形。胴部欠く。胴一胴部三破片成。底部下位胴縁あり。高台付き。高台・底面無縁調整	9 世紀前半 280-380G	第1508 -15	PL72
16	10-000699	須恵器鉢蓋	底径(8.8) 器高 8.5	胴一高台部片。輪縁成形。底面回転無縁。高台底部に縁部残存	9 世紀前半 270-310G	第1508 -16	PL72
17	10-000700	須恵器鉢蓋	口径(9.7) 底径 8.2 器高 20.7	口縁一底部1/3。高台欠損。底部内面欠れる。口縁一胴部内外面と肩一胴部外面に欠損欠れる。	9 世紀前半 280-310G	第1508 -17	PL71
18	10-000701	須恵器	底径(15.8) 残高 1.7	胴一底面破片。器底内面欠る。底部内面輪縁破片残り無縁成形。底面調整成残存。	9 世紀半 290-310G	第1508 -18	PL72
19	10-000702	埴瓦	長さ 12.5×6.8 厚 1.7	破片。表面無縁で、側縁による調整	17 世紀後半以降 290-310G	第1508 -19	PL72
20	10-000703	軟質陶器鉢小	口径(8.0) 残高 14.3	口縁一唇部片。胎土精製。輪縁成形。内面に磨耗痕。	260-310G	第1508 -20	PL72
21	20-000382	磁石	6.5×4.1×17.2	磁粒層石安山岩の河床産物。右側縁に研削面形成。裏面上下左右縁縁欠り研削成残存	285-310G 黒丸石山古	第1508 -21	PL73
22	20-000363	磁石	4.5×2.5×13.2	磁粒層石安山岩の河床産物。表面面に研削成残り内面を欠る。中位に磨耗痕	285-310G 黒丸石山古	第1508 -22	PL73
23	20-000364	磁石	4.2×2.9×12.6	注貫貫首の横断面三角形の河床産物。下面の研削面調整。中位に磨耗痕	285-310G 黒丸石山古	第1508 -23	PL72
24	20-000365	磁石	4.3×2.3×(11.6)	下半欠損。黒丸石片岩の河床産物。上端に黒打痕残り。中位に磨耗痕。また左側縁に磨耗痕	285-310G 黒丸石山古	第1508 -24	PL72
25	20-000366	磁石	3.8×2.8×(6.3)	中・下半欠損。磁粒層石の河床産物。上端に黒打痕残り。中位に磨耗痕	285-310G 黒丸石山古	第1508 -25	PL73
26	20-000367	打製石斧	4.7×1.5×12.9	黒色頁岩使用。中位が狭まる短形。上下端に割離成残り	285-310G 黒色頁岩	第1508 -26	PL73
27	20-000368	打製石斧	5.7×1.7×14.2	黒色頁岩使用。磨形を呈す。上端は自然遺残り。刃部には使用による磨痕成残り	290-310G 黒色頁岩	第1508 -27	PL73
28	20-000369	石鏡	2.0×0.5×(3.7)	黒色土山産物の水鏡。鏡の先は凸状に突き出し有り。先端欠損。裏は三角形を呈す	290-310G 黒色頁岩	第1508 -28	PL73
29	20-000370	石鏡	2.6×(0.35)×3.2	黒色頁岩使用の無蒸鏡。表面無磨痕。先端と左貫元端先端欠損	290-310G 黒色頁岩	第1508 -29	PL73
30	20-000371	石鏡	1.9×0.4×3.0	黒色頁岩使用の無蒸鏡。縦縁ややぶらみ部状を呈す	300-310G 黒色頁岩	第1508 -30	PL73
31	40-000241	鉄斧	長さ(9.5) 刀部幅 4.4 総長さ 3.6×2.1	先端欠損。有段式無解型。後部は折り曲げて形成。袋物内径2.6×0.6cm	295-310G	第1608 -31	PL73
32	40-000242	鉄鏡	長さ 6.0 厚 1.3×1.1 最大幅 1.6	小型の鏡。やや先端が丸味。裏面を呈す。暫時使用後に一方の小口が潰される。柄欠は付かない	女館がらの銅用舎 712-203G	第1608 -32	PL73
33	40-000243	鉄鏡	長さ 3.2 鏡部幅 1.7×1.7 本体長 2.1 径 0.35×0.3	先端欠損。鏡は球面状を呈し。本体は短く、6-7角の筒状を呈す	295-310G	第1608 -33	PL73
34	40-000244	角釘	残長 4.1 径 0.5×0.4	欠損品。先端曲がる	280-380G	第1608 -34	PL73
35	40-000245	角釘	残長 3.3 径 0.5×0.5	欠損品。先端扁平に平切り	265-310G	第1608 -35	PL73
36	10-000704	須恵器杯	底径 6.3 残高 3.6	胴一底面1/4。外面無縁。底面回転無縁り	9 世紀前半 280-310G	第1508 -28(1)	PL70
37	30-000103	板瓦	長さ 8.0×4.1 厚 0.9	破片。上下縁無縁。表面カンナ直	ナラホ?	-	PL70

No	資料番号	資料名称	数量	重量(kg)	備考	No	資料番号	資料名称	数量	重量(kg)	備考
6-070-030	グリット					45	11-002784	土師器器体部	2	7	平安時代中心
38	11-002777	土師器器体部	1	1	古墳時代前期中心	46	11-002785	土師器器体一底部	3	8	平安時代中心
6-235-000	グリット					47	11-002786	土師器器体口縁部	1	4	平安時代中心
39	11-002778	土師器器体部	6	63	古墳時代前期中心	48	11-002787	土師器器体一底部	1	4	平安時代中心
40	11-002779	土師器器体部	6	75	古墳時代前期中心	49	11-002788	須恵器器体部	1	22	
41	11-002780	須恵器器体部	1	23		50	11-002789	土師器器体部	1	2	古墳時代前期中心
6-255-000	グリット										
42	11-002781	土師器器体口縁部	1	6	古墳時代前期中心						
43	11-002782	土師器器体口縁部	3	10	古墳時代前期中心						
44	11-002783	土師器器体口縁部	1	2	平安時代中心						

No	資料番号	資料名称	数量	重量(kg)	備考
6-260-900グレット					
51	11-002790	土師器壺体部	5	30	古墳時代前期中心
52	11-002791	土師器壺口縁部	1	3	平安時代中心
53	11-002792	土師器外口縁部	1	3	平安時代中心
54	11-002793	土師器坏体一部	1	7	平安時代中心
55	11-002794	土師器埴土器部	1	44	平安時代中心
6-260-810グレット					
56	11-002795	土師器壺体部	2	38	古墳時代前期中心
57	11-002796	土師器壺口縁部	1	7	平安時代中心
58	11-002797	土師器壺体部	5	15	平安時代中心
59	11-002798	土師器坏体一部	8	40	平安時代中心
60	11-002799	須恵器壺体部	2	19	
6-260-820グレット					
61	11-002800	土師器壺体部	1	10	古墳時代前期中心
62	11-002801	土師器壺口縁部	1	19	
6-260-970グレット					
63	11-002802	土師器壺口縁部	2	12	平安時代中心
64	11-002803	土師器壺体部	4	12	平安時代中心
65	11-002804	土師器外口縁部	4	23	平安時代中心
66	11-002805	土師器坏体一部	4	37	平安時代中心
67	11-002806	須恵器壺体部	1	10	
6-260-975グレット					
68	11-002807	土師器壺体部	7	13	平安時代中心
69	11-002808	土師器壺口縁部	1	1	平安時代中心
70	11-002809	土師器坏体一部	6	14	平安時代中心
71	11-002810	軟質陶器	3	45	
6-260-980グレット					
72	11-002811	土師器壺体部	2	10	古墳時代前期中心
73	11-002812	土師器壺体部	2	14	古墳時代前期中心
74	11-002813	土師器壺口縁部	54	212	平安時代中心
75	11-002814	土師器壺体部	200	567	平安時代中心
76	11-002815	土師器壺体部	1	6	薄手
77	11-002816	土師器壺体部	5	38	平安時代中心
78	11-002817	軟質陶器	1	45	
79	11-002818	土師器外口縁部	83	278	平安時代中心
80	11-002819	土師器坏体一部	192	560	平安時代中心
81	11-002820	須恵器壺体部	2	37	
82	11-002821	須恵器壺体部	1	70	
83	11-002822	須恵器壺口縁部	13	48	
84	11-002823	須恵器壺体部	16	45	
6-260-985グレット					
85	11-002824	土師器壺体部	1	16	古墳時代前期中心
86	11-002825	土師器壺口縁部	1	30	コノ字
87	11-002826	土師器壺体部	3	9	平安時代中心
88	11-002827	土師器外口縁部	3	15	平安時代中心
89	11-002828	土師器坏体一部	1	9	平安時代中心
90	21-002107	石	1	17	
6-260-990グレット					
91	11-002829	土師器壺体部	1	1	古墳時代前期中心
92	11-002831	土師器壺体部	6	17	平安時代中心
93	11-002832	土師器壺口縁部	1	2	平安時代中心
94	11-002833	土師器坏体一部	6	14	平安時代中心
95	11-002834	須恵器壺体部	1	4	
96	11-002835	須恵器壺体部	1	3	
6-265-020グレット					
97	11-002836	土師器壺口縁部	1	12	平安時代中心
6-265-970グレット					
98	11-002837	土師器壺口縁部	5	16	平安時代中心
99	11-002838	土師器壺体部	11	23	平安時代中心
100	11-002839	土師器壺体部	1	4	平安時代中心

No	資料番号	資料名称	数量	重量(kg)	備考
6-265-970グレット					
101	11-002840	土師器壺口縁部	6	32	平安時代中心
102	11-002841	土師器坏体一部	14	34	平安時代中心
103	11-002842	須恵器壺体部	1	8	
104	11-002843	須恵器壺体部	2	13	
6-265-975グレット					
105	11-002844	土師器壺体部	2	12	古墳時代前期中心
106	11-002845	土師器壺体部	1	9	古墳時代前期中心
107	11-002846	土師器壺口縁部	13	54	平安時代中心
108	11-002847	土師器壺体部	119	277	平安時代中心
109	11-002848	土師器壺体部	4	63	平安時代中心
110	11-002849	土師器壺口縁部	66	182	平安時代中心
111	11-002850	土師器坏体一部	153	390	平安時代中心
112	11-002851	土師器台付壺体一部	1	53	平安時代中心
113	11-002852	須恵器壺口縁部	1	22	
114	11-002853	須恵器壺口縁部	2	53	
115	11-002854	須恵器壺口縁部	2	6	
116	11-002855	須恵器壺体部	3	10	
117	11-002856	軟質陶器	1	33	
6-265-980グレット					
118	11-002859	土師器坏体一部	58	136	平安時代中心
119	11-002861	須恵器壺体部	2	30	
120	11-002862	須恵器壺口縁部	7	27	
121	11-002863	須恵器壺体部	5	56	
122	11-002864	須恵器高台付壺体部	1	3	
123	11-002865	須恵器壺	1	14	
124	21-002108	石	1	62	
125	11-004921	土師器台付壺体部?	1	10	古墳時代前期中心
126	11-004922	須恵器高台付壺体部	1	2	
6-265-985グレット					
127	11-002860	土師器壺口縁部	1	6	平安時代中心
128	11-002861	土師器坏体一部	1	6	平安時代中心
129	11-002862	軟質陶器	1	13	
6-265-990グレット					
130	11-002863	土師器壺口縁部	1	6	古墳時代前期中心
131	11-002864	土師器壺体部	1	3	古墳時代前期中心
132	11-002865	土師器壺体部	1	20	古墳時代前期中心
133	11-002866	土師器壺口縁部	2	6	平安時代中心
134	11-002867	土師器壺体部	5	58	平安時代中心
135	11-002868	土師器壺体部	1	5	平安時代中心
136	11-002869	土師器外口縁部	2	7	平安時代中心
137	11-002870	土師器坏体一部	1	3	平安時代中心
138	11-002871	須恵器壺口縁部	1	6	
6-265-995グレット					
139	11-002872	土師器壺体部	4	64	古墳時代前期中心
140	11-002873	土師器台付壺体部	2	10	古墳時代前期中心
141	11-002874	土師器壺体部	2	4	平安時代中心
142	11-002875	土師器外口縁部	2	6	C
143	11-002876	土師器壺口縁部	2	17	平安時代中心
144	11-002877	土師器坏体部か?	1	2	平安時代中心
145	11-002878	須恵器壺体部	1	11	
146	11-002879	土師器壺口縁部	25	60	
147	11-002880	土師器台付壺体部	1	10	
6-270-000グレット					
148	11-002886	土師器壺口縁部	1	9	古墳時代前期中心
149	11-002887	土師器壺体部	9	70	古墳時代前期中心
150	11-002888	土師器壺体部	1	14	古墳時代前期中心
151	11-002889	土師器壺体部	1	6	古墳時代前期中心
152	11-002890	土師器壺口縁部	2	6	平安時代中心
153	11-002891	土師器壺体部	3	6	平安時代中心

遺物一覧

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(kg)	備考	No.	資料番号	資料名称	数量	重量(kg)	備考
6-270-000グリット						6-275-800グリット					
154	11-002892	土師器環口縁部	4	23	平安時代中心	201	11-002939	土師器竪口縁部	1	5	平安時代中心
155	11-002893	土師器器体一底部	1	4	平安時代中心	202	11-002940	土師器器体部	3	14	平安時代中心
156	11-002894	土師器平底部	1	1	平安時代中心	203	11-002941	土師器環口縁部	1	3	平安時代中心
157	11-002895	須恵器器体部	1	5		204	11-002942	土師器器体一底部	3	14	平安時代中心
6-270-610グリット						6-275-975グリット					
158	11-002896	土師器環口縁部	1	6	古墳時代前期中心	205	11-002943	須恵器器体一底部	1	6	
159	11-002897	土師器器体部	3	10	古墳時代前期中心	206	11-002955	土師器竪口縁部	2	14	古墳時代前期中心
160	11-002898	土師器器体部	3	20	古墳時代前期中心	207	11-002956	土師器器体部	7	28	古墳時代前期中心
161	11-002899	土師器竪口縁部	7	36	平安時代中心	208	11-002957	土師器器体部	1	2	古墳時代前期中心
162	11-002900	土師器器体部	25	58	平安時代中心	209	11-002958	土師器器体部	5	28	古墳時代前期中心
163	11-002901	土師器環口縁部	12	42	平安時代中心	210	11-002959	土師器環口縁部	12	50	平安時代中心
164	11-002902	土師器器体一底部	44	121	平安時代中心	211	11-002960	土師器器体部	90	160	平安時代中心
165	11-002903	須恵器竪口縁部	1	8		212	11-002961	土師器環口縁部	27	65	平安時代中心
166	11-002904	須恵器器体部	6	138		213	11-002962	土師器器体部	1	9	平安時代中心
167	11-002905	須恵器器体一底部	1	6		214	11-002963	土師器器体一底部	98	223	平安時代中心
168	11-002906	須恵器竪口縁部	1	3		215	11-002964	土師器高耳杯部	1	3	平安時代中心
169	11-002907	須恵器器体一底部	4	39		216	11-002965	土師器高耳杯部	1	35	平安時代中心
170	11-002908	軟質陶器	2	11		217	11-002966	須恵器器体部	5	37	
6-270-620グリット						6-275-980グリット					
171	11-002909	土師器器体部	1	13	古墳時代前期中心	220	11-002969	土師器器体部	6	35	古墳時代前期中心
172	11-002910	土師器器体部	1	1	古墳時代前期中心	221	11-002970	土師器器体部	3	10	古墳時代前期中心
173	11-002911	土師器環口縁部	2	6	平安時代中心	222	11-002971	土師器竪口縁部	9	43	平安時代中心
6-270-970グリット						6-275-985グリット					
174	11-002912	土師器竪口縁部	3	18	平安時代中心	223	11-002944	土師器器体部	64	151	平安時代中心
175	11-002913	土師器器体部	1	16	平安時代中心	224	11-002945	土師器器体部	4	29	平安時代中心
6-270-975グリット						6-275-985グリット					
176	11-002914	土師器器体部	1	2	古墳時代前期中心	225	11-002946	土師器環口縁部	32	98	平安時代中心
177	11-002915	土師器竪口縁部	6	34	平安時代中心	226	11-002947	土師器器体一底部	69	190	平安時代中心
178	11-002916	土師器器体部	73	178	平安時代中心	227	11-002948	土師器高耳杯一底部	1	6	平安時代中心
179	11-002917	土師器環口縁部	23	75	平安時代中心	228	11-002949	須恵器竪口縁部	1	13	
180	11-002918	土師器器体一底部	80	216	平安時代中心	229	11-002950	須恵器器体部	1	10	
181	11-002919	須恵器器体部	2	28		230	11-002951	須恵器竪口縁部	4	32	
182	11-002920	須恵器器体一底部	2	4		231	11-002952	須恵器器体一底部	4	20	
6-270-985グリット						6-275-985グリット					
183	11-002922	土師器器体部	1	2	古墳時代前期中心	232	11-002953	軟質陶器	1	29	
184	11-002923	土師器竪口縁部	4	14	平安時代中心	233	11-002954	軟質陶器	1	45	
185	11-002924	土師器器体部	16	51	平安時代中心	6-275-985グリット					
186	11-002925	土師器環口縁部	6	22	平安時代中心	234	11-002972	土師器台付器体部	2	3	古墳時代前期中心
187	11-002926	土師器器体一底部	18	45	平安時代中心	235	11-002973	土師器器体部	2	10	古墳時代前期中心
188	11-002927	須恵器竪口縁部	1	4		236	11-002974	土師器竪口縁部	3	10	平安時代中心
189	11-004923	須恵器器体部	2	9		237	11-002975	土師器器体部	11	52	平安時代中心
6-270-990グリット						6-275-990グリット					
190	11-002928	土師器器体部	1	3	古墳時代前期中心	238	11-002976	土師器器体部	2	14	平安時代中心
191	11-002929	土師器器体一底部	3	6	平安時代中心	239	11-002977	土師器環口縁部	3	5	平安時代中心
6-270-995グリット						6-275-995グリット					
192	11-002930	土師器器体部	3	10	古墳時代前期中心	240	11-002978	土師器器体一底部	9	25	平安時代中心
193	11-002931	土師器器体部	1	10	古墳時代前期中心	241	11-002979	土師器器体一底部	1	3	平安時代中心
194	11-002932	土師器器体部	1	4	平安時代中心	242	11-002980	須恵器器体部	1	83	
195	11-002933	土師器環口縁部	1	21	平安時代中心	6-275-990グリット					
196	11-002934	土師器環口縁部	2	28	6 C	243	11-002581	土師器器体部	2	15	古墳時代前期中心
197	11-002935	土師器器体一底部	1	11	平安時代中心	244	11-004924	土師器器体部	1	3	古墳時代前期中心
6-275-000グリット						6-275-995グリット					
198	11-002936	土師器器体部	1	16	古墳時代前期中心	245	11-002982	土師器竪口縁部	1	17	平安時代中心
199	11-002937	土師器器体一底部	1	3	平安時代中心	246	11-002983	土師器器体部	1	3	平安時代中心
6-275-610グリット						6-280グリット					
200	11-002938	土師器環口縁部	1	6	平安時代中心	247	11-002984	土師器環口縁部	1	2	平安時代中心
						6-275-995グリット					
						249					
						11-002986					
						土師器器体部					
						2					
						50					
						古墳時代前期中心					
						6-280グリット					
						250					
						11-002987					
						土師器器体部					
						4					
						14					
						古墳時代前期中心					

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
	6-280-000	グレット			
251	11-002988	土師器壺体部	28	265	古墳時代前期中心
252	11-002989	土師器口縁部	1	2	古墳時代前期中心
253	11-002990	土師器底面	2	19	古墳時代前期中心
254	11-002991	土師器底面	1	18	古墳時代前期中心
255	11-002992	土師器台付壺口縁部	3	17	古墳時代前期中心
256	11-002993	土師器台付壺体部	6	7	古墳時代前期中心
257	11-002994	土師器環口縁部	1	1	平安時代中心
258	11-002995	土師器環体-底部	9	36	平安時代中心
	6-280-005	グレット			
259	21-002996	石	1	769	
	6-280-010	グレット			
260	11-002997	土師器壺体部	8	115	古墳時代前期中心
261	11-002998	土師器環口縁部	3	22	平安時代中心
	6-280-015	グレット			
262	11-002999	土師器壺体部	5	40	古墳時代前期中心
	6-280-020	グレット			
263	11-003001	土師器壺体部	8	115	古墳時代前期中心
264	11-003002	土師器環口縁部	1	3	平安時代中心
	6-280-905	グレット			
265	11-003003	帆立貝器器体部	1	14	
	6-280-905	グレット			
266	11-003004	土師器壺体部	2	36	古墳時代前期中心
267	11-003005	土師器台付壺体部	1	2	古墳時代前期中心
	6-280-970	グレット			
268	11-003006	土師器壺体部	1	10	古墳時代前期中心
	6-280-975	グレット			
269	11-003007	土師器壺体部	2	34	古墳時代前期中心
270	11-003008	土師器壺口縁部	1	5	平安時代中心
271	11-003009	土師器壺体部	1	4	平安時代中心
	6-280-980	グレット			
272	11-003010	土師器壺口縁部	1	10	古墳時代前期中心
273	11-003011	土師器壺体部	8	104	古墳時代前期中心
274	11-003012	土師器壺口縁部	2	48	古墳時代前期中心
275	11-003013	土師器壺口縁部	6	30	平安時代中心
276	11-003014	土師器壺体部	53	165	平安時代中心
277	11-003015	土師器環口縁部	40	129	平安時代中心
278	11-003016	土師器環体-底部	68	236	平安時代中心
279	11-003017	土師器環口縁部	1	13	平安時代中心
280	11-003018	須恵器壺口縁部	2	147	
281	11-003019	須恵器壺体部	21	773	
282	11-003020	須恵器壺体部	2	17	薄い
283	11-003021	須恵器壺口縁部	5	22	
284	11-003022	須恵器壺体-底部	9	48	
285	11-003023	帆立貝器器体部	22	683	
286	11-003024	帆立貝器	4	64	
287	11-003025	帆立貝器器体部	20	220	
	6-280-985	グレット			
288	11-003026	土師器壺体部	2	30	古墳時代前期中心
289	11-003027	土師器壺口縁部	3	11	平安時代中心
290	11-003028	土師器壺体部	5	20	平安時代中心
291	11-003029	土師器環口縁部	5	25	平安時代中心
292	11-003030	土師器環体-底部	4	19	平安時代中心
	6-282-010	グレット			
293	11-003031	土師器壺体部	2	30	古墳時代前期中心
294	11-003032	土師器台付壺体部	1	1	古墳時代前期中心
295	11-003033	土師器高口縁部	1	9	古墳時代前期中心
	6-285-000	グレット			
296	11-003034	土師器壺体部	1	12	古墳時代前期中心
297	11-003035	土師器壺体部	3	17	平安時代中心

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
	6-285-010	グレット			
298	11-003036	土師器壺体部	1	2	古墳時代前期中心
299	21-002109	石	1	488	
300	11-003037	土師器壺体部	3	8	平安時代中心
301	11-003038	土師器環体-底部	2	11	平安時代中心
302	11-003039	土師器壺体部	1	8	平安時代中心
303	11-003040	須恵器壺口縁部	1	5	
304	11-003041	帆立貝器	3	56	
	6-285-015	グレット			
305	11-003042	土師器壺体部	2	8	古墳時代前期中心
306	11-003043	土師器壺体部	1	6	平安時代中心
307	11-003044	土師器壺体部	2	97	奈良時代以前
308	11-003045	土師器環体-底部	4	36	平安時代中心
	6-285-885C	遺下グレット			
309	11-003046	施釉陶器口縁部	1	1	
	6-285-970	グレット			
310	11-003047	土師器壺体部	2	23	古墳時代前期中心
	6-285-975	グレット			
311	11-003048	土師器壺体部	1	6	古墳時代前期中心
312	11-003049	土師器壺口縁部	1	40	古墳時代前期中心
	6-285-980	グレット			
313	11-003050	土師器壺体部	2	4	古墳時代前期中心
314	11-003051	土師器壺口縁部	1	12	古墳時代前期中心
	6-285-985	グレット			
315	11-003052	土師器壺体部	1	8	古墳時代前期中心
	6-285-995	グレット			
316	11-003053	土師器環口縁部	1	8	
	6-280-005	グレット			
317	11-003054	土師器壺体部	3	6	古墳時代前期中心
318	11-003055	土師器壺口縁部	2	8	古墳時代前期中心
319	11-003056	土師器壺体部	3	20	古墳時代前期中心
320	11-003057	土師器環体-底部	2	4	平安時代中心
	6-280-010	グレット			
321	11-003058	土師器壺体部	2	45	古墳時代前期中心
322	11-003059	土師器壺口縁部	1	10	古墳時代前期中心
323	11-003060	土師器壺口縁部	1	36	平安時代中心
324	11-003061	土師器壺体部	4	57	平安時代中心
325	11-003062	土師器環口縁部	1	9	平安時代中心
326	11-003063	土師器環体-底部	1	3	平安時代中心
	6-280-285	グレット			
327	11-003064	須恵器壺体部	1	34	
	6-280-795	グレット			
328	11-003065	土師器台付壺体部	1	2	古墳時代前期中心
	6-280-975	グレット			
329	11-003066	土師器壺体部	1	20	古墳時代前期中心
330	11-003067	土師器壺体部	3	20	古墳時代前期中心
331	11-003068	土師器環体-底部	1	15	平安時代中心
332	11-003069	須恵器壺体部	1	37	
	6-280-985	グレット			
333	11-003070	土師器壺体部	1	2	フタド
334	11-003071	土師器壺体部	2	11	古墳時代前期中心
335	11-003072	土師器壺体部	1	3	フタド・平安時代
336	11-003073	土師器壺体部	5	23	フタド
337	11-003074	土師器環口縁部	1	6	平安時代中心
338	11-003075	土師器環口縁部	4	13	フタド
339	11-003076	土師器壺口縁部	1	4	フタド・古墳時代後期
340	11-003077	土師器壺体部	4	8	フタド
341	11-003078	土師器壺口縁部	1	7	フタド
342	11-003079	須恵器壺体部	3	216	
343	11-003080	須恵器壺体-底部	1	11	フタド

遺物一覧

No	資料番号	資料名称	数量	調査区	備考	No	資料番号	資料名称	数量	調査区	備考
6-290-990グリット						6-295-990グリット					
344	11-003081	土師器壺腹部	1	2	古墳時代前期中心	383	11-003120	土師器壺腹部	1	2	古墳時代前期中心
345	11-003082	土師器壺口縁部	1	8	平安時代中心	384	11-003121	土師器壺口縁部	4	26	
346	11-003083	土師器壺体一底部	5	17	平安時代中心	385	11-003122	土師器壺体一底部	2	28	
347	11-003084	土師器壺口縁部	14	84	平安時代中心	386	11-003123	土師器壺口縁部	1	14	
348	11-003085	土師器壺体一底部	13	60	平安時代中心	6-295-995グリット					
349	11-003086	土師器壺口縁部	1	31	平安時代中心	387	11-003124	土師器壺腹部	1	2	古墳時代前期中心
350	11-003087	須恵器壺体一底部	2	10		388	11-003125	土師器壺腹部	1	2	古墳時代前期中心
351	11-003088	須恵器壺体一底部	1	20		389	11-003126	土師器壺口縁部	2	4	平安時代中心
6-290-995グリット						6-300-025グリット					
352	11-003089	土師器壺腹部	2	9	古墳時代前期中心	390	11-003127	土師器壺腹部	2	12	平安時代中心
353	11-003090	土師器壺口縁部	1	14	古墳時代前期中心	391	11-003128	土師器壺口縁部	14	41	平安時代中心
354	11-003091	土師器壺腹部	2	8	古墳時代前期中心	392	11-003129	土師器壺体一底部	19	47	平安時代中心
355	11-003092	土師器壺口縁部	1	5	平安時代中心	393	11-003130	須恵器壺口縁部	1	5	
356	11-003093	土師器壺腹部	5	18	平安時代中心	6-300-028グリット					
357	11-003094	土師器壺口縁部	14	71	平安時代中心	394	11-003131	土師器壺腹部	1	30	古墳時代前期中心
358	11-003095	土師器壺体一底部	41	135	平安時代中心	6-300-970グリット					
359	11-003096	須恵器壺腹部	4	21		395	11-003132	土師器壺腹部	2	18	古墳時代前期中心
360	11-003097	須恵器壺体一底部	1	7		6-300-980グリット					
6-295-000グリット						6-300-985グリット					
361	11-003098	土師器壺口縁部	1	15	平安時代中心	397	11-003134	土師器壺口縁部	1	5	平安時代中心
362	11-003099	土師器壺腹部	5	25	平安時代中心	398	11-003135	土師器壺腹部	1	2	平安時代中心
363	11-003100	土師器壺口縁部	2	4	平安時代中心	399	11-003136	土師器壺口縁部	1	7	平安時代中心
364	11-003101	土師器壺体一底部	6	15	平安時代中心	400	11-003137	須恵器壺腹部	1	33	
6-295-030グリット						6-300-995グリット					
365	11-003102	土師器壺腹部	2	22	古墳時代前期中心	401	11-003138	土師器壺口縁部	1	2	古墳時代前期中心
6-295-010グリット						6-305-010グリット					
366	11-003103	土師器壺口縁部	1	28	古墳時代前期中心	402	11-003139	土師器壺口縁部	1	7	平安時代中心
6-295-015グリット						6-305-020グリット					
367	11-003104	土師器壺腹部	2	30	古墳時代前期中心	404	11-003141	土師器壺腹部	2	9	古墳時代前期中心
368	11-003105	土師器壺腹部	3	2	古墳時代前期中心	405	11-003142	土師器壺腹部	1	10	古墳時代前期中心
369	11-003106	須恵器壺体一底部	1	8		6-305-025グリット					
6-295-980グリット						6-305-985グリット					
370	11-003107	土師器壺腹部	1	2	古墳時代前期中心	406	11-003143	土師器壺口縁部	1	20	古墳時代前期中心
371	11-003108	土師器壺口縁部	1	12	平安時代中心	407	11-003144	土師器壺腹部	12	50	古墳時代前期中心
372	11-003109	土師器壺体一底部	1	16	平安時代中心	408	11-003145	土師器壺口縁部	1	2	平安時代中心
6-295-995グリット						6-305-970グリット					
373	11-003110	土師器壺腹部	4	30	古墳時代前期中心	409	11-003146	土師器壺腹部	1	6	古墳時代前期中心
374	11-003111	土師器壺口縁部	2	21	平安時代中心	6-305-985グリット					
375	11-003112	土師器壺腹部	6	16	平安時代中心	410	11-003147	土師器壺腹部	1	6	古墳時代前期中心
376	11-003113	土師器壺口縁部	18	87	平安時代中心	6-360-780グリット					
377	11-003114	土師器壺体一底部	38	177	平安時代中心	411	11-003148	土師器壺体一底部	1	2	平安時代中心
378	11-003115	須恵器壺腹部	2	91		6-990-260グリット					
379	11-003116	須恵器壺口縁部	2	6		412	11-003150	土師器壺口縁部	1	19	平安時代中心
380	11-003117	土師器壺体一底部	2	38	平安時代中心	6-990-280グリット					
381	11-003118	須恵器壺腹部	1	18		413	21-002110	石	1	537	
382	11-003119	鉄質陶器	1	98							

6区2面遺構外出土遺物

6-2-2面

No	資料番号	資料名称	測定値[m]	形状・数形・調査等の特徴	備考	図面番号	図版番号
1	10-000705	須恵器壺	底径 7.6 残高 3.6	体一定量口立、灰白色を呈し、濃淡良好、右肩輪縁腹膨形、底部に筋絶流あり。体部外面一底部に自然蝕	9世紀前半		

遺物一覧

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
6-1-Aa-B7					
1	11-003151	土師器壺口縁部	3	18	平安時代中心
2	11-003152	土師器壺体部	13	20	平安時代中心
3	11-003153	土師器環口縁部	5	25	平安時代中心
4	11-003154	土師器環体-底部	21	50	平安時代中心
5	11-003155	須恵器壺体部	1	5	
6	11-003156	須恵器壺口縁部	1	17	
7	11-003157	須恵器壺体-底部	1	8	
6-1-F7aF					
8	11-003158	土師器壺口縁部	23	138	平安時代中心
9	11-003159	土師器壺体部	70	277	平安時代中心
10	11-003160	土師器壺底部	4	29	平安時代中心

6-1-厚板瓦残片

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-000103	自然木	1		

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
11	11-003161	土師器環口縁部	55	220	平安時代中心
12	11-003162	土師器環体-底部	134	536	平安時代中心
13	11-003163	土師器高坏脚部	2	24	平安時代中心
14	11-003164	須恵器壺口縁部	6	223	
15	11-003165	須恵器壺口縁部	1	11	薄手
16	11-003166	須恵器壺体部	67	2798	
17	11-003167	須恵器壺体部	9	77	薄手
18	11-003168	須恵器壺底部	2	63	
19	11-003169	須恵器壺口縁部	8	38	
20	11-003170	須恵器壺底部	5	88	
21	11-003171	須恵器高台付坏体-底部	38	296	
22	11-003172	鉄製脚部	16	400	

遺物一覧

7区の出土遺物

7-1 7区1面の出土遺物

7-1-2号溝

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考	No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-003173	土師器壺体部	1	7	古墳時代前期中心	3	11-003175	須恵器環口縁部	1	3	
2	11-003174	須恵器壺体部	1	44	平安時代中心						

7-1-5号溝

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考	No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-003176	須恵器壺体一底部	2	23	平安時代中心	1	11-003177	須恵器壺底面	1	5	

7-1-7号溝

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-003177	須恵器壺底面	1	5	

7-1-1号溝

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考	No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-003178	土師器壺体部	21	112	古墳時代前期中心	9	11-003187	土師器環口縁部	1	3	平安時代中心
2	11-003179	土師器壺口縁部	5	43	古墳時代前期中心	10	11-003188	須恵器壺体一底部	1	20	
3	11-003181	土師器壺底面	3	38	古墳時代前期中心	11	11-003189	灰釉陶器口縁部	1	6	
4	11-003182	土師器高坏外部	1	7	古墳時代前期中心	12	11-003190	倉持陶器	1	9	
5	11-003183	土師器高坏外部	6	35	古墳時代前期中心	13	11-003191	兼勝陶器壺口縁部	1	30	
6	11-003184	土師器壺口縁部	3	17	平安時代中心	14	11-003192	埴輪口縁部	2	10	
7	11-003185	土師器壺体部	3	13	平安時代中心	15	11-003193	雲葉火鉢	3	600	
8	11-003186	土師器壺体一底部	7	30	平安時代中心	16	11-003194	瓦	1	30	

7-1-2号溝

No	資料番号	資料名称	測定値(cm)	形状・彫形・調整等の特徴	備考	国庫番号	国庫発号
1	10-000706	男瓦	長さ 10.5×12.2 厚さ 1.2	断片。下面毎日直。全周面に陰線で見える。上面・側面調整	律令期	第167図-1	PL87
2	10-000707	女瓦	長さ 11.2×6.0 厚さ 1.0	断片。下面毎日直。一部に陰線で見える。上面・側面調整	律令期	第167図-2	PL87
3	10-000708	土師器高坏	残高 6.2	坏部大半と脚部欠損。脚上部段り彫形後内面指痕で、これを除く内面顔孔目縁無彫り。外面無彫り	4世紀前半	第167図-3	PL87
4	10-000709	火鉢	残高(4.8)×(6.3) 厚さ 2.1	口縁部片。内外面指痕で、外面指押え痕	現代か	第167図-5	PL110
5	4-0-000248	磚積	12.5×12.3×0.7	左右裏面に溝が彫られ、ここに方形の孔5箇所つ穿たれる	現代か	第167図-4	PL87

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考	No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
6	11-003195	土師器壺体部	174	966	古墳時代前期中心	22	11-003212	磁器・網	9	190	
7	11-003196	土師器壺体部	1	10	古墳時代前期中心	23	11-003213	磁器おろし皿	1	10	
8	11-003197	土師器壺口縁部	1	1	古墳時代前期中心	24	11-003215	陶器壺体一底部	8	130	
9	11-003199	土師器壺底面	3	69	古墳時代前期中心	25	11-003216	陶器口縁部	1	2	
10	11-003200	土師器高坏外部	5	35	古墳時代前期中心	26	11-003217	陶器すり鉢	1	20	
11	11-003201	土師器高坏外部	6	35	古墳時代前期中心	27	11-003218	灰釉陶器壺口縁部	1	30	
12	11-003202	土師器壺口縁部	3	20	平安時代中心	28	11-003219	灰釉陶器体部	1	20	
13	11-003203	土師器壺体部	14	28	平安時代中心	29	11-003220	灰釉陶器壺体一底部	5	40	
14	11-003204	土師器環口縁部	16	36	平安時代中心	30	11-003221	兼勝陶器口縁部	2	30	
15	11-003205	土師器壺体一底部	38	199	平安時代中心	31	11-003222	兼勝陶器体部	1	20	
16	11-003206	須恵器壺体部	3	67	平安時代中心	32	11-003223	兼勝陶器鉢	4	98	
17	11-003207	須恵器口縁部	1	5	平安時代中心	33	11-003224	兼勝陶器火鉢	1	10	
18	11-003208	須恵器壺体一底部	2	20	平安時代中心	34	11-003225	内耳陶器体部	1	11	
19	11-003209	須恵器壺	1	3	平安時代中心	35	11-003226	雲葉火鉢	1	3	
20	11-003210	灰釉陶器壺体一底部	1	10	平安時代中心	36	11-003227	瓦	2	120	
21	11-003211	磁器壺	3	20	江戸時代	37	21-002111	糠	12	443	

7-1-3号溝

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-00229	土師器壺口縁部	1	44	古墳時代前期中心
2	11-00230	土師器壺体部	14	71	古墳時代前期中心
3	11-00231	土師器壺体部	3	11	平安時代中心

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
4	11-00232	土師器環口縁部	4	22	平安時代中心
5	11-00233	土師器环体一部	7	12	平安時代中心
6	11-00234	須恵器壺体部	1	22	

7-1-4号溝

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-00235	土師器壺体部	10	41	古墳時代前期中心
2	11-00236	土師器环体一部	3	5	平安時代中心
3	11-00237	須恵器轆轤一部	1	16	平安時代中心

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
4	11-00238	埴輪陶器壺口縁部	2	2	
5	11-00239	女瓦	1	14	

7-1-5号溝

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-00240	土師器壺口縁部	1	3	古墳時代前期中心
2	11-00241	土師器壺体部	53	202	古墳時代前期中心
3	11-00242	土師器壺底部	2	31	古墳時代前期中心
4	11-00243	土師器高坏体部	2	10	古墳時代前期中心
5	11-00244	土師器高坏体部	3	31	古墳時代前期中心
6	11-00245	土師器壺体部	16	26	平安時代中心

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
7	11-00246	土師器環口縁部	2	5	平安時代中心
8	11-00247	土師器环体一部	12	27	平安時代中心
9	11-00248	須恵器壺体部	3	100	
10	11-00249	須恵器壺口縁部	2	8	
11	11-00250	須恵器轆轤一部	4	18	
12	11-00251	埴輪陶器壺口縁部	1	1	

7-1-7号溝

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-00252	土師器壺体部	6	36	古墳時代前期中心
2	11-00253	土師器環口縁部	1	1	平安時代中心
3	11-00254	土師器环体一部	1	8	平安時代中心

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
4	11-00255	須恵器壺体部	1	11	
5	11-00256	須恵器急須	1	30	
6	11-00257	埴輪陶器壺体部	1	6	

7-1-8号溝

No	資料番号	資料名称	測定値(cm)	形状・彫形・調整等の特徴	備考	図面番号	図版番号
1	90-000402	ガラス瓶	口径 1.5 瓶径 6.5	完形。瓶頸部を呈する。気孔入る。			第168図-1 PL110
2	20-000372	磁石	(2.0)×2.2×(4.6)	上部右側部破片。上端切り磨し。表面、右側面に研削面残る。	アイサイト		第168図-1 PL87
3	20-000373	磁石	4.1×3.4×(6.2)	上段破片。上端切り磨し。表面、左右側面に研削面残る。背に表面は研削による段が見られる。	アイサイト		第168図-2 PL87
4	20-000374	磁石	6.7×4.4×(7.1)	下半欠損。表面面に研削面残る	ひん岩		第168図-3 PL87

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
5	11-00258	土師器壺体部	1	10	古墳時代前期中心
6	11-00259	土師器壺口縁部	2	23	古墳時代前期中心
7	11-00260	土師器壺体部	30	106	古墳時代前期中心
8	11-00261	土師器壺体部	4	51	古墳時代前期中心
9	11-00262	土師器高坏体部	5	32	古墳時代前期中心
10	11-00263	土師器壺体部	36	146	平安時代中心
11	11-00264	土師器環口縁部	3	11	平安時代中心
12	11-00265	土師器环体一部	22	56	平安時代中心
13	11-00266	須恵器壺口縁部	2	80	
14	11-00267	須恵器壺体部	9	358	平安時代中心
15	11-00268	須恵器轆轤一部	8	115	平安時代中心
16	11-00269	染付	1	6	
17	11-00270	磁器碗	17	290	
18	11-00271	軟質陶器壺体部	3	89	

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
19	11-00272	軟質陶器鉢底部	1	69	
20	11-00273	軟質陶器火鉢口縁部	1	9	
21	11-00274	埴輪口縁部	1	12	
22	11-00275	埴輪体部	1	6	
23	11-00276	瓦	1	138	
24	11-00277	女瓦	1	24	
25	11-00278	陶器壺体部	1	40	
26	11-00279	陶器火鉢	1	60	
27	11-00280	埴輪陶器口縁部	4	12	
28	11-00281	埴輪陶器底部	10	178	
29	11-00282	軟質陶器鉢体部	2	15	
30	20-02112	鏝	11	293	
31	41-000305	釘	1	2	
32	41-000306	ボルトか?	2	130	

遺物一覧

7-1-8号清南会流域

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-003283	土器器蓋口縁部	1	1	古墳時代前期中心
2	11-003284	土器器蓋体部	36	198	古墳時代前期中心
3	11-003287	土器器蓋底部	2	48	古墳時代前期中心
4	11-003288	土器器高坏部	3	10	古墳時代前期中心
5	11-003289	土器器蓋体部	15	57	平安時代中心
6	11-003290	土器器環口縁部	3	11	平安時代中心
7	11-003291	土器器坏体一底部	5	17	平安時代中心
8	11-003292	須恵器器蓋口縁部	1	6	平安時代中心

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
9	11-003285	須恵器器蓋体部	6	224	
10	11-003286	須恵器碗体一底部	1	16	
11	11-003293	須恵器器蓋体部	6	224	
12	11-003294	埴輪陶器	6	90	
13	11-003295	埴輪陶器体部	3	70	
14	11-003296	埴輪破片?	2	30	
15	11-003297	内耳陶器口縁部?	1	20	

7-1-9号溝

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-003298	土器器蓋底部	1	32	古墳時代前期中心
2	11-003299	土器器蓋口縁部	1	4	古墳時代前期中心
3	11-003300	土器器蓋体部	3	15	古墳時代前期中心
4	11-003301	土器器蓋底部	1	12	古墳時代前期中心
5	11-003302	土器器高坏部	1	3	古墳時代前期中心
6	11-003303	土器器坏体一底部	2	4	平安時代中心

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
7	11-003304	須恵器器蓋体部	7	297	
8	11-003305	須恵器器蓋口縁部	1	5	
9	11-003306	須恵器器蓋体部	1	6	
10	11-003307	瓦瓦	1	2	
11	21-002113	磚	1	216	

7-1-11号溝

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-003308	土器器蓋体部	20	81	古墳時代前期中心
2	11-003309	土器器蓋底部	2	47	古墳時代前期中心
3	11-003310	土器器高坏部	3	21	古墳時代前期中心
4	11-003311	土器器環口縁部	7	34	平安時代中心
5	11-003312	土器器坏体一底部	16	44	平安時代中心

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
6	11-003313	須恵器器蓋体部	1	6	
7	11-003314	須恵器器蓋口縁部	1	5	
8	11-003315	須恵器器蓋体一底部	1	4	
9	41-000207	鉄さし	1	7	

7-1-12号溝

No	資料番号	資料名称	測定値(cm)	形状・整料・調整等の特徴	備考	図面番号	図取番号
1	10-000710	須恵器高台付碗	外径 6.2 高さ 2.2 口径 2.4×0.9	胴部一高台部破片。回転軸輪彫形。高台部分付後底面側で	9世紀前半	第169部-1	PL87
2	40-000247	寛永通宝	径 3.0	上左側欠損		第169部-2	PL111

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
3	11-003316	土器器蓋体部	8	85	古墳時代前期中心
4	11-003317	土器器環口縁部	1	2	平安時代中心
5	11-003318	土器器坏体一底部	3	3	平安時代中心

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
6	11-003319	磁器磁碗	3	20	
7	11-003320	埴輪陶器口縁部	1	8	

7-1-13号溝

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-003321	土器器蓋口縁部	3	14	古墳時代前期中心
2	11-003322	土器器蓋体部	67	559	古墳時代前期中心
3	11-003323	土器器蓋底部	5	40	古墳時代前期中心
4	11-003324	土器器高台付坏部	3	35	古墳時代前期中心
5	11-003325	土器器高坏部	1	10	古墳時代前期中心
6	11-003326	土器器蓋口縁部	1	5	平安時代中心
7	11-003327	土器器環口縁部	2	4	平安時代中心
8	11-003328	土器器坏体一底部	22	64	平安時代中心
9	11-003329	須恵器器蓋体部	8	439	平安時代中心

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
10	11-003330	須恵器器蓋口縁部	2	7	
11	11-003331	須恵器器蓋体部	4	100	
12	11-003332	須恵器器蓋体一底部	3	28	
13	11-003333	須恵器高台付坏部一底部	1	12	
14	11-003334	磁器口縁部	2	3	
15	11-003335	埴輪陶器碗体部	4	30	
16	11-003336	埴輪陶器碗体一底部	2	26	
17	11-003337	軟質陶器口縁部	1	30	
18	21-002114	磚	1	152	

7-1-14号溝

No	資料番号	資料名称	測定値(cm)	形状・整料・調整等の特徴	備考	図面番号	図取番号
1	40-000248	角釘	長さ 5.1×0.9 径 0.8	尖端欠損。頭部折入。	9世紀前半	第171部-1	PL110

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考	No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
2	11-003338	土師器甕口縁部	2	2	古墳時代前期中心	8	11-003344	須恵器碗体-底部	2	6	
3	11-003339	土師器甕体部	16	100	古墳時代前期中心	9	11-003345	陶器甕体部	3	60	
4	11-003340	土師器杯口縁部	1	1	平安時代中心	10	11-003346	陶器甕口縁部	1	10	
5	11-003341	土師器杯体-底部	13	24	平安時代中心	11	11-003347	陶器碗体-底部	1	20	
6	11-003342	須恵器甕体部	4	131	平安時代中心	12	21-002115	甕	2	45	
7	11-003343	須恵器甕口縁部	1	2	平安時代中心	13	31-000104	木	1	16	

7-1-16号溝

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考	No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-003348	土師器杯口縁部	1	7	平安時代中心	3	11-003350	須恵器甕体部	2	38	
2	11-003349	土師器杯体-底部	1	2	平安時代中心	4	11-003351	須恵器甕体部-底部	1	3	

7-1-17号溝

No	資料番号	資料名称	測定値(cm)	形状・変形・調整等の特徴	備考	図面番号	図取番号
1	10-000711	須恵器高台片破	直径 10.5 残高 3.5	環~高台部片。右回転轆轤変形。高台台付け後底面撫で	8世紀後半		第173図-1 PL47
2	10-000712	須恵器杯	口径(11.8) 残高 3.7	口縁~磨部破片。俊貞良好。右回転轆轤変形	8世紀後半		第173図-2 PL47

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考	No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
3	11-003352	土師器甕台部受部	1	3	古墳時代前期中心	8	11-003357	須恵器口縁部	2	5	
4	11-003353	土師器杯口縁部	1	1	平安時代中心	9	11-003358	須恵器甕口縁部	2	9	
5	11-003354	土師器杯体-底部	8	14	平安時代中心	10	11-003359	軟質陶器甕体部	1	50	
6	11-003355	須恵器甕体部	2	81	平安時代中心	11	11-003360	灯明籠底部	1	65	
7	11-003356	須恵器甕体部-底部	1	10	平安時代中心						

7-1-18号溝

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考	No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-003361	土師器甕口縁部	1	18	平安時代中心	8	11-003369	須恵器甕体部	4	140	
2	11-003362	土師器杯口縁部	1	1	平安時代中心	9	11-003369	土師質土師器体部	1	70	
3	11-003363	土師器杯体-底部	5	15	平安時代中心	10	11-003370	軟質陶器甕口縁部	1	10	
4	11-003364	須恵器口縁部	1	1	平安時代中心	11	11-003371	燈籠底部	1	2	
5	11-003365	須恵器碗体-底部	2	11	平安時代中心	12	11-003372	かわらけ底掘	1	2	
6	11-003366	須恵器甕口縁部	1	8		13	21-002116	甕	1	30	
7	11-003367	須恵器体部	12	230							

7-1-20号溝

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考	No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-003373	土師器甕体部	1	4	平安時代中心	3	11-003375	女瓦	1	40	
2	11-003374	須恵器蓋	1	25	平安時代中心						

7-1-22号溝

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-003376	土師器杯体-底部	2	5	平安時代中心

7-1-23号溝

No	資料番号	資料名称	測定値(cm)	形状・変形・調整等の特徴	備考	図面番号	図取番号
1	10-000713	土師器蓋	口径(25.6) 残高 7.9	口縁部破片。口縁部内面に青い返し。口縁中以外面に青い返し。の残片。外周部は直縁。数より上位推定。内底面撫で	3世紀末~4世紀前半。東海式	第172図-1	PL47

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考	No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
2	11-003377	土師器甕体部	6	22	平安時代中心	3	11-003378	土師器杯体-底部	3	5	平安時代中心

遺物一覧

7-1-2号溝

No	資料番号	資料名称	測定値(cm)	形状・整形・調整等の特徴	備考	図面番号	図版番号
1	10-000714	土器器台付蓋	口径(15.5) 残高 3.9	口縁一部破片。S字状口縁。口縁傾面で、有部の円筒部で、外縁部毛目	4世紀前半		第1608-1 PL87

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考	No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
2	11-003379	土器器蓋体部	1	40	古墳時代前期中心	7	11-003384	須恵器甕底部	1	63	
3	11-003380	土器器蓋体部	11	71	古墳時代前期中心	8	11-003385	須恵器甕口縁部	1	4	
4	11-003381	土器器口縁部	2	2	平安時代中心	9	11-003386	須恵器甕体一底部	2	13	
5	11-003382	土器器体一底部	11	28	平安時代中心	10	11-003387	陶器甕体部	1	12	
6	11-003383	須恵器甕体部	1	18	平安時代中心						

7-1-2号土坑

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考	No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-003388	土器器口縁部	1	8	平安時代中心	3	41-000208	鏡片	2	80	
2	11-003389	須恵器甕底部	2	8	平安時代中心						

7-1-3号土坑

No	資料番号	資料名称	測定値(cm)	形状・整形・調整等の特徴	備考	図面番号	図版番号
1	20-000373	礎石	17.4×14.8×7.8	川原石製。表面は比較的平たく柱の当り側除く酸化マンガン沈着。柱長は径7×7cmの方式	ひん岩		第17580-1 PL87

7-1-5号土坑

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考	No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-003389	土器器蓋体部	5	17	平安時代中心	4	11-003392	須恵器甕体部	2	69	
2	11-003390	土器器蓋体部	1	10	平安時代中心	5	11-003393	須恵器甕口縁部	1	2	
3	11-003391	土器器体一底部	3	6	平安時代中心	6	11-003394	須恵器甕体一底部	1	7	

7-1-7号土坑

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考	No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-003395	土器器蓋体部	9	37	古墳時代前期中心	4	11-003398	須恵器甕口縁部	1	11	
2	11-003396	土器器高坏脚部	1	3	古墳時代前期中心	5	11-003399	須恵器甕体部	1	24	
3	11-003397	土器器体一底部	7	8	平安時代中心						

7-1-B下水道

No	資料番号	資料名称	測定値(cm)	形状・整形・調整等の特徴	備考	図面番号	図版番号
1	10-000712	須恵器甕	残高 6.4×5.1 径 1.5	口縁～天舟部破片。上面に縄文圧痕残る	7世紀末葉		第17980-1 PL111

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考	No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
2	11-003400	土器器甕口縁部	2	54	古墳時代前期中心	10	11-003406	土器器甕口縁部	3	14	平安時代中心
3	11-003401	土器器甕体部	3	10	古墳時代前期中心	11	11-003409	須恵器甕口縁部	2	65	
4	11-003402	土器器甕口縁部	2	20	古墳時代前期中心	12	11-003410	須恵器甕体部	25	850	
5	11-003403	土器器甕体部	7	40	古墳時代前期中心	13	11-003411	須恵器甕底部	1	50	
6	11-003404	土器器台付蓋体部	2	3	古墳時代前期中心	14	11-003412	須恵器甕体部	6	30	
7	11-003405	土器器甕口縁部	1	2	平安時代中心	15	11-003413	須恵器甕底部	1	20	
8	11-003406	土器器体一底部	9	30	平安時代中心	16	11-003414	須恵器高台付甕底部一高合	4	49	
9	11-003407	土器器甕口縁部	1	2	平安時代中心	17	11-003415	陶器甕	1	2	

7-1-B下水道一坑

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-003416	須恵器甕底部	5	89	

7-1 面遺構外出土遺物

7-1-遺土・遺構外

No	資料番号	資料名称	測定値(cm)	形状・外形・調整等の特徴	備考	図面番号	図取番号
1	20-000276	板磚	5.6×12.5×1.9	破片	緑色片岩	-	PL89
2	40-000269	瓦類	1.87×1.87×0.125	大正期。表裏面両面直立跡並行不齊。厚3.5mmの円孔。左と右にすりこみ	大正9年制定小	第182図-2	PL89
3	20-000277	石臼(挽臼)	残径 13.3×13.2 高さ 11.5	上臼14破片。目目跡。芯径深さ3.5cm。側面に径2cm、長さ4.5cmの狭長孔。窪み部が1等分される	横紋輝石安山岩	第182図-3	PL89
4	20-000278	石臼(挽臼)	残径 11.2×12.7 高さ 11.5	上臼14破片。丸磨の目傷中に残る。径4cm以上の狭長孔	横紋輝石安山岩	第182図-4	PL89
5	20-000279	石臼(挽臼)	残径 9.1×11.6 高さ 8.8	上臼破片。目目跡。縁厚く、側面に径1.6cm、深さ5.1cmの狭長孔	横紋輝石安山岩	第182図-5	PL89
6	20-000280	石鉢	残径 7.0×10.7 高さ 6.3	1/4破片。小型。側面と底面にはつり痕残り。内面磨耗	横紋輝石安山岩	第182図-6	PL89

No	資料番号	資料名称	数量	重量(kg)	備考	No	資料番号	資料名称	数量	重量(kg)	備考
7-1-1面											
7	11-003417	土師器壺口縁部	4	77	古墳時代前期中心	16	11-003426	灰輪陶器残体-底部	1	8	
8	11-003418	土師器壺底部	33	233	古墳時代前期中心	17	11-003427	土師器壺底部	4	8	平安時代中心
9	11-003419	土師器高坏部-唇部	3	35	古墳時代前期中心	18	11-003429	須恵器壺底部	1	11	平安時代中心
10	11-003420	土師器高坏部	1	6	古墳時代前期中心	19	11-003430	須恵器残体-底部	2	9	平安時代中心
11	11-003421	土師器口縁部	2	6	古墳時代前期中心	7-1-2表層					
12	11-003422	土師器口縁部-底部	19	55	平安時代中心	20	11-003431	須恵器壺底部	1	25	
13	11-003423	須恵器壺口縁部	1	42		21	11-003432	灰輪陶器壺口縁部	1	5	
14	11-003424	須恵器壺底部	3	78		22	21-002117	黒色頁岩割片	1	25	
15	11-003425	須恵器残体-底部	3	18		23	41-000209	釘	1	5	

No	資料番号	資料名称	数量	重量(kg)	備考	No	資料番号	資料名称	数量	重量(kg)	備考
7-1-1紙裏C黒下											
24	11-003428	土師器壺底部	6	123	古墳時代前期中心	30	11-003439	土師器壺底部	6	14	平安時代中心
6-1-東側掘高地											
25	11-003434	土師器壺底部	35	100	古墳時代前期中心	31	11-003440	須恵器壺底部	4	80	
26	11-003435	土師器壺底部	5	28	古墳時代前期中心	32	11-003441	須恵器壺底部	1	2	
27	11-003436	土師器台付壺口縁部	1	30	古墳時代前期中心	33	11-003442	須恵器壺底部	1	2	
28	11-003437	土師器壺底部	2	1	平安時代中心	34	11-003443	須恵器高台付残底-高台部	4	40	
29	11-003438	土師器口縁部	2	2	平安時代中心	7-330-990グリットA-B?水田					
						35	41-000210	鉄?	8	50	

7-2 7区2面の出土遺物

7-2-1号住居

No	資料番号	資料名称	測定値(cm)	形状・外形・調整等の特徴	備考	図面番号	図取番号
1	10-000716	ミニチュア土器台付壺	口径 3.3 高さ 5.5	口縁一部欠損。内外面漆塗の痕跡があり、指痕で	4世紀		第183図-1 PL89
2	10-000717	土師器杯	口径(11.0) 残高 2.9	口縁一部破片。口縁磨蝕で、体部内面磨蝕で、外面磨り	3世紀末～9世紀初葉		第183図-2 PL89

No	資料番号	資料名称	数量	重量(kg)	備考	No	資料番号	資料名称	数量	重量(kg)	備考
7-2-1号住居東上											
3	11-003444	土師器壺底部	8	87	古墳時代前期中心	7-2-1号住居西上					
4	11-003445	土師器高坏部	1	16	古墳時代前期中心	11	11-003452	土師器壺底部	30	94	平安時代中心
5	11-003446	土師器高坏部	1	36	古墳時代前期中心	12	11-003453	土師器高坏部	2	4	平安時代中心
6	11-003447	土師器壺口縁部	1	11	平安時代中心	13	11-003454	土師器壺口縁部	1	4	平安時代中心
7	11-003448	土師器壺底部	2	4	平安時代中心	14	11-003456	土師器口縁部	3	14	平安時代中心
8	11-003449	土師器口縁部	4	19	平安時代中心	15	11-003457	土師器壺底部	4	13	平安時代中心
9	11-003450	土師器壺底部	4	10	平安時代中心	16	11-003458	須恵器残体-底部	1	5	
10	11-003451	土師器壺口縁部	3	21	古墳時代前期中心	17	11-003459	須恵器壺残体	1	2	

遺物一覧

7-2-2号住居

No	資料番号	資料名称	測定値(cm)	形状・整形・調整等の特徴	備考	図面番号	図取番号
1	10-000718	土器器蓋	口径19.0 高さ4.4	口縁一部破片。コ字状口縁。口縁縁部で、肩部内面寛狭で、外底片張り	9世紀前半	第184図-1	PL89
2	10-000719	須恵器蓋	口径16.0 高さ7.7	腰一底部1/4、腰部狭で、腰部外面下端一底面片張り	9世紀前半	第184図-2	PL90
3	10-000720	土器器蓋小	口径20.5 高さ3.5	口縁破片、内外面明白整形痕跡で	4世紀	第184図-3	PL90
4	10-000721	須(陶器小)	口径4.8 高さ0.8	腰一底部破片、回転軸調整形、底面赤切り		第184図-4	PL90

No	資料番号	資料名称	数量	重量(kg)	備考	No	資料番号	資料名称	数量	重量(kg)	備考
7-2-2号住居地上						7-2-2号住居地下					
5	11-003460	土器器蓋体部	3	14	古墳時代前期中心	7	11-003462	土器器体口縁部	2	12	平安時代中心
6	11-003461	土器器蓋底部	1	2	古墳時代前期中心	8	11-003463	土器器体一底部	11	45	平安時代中心

7-2-5号住居

No	資料番号	資料名称	測定値(cm)	形状・整形・調整等の特徴	備考	図面番号	図取番号
1	10-000722	土器器体	口径14.2 高さ3.6	口縁一部破片。口縁縁部で、体部内面寛狭で、外底片張り	8世紀後半	第186図-1	PL90
2	10-000723	土器器体	口径12.2 高さ3.4	口縁一部破片/2欠損。底面に半円形の唇部。口縁縁部で、体一底部内面寛狭で、体外面片張り	8世紀末-9世紀前半	第186図-2	PL90
3	10-000724	土器器体	口径12.3 高さ2.9	口縁一部破片/2欠損。口縁縁部で、体一底部内面寛狭で、体外面片張り	8世紀末-9世紀前半	第186図-3	PL90
4	10-000725	土器器体	口径15.5 高さ3.1	3/4、口縁縁部で、体一底部内面寛狭で、体外面片張り	8世紀末-9世紀前半	第186図-4	PL90
5	10-000726	須恵器体	口径12.2 直径7.2 高さ3.6	口縁2/3欠損。消化粘結土、右回転軸調整形、底面回転赤切り痕跡及び調整し、底面一層	8世紀末-9世紀前半	第186図-5	PL90
6	10-000727	須恵器体	口径12.4 直径6.8 高さ3.5	1/2、高古軸付けか、右回転軸調整形。底面回転赤切り痕、調整痕跡が少	8世紀末-9世紀前半	第186図-6	PL90
7	10-000728	須恵器体	口径12.3 直径6.4 高さ4.0	口縁一部欠損。底面不平等面調整形。右回転軸調整形。底面回転赤切り	8世紀末-9世紀前半	第186図-7	PL90
8	10-000729	土器器体	口径21.6 高さ8.1	1/4、外底片張り。口縁縁部で、体部一底部内面寛狭で、外底片張り	8世紀後半	第186図-8	PL90
9	10-000730	土器器体	口径10.5 高さ8.2	口縁一部破片。口縁縁部で、体部一底部内面寛狭で、外底片張り	8世紀末-9世紀前半	第186図-9	PL90
10	10-000731	土器器体	口径20.0 高さ4.7	口縁一部破片。口縁縁部で、体部内面寛狭で、外底片張り	8世紀後半	第186図-10	PL90
11	10-000732	土器器特種車	径4.5×6.5 高さ2.1	ほぼ完全形。底面平たい。上段に径9mm、深さ0.5mmの溝みがあり、中央に径1.5×1.5mmの孔が開く。底面粘土質で調整	第186図-11	PL91	
12	20-000381	礎石	残存9.1×11.2×4.3	礎石。河床使用。表面に磨石面残存。		-	PL91

No	資料番号	資料名称	数量	重量(kg)	備考	No	資料番号	資料名称	数量	重量(kg)	備考
7-2-5号住居地上						7-2-5号住居地下					
13	11-003464	土器器蓋頸部	1	8	古墳時代前期中心	20	11-003471	土器器口縁部	1	25	平安時代中心
14	11-003465	土器器蓋体部	10	56	古墳時代前期中心	21	11-003472	土器器蓋体部	11	169	平安時代中心
15	11-003466	土器器蓋口縁部	2	12	平安時代中心	22	11-003473	土器器蓋底部	2	168	平安時代中心
16	11-003467	土器器蓋体部	27	165	平安時代中心	23	11-003475	土器器体一底部	3	14	平安時代中心
17	11-003468	土器器体口縁部	4	11	平安時代中心						
18	11-003469	土器器体一底部	4	11	平安時代中心						
19	11-003470	須恵器体一底部	1	2	平安時代中心、重土着土						

7-2-2号溝

No	資料番号	資料名称	測定値(cm)	形状・整形・調整等の特徴	備考	図面番号	図取番号
1	10-000733	土器器体	口径12.4 高さ3.6	整形。口縁縁部で、体一底部内面寛狭で、外底片張り後体調整	9世紀前半	第188図-1	PL91
2	10-000734	土器器体	口径13.0 高さ3.7	3/4、口縁縁部で、体一底部内面寛狭で、体外面片張り	9世紀前半	第188図-2	PL91
3	10-000735	須恵器蓋	口径14.9 直径6.4 高さ3.1	口縁1/4欠損。右回転軸調整形。口縁縁部で底面に赤切り。底面調整痕跡が少	9世紀前半	第188図-3	PL91

遺物一覧

No	資料番号	資料名称	測定値(cm)	形状・彫形・調整等の特徴	備考	図面番号	図取番号
4	10-000726	土器器坏	口径 11.5 器高 07.5	1/3. 口縁輪縁で、体一底部内面直縁で、外部直縁有り	9世紀前半	第180図-4	PL91
5	10-000727	土器器坏	口径 11.8 残高 3.0	1/3. 口縁輪縁で、体一底部内面直縁で、外面直縁有り	8世紀後半～9世紀前半	第180図-5	PL91
6	10-000728	須恵器器坏	口径 6.8 残高 3.25	口縁部欠損。右回転輪縁彫形。流成ややい	9世紀前半	第180図-6	PL91
7	20-000382	磁石	5.1×3.8×15.1	河床石使用。上端に敲打痕残る。表面・左右顔面に硬直痕残るが右顔面は設置。中位に磨耗痕一痕下る	惣歌碑石安山岩	第180図-7	PL91

No	資料番号	資料名称	数量	重量(kg)	備考
8	11-003476	土器器坏体部	10	52	古墳時代前期中心
9	11-003477	土器器坏底部	2	7	古墳時代前期中心
10	11-003478	土器器坏外脚部	1	6	古墳時代前期中心
11	11-003479	土器器坏口縁部	2	16	平安時代中心
12	11-003480	土器器坏体部	14	85	平安時代中心

No	資料番号	資料名称	数量	重量(kg)	備考
13	11-003481	土器器坏口縁部	26	90	平安時代中心
14	11-003482	土器器坏体一底部	29	101	平安時代中心
15	11-003483	須恵器器坏体部	2	20	
16	11-003484	須恵器器坏口縁部	1	3	

7-2-27号溝

No	資料番号	資料名称	測定値(cm)	形状・彫形・調整等の特徴	備考	図面番号	図取番号
1	10-000729	土器器坏	口径 12.4 器高 3.4	1/3. 口縁輪縁で、体一底部内面直縁で、外部直縁有り	9世紀前半	第180図-1	PL91
2	10-000740	土器器坏	口径 12.1 器高 3.2	1/3. 口縁輪縁で、体一底部内面直縁で、外部直縁有り	9世紀前半	第180図-2	PL91
3	20-000104	竹片か	長さ 1.6×(1.7) 幅 5.5	割線同定は行っていないが竹片と思われる。半截されている	—	—	PL91

No	資料番号	資料名称	数量	重量(kg)	備考
4	11-003485	土器器坏体部	17	107	古墳時代前期中心
5	11-003486	土器器坏底部	2	9	古墳時代前期中心
6	11-003487	土器器坏口縁部	5	22	平安時代中心
7	11-003488	土器器坏体部	3	8	平安時代中心
8	11-003489	土器器坏口縁部	24	130	平安時代中心

No	資料番号	資料名称	数量	重量(kg)	備考
9	11-003490	土器器坏体一底部	62	232	平安時代中心
10	11-003491	須恵器器坏体部	1	89	
11	11-003492	須恵器器坏口縁部	2	9	
12	11-003493	須恵器器坏体一底部	1	17	
13	11-003494	縄文	1	7	

7-2-28号溝

No	資料番号	資料名称	数量	重量(kg)	備考
1	11-003495	土器器坏体部	1	1	平安時代中心
2	11-003496	土器器坏底部	2	24	平安時代中心

No	資料番号	資料名称	数量	重量(kg)	備考
3	11-003497	土器器坏口縁部	10	35	平安時代中心
4	11-003498	土器器坏体一底部	10	36	平安時代中心

7-2-29号溝

No	資料番号	資料名称	測定値(cm)	形状・彫形・調整等の特徴	備考	図面番号	図取番号
1	10-000741	須恵器器坏付焼	口径 6.0 器高 1.8	胴一底部片。磨成甘い。右回転輪縁彫形。回転古切り。萬古足付及び基部直縁で	9世紀後半	第180図-1	PL91

No	資料番号	資料名称	数量	重量(kg)	備考
2	11-003499	土器器坏外脚部	1	6	古墳時代前期中心
3	11-003500	土器器坏口縁部	2	5	平安時代中心
4	11-003501	土器器坏体一底部	4	8	平安時代中心

No	資料番号	資料名称	数量	重量(kg)	備考
5	11-003502	須恵器器坏口縁部	1	4	
6	11-003503	須恵器器坏体一底部	1	4	

7-2-30号溝

No	資料番号	資料名称	数量	重量(kg)	備考
1	11-003504	土器器坏体部	1	1	平安時代中心

7-2-32号溝

No	資料番号	資料名称	数量	重量(kg)	備考
1	11-003505	土器器坏口縁部	3	35	古墳時代前期中心
2	11-003506	土器器坏体部	74	286	古墳時代前期中心
3	11-003507	土器器坏底部	1	1	古墳時代前期中心
4	11-003508	土器器坏体部	1	2	平安時代中心
5	11-003509	土器器坏口縁部	2	2	平安時代中心

No	資料番号	資料名称	数量	重量(kg)	備考
6	11-003510	土器器坏器受部	1	5	古墳時代前期中心
7	11-003511	土器器坏外脚部	2	16	古墳時代前期中心
8	11-003512	土器器坏口縁部	2	11	平安時代中心
9	11-003513	土器器坏体一底部	9	18	平安時代中心

遺物一覧

7-2-34号溝

No	資料番号	資料名称	測定値(m)	形状・整形・調整等の特徴	備考	国図番号	国図番号
1	10-000742	須恵器類	口径(19.0) 残高 4.7	口縁破片。口縁部上下に引く。	平安朝小	第101図-1	PL91

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
2	11-003514	土器高坏部受部	1	77	古墳時代前期中心

7-2-H/F上水田

No	資料番号	資料名称	測定値(m)	形状・整形・調整等の特徴	備考	国図番号	国図番号
1	10-000000	土器器類	残高 9.4 残高 2.1	底部分。底面内面消滅で、底面本裏残存	古墳時代後期	第191図-1	PL91

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考	No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
7-2-H/F上水田						7-200-910グリットF上水田					
2	11-003515	土器器口縁部	8	122	古墳時代前期中心	33	11-003544	土器器口縁部	7	25	平安時代中心
3	11-003516	土器器口縁部	69	510	古墳時代前期中心	34	11-003545	須恵器器底	2	18	平安時代中心
4	11-003517	土器器口縁部	6	144	古墳時代前期中心	7-300-850グリットF上水田					
5	11-003518	土器器口縁部	7	97	古墳時代前期中心	35	11-003546	土器器口縁部	2	18	古墳時代前期中心
6	11-003519	土器器口縁部	7	312	古墳時代前期中心	36	11-003547	土器器口縁部	54	389	古墳時代前期中心
7	11-003520	土器器口縁部	2	4	平安時代中心	37	11-003548	土器器口縁部	4	38	古墳時代前期中心
8	11-003521	土器器口縁部	1	1	平安時代中心	38	11-003549	土器器口縁部	1	5	古墳時代前期中心
9	11-003522	土器器口縁部	4	3		39	11-003550	土器器口縁部	3	36	古墳時代前期中心
10	11-003523	須恵器器口縁部	1	3		40	11-003551	須恵器器口縁部	1	12	平安時代中心
11	11-003524	須恵器器口縁部	2	4		7-300-880グリットF上水田					
12	21-002118	縄	1	807		41	11-003552	土器器口縁部	12	51	
7-200-920グリットF上水田						42	11-003554	土器器口縁部	2	10	古墳時代前期中心(4C)
13	11-003525	土器器口縁部	16	147	古墳時代前期中心	43	11-003555	土器器口縁部	1	2	平安時代中心
14	11-003526	土器器口縁部	2	12	古墳時代前期中心	44	11-003556	土器器口縁部	2	5	平安時代中心
15	11-003527	土器器口縁部	1	7	平安時代中心	45	11-003557	土器器口縁部	3	6	平安時代中心
16	11-003528	土器器口縁部	1	4	平安時代中心	46	11-003558	須恵器器口縁部	2	2	平安時代中心
17	11-003529	土器器口縁部	17	64	平安時代中心	7-305-915グリットF上水田					
18	11-003530	土器器口縁部	30	96	平安時代中心	47	11-003559	土器器口縁部	1	10	古墳時代前期中心
19	11-003531	須恵器器口縁部	2	21	平安時代中心	7-320-880グリットF上水田					
20	21-002119	縄	1	8	平安時代中心	48	11-003560	土器器口縁部	5	27	平安時代中心
7-200-905グリットF上水田						49	11-003561	土器器口縁部	108	541	平安時代中心
21	11-003532	土器器口縁部	12	76	古墳時代前期中心	50	11-003562	土器器口縁部	4	91	平安時代中心
22	11-003533	土器器口縁部	1	6	古墳時代前期中心	51	11-003563	土器器口縁部	6	78	平安時代中心
23	11-003534	土器器口縁部	4	17	平安時代中心	52	11-003564	土器器口縁部	3	15	平安時代中心
24	11-003535	土器器口縁部	1	3	平安時代中心	53	11-003566	須恵器器口縁部	1	21	
25	11-003536	土器器口縁部	5	12	平安時代中心	54	11-003567	須恵器器口縁部	5	32	
26	11-003537	須恵器器口縁部	3	129	平安時代中心	7-330-880グリットF上水田					
27	11-003538	須恵器器口縁部	3	42	平安時代中心	55	11-003568	土器器口縁部	1	3	平安時代中心
7-200-910グリットF上水田						7-2-南院高地C用上田					
28	11-003539	土器器口縁部	21	98	古墳時代前期中心	56	11-003569	土器器口縁部	1	7	平安時代中心
29	11-003540	土器器口縁部	3	35	古墳時代前期中心						
30	11-003541	土器器口縁部	1	8	古墳時代前期中心						
31	11-003542	土器器口縁部	4	25	平安時代中心						
32	11-003543	土器器口縁部	6	25	平安時代中心						

7-3 7区3面の出土遺物

7-3-3号住居

No	資料番号	資料名称	測定値(cm)	形状・形勢・調整等の特徴	備考	調査番号	図説番号
1	10-000743	土製器器台	口径(18.6) 残高 4.1	口縁-脚部上辺り、内孔の透かし有り。受け皿部上位残部と内孔縁も部分的に残る。	3世紀末葉	第195図-1	PL91
2	10-000744	土製器器台	口径 7.8 残高 4.5	口縁-脚部上辺り、径9mmの内孔の透かし3ヶ所。受皿部と脚部外面残部も、脚部内面残部も。	3世紀末葉	第195図-2	PL91
3	10-000745	土製器器台	口径(12.0) 残高 7.8	脚部のみ、径7mmの内孔の透かし、径10mmの内孔の透かし3ヶ所。外面残部も、内面残部も。	3世紀末葉	第195図-3	PL92
4	10-000746	土製器高坏	口径(16.0) 残高 7.4	1/2。器面残れる。脚部に径9mmの内孔の透かし3ヶ所。	3世紀末葉	第195図-4	PL92
5	10-000747	土製器高坏	口径(9.0) 縦線深 17.2 残高 9.4	1/2。器面残れる。脚部に径11mmの内孔の透かし3ヶ所。脚部外面残部も、内面残部も。	3世紀末葉	第195図-5	PL92
6	10-000748	土製器高坏	口径 8.7 残高 5.3	坏部は2方形。器面残れる。	3世紀末葉	第195図-6	PL92
7	10-000749	土製器高坏	器部径 3.6 残高 4.1	坏底部-脚部上辺り。坏底部内面朝毛目の残で、坏-脚部外面残部も。	3世紀末葉	第195図-7	PL92
8	10-000750	土製器高坏	器部径 19.2 残高 6.2	脚部のみ、径13mmの内孔の透かし1ヶ所。外面黒漆塗布の残も、内面残部も。内孔(内)部で。	3世紀末葉	第195図-8	PL92
9	10-000751	土製器高坏	器部径(12.8) 残高 7.3	坏部-脚部。器面残れる。径11mmの内孔の透かし3ヶ所。坏底部内面-脚部外面残部も。脚部内面残部も。	3世紀末葉	第195図-9	PL92
10	10-000752	土製器高坏	器部径 11.7 残高 7.9	坏口縁-器部上辺り。坏部外面残部も、坏-脚部外面朝毛目も残部も。器部内面も径11mm上位残部も。	3世紀末葉	第195図-10	PL92
11	10-000753	土製器高坏	口径 16.9 残高 7.2	坏1/2と器下部欠損。径13mmの内孔の透かし3ヶ所。坏部内外面残部も及び脚部内面残部も。脚部外面残部も、内面残部も。	3世紀末葉	第195図-11	PL92
12	10-000754	土製器高坏	器部径 13.0 残高 7.4	器部のみ、坏部欠損。径12mmの内孔の透かし3ヶ所。外面残部も、内面残部も。	3世紀末葉	第195図-12	PL92
13	10-000755	土製器高坏	器部径 11 残高 6.0	坏部-脚部。器部欠損。径12mmの内孔の透かし3ヶ所。坏部内外面-器部外面残部も、脚部内面残部も。	3世紀末葉	第195図-13	PL92
14	10-000756	土製器高坏	器部径(13.0) 残高 7.3	器部のみ、坏部欠損。径12mmの内孔の透かし3ヶ所。器部内面残部も、内面残部も。	3世紀末葉	第195図-14	PL92
15	10-000757	土製器高坏	口径 9.3 残高 5.5	坏口縁。器部透す欠損。器面残れる。坏部内面残部も。脚部外面残部も、内面残部も。	3世紀末葉	第195図-15	PL92
16	10-000758	土製器高坏	器部 3.5 器高 6.2	坏底部-脚部。器部欠損。径11mmの内孔の透かし3ヶ所。坏部内外面-脚部外面残部も、脚部内面残部も。	3世紀末葉	第195図-16	PL92
17	10-000759	土製器高坏	口径(24.0) 残高 5.0	坏部破片。内外面残部も。口縁部外面残部も。	3世紀末葉	第195図-17	PL92
18	10-000760	土製器高坏	最大径 12.8 残高 5.5	脚部のみ、器部欠損。径10mmの内孔の透かし3ヶ所。外面残部も、内面残部も。	3世紀末葉	第195図-18	PL92
19	10-000761	土製器高坏	口径(11.6) 残高 11.6	1/4。器部欠損。器面残れる。径13mmの内孔の透かし3ヶ所。坏部内面残部も、外面残部も、脚部内面残部も、内面残部も。	3世紀末葉	第195図-19	PL93
20	10-000762	土製器高坏	口径(10.3) 残高 7.3	脚部のみ、坏底部内面朝毛目も残部も。器部外面朝毛目も残部も。内面残部も。器部内面も径11mm上位残部も。	3世紀末葉	第195図-20	PL93
21	10-000763	土製器高坏	器径(9.0) 残高 2.2	破片。筒形の高坏。受皿上部と脚部外面残部も。複合部外面と受皿底下部-脚部内面(横)部で。	3世紀末葉	第195図-21	PL93
22	10-000764	土製器小坏	口径(9.9) 器高 6.0	1/2。鞍部内外面と底面残部も。	3世紀末葉	第195図-22	PL92
23	10-000765	土製器台付罎	口径 15.0 残高 10.2	口縁-脚部1/4。S字状口縁。口縁残部で、外部外面朝毛目、内面残部も。	3世紀末葉	第196図-23	PL93
24	10-000766	土製器台付罎	口径(16.0) 器高 4.0	口縁-脚部1/4。S字状口縁。口縁残部で、外部外面朝毛目、内面残部も。	3世紀末葉	第196図-24	PL93
25	10-000767	土製器台付罎	口径 10.8 残高 3.6	口縁-脚部。S字状口縁で口縁一部欠損。口縁残部で、脚部外面朝毛目、内面残部も。	3世紀末葉	第196図-25	PL93
26	10-000768	土製器台付罎	口径(15.0) 残高 4.0	口縁-脚部1/4。S字状口縁。口縁残部で、外部外面朝毛目、内面残部も。	3世紀末葉	第196図-26	PL93
27	10-000769	土製器台付罎	口径(18.8) 残高 5.9	口縁-脚部1/4。S字状口縁。口縁残部で、外部外面朝毛目も残部も。内面残部も。	3世紀末葉	第196図-27	PL93
28	10-000770	土製器台付罎	口径 18.4 残高 3.3	口縁-脚部1/4。S字状口縁。口縁残部で、下部内面に朝毛目も残る。可能外面朝毛目、内面残部も。	3世紀末葉	第196図-28	PL93
29	10-000771	土製器台付罎	口径 15.7 残高 5.0	口縁-脚部。一部欠損。S字状口縁。口縁残部で、脚部外面朝毛目、内面残部も。	3世紀末葉	第196図-29	PL93
30	10-000772	土製器台付罎	口径(20.1) 残高 5.3	口縁-脚部1/4。横底良好。S字状口縁。口縁残部で、脚部外面朝毛目、内面残部も。	3世紀末葉	第196図-30	PL93

遺物一覧

No	資料番号	資料名称	測定値(cm)	形状・形制・調整等の特徴	備考	図録番号	図版番号
31	10-000773	土師器台付甕	口径 11.8 口径(15.0) 高さ 15.1	口縁一肩部3/4、焼成高直。口縁無縁で、肩部外面彫刻に縦毛目、内面無縁で、	3世紀末葉	第196回 -31	PL93
32	10-000774	土師器台付甕	口径 15.6 高さ 22.7	口縁一肩部3/4、5字状口縁。口縁無縁で、体部外面彫毛目、内面無縁で、	3世紀末葉	第196回 -32	PL94
33	10-000775	土師器台付甕	口径 15.6 高さ 22.7	口縁一肩部3/4、焼成高直。5字状口縁。口縁無縁で、体部外面彫毛目、内面無縁で、	3世紀末葉	第196回 -33	PL94
34	10-000776	土師器台付甕	口径(19.5) 高さ 5.2	肩部3/4、上段欠損。近肩部内側に折り返し、外面彫毛目、体下半部中心に溝で、内面無縁で、	3世紀末葉	第196回 -34	PL93
35	10-000777	土師器台付甕	口径(17.2) 高さ 6.1	肩部3/4、裏面肩部から内面肩部の粘土、裏面内側に折り返し、外面彫毛目、体下半部中心に溝で、内面無縁で、	3世紀末葉	第196回 -35	PL93
36	10-000778	土師器台付甕	口径(19.5) 高さ 6.6 高さ 7.6	裏面肩部1/4とはほぼ矩形の肩部片、裏内面彫毛目、体外面彫毛目、内面無縁で、	3世紀末葉	第196回 -36	PL93
37	10-000779	土師器台付甕	口径(19.5) 高さ 8.5 高さ 3.3	折下半部3/4、裏面内側に折り返し、外面彫毛目、内面無縁で、	3世紀末葉	第196回 -37	PL93
38	10-000780	土師器台付甕	口径(22.9) 高さ 10.1	口縁一肩部1/4以下。口縁無縁で、体部外面彫毛目、内面無縁で、	3世紀末葉	第196回 -38	PL94
39	10-000781	土師器台付甕	口径(15.0) 高さ 6.5	口縁一肩部1/3。5字状口縁。口縁無縁で、体部外面と口縁内面下部彫毛目、内面無縁で、外面彫毛目の彫毛目高が高い、	3世紀末葉	第196回 -39	PL93
40	10-000782	土師器台付甕	口径(19.7) 高さ 9.7	裏面肩部一帯、裏面内面彫毛目、肩部外面彫毛目、内面無縁で、	3世紀末葉	第196回 -40	PL93
41	10-000783	土師器台付甕	口径(19.5) 高さ 6.0	裏面肩部1/2。肩面肩部内側に折り返し、裏面内面彫毛目、外面彫毛目、内面無縁で、	3世紀末葉	第196回 -41	PL93
42	10-000784	土師器	口径(19.5) 高さ 5.2	口縁一肩部1/4。口縁無縁で、肩部内外面彫毛目、体外面彫毛目の溝で、	3世紀末葉	第196回 -42	PL94
43	10-000785	土師器	口径 9.1 口径 5.9	口縁及び肩部部分、焼成高直。外面細点の溝。内面口縁彫毛目の溝で、肩部彫毛目、体外面彫毛目の溝で、	3世紀末葉	第196回 -43	PL94
44	10-000786	土師器	口径 11.5 高さ 9.0	口縁一肩部一帯、5字状口縁無縁で、肩一肩部外面彫毛目の溝で、内面彫毛目、体外面彫毛目の溝で、	3世紀末葉	第197回 -44	PL94
45	10-000787	土師器	口径(15.8) 高さ 9.2	口縁一肩部1/4。口縁外面無縁で、内面彫毛目、体外面彫毛目、内面無縁で、	3世紀末葉	第197回 -45	PL94
46	10-000788	土師器	口径(18.0) 高さ 9.2	口縁一肩部1/2。口縁厚い。口縁無縁で、口縁一肩部外面彫毛目、内面彫毛目、	3世紀末葉	第197回 -46	PL94
47	10-000789	土師器	口径 7.0 口径 4.4	肩一肩部1/2。肩一肩部外面彫毛目、肩部外面彫毛目、体外面彫毛目、内面無縁で、	3世紀末葉	第197回 -47	PL94
48	10-000790	土師器	口径(19.2) 高さ 4.3	裏一肩部1/2。外面彫毛目、肩一肩部外面彫毛目、内面無縁で、	3世紀末葉	第197回 -48	PL95
49	10-000791	土師器	口径 7.0 口径 8.9	肩一肩部1/2。外面彫毛目、肩一肩部外面彫毛目、内面無縁で、	3世紀末葉	第197回 -49	PL95
50	10-000792	土師器	口径 5.4 口径 5.3	肩一肩部。焼成高直。肩部外面彫毛目、内面彫毛目、体外面彫毛目、内面無縁で、	3世紀末葉	第197回 -50	PL95
51	10-000793	土師器	口径 4.6 口径 2.7	肩一肩部。焼成高直。肩一肩部外面彫毛目、内面彫毛目、体外面彫毛目、内面無縁で、	3世紀末葉	第197回 -51	PL95
52	10-000794	土師器鉢	口径 7.0 口径 8.9 口径 7.9×4.1×2.4	口径1/3。有段口縁。内外面彫毛目、体外面彫毛目、内面無縁で、	3世紀末葉	第197回 -52	PL95
53	10-000795	土師器	口径(12.9) 口径 3.2	口縁部と肩一肩部欠損。肩部反折状。肩一肩部一帯。体部外面彫毛目、内面彫毛目、体外面彫毛目、内面無縁で、	3世紀末葉	第197回 -53	PL95
54	10-000796	土師器	口径(19.3) 口径 7.0	口縁一肩部3/4。口縁内面彫毛目、体外面彫毛目、内面無縁で、	3世紀末葉	第197回 -54	PL95
55	10-000797	土師器	口径 12.8 口径 7.5	口縁一肩部3/4。口縁内面彫毛目、体外面彫毛目、内面無縁で、	3世紀末葉	第197回 -55	PL95
56	10-000798	土師器	口径(14.2) 口径 7.8	口縁一肩部1/4。口縁内面彫毛目、体外面彫毛目、内面無縁で、	3世紀末葉	第197回 -56	PL95
57	10-000799	土師器	口径(14.2) 口径 7.8	口縁一肩部1/4。口縁内面彫毛目、体外面彫毛目、内面無縁で、	3世紀末葉	第197回 -57	PL95
58	10-000800	土師器	口径 8.1 口径 7.7	口縁一肩部1/2。口縁内面彫毛目、体外面彫毛目、内面無縁で、	3世紀末葉	第197回 -58	PL95
59	10-000801	土師器	口径(16.0) 口径 4.3	口縁部片。外面折り返し、体外面彫毛目、内面無縁で、	3世紀末葉	第197回 -59	PL95
60	10-000802	土師器	口径(14.7) 口径 6.2	口縁一肩部3/4。口縁内面彫毛目、体外面彫毛目、内面無縁で、	3世紀末葉	第197回 -60	PL95
61	10-000803	土師器	口径(15.0) 口径 6.8	口縁一肩部3/4。内面口縁彫毛目、肩部彫毛目、体外面彫毛目、内面無縁で、	3世紀末葉	第197回 -61	PL95
62	10-000804	土師器	口径 12.8 口径 16.8	口縁一肩部。彫成高直。口縁一肩部外面彫毛目、内面無縁で、	3世紀末葉	第197回 -62	PL96
63	10-000805	土師器	口径(12.3) 口径 18.2	口縁一肩部1/2。口縁部と体部外面彫毛目、体部内面彫毛目、内面無縁で、	3世紀末葉	第198回 -63	PL96
64	10-000806	土師器	口径 7.9 口径 2.8	肩部下段一帯。焼成高直。肩部内面彫毛目、外面彫毛目、内面無縁で、	3世紀末葉	第198回 -64	PL95

No	資料番号	資料名称	測定値(cm)	形状・形態・調整等の特徴	備考	図面番号	図版番号
65	10-00087	土師器蓋	底径 5.6 口径 4.3	胴一部1/4, 平底直好。内面吸し刷毛目。胴一部外周面磨光。底面磨光。	3 世紀末葉	新1980 -65	PL95
66	10-00088	土師器蓋	底径(15.0) 口径 8.4	口縁一部1/4, 内面磨光で肩部に指挿入。外周口縁に磨光面でのび一帯磨光。	3 世紀末葉	新1980 -66	PL95
67	10-00089	土師器蓋	胴部径(20.0) 底径 22.5	胴一部1/4, 平底直好。内面刷毛目縁の磨光で、外面磨光で口縁の磨光。	3 世紀末葉	新1980 -67	PL96
68	10-00089	土師器蓋	底径 10.0 口径 5.5	胴一部1/4, 内面刷毛目縁の磨光で、外部刷毛目縁の磨光。	3 世紀末葉	新1980 -68	PL96
69	10-00081	土師器蓋	底径 5.8 口径 2.3	底面片。上げ縁。内面磨光で、外面磨光で、底面磨光で上げ縁部磨光。	3 世紀末葉	新1980 -69	PL96
70	10-00082	土師器蓋	底径 11.4 口径 3.1	胴一部1/4, 底面中央上げ縁で底面内面一部磨光。内面磨光で、外面磨光で、底面磨光。	3 世紀末葉	新1980 -70	PL96
71	10-00083	土師器蓋	胴部径(14.4)	口縁一部1/4, 内面刷毛目縁の磨光で、口縁部外周口縁部磨光。外部磨光で上げ縁部磨光。	3 世紀末葉	新1980 -71	PL96
72	10-00084	土師器蓋	底径 18.3×28.3 厚さ 5.1	大型の体形。内面刷毛目縁の磨光で、外面刷毛目縁磨光。	3 世紀末葉 2/2片の可能性 71と同一の可能性	新1980 -72	PL96
73	10-00085	土師器蓋	底径 11.7×7.4×1.35	口縁直縁。内外面に押し出しの筋。上縁と内面と縁部、外周に磨光面。内外面とも上げ縁下部と外面磨光。	3 世紀末葉	新1980 -73	PL96
74	10-00086	土師器蓋	底径 8.5 口径 4.3	胴一部1/4, 底面僅かに上げ縁。外部内面刷毛目縁の磨光で、外面磨光。	3 世紀末葉	新1980 -74	PL96
75	10-00087	土師器蓋	底径 19.4	胴部1/4, 内面磨光で、外面刷毛目縁磨光。	3 世紀末葉	新1980 -75	PL97
76	10-00088	土師器蓋	底径 8.3 口径 3.5	胴部片。直縁。上げ縁中央。胴一部内面磨光で、胴部外周磨光。底面と上げ縁部、底面磨光。	3 世紀末葉 2/2片の可能性	新1980 -76	PL97
77	10-00089	土師器蓋	底径(18.0) 口径 23.0	胴一部1/4, 内面磨光で、外部刷毛目縁の磨光で、外部外周磨光。底面の一部磨光。底面に磨光の付着。	3 世紀末葉	新1980 -77	PL97
78	10-00089	土師器蓋	底径 11.4 口径 3.5	胴一部1/4, 底面中央上げ縁で底面内面刷毛目縁の磨光で、外面磨光。底面中央上げ縁部と上げ縁部と、底面中央上げ縁部と、底面外周磨光で、外面磨光。	3 世紀末葉	新1980 -78	PL97
79	10-00082	土師器小蓋	底径 9.2 口径 3.2	胴一部1/4, 胴一部内面刷毛目縁の磨光で、底面中央上げ縁部。外部磨光で、底面外周磨光で、外面磨光。	3 世紀末葉	新1980 -79	PL97
80	10-00082	土師器小蓋	底径 5.4 口径 3.4	胴一部1/4, 底面内面磨光で、外部刷毛目縁磨光。	3 世紀末葉	新1980 -80	PL97
81	10-00082	土師器異形土器	底径 3.3 口径 2.3	高杯の杯部部に取。輪郭部部分で磨光。外面磨光による二重磨光。輪郭面に刷毛目。内・外面。底面磨光。	3 世紀末葉 磨光具に転用か	新1980 -81	PL97
82	10-00084	粘土土器器内か	底径 5.8×5.3×0.7	体部断面。内面磨光のみ。外面磨光。	3 世紀末葉か	新1980 -82	PL97
83	20-00083	磨石	6.2×5.4×14.4	河床磨使用。表面と右側面に磨打痕。こも羅み石転用か	河床磨使用	新1980 -83	PL97
84	20-00084	磨石	7.9×4.8×15.9	河床磨使用。右側面に磨打痕。表面と左右両側面に研磨面残し。中位に著状の磨痕一帯	縦紋輝石安山岩 -84	新1980 -84	PL98
85	20-00085	磨石	残存 9.4×3.4×5.0	河床磨使用。上位ののみ。上面に磨打痕。表面に研磨面残る	縦紋輝石安山岩	新2008 -85	PL97
86	20-00086	磨石	残存 8.4×3.0×3.0	河床磨使用。上面のみ。上面に磨打痕。表面に研磨面残る	縦紋輝石安山岩	新2008 -86	PL97
87	20-00087	磨石	(6.0)×5.6×18.2	河床磨使用。右側面一部磨光。左右・表面に研磨面残る	安山岩	新2008 -87	PL98
88	20-00088	磨石	(5.9)×3.7×12.4	河床磨使用。左側面と上面一部磨光。表面に磨打痕。表面に研磨面残る。中位に著状の磨痕一帯	石英閃緑岩 こも羅み石転用	新2008 -88	PL98
89	20-00089	磨石	9.6×(5.1)×17.0	河床磨使用。裏面と下縁。表面に深い研磨面。右側面に研磨面残る。こも羅み石転用か	安山岩	新2008 -89	PL98
90	20-00090	磨石	8.7×4.7×(10.8)	河床磨使用。下縁欠損。表面に研磨面残る	縦紋輝石安山岩	新2008 -90	PL98
91	20-00091	磨石	6.8×5.6×17.1	河床磨使用。左右両面下寄り研磨面残る。中位に著状の磨痕一帯	安山岩	新2008 -91	PL98
92	20-00092	石鏝	1.35×(1.44)×2.6	小型の無蓋。先端欠損。跡丸みを持つ	黒曜石	新2008 -92	PL98
93	10-00090	こも羅み石	6.3×2.8×12.1	河床磨使用。中に縦じら。1cm程の磨痕一帯	輝緑石	—	PL98
94	20-00094	こも羅み石	(6.2)×3.5×(11.3)	河床磨使用。下部欠損。下部一部磨光。下部に幅1.1cm程の磨痕一帯	砂岩	—	PL98
95	20-00095	銅片	8.3×3.1×14.3	一部自然熱断。割痕 3 回	黒色頁岩	—	PL98
96	20-00096	銅片	6.6×2.4×11.6	表面・上面は自然熱断。割痕 5 回	黒色頁岩	—	PL98
97	10-00085	須置器杯	口径(12.0) 底径(8.5) 高さ 3.2	1/3。左部輪軸磨光。底面刷毛目縁磨光	3 世紀後半	新2008 -97	PL98
98	10-00086	須置器器身小	口径(19.9) 底径(8.3) 高さ 6.8	胴一部1/4。右部輪軸磨光。外部外周一部磨光	3 世紀以降	新2008 -98	PL99

No	資料番号	資料名称	数量	重量(kg)	備考	No	資料番号	資料名称	数量	重量(kg)	備考
99	11-003574	土師器雙口罐部	68	1401	古墳時代前期中心	103	11-003578	土師器高杯罐部	64	1507	古墳時代前期中心
100	11-003575	土師器雙体部	1115	13286	古墳時代前期中心	104	11-003579	土師器口縁部	29	118	平安時代中心
101	11-003576	土師器雙底部	62	2576	古墳時代前期中心	105	11-003580	土師器杯一底部	87	164	平安時代中心
102	11-003577	土師器高杯罐部	49	574	古墳時代前期中心	106	11-003581	須置器器身部	13	719	平安時代中心

遺物一覧

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考	No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
107	11-002582	須恵器鏡口縁部	4	42		111	11-003566	土師器甕底部	43	1457	平安時代中心
108	11-003583	須恵器鏡体一底部	9	195		112	21-002121	矢舳ら	1	90	
109	11-003584	土師器鏡口縁部	55	1056	平安時代中心	113	21-002122	磨石	1	475	
110	11-003585	土師器甕底部	271	5443	平安時代中心						

7-3-4号住居

No	資料番号	資料名称	測定値(cm)	形状・整形・調整等の特徴	備考	図面番号	図版番号
1	10-000827	土師器高坏	口径 8.5 残高 4.0	坏部1/3・坏部下半欠損。器面割れる。坏部内面残存。坏部一帯部外面残存。器内面残毛目状残存。	3世紀末葉	第201図-1	PL99
2	10-000828	土師器小型甕	口径 9.8 残高 5.0	口径一帯部破片。有段口縁。口縁残存。器内外面残存。	3世紀末葉	第201図-2	PL99
3	10-000829	土師器ニシテア型	口径 4.0 残高 3.1	胴一底部。内面残存。器部外面残存。底面残存。	3世紀末葉	第201図-3	PL99

7-3-6号住居

No	資料番号	資料名称	測定値(cm)	形状・整形・調整等の特徴	備考	図面番号	図版番号
1	10-000830	土師器台付	胴径 10.4 残高 7.4	本器一帯部。内面より上から下に残存。器面。外周縁部も目状残存。内面より上から下に残存。器面。外周縁部も目状残存。	3世紀末	第202図-1	PL99
2	10-000831	土師器高坏	口径 6.7 残高 3.3	坏部一帯部。器面内側。坏部内面残存。器内面残毛目。坏部一帯部。器面内側。坏部内面残存。	3世紀末	第202図-2	PL99
3	10-000832	土師器台付	残高 7.3×6.4 口径 4.8	器部破片。内面より上から下に残存。器面。外周縁部も目状残存。	3世紀末	第202図-3	PL99
4	10-000833	土師器高坏	口径 6.4 残高 6.4	坏部一帯部。器面内側。坏部内面残存。器内面残毛目。坏部一帯部。器面内側。坏部内面残存。	3世紀末	第202図-4	PL99
5	10-000834	土師器高坏	胴径 3.5 口径 8.7	坏部下半部。器面内側。坏部内面残存。器内面と本一帯部外面残存。器部内面残毛目状残存。	3世紀末	第202図-5	PL99
6	10-000835	土師器高坏	口径 22.8 口径 11.1 器高 15.5	1/3。坏部内面残存。器面内側。坏部内面残存。器内面と本一帯部外面残存。器部内面残毛目状残存。	3世紀末	第202図-6	PL99
7	10-000836	土師器甕	口径 24.6 残高 5.5	口径一帯部破片。口径一帯部外面残存。器内外面残存。外周縁部も目状残存。	3世紀末	第202図-7	PL99
8	10-000837	土師器台付甕	胴径 9.0 残高 6.0	本器一帯部。器面内側。器面内側と本一帯部の内面残存。	3世紀末	第202図-8	PL99
9	10-000838	土師器台付甕	胴径 9.4 口径 5.7	本器一帯部。器面内側。器面内側と本一帯部の内面残存。器内面と本一帯部外面残存。器部内面残毛目状残存。	3世紀末	第202図-9	PL99
10	10-000839	土師器甕	口径 23.4 残高 5.9	口径一帯部。有段口縁。口唇部内面に割り直し。器面残存。口径外面残存。	3世紀末	第202図-10	PL99
11	10-000840	土師	径 3.8×2.7 高さ 2.6	土師器から打ける。球形をなし。中央に径3.5mmの孔を下から上へ傾位に穿つ。空筒。	第202図-11	PL99	
12	10-000841	土師器甕	残高 6.3×3.6×0.9	器部破片。輪郭み部分で斜縁。内面残存。外面残存。	3世紀末	-	PL99

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考	No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
(一) 7-3-36号境内土遺物を含む)						20	11-003594	土師器坏口縁部	2	3	平安時代中心
13	11-003587	土師器鏡口縁部	40	794	古墳時代前期中心	21	11-003595	土師器坏体一底部	9	32	平安時代中心
14	11-003588	土師器甕底部	321	3438	古墳時代前期中心	22	11-003596	土師器坏体部	1	3	平安時代中心
15	11-003589	土師器甕底部	48	1460	古墳時代前期中心	23	11-003597	土師器不明	3	15	平安時代中心
16	11-003590	土師器高坏部一帯部	33	509	古墳時代前期中心	24	11-003598	須恵器甕底部	1	76	
17	11-003591	土師器高坏部	48	988	古墳時代前期中心	25	11-003599	須恵器坏蓋	2	19	
18	11-003592	土師器鏡口縁部	1	20	平安時代中心	26	11-003600	須恵器甕体一底部	1	13	
19	11-003593	土師器甕底部	9	32	平安時代中心						

7-3-7号住居

No	資料番号	資料名称	測定値(cm)	形状・整形・調整等の特徴	備考	図面番号	図版番号
1	10-000842	土師器高坏	口径 7.8 残高 4.0	坏一帯部上段2/3。内面より上から下に残存。器面。外周縁部も目状残存。坏部内面残存。器内面残毛目状残存。	3世紀末	第204図-1	PL100
2	10-000843	土師器高坏	口径 10.3 残高 5.3	坏部一帯部1/3。内面より上から下に残存。坏部内面と器部外面残存。器内面残存。	3世紀末	第204図-2	PL100
3	10-000844	土師器高坏	口径 7.7 残高 3.1	坏部のみで一部欠損。器面割れる。底面欠損。内外面残存。	3世紀末	第204図-3	PL100
4	10-000845	土師器高坏	口径 14.6 残高 4.6	坏部一帯部1/3。器面内側。内面より上から下に残存。器内面と本一帯部外面残存。器部内面残毛目状残存。外周縁部も目状残存。	3世紀末	第204図-4	PL100

No.	資料番号	資料名称	測定値(cm)	形状・整形・調整等の特徴	備考	図面番号	図版番号
5	10-00086	土師器甕	口径14.3 残高5.6	口縁一肩形。微反直耳。口縁内外面と肩部外面細かい縦毛目。肩部内面縦溝で。	3世紀末	類204図5	PL100
6	10-00087	土師器壺	口径15.0 残高3.4	口縁1/2。折返し縁状片。器面寛れる。内外面縦溝で。	3世紀末	類204図6	PL100
7	10-00088	土師器壺	口径12.0 残高3.8	口縁1/4。折返し縁状片。器面寛れる。外面縦毛目縁溝でか	3世紀末	類204図7	PL100
8	10-00089	土師器壺	口径10.4 残高10.4	口縁一肩部1/2。器面一部平せる。口縁直縁毛目縁溝で内面縦溝で。外面縦溝で欠。	3世紀末	類204図8	PL100
9	10-00090	先生土師器	残存3.1×3.6 厚み0.7	研部破片。内面縦溝で。外面に横位の縦毛目と波状縁	様式	類204図9	PL100
10	10-00091	土師器壺	口径10.0 残高6.0	二重口縁破片。内面中位寛直縁。平反直縁で。外周縦毛目縁部分の欠。	3世紀末	類204図10	PL100
11	10-00092	先生土師器	口径11.5 残高3.4	腰一底部3/4。内外面縦溝状。		類204図11	PL100
12	10-00093	土師	径3.3×3.9 高さ2.4	定形。一層面が若干平らされる球状を成す。下から上へ径5mmの急勾。表面縦溝で		類204図12	PL100
13	20-00097	白石	15.4×4.6×24.3	平らな可憐な形。表面に縦横両方研磨面を有し。右側縁は磨打痕の残る刃状を成す		類204図13	PL100
14	20-00098	磁石	5.1×2.9×9.6	欠損品を再利用か。上面・左右両面が研磨面を成し。裏面に縦溝状。		類204図14	PL100
15	20-00099	磨石	5.6×4.5×16.7	河床磨使用。裏面に研磨痕残る		類204図15	PL100
16	20-00100	磨石	7.0×4.2×16.1	河床磨使用。右側面と裏面に研磨痕。中位に帯状の磨痕残		類204図16	PL101
17	20-00101	磨石	6.7×5.3×16.8	河床磨使用。上下縁と左右縁・裏面と表面の一部に研磨面		類204図17	PL101
18	20-00102	磨石	6.6×6.1×15.9	河床磨使用。表面・左右両面に研磨面残る		類204図18	PL101
19	20-00103	磨石	7.4×5.4×15.0	河床磨使用。左側面に弱い研磨面残る		類204図19	PL101
20	20-00104	磨石	5.3×5.0×12.1	河床磨使用。表面面に弱い研磨面。中位に帯状の磨痕残		類204図20	PL100
21	20-00105	磨石	6.8×4.5×14.0	河床磨使用。表面の3面に研磨面。中位に磨痕一周		類204図21	PL101
22	20-00106	こも羅み石	7.8×6.5×15.3	河床磨使用。表面に弱い研磨痕。中位に帯状の磨痕残		類204図22	PL101
23	20-00107	磨石	6.0×2.1×14.7	河床磨使用。表面に研磨面残る		類204図23	PL101
24	20-00108	凹石	6.9×5.5×16.1	河床磨使用。裏面に磨打痕多岐。両側面に研磨面残る		類204図24	PL101
25	10-00094	土師器壺	口径11.8 残高2.9	1/3。口縁横溝で。体一底部内面縦溝で。外面直削り	8世紀後半	類204図25	PL101
26	10-00095	土師器甕	口径12.6 残高4.0	口縁一肩部1/2。口縁横溝で。肩部内面縦溝で。外面直削り	8世紀後半	類204図26	PL101
27	10-00096	土師器壺	口径12.0 残高6.3	口縁一唇部片。口縁横溝で。体部内面縦溝で。外面直削り	6世紀	類204図27	PL101
28	20-00109	磨石	残存4.5×3.3×10.7	右側・下縁欠損。表面に研磨面残る。中位に磨痕一周		類204図28	PL101

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
29	11-00380	土師器壺口縁部	40	740	古墳時代前期中心
30	11-00382	土師器甕体部	444	3398	古墳時代前期中心
31	11-00383	土師器甕底部	39	1406	古墳時代前期中心
32	11-00384	土師器高坏坏部	16	472	古墳時代前期中心
33	11-00385	土師器高坏坏部	31	652	古墳時代前期中心

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
34	11-00386	土師器壺口縁部	21	194	平安時代中心
35	11-00387	土師器坏一底部	25	110	平安時代中心
36	11-00388	土師器甕体部	3	11	平安時代中心
37	11-00389	須恵器甕体部	2	46	
38	11-00390	須恵器坏一底部	1	18	

7-3-8号住居

No.	資料番号	資料名称	測定値(cm)	形状・整形・調整等の特徴	備考	図面番号	図版番号
1	10-00087	土師器高坏	胴部径11.2 残高10.2	坏体部から胴部3/4。器面やや寛れる。坏部内面・胴部外面縦溝で。	3世紀末	類207図1	PL101
2	20-00410	凹石	9.3×12.6×3.5	扁平な河床磨使用。表面に磨打痕残る		類207図2	PL102
3	20-00411	こも羅み石	径6.2×4.6 残存長10.8	河床磨使用。下半欠損。左側に研磨面。中位に磨痕一周		類207図3	PL102

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
4	11-00391	土師器壺口縁部	1	25	古墳時代前期中心
5	11-00392	土師器甕体部	4	68	古墳時代前期中心
6	11-00393	土師器甕底部	2	75	古墳時代前期中心
7	11-00394	土師器高坏坏部	3	47	古墳時代前期中心

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
8	11-00395	土師器壺口縁部	2	8	平安時代中心
9	11-00396	土師器甕体部	1	1	平安時代中心
10	11-00397	土師器甕一底部	1	6	平安時代中心

7-3-9号住居

No.	資料番号	資料名称	測定値(cm)	形状・整形・調整等の特徴	備考	図面番号	図版番号
1	10-00098	土師器器台	口径7.5 残高5.9	口縁一唇部上段2/3。受皿部内面直縁。受皿一唇部外面縦直縁溝で。唇部内面直削り	3世紀末	類208図1	PL102
2	10-00099	土師器器台	口径8.3 残高1.3	坏部1/3で底直交。口縁部外面横溝で。口縁一唇部内面と体部外面直削り	3世紀末	類208図2	PL102
3	10-00100	土師器器台	口径17.0 残高5.2	口縁部2/3。内面及び外面上段横溝で。外面中位以下削り	3世紀末	類208図3	PL102

遺物一覧

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考	No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
4	11-003618	土師器壺口縁部	3	39	古墳時代前期中心	8	11-003622	土師器壺体部	2	1	平安時代中心
5	11-003619	土師器壺体部	18	164	古墳時代前期中心	7-3-9号住居掘り方					
6	11-003620	土師器壺底部	7	190	古墳時代前期中心	9	11-003623	土師器壺口縁部	2	38	平安時代中心
7	11-003621	土師器高坏	2	32	古墳時代前期中心	10	11-003624	土師器壺体部	8	55	平安時代中心

7-3-11号住居

No	資料番号	資料名称	測定値(cm)	形状・変形・調整等の特徴	備考	国図番号	国図番号
1	10-000861	煮生土器壺	高さ 8.5×4.1 腹径 0.7	肩部破片。内面指跡で、外面波状紋			標21035-1 PL102

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考	No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
2	11-003625	土師器壺口縁部	5	65	古墳時代前期中心	7	11-003630	土師器壺口縁部	1	7	平安時代中心
3	11-003626	土師器壺体部	100	564	古墳時代前期中心	8	11-003631	土師器壺口縁部	1	2	平安時代中心
4	11-003627	土師器壺底部	3	85	古墳時代前期中心	9	11-003632	土師器壺体一底部	3	13	平安時代中心
5	11-003628	土師器高坏坏部	5	54	古墳時代前期中心	10 21-002123 罎					
6	11-003629	土師器高坏坏部	2	25	古墳時代前期中心						

7-3-1号竪立

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考	No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-003633	土師器壺口縁部	1	42	古墳時代前期中心	5	11-003637	土師器壺体部	1	6	平安時代中心
2	11-003634	土師器壺体部	18	243	古墳時代前期中心	6	11-003638	土師器壺口縁部	1	9	平安時代中心
3	11-003635	土師器壺底部	2	127	古墳時代前期中心	7	11-003639	土師器壺体一底部	3	12	平安時代中心
4	11-003636	土師器高坏部台脚部	1	59	古墳時代前期中心	8	11-003640	須恵器壺体部	1	54	

7-3-2号竪立

No	資料番号	資料名称	測定値(cm)	形状・変形・調整等の特徴	備考	国図番号	国図番号
1	20-000412	銅片	6.7×7.7×2.0	下縁切断。一部剥落。一面の磨打痕	細粒輝石安山岩	-	PL102

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
2	11-003641	土師器壺体部	2	74	古墳時代前期中心

7-3-3号竪立

No	資料番号	資料名称	測定値(cm)	形状・変形・調整等の特徴	備考	国図番号	国図番号
1	10-000862	土師器壺	高さ 7.9 腹径 5.4	肩部一割部。内面口縁下指跡で、肩部刷毛目。肩部瓦割で一部指跡で、外面波状紋	3世紀末葉	標21388-1	PL102

7-3-4号竪立

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-003642	土師器壺体部	3	16	古墳時代前期中心

7-3-5号竪立

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考	No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-003643	土師器壺口縁部	3	18	古墳時代前期中心	3	11-003645	土師器高坏坏部	1	6	平安時代中心
2	11-003644	土師器壺体部	17	145	古墳時代前期中心						

7-3-6号竪立

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考	No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-003646	土師器壺口縁部	1	6	古墳時代前期中心	4	11-003649	土師器高坏坏部	6	126	平安時代中心
2	11-003647	土師器壺体部	12	143	古墳時代前期中心	5	11-003650	土師器壺体一底部	3	58	平安時代中心
3	11-003648	土師器高坏坏部	2	24	古墳時代前期中心						

7-3-35号溝

No	資料番号	資料名称	測定値(cm)	形状・彫形・調整等の特徴	備考	図面番号	図記番号
1	10-000863	土師器鉢	口径(12.1) 残高 7.2	口縁一層筋1/4、口縁外面刷毛目残痕で、内面黒磨き、肩筋内面上位刷毛目、中・下位残痕で、外周黒磨き	3世紀末葉	溝218図-1	PL102
2	10-000864	須恵器甕	口径(17.8) 残高 5.2	口縁破片、口縁部上下に引く		溝218図-2	PL102

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考	No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
3	11-003651	土師器壺口縁部	4	51	古墳時代前期中心	10	11-003658	土師器壺口縁部	3	6	平安時代中心
4	11-003652	土師器甕体部	96	566	古墳時代前期中心	11	11-003659	土師器甕体部	13	30	平安時代中心
5	11-003653	土師器甕底部	10	119	古墳時代前期中心	12	11-003660	須恵器甕体部	1	21	
6	11-003654	土師器高坏体・唇上部	5	23	古墳時代前期中心	13	11-003661	須恵器甕底	2	11	
7	11-003655	土師器高坏脚部	9	102	古墳時代前期中心	14	11-003662	須恵器甕口縁部	2	5	
8	11-003656	土師器壺口縁部	4	31	平安時代中心	15	11-003663	須恵器甕体部	3	44	
9	11-003657	土師器甕体部	12	51	平安時代中心						

7-3-36号溝(7-3-6号位置で取り上げられたものもあり)

No	資料番号	資料名称	測定値(cm)	形状・彫形・調整等の特徴	備考	図面番号	図記番号
1	10-000865	土師器杯	口径 12.1 残高 3.6	ほぼ平底、口縁破片で、唇一底部内面黒磨で、外面黒磨き 透体黒磨き	9世紀前半	溝218図-1	PL102
2	10-000866	須恵器高合付瓶	口径(14.6) 残高 05.1	2/3、右回転軸輪彫形。底部回転糸切り痕、高合付付	10世紀前半	溝218図-2	PL102

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考	No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
3	11-003664	土師器壺口縁部	1	27	古墳時代前期中心	8	11-003669	須恵器甕体部	6	386	
4	11-003665	土師器甕体部	13	36	古墳時代前期中心	9	11-003670	須恵器壺口縁部	1	18	
5	11-003666	土師器高坏脚部	3	36	古墳時代前期中心	10	11-003671	須恵器甕体部	1	40	
6	11-003667	土師器甕体部	2	14	平安時代中心	11	11-003672	須恵器甕体部	1	1	
7	11-003668	土師器坏体一底部	4	32	平安時代中心						

7-3-12土坑

No	資料番号	資料名称	測定値(cm)	形状・彫形・調整等の特徴	備考	図面番号	図記番号
1	10-000867	土師器壺	口径(14.1) 残高 10.9	口縁一層筋1/3、口縁上段磨で、口縁下唇一層筋内外面刷毛目筋、内周黒磨し、内周筋上の唇筋部に唇筋上、外周黒磨き	3世紀末葉	溝220図-1	PL102

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考	No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
2	11-003673	土師器甕体部	10	399	古墳時代前期中心	3	11-003674	土師器甕底部	2	16	平安時代中心

7-3-13号土坑

No	資料番号	資料名称	測定値(cm)	形状・彫形・調整等の特徴	備考	図面番号	図記番号
1	10-000868	土師器小甕	口径(7.0) 残高 7.0	口縁一層筋1/4、内面口縁黒磨で、唇黒磨きで、唇筋内面上位刷毛目筋、外周黒磨きで、唇一底部刷毛目筋の黒磨で唇筋部磨き	3世紀末葉	溝221図-1	PL102

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考	No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
2	11-003675	土師器壺口縁部	1	3	古墳時代前期中心	5	11-003678	土師器高坏脚部	1	5	平安時代中心
3	11-003676	土師器甕体部	7	18	古墳時代前期中心	6	11-002134	罎	1	5	
4	11-003677	土師器高坏外部	2	7	古墳時代前期中心						

7-3-14号土坑

No	資料番号	資料名称	測定値(cm)	形状・彫形・調整等の特徴	備考	図面番号	図記番号
1	10-000869	土師器高坏	唇径径 3.1 残高 5.6	坏部黒磨し、坏部欠損。唇部磨き目。内唇の溝に1.3×厚、内面指跡欠損、天井に押印工具の押入欠損、外周黒磨き	3世紀末葉	溝222図-1	PL102
2	10-000870	土師器合付甕	唇径径(11.8) 残高 6.8	胴部1/3、胴部内縁に筋有り筋1。唇部合部粘土に砂粒多く含む。内面黒磨で、外周刷毛目筋磨き	3世紀末葉-4世紀	溝222図-2	PL102
3	10-000871	土師器合付甕	口径(19.6) 残高 11.3	合付壺口縁一底部破片、S字状口縁、体部内面黒磨で、外周刷毛目。肩筋下唇に磨き目筋1筋1層	3世紀末葉	溝222図-3	PL102

遺物一覧

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考	No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
4	11-000679	土師器壺体部	3	29	古墳時代前期中心	6	11-003681	土師器高坏脚部	2	95	平安時代中心
5	11-000680	土師器高坏环部	2	14	古墳時代前期中心						

7-3-15号土坑

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考	No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-000682	土師器壺体部	2	12	古墳時代前期中心	3	11-003684	土師器高坏体部	1	28	平安時代中心
2	11-003683	土師器壺底部	2	74	古墳時代前期中心						

7-3-20号土坑

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考	No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-000685	土師器壺口縁部	2	10	古墳時代前期中心	4	11-003688	土師器高坏环部	3	21	平安時代中心
2	11-000686	土師器壺体部	32	97	古墳時代前期中心	5	11-003689	土師器高坏脚部	2	9	平安時代中心
3	11-000687	土師器壺底部	1	23	古墳時代前期中心						

7-3-25号土坑

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考	No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-000690	土師器壺体部	5	40	古墳時代前期中心	1	11-003691	土師器壺体部	3	133	古墳時代前期中心

7-3-1号井戸

7-3-2号井戸 (旧26号土坑)

No	資料番号	資料名称	測定値(m)	形状・彫形・調整等の特徴	備考	図面番号	図版番号
1	10-000872	土師器高坏	口径(口縁) 6.2 残高 6.2	坏蓋部～肩縁上段、断面覆れる。円形の通し3ヶ所。坏蓋部内面と肩縁天井付縁で		第224図-1	PL103
2	10-000873	土師器壺	口径(口縁) 11.5 残高 1.8	底部1/2、内面刷毛目縁の縁で、外面指縁で、表面熟焼で		第224図-2	PL103
3	10-000874	須恵系高台付陶片	高台部径(口縁) 残高 4.4	腰一高台部1/2、右側輪軸部。表面高台胎付時で		第224図-3	PL103
4	10-000875	瓦瓦	残片 12.5×12.1 厚み 1.3	破片。布目裏打ち、表面焼で調整、断面焼回り		第224図-4	PL103

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考	No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
5	11-003692	土師器壺口縁部	1	2	古墳時代前期中心	9	11-003696	土師器壺口縁部	1	1	平安時代中心
6	11-003693	土師器壺体部	53	384	古墳時代前期中心	10	11-003697	土師器壺口縁部	2	16	平安時代中心
7	11-003694	土師器壺底部	3	52	古墳時代前期中心	11	11-003698	土師器坏体一底部	11	25	平安時代中心
8	11-003695	土師器高坏脚部	4	16	古墳時代前期中心	12	11-003699	須恵器壺	1	13	

7-3-3号井戸

No	資料番号	資料名称	測定値(m)	形状・彫形・調整等の特徴	備考	図面番号	図版番号	
1	10-000876	土師器小壺型	口径 8.5 残高 3.8 器高 10.1	口縁一部欠損。内面口縁～胴部熟焼で、腰一底部刷毛目。外面口縁部洗練焼で、胴部刷毛目後口縁部～底部熟焼で。胴部上部に縦圧痕一帯		第225図-1	PL103	
2	10-000877	土師器壺	口径 6.1 残高 12.5	口縁欠損。内面肩縁部で、腰一底部刷毛目。外面刷毛目洗練焼で、表面上げ灰で洗練		第225図-2	PL103	
3	10-000878	土師器壺	口径 13.0 残高 17.3	口縁一底部1/4、口縁一底部外面刷毛目洗練焼で、内面指縁で。肩一底部内面刷毛目。外面洗練		第225図-3	PL103	
4	10-000879	土師器壺	口径径 22.4 残高 14.0	胴部3/4、内面刷毛目、外面刷毛目洗練焼で		第225図-4	PL103	
5	10-000880	土師器壺	口径 8.2 残高 14.0	胴一底部1/2、内面肩縁部洗練焼で、肩一底部外周左右側の断面に、外面刷毛目洗練焼で、表面不整焼で		第225図-5	PL103	
6	10-000881	土師器壺	口径(口縁) 14.0	口縁上位3/4、肩より下。内外面刷毛目洗練焼で。口縁部焼で		第225図-6	PL103	
7	20-000412	磨石	8.7×6.5×2.5	河床礫能用。表面に磨痕と微かな磨打痕残る		磨石輝石安山岩	第225図-7	PL104
8	20-000414	靑銅片小	6.3×11.7×1.2	板状により使用される片苜の破片だが加工痕等は見られない		緑色片苜	-	PL104

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考	No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
9	11-003700	土師器壺口縁部	15	178	古墳時代前期中心	13	11-003704	土師器高坏脚部	37	451	平安時代中心
10	11-003701	土師器壺体部	96	1214	古墳時代前期中心	14	11-003705	土師器壺口縁部	1	1	平安時代中心
11	11-003702	土師器壺底部	4	252	古墳時代前期中心	15	11-003706	土師器坏体一底部	2	11	平安時代中心
12	11-003703	土師器高坏环部・器全党	4	94	古墳時代前期中心	16	21-002125	礫	2	36	

7区3面遺構外の出土遺物

7-グリット出土遺物

No	資料番号	資料名称	測定値(m)	形状・彫形・質感等の特徴	備考	図面番号	図庫番号
1	10-00082	土師器器台	口径15.1 高さ4.7 底径4.3	口径一箇部上端1/3、円形の浅かし3ヶ所、浅成甘い、内面直線で、器底1箇所、円形の浅かし3ヶ所、環部内外面と器底外側直線で、器底内面直線で	第228図-1 PL104		
2	10-00083	土師器高坏	口径15.0 高さ4.3	口径一箇部上端1/3、円形の浅かし3ヶ所、環部内外面と器底外側直線で、器底内面直線で	第228図-2 PL104		
3	10-00084	土師器高坏	口径15.2 高さ4.3	口径一箇部上端1/3、円形の浅かし3ヶ所、環部内外面と器底外側直線で、器底内面直線で	第228図-3 PL104		
4	10-00085	土師器高坏	口径15.3 高さ4.5	口径一箇部上端1/3、円形の浅かし3ヶ所、環部内外面と器底外側直線で、器底内面直線で	第228図-4 PL104		
5	10-00086	土師器高坏	口径15.9 高さ5.9	口径一箇部上端1/3、円形の浅かし3ヶ所、環部内外面と器底外側直線で、器底内面直線で	第228図-5 PL104		
6	10-00087	土師器高坏	口径15.3 高さ5.2	口径一箇部上端1/3、円形の浅かし3ヶ所、環部内外面と器底外側直線で、器底内面直線で	第228図-6 PL104		
7	10-00088	土師器器台	口径15.0 高さ4.2	口径一箇部上端1/3、円形の浅かし3ヶ所、環部内外面と器底外側直線で、器底内面直線で	第228図-7 PL104		
8	10-00089	土師器小型器	口径17.4 高さ7.1	口径部の上端と底一底部欠損、二次焼成で器底欠れる。内面(器毛目縁)の直線で、外面(器底)上端直線で、中位一底部直線で	3世紀末葉 真彩土師	第228図-8 PL104	
9	10-00090	弥生土器器	口径5.8×4.0 高さ0.7	口径部平直で外面縁を持ち筒状2ヶ所の折り返し口縁直片、内面直線で底直文入り、内面直片付文。外面斜毛目直線で	3世紀末葉 赤川式	第228図-9 PL104	
10	10-00091	土師器器	口径4.1×2.4 高さ0.5	口径直片、内面直文入り、口縁近く内面直片付文。外面直片付文	3世紀末葉 赤川式	第228図-10 PL104	
11	10-00092	土師器器	口径7.2×2.5 高さ0.4	口径直片、器底欠れる。内面直文入り、口縁近く内面直片付文	3世紀末葉 赤川式	第228図-11 PL104	
12	10-00093	土師器器	口径2.8×2.3 高さ0.6	口径直片、内外直線で、内面に直文欠る	3世紀末葉 赤川式	第228図-12 PL104	
13	10-00094	土師器器	口径6.4×6.9 高さ0.6	口径直片、内外直線で、内面に直文欠る	3世紀末葉 赤川式	第228図-13 PL104	
14	10-00095	土師器器	口径10.7×6.0 高さ0.6	口径直片、内面上部直線で、中・下部直線で、外側直線で、内面直片付文	3世紀末葉 赤川式	第228図-14 PL104	
15	10-00096	弥生土器器	口径10.1×10.2 高さ1.2	口径直片、内面直片、外面中・上部直片の直文入り、下部直片、下部直片、内面直片	3世紀末葉 赤川式	第228図-15 PL104	
16	10-00097	弥生土器器	口径15.3 高さ5.2	口径1/3、折り返し口縁、内面直片、外面上部直片、下部直片、下部直片、内面直片	3世紀末葉 赤川式	第228図-16 PL104	
17	10-00098	土師器器	口径13.0 高さ2.3	口径直片、折り返し口縁、内面直片、外面上部直片、下部直片、下部直片、内面直片	3世紀末葉	第228図-17 PL105	
18	10-00099	土師器器	口径6.6 高さ1.9	口径直片、折り返し口縁、内面直片、外面上部直片、下部直片、下部直片、内面直片	3世紀末葉	第228図-18 PL105	
19	10-00100	土師器器	口径10.0×8.5 高さ1.0	口径直片、折り返し口縁、内面直片、外面上部直片、下部直片、下部直片、内面直片	3世紀末葉	第228図-19 PL105	
20	10-00101	弥生土器器	口径10.7×5.6 高さ1.0	口径直片、折り返し口縁、内面直片、外面上部直片、下部直片、下部直片、内面直片	3世紀末葉	第228図-20 PL105	
21	10-00102	土師器小型器	口径10.3 高さ2.9	口径部2/3、器底やや欠れる。内外直線で	3世紀末葉	第228図-21 PL105	
22	10-00103	土師器小型器	口径10.9 高さ4.1	口径部1/2、器底やや欠れる。内外直線で	3世紀末葉	第228図-22 PL105	
23	10-00104	弥生土器器	口径19.4 高さ3.2	口径1/4、内面直片の直片、外直片、底面直片	3世紀末葉	第228図-23 PL105	
24	10-00105	土師器器	口径9.4 高さ3.2	口径直片、内面直片、外直片、底面直片	3世紀末葉	第228図-24 PL105	
25	10-00106	土師器器	口径8.9 高さ3.2	口径直片、内面直片、外直片、底面直片	3世紀末葉	第228図-25 PL105	
26	10-00107	弥生土器器	口径5.5×3.8 高さ0.8	口径直片、口縁近く内面直片による小穿孔3ヶ所、内外直線で、内面直片	3世紀末葉	第228図-26 PL105	
27	10-00108	土師器器	口径16.2 高さ7.0	口径一箇部上端1/3、円形の浅かし3ヶ所、環部内外面と器底外側直線で、器底内面直線で	3世紀末葉	第228図-27 PL105	
28	10-00109	土師器器	口径7.5 高さ2.5	口径1/2、二次焼成直片、底部内面直片、外直片、底面直片	3世紀末葉	第228図-28 PL105	
29	10-00110	土師器台付葉	口径9.5 高さ6.1	口径一箇部上端1/3、円形の浅かし3ヶ所、環部内外面と器底外側直線で、器底内面直線で	3世紀末葉 赤川式	第228図-29 PL105	
30	10-00111	土師器台付葉	口径9.3 高さ5.3	口径1/3、器底内面に折り返し、内面直片に直毛による小穿孔3ヶ所、内外直線で、外直片、底面直片	3世紀末葉 赤川式	第228図-30 PL105	
31	10-00112	土師	径2.7×2.7 高さ2.6	断面1/3欠損、球形縦位に径4mmの貫通孔。表面直片	古墳時代前期	第229図-31 PL105	
32	10-00113	土師	径3.1×3.1 高さ2.2	断面1/3欠損、球形縦位に径4mmの貫通孔。表面直片	古墳時代前期	第229図-32 PL105	
33	10-00114	土師	径2.9×2.7 高さ2.6	断面1/3欠損、球形縦位に径4mmの貫通孔。表面直片	古墳時代前期	第229図-33 PL105	
34	10-00115	土師	径2.7×2.5 高さ2.8	断面1/3欠損、球形縦位に径4mmの貫通孔。表面直片	古墳時代前期	第229図-34 PL106	

遺物一覧

No	資料番号	資料名称	測定値 (cm)	形状・彫形・調整等の特徴	備考	図面番号	図説番号
35	10-000916	土師	径 2.7×2.6 高さ 3.9	表面割れる。球形か。縦位に径4mmの貫通孔。表面飾りで	古墳時代前期	図2296	FL106
36	10-000917	土師	径 2.7×2.6 高さ 3.7	ほぼ正形。球形。横位に縦位に径4×5mmの貫通孔。表面飾りで	古墳時代前期	図2296 -36	FL106
37	10-000918	土師	径 3.3×3.2 高さ 3.9	正形。球状。下方から上方へ径3×4mmの貫通孔。表面飾りで	古墳時代前期	図2296	FL106
38	10-000919	土師	径 2.8×2.7 高さ 3.6	正形。球状。下方から上方へ径3×4mmの貫通孔。表面飾りで	古墳時代前期	図2296 -38	FL106
39	10-000920	土師	径 3.2×3.9 高さ 3.2	正形。球状。下方から上方へ径5×4mmの貫通孔。表面飾り 器具による彫り	古墳時代前期	図2296 -39	FL106
40	10-000921	土師	径 2.4×1.7 高さ 3.9	大型の球形土師の破片。表面飾りで	古墳時代前期	図2296	FL106
41	10-000922	土師	残存 2.3×1.0×2.6	破片。球形か。径5mmの貫通孔。表面飾りで	古墳時代前期	図2296 -41	FL106
42	10-000923	土師	径 2.9×2.9 高さ 3.9	一部割れ。球状。下方から上方へ径4mmの貫通孔。表面飾 りで	古墳時代前期	図2296	FL106
43	10-000924	土師	径 2.7×2.7 高さ 3.7	正形で表面割れる。球形。縦位に4mmの貫通孔。表面飾 りで	古墳時代前期	図2300	FL106
44	10-000925	土師	径 3.2×3.1.8 高さ 3.7	大型の球形土師の破片。縦位に径6mm程の貫通孔。表面飾 りで	古墳時代前期	図2300 -44	FL106
45	10-000926	土師器杯	口径(11.5) 残高 2.8	1/3。口径と底部内面飾りで。底部内面周りの彫り。外部 外面一気面彫り片状飾りで	9世紀前半	図2300 -45	FL106
46	10-000927	土師器杯	口径(12.2) 残高 3.1	1/3。口径と底部内面飾りで。底部内面飾りで。外部外面一 気面彫り片状飾りで	9世紀前半	図2300 -46	FL106
47	10-000928	土師器小型壺	口径(11.0) 残高 4.6	口径と外部外面飾りで。外部外面飾りで。外部外面一 気面彫り片状飾りで	6世紀	図2300	FL106
48	10-000929	土師器台付壺	壺径(7.7) 残高 7.8	壺部一高台。口縁上方。壺部内面飾りで。外部外面一 気面彫り片状飾りで	9世紀前半	図2300 -48	FL106
49	10-000930	須恵器杯	口径 12.5 残高 3.7	3/4。胎土小粒混じり。左回転軸線彫形。底面彫り片状 飾りで	8世紀後半	図2300 -49	FL106
50	10-000931	須恵器台付横	高台径(6.7) 残高 3.9	体部一高台3/4。自然軸線彫形。右回転軸線彫形。底面 彫り片状飾りで	8世紀後半	図2300 -50	FL106
51	10-000932	須恵器杯	直径 7.1 残高 1.0	底面3/4。左回転軸線彫形。底面彫り片状飾り後の彫り	8世紀後半	図2300 -51	FL106
52	10-000933	須恵器杯	直径 6.1 残高 1.9	壺一高台。内外面黒色処理。右回転軸線彫形。底面彫り 片状飾りで	8世紀後半	図2300 -52	FL107
53	10-000934	須恵器台付横	高台径 6.7 残高 3.1	壺部一高台。流成軟質。左回転軸線彫形。底面高台彫り 片状飾りで	10世紀前半	図2300 -53	FL107
54	10-000935	須恵器壺	口径(16.7) 残高 5.7	口径と天舟部片。左回転軸線彫形。天舟部彫り片状 飾りで	9世紀前半	図2300	FL107
55	10-000936	須恵器壺	残存 14.2×6.9 厚み 1.0	口径部片。外面に縦い流状文。内面口縁附近に斜め彫り	9世紀半-10世紀	図2300 -55	FL107
56	10-000937	須恵器短頸壺	口径(18.0) 残高 6.6	壺一頸部1/3。軸線彫形	8世紀後半	図2300 -56	FL107
57	10-000938	須恵器短頸壺	高台径(18.5) 残高 3.2	壺一高台部片。軸線彫形。高台表面彫り	9世紀前半	図2300 -57	FL107
58	10-000939	須恵器	口径(14.0) 残高 6.7	口径と頸付片。酸化焼成	10世紀前半	図2300 -58	FL107
59	10-000940	須恵器	口径 7.5 残高 1.3	口径と頸付片。酸化焼成。外部外面飾りの彫り	11世紀	図2300 -59	FL107
60	10-000941	女瓦	径 10.5×9.3 厚み 1.3	破片。結晶り。表面に布目残り。表面飾りで。縦面による 彫り	9世紀半-10世紀	図2310 -60	FL107
61	10-000942	女瓦	残存 8.8×5.6 厚み 1.2	破片。焼成甘い。横通り。表面に布目残り。表面飾りで。縦 面による彫り	9世紀半-10世紀	図2310 -61	FL107
62	10-000943	女瓦	残存 9.0×7.6 厚み 1.2	破片。焼成甘い。表面に布目残り。表面飾りで。縦面による 彫り	9世紀半-10世紀	図2310 -62	FL107
63	10-000944	土師	径 1.7×1.7 長さ 3.3	ほぼ正形。壺形。縦位に径4mmの貫通孔。縦位飾りで	FL107	図2310 -63	FL107
64	20-000415	石鏡	2.1×(3.0)×0.35	大型の無赤銅。彫刻あり	黒色安山岩	図2310	FL107
65	20-000416	石鏡	1.4×(2.4)×0.45	有赤銅。赤先欠損。彫り持たない	チャート	図2310 -65	FL107
66	20-000417	石鏡	1.3×(2.0)×0.4	有赤銅。赤先欠損。彫りを持つ	チャート	図2310 -66	FL107
67	20-000418	ステレオバー	2.5×1.4×0.4	鏡片使用。石包丁形を呈。下縁に刃部を造る	黒曜石	図2310 -67	FL108
68	20-000419	ステレオバー	5.9×6.9×1.6	一面に自然面残す鏡片使用。下縁に刃部を造る	黒色頁岩	図2310 -68	FL108
69	20-000420	ステレオバー	4.5×4.1×0.4	一面に自然面残す鏡片使用。下縁に鋭い刃部を造る	黒色頁岩	図2310 -69	FL108
70	20-000421	ステレオバー	5.7×8.0×1.8	一面に自然面残す内面の鏡片使用。下縁と右縁に刃部を 造る	黒色頁岩	図2310 -70	FL108
71	20-000422	フレート	6.0×5.2×1.6	表面に網線状。下縁に使用痕跡	黒色頁岩	図2310 -71	FL108
72	20-000423	フレート	2.9×8.4×1.8	一面に自然面残す鏡面三角形の鏡片。右縁下縁に使用 痕跡	黒色頁岩	図2310 -72	FL108
73	20-000424	フレート	5.0×11.0×2.4	一面に自然面残す鏡面三角形の鏡片	黒色頁岩	-	FL110
74	20-000425	フレート	4.1×4.7×0.75	表面面に網線残す鏡片	黒色頁岩	-	FL110
75	20-000426	フレート	8.4×3.8×1.5	上縁に自然面残す鏡片	粗粒輝石安山岩	-	FL110
76	20-000427	フレート	6.8×7.6×1.7	表面面に網線残す鏡片	黒色安山岩	-	FL110
77	20-000428	フレート	6.8×7.6×1.7	表面面に網線残す鏡片	砂岩	-	FL110
78	20-000429	フレート	6.8×7.6×1.7	表面面に網線残す鏡片	黒色頁岩	-	FL110
79	20-000430	フレート	8.3×7.9×1.2	一面に自然面残す鏡片	頁岩	-	FL110
80	20-000431	打製石斧	4.9×14.5×1.8	短形直位の横刃石斧。赤銅混入。表面に自然面残す。縦 面に調整多く。上下両面に調整されていない	頁岩	図2310 -81	FL108
81	20-000432	凹石	3.6×3.2×2.5	塊内球形の凹石使用。上面に歯み→	粗粒輝石安山岩	図2220	FL108
82	20-000433	磨石	7.3×14.4×3.8	直方体状の河床磨使用。表面面に研面残す下縁に彫 り片状飾り	粗粒輝石安山岩	図2220 -82	FL108
83	20-000434	磨石	5.9×12.9×4.1	一部割れ。横断面三角形の河床磨使用。上下両面に彫 り片状飾り。磨の3面に研面残す	粗粒輝石安山岩	図2220 -83	FL108

No.	資料番号	資料名称	測定値(cm)	形状・整形・調整等の特徴	備考	図録番号	図版番号
84	20-00043	磨石	5.8×7.3×3.9	河床礫使用。上面に磨行痕。表面に研磨痕残す	板状輝石安山岩	新23200 -84	PL108
85	20-00044	磨石	6.4×(9.1)×5.3	河床礫使用。下半部欠損。上面部に磨行痕残す	板状輝石安山岩	新23200 -85	PL108
86	20-00047	磨石	11.3×(11.9)×9.4	大型の河床礫使用。下半欠ける。上面に磨行痕残す	板状輝石安山岩	新23200 -86	PL108
87	20-00048	磨石	10.8×14.2×5.5	遊歩形の河床礫使用。表面と上面、左右両側面に磨行痕残す	板状輝石安山岩	新23200 -87	PL108
88	20-00049	磨石	7.3×14.1×7.7	河床礫使用。表裏・左右側面に著しい磨行痕残す	石英閃緑岩	新23200 -88	PL109
89	20-00040	磨石	4.2×15.1×3.8	卵形の小河床礫使用。上面に磨行痕。表面に研磨痕残す	板状輝石安山岩	新23200 -89	PL109
90	20-00041	磨石	9.3×17.1×3.7	板状の河床礫使用。表面に薄い磨行痕や研磨痕形成	板状輝石安山岩	新23200 -90	PL109
91	20-00042	磨石	4.3×(9.1)×3.5	上半部欠損。横断面三角形の河床礫使用。表面に研磨痕形成	板状輝石安山岩	新23200 -91	PL109
92	20-00043	磨石	(14.3)×(8.6)×5.0	過半欠損。河床礫使用。表面に研磨痕残す	板状輝石安山岩	新23200 -92	PL109
93	20-00044	磨石	(11.8)×(9.2)×4.5	上下、左側部欠損。河床礫使用。表裏面一部研磨するが研磨痕残す	実質安山岩	新23200 -93	PL109
94	20-00045	磨石	5.8×(15.6)×(17.7)	薄片。河床礫使用。表面に研磨痕残す	板状輝石安山岩	新23200 -94	PL109
95	20-00046	磨石	7.0×7.4×3.8	鐘原形の小河床礫使用。表面に研磨痕残す	流紋岩	新23200 -95	PL109
96	20-00047	磨石	(5.0)×(10.3)×(7.7)	鐘原形薄片。河床礫使用。側縁と表面に研磨痕残す	板状輝石安山岩	新23200 -96	PL109
97	20-00048	磨石	(16.4)×(5.6)×(6.4)	過半欠損。河床礫使用。表面に研磨痕残す	閃緑岩	新23200 -97	PL109
98	20-00049	磨石(こも羅み石)	4.8×11.4×3.2	河床礫使用。左右側面と上面に研磨痕形成。中位に帯状の磨行痕一層	流紋凝灰岩	新23400 -98	PL109
99	20-00050	磨石(こも羅み石)	5.8×12.7×4.2	河床礫使用。表裏・左側面に研磨痕形成。中位に磨行痕一層	板状輝石安山岩	新23400 -99	PL109
100	20-00051	磨石(こも羅み石)	3.4×10.1×2.85	鐘状の河床礫使用。裏面に研磨痕形成。中位に帯状の磨行痕一層	閃緑岩	新23400 -100	PL109
101	20-00052	磨石(こも羅み石)	4.3×7.2×1.9	小形の河床礫使用。裏裏面と左右両側縁の一部に研磨痕残す。中位に帯状の磨行痕一層	流紋凝灰岩	新23400 -101	PL109
102	20-00053	磨石(こも羅み石)	4.4×(10.2)×2.0	過半欠損。河床礫使用。左右両面に研磨痕形成。中位に帯状の磨行痕一層	頁岩	新23400 -102	PL109
103	20-00054	磨石(こも羅み石)	5.0×10.5×4.2	河床礫使用。裏面と右側縁研磨痕形成。中位に帯状の磨行痕一層	板状輝石安山岩	新23400 -103	PL109
104	20-00055	こも羅み石	5.8×12.2×3.0	河床礫使用。右側面に研磨痕。上面に磨行痕残す。中位に帯状の磨行痕一層	板状輝石安山岩	新23400 -104	PL109
105	20-00056	こも羅み石	3.4×9.3×2.8	鐘状の河床礫使用。中位に帯状の磨行痕一層	板状輝石安山岩	新23400 -105	PL110
106	20-00057	こも羅み石	(5.2)×9.8×(3.4)	裏面に過半研磨。河床礫使用。中位に帯状の磨行痕一層	砂岩	新23400 -106	PL110
107	20-00058	こも羅み石	3.3×2.1×9.8	鐘状の河床礫使用。中位に帯状の磨行痕一層	デイサイト	新23400 -107	PL110
108	20-00059	砥石	(4.2)×(14.8)×(16.5)	薄片。表面と側面、角縁に研磨痕形成	頁岩	新23400 -108	PL110
109	20-00060	砥石	3.2×(10.9)×1.3	下方欠損。上面に切痕。表裏・左右側面に研磨痕形成	頁岩	新23400 -109	PL110
110	20-00061	板硝片か	(6.3)×(6.9)×(0.5)	薄片	緑色片岩	-	PL110
111	20-00062	板硝片か	(5.7)×(11.8)×1.6	薄片	緑色片岩	-	PL110
112	10-00095	土師器壺	口径20.4 高さ 9.9	口縁一貫部1/3。口縁上部欠損。右腹口縁。口縁外面と頸部内面磨蝕で。口縁内面と頸部一貫部外磨蝕。頸部内面磨蝕	3世紀末葉	新23500 -112	PL111
113	10-00096	土師器台付甕	底径5.5×残高 6.9	底縁部一貫部1/3。底縁部内面磨蝕で。頸部外面磨蝕毛目長残す	3世紀末葉	新23500 -113	PL111
114	10-00097	土師器杯	口径 11.8 底径 3.5 残高 3.5	口縁平坦。口縁磨蝕で。体部一底部内面磨蝕で。外面磨蝕で残す体部磨蝕	8世紀後半	新23500 -114	PL111
115	10-00098	須恵器土師	口径13.2 底径 3.5 残高 3.5	1/4。左側縁軸線形。底面回転み切り	9世紀後半	新23500 -115	PL111
116	10-00099	土師	口径 2.9×3.1 高さ 3.5	口縁平坦。球形。表面磨蝕で。径5×6mmの縦位の貫通孔	古墳時代前期	新23500 -116	PL111
117	10-00099	土師	口径 2.9×3.2 高さ 3.5	下唇・表面磨蝕。球形。表面磨蝕で。径3mmの縦位の貫通孔	古墳時代前期	新23500 -117	PL111
118	10-00099	土師	口径 2.7×2.8 高さ 3.5	表面1/3磨蝕。球形。表面磨蝕で。径4mmの縦位の貫通孔	古墳時代前期	新23500 -118	PL111
119	40-00020	鉄製品	径 0.7 残長 4.6	上段欠損。角削	鉄23500 -119	PL111	

No.	資料番号	資料名称	数量	調査区	備考
7-240-990	グレット				
129	11-003707	土師器壺体部	1	14	古墳時代前期中心
7-258(285)-850	グレット				
121	11-003708	土師器壺体部	1	8	古墳時代前期中心
7-258(285)-890	グレット				
122	11-003709	土師器壺体部	8	56	古墳時代前期中心
123	11-003710	土師器高坏体部	1	24	古墳時代前期中心
124	11-003711	土師器壺口縁部	2	28	古墳時代前期(4世紀)
125	11-003712	土師器壺体部	9	30	古墳時代前期(4世紀)
126	11-003713	土師器壺体部	1	4	古墳時代前期(4世紀)
7-270-880	グレット				
127	11-003714	土師器壺口縁部	1	20	古墳時代前期中心
128	11-003715	土師器壺体部	5	20	古墳時代前期中心
129	11-003716	土師器壺口縁部	5	12	平安時代中心
130	11-003717	土師器口縁部	5	10	平安時代中心
131	11-003718	土師器坏底部	15	44	平安時代中心

No.	資料番号	資料名称	数量	調査区	備考
7-280-290	7グレット				
132	11-003719	土師器壺体部	4	11	古墳時代前期(4世紀)
7-280-875	グレット				
133	11-003720	土師器壺口縁部	1	13	古墳時代前期(4世紀)
7-280-880	グレット				
134	11-003721	土師器壺口縁部	2	3	古墳時代前期中心
135	11-003722	土師器壺体部	20	210	古墳時代前期中心
136	11-003723	土師器壺底部	1	80	古墳時代前期中心
137	11-003724	土師器壺体部	4	118	古墳時代前期中心
138	11-003725	土師器台付壺口縁部	3	40	古墳時代前期中心
139	11-003726	土師器台付壺体部	3	10	古墳時代前期中心
140	11-003727	土師器高坏体部	1	50	古墳時代前期中心
141	11-003728	土師器壺体部	7	10	平安時代中心
142	11-003729	土師器壺口縁部	5	13	古墳時代前期(4世紀)
143	11-003730	土師器壺体部	29	183	古墳時代前期(4世紀)

遺物一覧

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考	No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
7-280-880グリット						7-280-885グリット					
144	11-003731	土師器壺底部	2	85	古墳時代前期中心	195	11-003787	土師器壺口縁部	3	23	古墳時代前期(4世紀)
145	11-003732	土師器壺底部	4	118	古墳時代前期中心	196	11-003788	土師器壺底部	25	166	古墳時代前期(4世紀)
146	11-003733	土師器壺体一部	17	61	平安時代中心	197	11-003789	土師器壺底部	4	35	古墳時代前期(4世紀)
147	11-003734	須恵器壺底部	57	2382	平安時代中心	198	11-003790	土師器壺底部	3	11	平安時代中心
148	11-003735	土師器壺口縁部	6	45	古墳時代前期中心	7-280-900グリットAs-C区画					
149	11-003736	土師器壺底部	94	520	古墳時代前期中心	199	11-003791	須恵器壺体一部	1	4	平安時代中心
150	11-003737	土師器壺口縁部	4	22	古墳時代前期(4世紀)	7-280-900グリットC区画					
151	11-003738	土師器高坏坏部	11	68	古墳時代前期中心	200	11-003792	土師器壺口縁部	4	31	古墳時代前期中心
152	11-003739	土師器坏口縁部	6	30	平安時代中心	201	11-003793	須恵器坏体一部	10	72	平安時代中心
153	11-003740	土師器坏体一部	18	60	平安時代中心	202	11-003794	須恵器壺口縁部	6	22	平安時代中心
154	11-003741	須恵器壺口縁部	1	8		7-280-900グリットC区画下					
155	11-003742	土師器壺口縁部	2	13	古墳時代前期(4世紀)	203	11-003795	土師器壺口縁部	1	27	古墳時代前期中心
156	11-003743	須恵器壺底部	2	105		204	11-003796	土師器壺底部	9	43	古墳時代前期中心
157	11-003744	須恵器壺底部	6	30		205	11-003797	土師器高坏坏部	1	3	古墳時代前期中心
158	11-003745	須恵器壺底部	6	30		206	11-003798	土師器高坏坏部	1	6	古墳時代前期中心
159	11-003746	土師器付冑口縁部	3	40	古墳時代前期中心	207	11-003799	土師器壺底部	1	2	古墳時代前期(4世紀)
160	11-003747	須恵器壺	2	50		208	11-003800	土師器壺口縁部	1	3	平安時代中心
161	11-003748	陶器壺口縁部	1	1		209	11-003801	土師器坏体一部	5	13	平安時代中心
162	11-003749	須恵器壺	4	20		210	11-003802	須恵器坏体一部	2	11	平安時代中心
163	11-003750	須恵器壺	1	4		7-280-905グリット					
164	11-003751	須恵器壺口縁部	1	50		211	11-003804	土師器壺口縁部	1	33	古墳時代前期中心
165	11-003752	須恵器壺	1	3	江戸時代	212	11-003805	土師器壺底部	36	81	古墳時代前期中心
166	11-003753	瓦瓦	2	84	鎌令	213	11-003806	土師器高坏坏部	1	19	古墳時代前期中心
167	11-003754	土師器高坏坏部	3	69	古墳時代前期中心	214	11-003807	土師器高坏坏部	1	8	古墳時代前期中心
7-280-885グリット						215	11-003808	土師器壺口縁部	1	7	平安時代中心
168	11-003755	土師器壺底部	5	14	古墳時代前期中心	216	11-003809	土師器壺底部	4	10	平安時代中心
169	11-003756	土師器壺底部	1	18	古墳時代前期中心	217	11-003810	土師器坏体一部	4	28	平安時代中心
170	11-003757	土師器壺底部	2	18	古墳時代前期(4世紀)	218	11-003811	須恵器壺底部	2	259	平安時代中心
7-280-890グリット						7-280-905グリットAs-C区画下					
171	11-003763	土師器壺口縁部	14	100	古墳時代前期中心	219	11-003812	縄文	2	30	平安時代中心
172	11-003764	土師器壺底部	310	2382	古墳時代前期中心	7-280-905グリットC区画下					
173	11-003765	土師器高坏坏部	19	146	古墳時代前期中心	220	11-003813	土師器壺口縁部	1	14	古墳時代前期中心
174	11-003766	土師器高坏坏部	13	168	古墳時代前期中心	221	11-003814	土師器壺底部	11	43	古墳時代前期中心
175	11-003767	土師器壺口縁部	19	146	古墳時代前期(4世紀)	222	11-003815	土師器坏口縁部	1	6	平安時代中心
176	11-003768	土師器壺底部	224	1138	古墳時代前期(4世紀)	7-280-910グリットB下					
177	11-003769	土師器壺底部	16	147	古墳時代前期(4世紀)	223	11-003816	土師器壺口縁部	1	4	平安時代中心
178	11-003770	土師器壺口縁部	1	6	平安時代中心	224	11-003817	土師器坏体一部	2	2	平安時代中心
179	11-003771	土師器壺底部	1	3	平安時代中心	225	11-003818	須恵器坏口縁部	1	1	平安時代中心
180	11-003772	土師器坏体一部	7	18	平安時代中心	7-280-920グリット					
181	11-003773	須恵器壺口縁部	4	14	平安時代中心	226	11-003819	土師器壺底部	12	84	古墳時代前期中心
7-280-890グリットC区画下						227	11-003820	土師器壺口縁部	2	10	平安時代中心
182	11-003774	土師器壺口縁部	5	81	古墳時代前期中心	228	11-003821	土師器壺底部	2	8	平安時代中心
183	11-003775	土師器壺底部	27	223	古墳時代前期中心	229	11-003822	土師器坏口縁部	25	155	平安時代中心
184	11-003776	土師器壺底部	1	12	古墳時代前期中心	230	11-003823	土師器坏体一部	46	113	平安時代中心
185	11-003777	土師器高坏坏部	1	9	古墳時代前期中心	231	11-003824	須恵器坏口縁部	1	3	平安時代中心
186	11-003778	土師器壺口縁部	1	5	古墳時代前期(4世紀)	7-280-940グリット					
187	11-003779	土師器壺底部	12	94	古墳時代前期(4世紀)	232	11-003825	土師器坏口縁部	8	25	平安時代中心
188	11-003780	土師器壺底部	1	5	平安時代中心	233	11-003826	土師器坏体一部	7	13	平安時代中心
189	11-003781	須恵器壺底部	1	4	平安時代中心	234	11-003827	須恵器坏体一部	2	14	平安時代中心
190	11-003782	須恵器壺体一部	1	11	平安時代中心	7-285-850グリット					
7-280-895グリット						235	11-003828	土師器壺底部	2	8	古墳時代前期中心
191	11-003783	土師器壺口縁部	4	48	古墳時代前期中心	236	11-003829	土師器壺底部	2	8	古墳時代前期(4世紀)
192	11-003784	土師器壺底部	56	266	古墳時代前期中心	237	11-003830	土師器壺底部	1	9	古墳時代前期(4世紀)
193	11-003785	土師器壺底部	1	20	古墳時代前期中心	7-285-860グリット					
194	11-003786	土師器高坏坏部	4	59	古墳時代前期中心	238	11-003831	土師器壺底部	1	25	古墳時代前期中心
						7-285-870グリット					
						239	11-003832	土師器壺底部	1	6	古墳時代前期中心

遺物一覧

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
7-280-900グロット					
240	11-003833	土師器壺口縁部	5	51	古墳時代前期中心
241	11-003834	土師器甕腹部	47	296	古墳時代前期中心
242	11-003835	土師器甕底部	5	94	古墳時代前期中心
243	11-003836	土師器高坏胴部	6	107	古墳時代前期中心
244	11-003837	土師器高坏頸部	3	25	古墳時代前期中心
245	11-003838	土師器壺口縁部	4	42	古墳時代前期(4世紀)
246	11-003839	土師器甕腹部	36	159	古墳時代前期(4世紀)
247	11-003840	土師器甕底部	4	49	古墳時代前期(4世紀)
248	11-003841	土師器甕腹部	3	6	平安時代中心
249	11-003842	土師器環口縁部	3	9	平安時代中心
250	11-003843	須恵器甕腹部	2	64	平安時代中心
251	11-003844	灰釉陶器環口縁部	1	2	平安時代中心
7-285-875グロット					
252	11-003845	須恵器甕体-底部	1	2	平安時代中心
7-285-880グロット					
253	11-003846	土師器壺口縁部	1	55	古墳時代前期中心
254	11-003847	土師器甕腹部	16	133	古墳時代前期中心
255	11-003848	土師器高坏胴部	3	35	古墳時代前期中心
256	11-003849	土師器壺口縁部	2	12	古墳時代前期(4世紀)
257	11-003850	土師器甕腹部	2	9	古墳時代前期(4世紀)
258	11-003851	土師器甕底部	5	30	古墳時代前期(4世紀)
259	11-003852	土師器環口縁部	2	6	平安時代中心
260	11-003853	須恵器甕体-底部	1	5	平安時代中心
7-285-895グロット					
261	11-003854	土師器壺口縁部	3	21	平安時代中心
262	11-003855	土師器甕腹部	7	51	平安時代中心
263	11-003856	土師器環口縁部	2	4	平安時代中心
264	11-003857	土師器高坏-底部	6	13	平安時代中心
265	11-003858	土師器高坏胴部	16	30	平安時代中心
266	11-003859	須恵器壺口縁部	1	4	平安時代中心
267	11-003860	須恵器甕体-底部	1	7	平安時代中心
7-285-885グロット					
268	11-003861	土師器壺口縁部	15	231	古墳時代前期中心
269	11-003862	土師器甕腹部	342	2101	古墳時代前期中心
270	11-003863	土師器甕底部	13	263	古墳時代前期中心
271	11-003864	土師器高坏胴部	23	138	古墳時代前期中心
272	11-003865	土師器高坏頸部	18	142	古墳時代前期中心
273	11-003866	土師器壺口縁部	3	17	古墳時代前期(4世紀)
274	11-003867	土師器甕腹部	64	309	古墳時代前期(4世紀)
275	11-003868	土師器甕底部	9	54	古墳時代前期(4世紀)
276	11-003869	土師器甕腹部	4	8	平安時代中心
277	11-003870	土師器環口縁部	3	8	平安時代中心
278	11-003871	土師器高坏-底部	8	16	平安時代中心
279	11-003872	弥生	1	11	平安時代中心
7-285-885グロットAs-CⅡ下					
280	11-003873	須恵器甕腹部	1	65	
281	11-003874	灰釉陶器甕体-底部	1	6	
7-285-885グロットCⅡ下					
282	11-003875	土師器壺口縁部	12	161	古墳時代前期中心
283	11-003876	土師器甕腹部	146	875	古墳時代前期中心
284	11-003877	土師器高坏胴部	5	29	古墳時代前期中心
285	11-003878	土師器高坏頸部	8	57	古墳時代前期中心
286	11-003879	土師器壺口縁部	2	11	古墳時代前期(4世紀)
287	11-003880	土師器甕腹部	36	185	古墳時代前期(4世紀)
288	11-003881	土師器甕底部	2	12	古墳時代前期(4世紀)
289	11-003882	土師器壺口縁部	1	5	平安時代中心
290	11-003883	土師器甕腹部	3	14	平安時代中心

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
7-285-885グロットCⅡ下					
291	11-003884	土師器壺口縁部	2	4	平安時代中心
292	11-003885	土師器高坏-底部	11	14	平安時代中心
293	11-003886	須恵器甕腹部	2	40	平安時代中心
294	11-003887	須恵器高坏胴部	1	2	平安時代中心
295	11-003888	須恵器高坏-底部	1	3	平安時代中心
296	11-003889	須恵器壺口縁部	1	1	平安時代中心
297	11-003890	須恵器甕体-底部	1	4	平安時代中心
7-285-890グロット					
298	11-003891	土師器壺口縁部	38	194	古墳時代前期中心
299	11-003892	土師器甕腹部	442	2758	古墳時代前期中心
300	11-003893	土師器甕底部	5	167	古墳時代前期中心
301	11-003894	土師器高坏胴部	33	175	古墳時代前期中心
302	11-003895	土師器高坏頸部	35	255	古墳時代前期中心
303	11-003896	土師器壺口縁部	38	182	古墳時代前期(4世紀)
304	11-003897	土師器甕腹部	395	1386	古墳時代前期(4世紀)
305	11-003898	土師器甕底部	18	116	古墳時代前期(4世紀)
306	11-003899	土師器甕腹部	6	13	平安時代中心
307	11-003900	土師器環口縁部	7	19	平安時代中心
308	11-003901	土師器高坏-底部	13	35	平安時代中心
309	11-003902	須恵器壺口縁部	1	12	平安時代中心
310	11-003903	須恵器壺口縁部	1	10	平安時代中心
7-285-890グロットCⅡ下					
311	11-003904	土師器壺口縁部	2	17	古墳時代前期中心
312	11-003905	土師器甕腹部	86	470	古墳時代前期中心
313	11-003906	土師器甕底部	2	34	古墳時代前期中心
314	11-003907	土師器高坏胴部	3	22	古墳時代前期中心
315	11-003908	土師器高坏頸部	1	8	古墳時代前期中心
316	11-003909	土師器甕腹部	20	87	古墳時代前期(4世紀)
317	11-003910	土師器環口縁部	2	9	平安時代中心
318	11-003911	土師器高坏-底部	2	13	平安時代中心
319	11-003912	須恵器高坏-底部	3	11	平安時代中心
7-285-894グロット					
320	11-003913	土師器甕腹部	7	51	古墳時代前期中心
321	11-003914	土師器高坏胴部	2	17	古墳時代前期中心
322	11-003915	土師器壺口縁部	3	21	古墳時代前期(4世紀)
323	11-003916	土師器甕腹部	7	28	古墳時代前期(4世紀)
324	11-003917	土師器甕底部	2	116	古墳時代前期(4世紀)
325	11-003918	土師器壺口縁部	2	4	平安時代中心
326	11-003919	土師器高坏胴部	6	16	平安時代中心
327	11-003920	須恵器甕腹部	1	8	平安時代中心
328	11-003921	須恵器甕体-底部	2	11	平安時代中心
7-285-895グロットAs-CⅡ下					
329	11-003922	須恵器甕腹部	1	26	
7-285-895グロットCⅡ下					
330	11-003923	土師器壺口縁部	19	113	古墳時代前期中心
331	11-003924	土師器甕腹部	251	1226	古墳時代前期中心
332	11-003925	土師器高坏胴部	7	84	古墳時代前期中心
333	11-003926	土師器甕底部	11	57	古墳時代前期(4世紀)
334	11-003927	土師器甕腹部	2	19	古墳時代前期(4世紀)
7-285-885グロット					
335	11-003928	土師器高坏胴部	8	62	古墳時代前期中心
336	11-003929	土師器壺口縁部	7	40	古墳時代前期(4世紀)
337	11-003930	土師器甕腹部	91	418	古墳時代前期(4世紀)
338	11-003931	土師器甕底部	14	133	古墳時代前期(4世紀)
339	11-003932	土師器甕腹部	3	13	平安時代中心
340	11-003933	土師器壺口縁部	4	14	平安時代中心
341	11-003934	土師器高坏-底部	14	27	平安時代中心

遺物一覧

No	資料番号	資料名称	数量	量数(4)	備考	No	資料番号	資料名称	数量	量数(4)	備考
7-285-900グロット						7-290-880グロット					
342	11-003935	土師器口縁部	1	6	古墳時代前期中心	395	11-003989	土師器口縁部	8	76	古墳時代前期(4世紀)
343	11-003936	土師器腹部	118	578	古墳時代前期中心	396	11-003990	土師器腹部	26	108	古墳時代前期(4世紀)
344	11-003937	土師器底部	5	91	古墳時代前期中心	397	11-003991	土師器口縁部	2	11	平安時代中心
345	11-003938	土師器高坏部	4	14	古墳時代前期中心	398	11-003992	土師器腹部	2	19	平安時代中心
346	11-003939	土師器高坏部	9	60	古墳時代前期中心	399	11-003993	土師器口縁部	2	4	平安時代中心
347	11-003940	土師器口縁部	3	21	古墳時代前期(4世紀)	400	11-003994	土師器坏体一部	3	5	平安時代中心
348	11-003941	土師器腹部	34	104	古墳時代前期(4世紀)	401	11-003995	須恵器腹部	5	98	平安時代中心
349	11-003942	土師器底部	3	15	古墳時代前期(4世紀)	402	11-003996	須恵器坏体一部	2	9	平安時代中心
350	11-003943	土師器口縁部	2	12	平安時代中心	403	11-003997	反胎陶器口縁部	1	4	平安時代中心
351	11-003944	土師器腹部	5	11	平安時代中心	7-290-885グロット					
352	11-003945	土師器口縁部	2	5	平安時代中心	404	11-003998	土師器口縁部	7	47	古墳時代前期中心
353	11-003946	須恵器口縁部	1	6	平安時代中心	405	11-003999	土師器腹部	59	322	古墳時代前期中心
354	11-003947	縄文	1	32	平安時代中心	406	11-004000	土師器腹部	3	70	古墳時代前期中心
7-285-900グロットAs-C区下						407	11-004001	土師器高坏部	1	10	古墳時代前期中心
355	11-003948	土師器腹部	2	395	平安時代中心	408	11-004002	土師器高坏部	5	25	古墳時代前期中心
356	11-003949	土師器腹部	25	112	古墳時代前期中心	409	11-004003	土師器腹部	33	167	古墳時代前期(4世紀)
357	11-003950	土師器高坏部	1	3	古墳時代前期中心	410	11-004004	土師器腹部	2	22	古墳時代前期(4世紀)
358	11-003951	土師器高坏部	2	15	古墳時代前期中心	411	11-004005	土師器口縁部	1	8	平安時代中心
359	11-003952	土師器口縁部	1	6	古墳時代前期(4世紀)	412	11-004006	土師器腹部	2	5	平安時代中心
360	11-003953	土師器腹部	2	7	古墳時代前期(4世紀)	413	11-004007	土師器口縁部	5	7	平安時代中心
361	11-003954	土師器腹部	1	8	平安時代中心	414	11-004008	土師器坏体一部	13	28	平安時代中心
362	21-00126	黒色衣土管	1	20		7-290-885グロットC区下					
7-285-905グロットC区下						415	11-004009	土師器口縁部	3	13	古墳時代前期中心
363	11-003956	土師器口縁部	3	20	古墳時代前期中心	416	11-004010	土師器腹部	14	57	古墳時代前期中心
364	11-003957	土師器腹部	18	100	古墳時代前期中心	417	11-004011	土師器高坏部	2	8	古墳時代前期中心
365	11-003958	土師器腹部	1	20	古墳時代前期中心	418	11-004012	土師器高坏部	2	18	古墳時代前期中心
366	11-003959	土師器腹部	4	20	古墳時代前期中心	419	11-004013	土師器腹部	6	9	古墳時代前期(4世紀)
367	11-003960	土師器台付蓋口縁部	1	2	古墳時代前期中心	420	11-004014	土師器腹部	1	6	古墳時代前期(4世紀)
368	11-003961	土師器高坏部	1	10	古墳時代前期中心	421	11-004015	土師器口縁部	1	8	平安時代中心
369	11-003962	須恵器腹部	3	70		422	11-004016	土師器口縁部	1	3	平安時代中心
370	11-003964	須恵器口縁部	1	2		423	11-004017	土師器坏体一部	6	19	平安時代中心
371	11-003965	須恵器坏体一部	3	4		424	11-004018	須恵器口縁部	4	16	平安時代中心
372	11-003966	須恵器高台付蓋口縁部	1	8		7-290-900グロット					
373	11-003967	須恵器高台付蓋体一部	1	10		425	11-004019	土師器口縁部	4	20	古墳時代前期中心
374	11-003968	反胎陶器底一高台部	1	60		426	11-004020	土師器腹部	129	75	古墳時代前期中心
7-290-890グロットC区下						427	11-004021	土師器腹部	2	41	古墳時代前期中心
375	11-003969	土師器腹部	6	46	古墳時代前期中心	428	11-004022	土師器高坏部	9	69	古墳時代前期中心
376	11-003970	土師器高坏部	1	7	古墳時代前期中心	429	11-004023	土師器高坏部	9	89	古墳時代前期中心
377	11-003971	土師器高坏部	3	32	古墳時代前期中心	430	11-004024	土師器口縁部	10	110	古墳時代前期(4世紀)
378	11-003972	須恵器腹部	5	381	平安時代中心	431	11-004025	土師器腹部	67	374	古墳時代前期(4世紀)
7-290-880グロット						432	11-004026	土師器腹部	4	65	古墳時代前期(4世紀)
379	11-003973	土師器腹部	11	41	古墳時代前期中心	433	11-004027	土師器口縁部	7	51	平安時代中心
380	11-003974	須恵器腹部	3	113	平安時代中心	434	11-004028	土師器腹部	10	48	平安時代中心
381	11-003975	須恵器坏体一部	2	28	平安時代中心	435	11-004029	土師器口縁部	5	18	平安時代中心
7-290-885グロット						436	11-004030	土師器坏体一部	15	61	平安時代中心
382	11-003976	須恵器腹部	6	270	平安時代中心	437	11-004031	須恵器口縁部	2	21	平安時代中心
383	11-003977	須恵器坏体一部	6	53	平安時代中心	438	11-004032	須恵器口縁部	1	1	平安時代中心
384	11-003978	反胎陶器口縁部	1	2	平安時代中心	439	11-004033	須恵器坏体一部	23	252	平安時代中心
385	11-003979	反胎陶器坏体一部	1	23	平安時代中心	440	11-004034	反胎陶器口縁部	4	17	平安時代中心
386	11-003980	土師器腹部	1	2	古墳時代前期中心	441	11-004035	反胎陶器坏体一部	1	1	平安時代中心
387	11-003981	土師器腹部	164	978	古墳時代前期中心	7-290-900グロットC区上					
388	11-003982	土師器腹部	6	139	古墳時代前期中心	442	11-004036	土師器口縁部	1	10	古墳時代前期中心
389	11-003983	土師器高坏部	11	64	古墳時代前期中心	443	11-004037	土師器腹部	8	28	古墳時代前期中心
7-290-890グロット						444	11-004038	土師器高坏部	4	30	古墳時代前期中心
390	11-003984	土師器口縁部	8	46	古墳時代前期中心	445	11-004039	土師器腹部	1	3	古墳時代前期(4世紀)
391	11-003985	土師器腹部	91	488	古墳時代前期中心	446	11-004040	土師器腹部	1	4	平安時代中心
392	11-003986	土師器腹部	5	62	古墳時代前期中心	447	11-004041	土師器腹部	3	10	平安時代中心
393	11-003987	土師器高坏部	9	45	古墳時代前期中心	448	11-004042	須恵器腹部	18	656	平安時代中心
394	11-003988	土師器高坏部	8	50	古墳時代前期中心						

遺物一覧

No	資料番号	資料名称	数量	重量(kg)	備考
7-290-900グラット					
449	11-004043	土師器台付養脚部	1	4	古墳時代前期中心
450	11-004044	須恵器養脚部	1	20	
451	11-004045	須恵器鏡口縁部	1	6	
452	11-004046	須恵器高台付鏡底部	2	30	
7-290-905グラット					
453	11-004047	土師器壺口縁部	5	37	古墳時代前期中心
454	11-004048	土師器養脚部	88	387	古墳時代前期中心
455	11-004049	土師器台付養脚部	7	40	古墳時代前期中心
456	11-004050	土師器台付養口縁部	1	1	古墳時代前期中心
457	11-004051	土師器台付養脚部	7	38	古墳時代前期中心
458	11-004052	土師器台付養脚部	4	55	古墳時代前期中心
459	11-004053	土師器養脚部	4	25	古墳時代前期中心
460	11-004054	土師器高脚部	1	28	古墳時代前期中心
461	11-004057	土師器壺口縁部	2	8	平安時代中心
462	11-004058	土師器養脚部	12	37	平安時代中心
463	11-004059	土師器環口縁部	9	57	平安時代中心
464	11-004060	土師器環口縁部	16	44	平安時代中心
465	11-004063	須恵器鏡体-底部	1	2	
7-290-910グラット					
466	11-004064	土師器壺口縁部	1	5	古墳時代前期中心
467	11-004065	土師器養脚部	6	26	平安時代中心
468	11-004066	土師器環口縁部	1	5	平安時代中心
469	11-004067	須恵器環口縁部	1	4	平安時代中心
7-290-910グラットB下					
470	11-004068	須恵器環口縁部	8	21	平安時代中心
7-290-940グラット					
471	11-004069	土師器養脚部	7	30	古墳時代前期中心
472	11-004070	土師器養脚部	1	2	古墳時代前期中心
473	11-004071	土師器養脚部	2	9	平安時代中心
474	11-004072	土師器環口縁部	2	19	平安時代中心
475	11-004073	須恵器環口縁部	1	21	平安時代中心
476	11-004074	土師器養脚部	1	2	平安時代中心
477	11-004075	土師器養脚部	17	40	平安時代中心
478	11-004076	土師器環口縁部	8	30	平安時代中心
479	11-004077	土師器環口縁部	1	1	平安時代中心
480	11-004078	須恵器養脚部	2	90	
7-295-895グラット					
481	11-004079	土師器壺口縁部	1	4	古墳時代前期中心
482	11-004080	土師器養脚部	31	235	古墳時代前期中心
483	11-004081	土師器高脚部	1	9	古墳時代前期中心
484	11-004082	土師器養脚部	6	23	古墳時代前期(4世紀)
485	11-004083	土師器壺口縁部	1	10	平安時代中心
486	11-004084	土師器養脚部	1	4	平安時代中心
487	11-004085	土師器環口縁部	1	3	平安時代中心
488	11-004086	土師器環口縁部	4	12	平安時代中心
489	11-004087	須恵器養脚部	3	200	平安時代中心
490	11-004088	須恵器鏡口縁部	1	13	平安時代中心
491	11-004089	須恵器鏡体-底部	2	8	平安時代中心
7-295-875グラット					
492	11-004090	土師器壺口縁部	2	26	古墳時代前期中心
493	11-004091	土師器養脚部	34	282	古墳時代前期中心
494	11-004092	土師器養脚部	1	16	古墳時代前期中心
495	11-004093	土師器養脚部	4	18	平安時代中心
496	11-004094	土師器環口縁部	1	4	平安時代中心
497	11-004095	須恵器養脚部	2	53	平安時代中心
498	11-004096	須恵器環口縁部	1	3	平安時代中心

No	資料番号	資料名称	数量	重量(kg)	備考
7-295-880グラット					
499	11-004097	土師器壺口縁部	3	10	古墳時代前期中心
500	11-004098	土師器養脚部	42	147	古墳時代前期中心
501	11-004099	土師器養脚部	8	60	古墳時代前期中心
502	11-004100	土師器台付養脚部	3	3	古墳時代前期中心
503	11-004101	土師器高台付養脚部	2	30	平安時代中心
504	11-004103	土師器養脚部	2	17	古墳時代前期(4世紀)
505	11-004104	土師器壺口縁部	1	12	平安時代中心
506	11-004105	須恵器壺口縁部	1	71	平安時代中心
507	11-004106	須恵器養脚部	4	148	平安時代中心
508	11-004107	土師器養脚部	1	3	平安時代中心
509	11-004108	土師器環口縁部	5	30	平安時代中心
510	11-004109	土師器環口縁部	5	29	平安時代中心
511	11-004110	須恵器養脚部	5	155	
512	11-004111	須恵器環口縁部	2	30	
513	11-004112	須恵器鏡口縁部	2	7	
7-295-885グラット					
514	11-004113	土師器壺口縁部	1	17	古墳時代前期中心
515	11-004114	土師器養脚部	100	599	古墳時代前期中心
516	11-004115	土師器養脚部	6	44	古墳時代前期中心
517	11-004116	土師器高脚部	3	23	古墳時代前期中心
518	11-004117	土師器高脚部	7	82	古墳時代前期中心
519	11-004118	土師器養脚部	17	58	古墳時代前期(4世紀)
520	11-004119	土師器養脚部	1	10	古墳時代前期(4世紀)
521	11-004120	土師器壺口縁部	3	5	平安時代中心
522	11-004121	土師器壺口縁部	3	12	平安時代中心
523	11-004122	土師器環口縁部	7	26	平安時代中心
524	11-004123	土師器環口縁部	7	27	平安時代中心
525	11-004124	須恵器養脚部	7	170	平安時代中心
526	11-004125	須恵器環口縁部	3	31	平安時代中心
527	11-004126	須恵器鏡体	2	19	平安時代中心
350-860グラットC黒上					
528	11-004127	土師器壺口縁部	5	17	古墳時代前期中心
529	11-004128	土師器養脚部	130	438	古墳時代前期中心
530	11-004129	土師器高脚部	3	19	古墳時代前期中心
531	11-004130	土師器高脚部	12	66	古墳時代前期中心
532	11-004131	土師器壺口縁部	17	49	古墳時代前期(4世紀)
533	11-004132	土師器養脚部	4	14	古墳時代前期(4世紀)
534	11-004133	土師器養脚部	7	57	古墳時代前期(4世紀)
535	11-004134	土師器環口縁部	41	107	平安時代中心
7-295-900グラット					
536	11-004135	土師器壺口縁部	1	31	古墳時代前期中心
537	11-004136	土師器養脚部	49	317	古墳時代前期中心
538	11-004137	土師器高脚部	3	25	古墳時代前期中心
539	11-004138	土師器高脚部	2	29	古墳時代前期中心
540	11-004139	土師器壺口縁部	4	50	古墳時代前期(4世紀)
541	11-004140	土師器養脚部	15	90	古墳時代前期(4世紀)
542	11-004141	土師器環口縁部	2	7	平安時代中心
543	11-004142	土師器環口縁部	4	15	平安時代中心
544	11-004143	須恵器養脚部	2	86	平安時代中心
545	11-004144	須恵器壺口縁部	1	8	平安時代中心
546	11-004145	須恵器環口縁部	1	15	平安時代中心
7-295-905グラット					
547	11-004147	土師器養脚部	4	14	古墳時代前期中心
548	11-004148	土師器高脚部	1	4	古墳時代前期中心
549	11-004149	土師器養脚部	1	2	古墳時代前期(4世紀)
550	11-004150	土師器養脚部	1	5	平安時代中心
7-300-850グラット					
551	11-004151	土師器壺口縁部	1	3	古墳時代前期中心

遺物一覧

No	資料番号	資料名称	数量	遺量(%)	備考	No	資料番号	資料名称	数量	遺量(%)	備考
7-300-850グリット						7-300-885グリット					
502	11-004152	土師器壺体部	8	17	古墳時代前期中心	600	11-004203	須恵器壺口縁部	1	8	平安時代中心
503	11-004153	土師器高坏体部	1	11	古墳時代前期中心	603	11-004204	須恵器壺口縁部	1	7	平安時代中心
504	11-004154	須恵器壺口縁部	1	2	古墳時代前期(4世紀)	604	11-004205	須恵器壺体一底部	3	23	平安時代中心
505	11-004155	埴輪陶器	1	20		7-300-900グリット					
506	11-004156	不明	1	23	平安時代中心	605	11-004207	土師器壺体部	4	9	平安時代中心
7-300-860グリットB下						606	11-004208	土師器坏口縁部	15	38	平安時代中心
507	11-004157	土師器壺口縁部	8	84	古墳時代前期中心	607	11-004209	須恵器壺体部	12	428	平安時代中心
508	11-004158	土師器壺体部	61	365	古墳時代前期中心	608	11-004210	須恵器坏体一底部	7	68	平安時代中心
509	11-004159	土師器壺底	4	133	古墳時代前期中心	7-300-910グリットB下					
560	11-004160	土師器坏口縁部	4	14	平安時代中心	609	11-004211	土師器壺体部	2	5	古墳時代前期中心
561	11-004161	土師器坏体一底部	2	4	平安時代中心	7-300-920グリット					
562	11-004162	須恵器坏口縁部	1	3	平安時代中心	610	11-004212	土師器壺体部	3	11	平安時代中心
563	11-004163	須恵器坏体一底部	2	14	平安時代中心	611	11-004213	土師器坏体一底部	2	6	平安時代中心
7-300-870グリット						7-300-990グリット					
564	11-004164	土師器壺体部	10	15	古墳時代前期中心	612	11-004214	土師器坏体一底部	2	6	平安時代中心
7-300-870グリットB下						7-305-850グリット					
565	11-004165	土師器坏体一底部	1	2	平安時代中心	613	11-004215	須恵器陶器体一底部	1	40	
7-300-880グリット						7-305-885グリット					
566	11-004166	土師器壺口縁部	5	28	古墳時代前期中心	614	11-004216	土師器壺口縁部	1	27	古墳時代前期中心
567	11-004167	土師器壺体部	38	209	古墳時代前期中心	615	11-004217	土師器壺体部	9	83	古墳時代前期中心
568	11-004168	土師器壺底	4	70	古墳時代前期中心	616	11-004218	土師器壺口縁部	1	6	平安時代中心
569	11-004169	土師器台形体部	15	150	古墳時代前期中心	617	11-004219	須恵器壺体部	1	19	平安時代中心
570	11-004170	土師器台付壺体部	5	21	古墳時代前期中心	7-305-895グリット					
571	11-004172	土師器高坏体部	1	5	古墳時代前期中心	618	11-004220	土師器壺口縁部	2	67	古墳時代前期中心
572	11-004173	土師器壺底	1	19	平安時代中心	619	11-004221	土師器壺体部	14	145	古墳時代前期中心
573	11-004174	須恵器坏体一底部	1	25	平安時代中心	620	11-004222	土師器壺底	2	108	古墳時代前期中心
574	11-004175	土師器坏口縁部	3	3	平安時代中心	621	11-004223	土師器高坏体部	4	78	古墳時代前期中心
7-300-880グリットF.A.上水田						622	11-004224	土師器坏体一底部	3	8	平安時代中心
575	11-004176	土師器壺体部	12	51	古墳時代前期中心	7-305-895グリットC上					
576	11-004177	土師器壺体部	2	10	古墳時代前期(4世紀)	623	11-004225	土師器壺口縁部	3	39	古墳時代前期中心
577	11-004178	土師器壺体部	1	3	平安時代中心	624	11-004226	土師器台付壺体部	18	128	古墳時代前期中心
578	11-004179	土師器坏口縁部	2	5	平安時代中心	625	11-004227	土師器高坏体部	3	4	古墳時代前期中心
579	11-004180	土師器坏体部	3	6	平安時代中心	626	11-004228	土師器高坏体部	2	73	古墳時代前期中心
580	11-004181	須恵器壺体部	2	16	平安時代中心	627	11-004229	土師器坏体一底部	1	3	平安時代中心
7-300-885グリット						7-325-860グリット					
581	11-004182	土師器壺体部	2	7	古墳時代前期中心	628	11-004230	土師器壺体部	153	740	古墳時代前期中心
582	11-004183	土師器壺底	2	31	古墳時代前期中心	629	11-004231	土師器台付壺体部	48	122	古墳時代前期中心
583	11-004184	土師器壺口縁部	1	7	平安時代中心	630	11-004232	土師器台付壺口縁部	3	25	古墳時代前期中心
584	11-004185	土師器坏口縁部	1	10	平安時代中心	631	11-004233	土師器壺口縁部	9	60	古墳時代前期中心
7-300-890グリット						632	11-004234	土師器壺体部	67	322	古墳時代前期中心
585	11-004186	土師器壺口縁部	2	20	古墳時代前期中心	633	11-004235	土師器壺体部	47	102	平安時代中心
586	11-004187	土師器壺体部	40	253	古墳時代前期中心	634	11-004236	土師器壺口縁部	9	30	平安時代中心
587	11-004188	土師器高坏体部	3	37	古墳時代前期中心	635	11-004237	土師器坏口縁部	40	140	平安時代中心
588	11-004189	土師器壺体部	8	43	古墳時代前期(4世紀)	636	11-004238	土師器壺底	136	312	平安時代中心
589	11-004190	土師器壺体部	1	5	平安時代中心	637	11-004239	須恵器壺体部	3	30	平安時代中心
590	11-004191	土師器坏体一底部	3	12	平安時代中心	638	11-004240	須恵器壺体一底部	7	26	
591	11-004192	須恵器壺口縁部	2	5	平安時代中心	7-305-905グリット					
602	11-004193	須恵器壺体一底部	1	12	平安時代中心	639	11-004241	土師器壺口縁部	1	6	古墳時代前期中心
7-300-895グリット						640	11-004242	土師器壺体部	24	229	古墳時代前期中心
593	11-004194	土師器壺体部	39	153	古墳時代前期中心	641	11-004243	土師器壺底	1	43	古墳時代前期中心
594	11-004195	土師器壺底	3	37	古墳時代前期中心	642	11-004244	土師器高坏体部	1	7	古墳時代前期中心
595	11-004196	土師器高坏体部	1	15	古墳時代前期中心	7-305-905グリットC上					
596	11-004197	土師器高坏体部	1	6	古墳時代前期中心	643	11-004245	土師器壺体部	2	33	古墳時代前期中心
597	11-004198	土師器壺体部	8	41	古墳時代前期(4世紀)	644	11-004246	土師器高坏体部	1	15	古墳時代前期中心
598	11-004199	土師器壺口縁部	1	5	平安時代中心	7-305-920グリット					
599	11-004200	土師器壺体部	2	14	平安時代中心	645	11-004247	土師器坏口縁部	1	13	
600	11-004201	土師器坏口縁部	2	6	平安時代中心	646	11-004248	土師器壺体部	1	4	古墳時代前期中心
601	11-004202	土師器坏体一底部	1	3	平安時代中心	647	11-004249	土師器壺口縁部	1	6	平安時代中心
						648	11-004250	土師器壺体部	2	19	平安時代中心

遺物一覧

No	資料番号	資料名称	数量	重量(kg)	備考	No	資料番号	資料名称	数量	重量(kg)	備考
7-325-850グリットC直下						7-310-900グリット					
649	11-004251	土師器環口線部	6	28	平安時代中心	688	11-004294	土師器臺底部	3	41	古墳時代前期中心
650	11-004252	土師器臺口線部	1	11	平安時代中心	689	11-004295	土師器台付臺底部	8	37	古墳時代前期中心
651	11-004253	土師器臺底部	2	4	平安時代中心	690	11-004296	土師器台付臺脚部	1	1	古墳時代前期中心
652	11-004254	土師器坯体-底部	17	56	平安時代中心	691	11-004297	土師器器体部	8	45	古墳時代前期中心
653	11-004255	須恵器環口線部	3	19		692	11-0004302	土師器臺底部	3	13	平安時代中心
654	11-004256	須恵器臺底部	2	25		693	11-0004303	土師器環口線部	3	5	平安時代中心
7-305-940グリット						694	11-0004304	土師器坯体-底部	3	10	平安時代中心
655	11-004257	土師器臺口線部	2	27	平安時代中心	695	11-004305	須恵器臺底部	1	75	平安時代中心
656	11-004258	土師器臺底部	8	32	平安時代中心	7-345-870グリット					
657	11-004259	土師器坯体-底部	10	21	平安時代中心	696	11-004306	土師器臺底部	17	46	平安時代中心
7-305-940グリットC直上						697	11-004307	土師器環口線部	2	4	平安時代中心
658	11-004260	土師器環口線部	4	14	平安時代中心	698	11-004308	土師器坯体-底部	14	48	平安時代中心
7-345-855グリット						699	11-004309	土師器環口線部	1	2	平安時代中心
659	11-004261	土師器臺口線部	7	30	古墳時代前期中心	700	11-004310	須恵器器体部	2	8	
660	11-004262	土師器臺底部	92	325	古墳時代前期中心	701	11-004311	須恵器器体口線部	1	1	
661	11-004263	土師器臺底部	1	80	古墳時代前期中心	702	11-004312	須恵器碗底面-高台部	1	10	
662	11-004264	土師器台付臺底部	8	20	古墳時代前期中心	703	11-004313	須恵器高台付碗底面-高台部	1	10	
663	11-004265	土師器台付臺脚部	3	40	古墳時代前期中心	7-310-900グリットC直中					
664	11-004266	土師器台付臺口線部	1	20	古墳時代前期中心	704	11-004314	土師器臺底部	5	20	古墳時代前期中心
665	11-004267	土師器器体部	12	78	古墳時代前期中心	705	11-004315	土師器高坏脚部	1	13	古墳時代前期中心
7-310-850グリット						706	11-004316	土師器器体部	5	21	平安時代中心
666	11-004268	土師器臺口線部	4	14	古墳時代前期中心	707	11-004317	土師器環口線部	2	6	平安時代中心
667	11-004269	土師器臺底部	43	330	古墳時代前期中心	708	11-004318	土師器坯体-底部	5	14	平安時代中心
668	11-004270	土師器臺底部	2	51	古墳時代前期中心	709	11-004319	須恵器臺底部	1	20	平安時代中心
669	11-004271	土師器環口線部	5	66	平安時代中心	710	11-004320	須恵器環口線部	1	6	平安時代中心
670	11-004272	土師器坯体-底部	6	45	平安時代中心	711	11-004321	須恵器坯体-底部	1	3	平安時代中心
671	11-004273	須恵器臺底部	1	28	平安時代中心	7-310-905グリットC直上					
672	11-004274	須恵器坯体-底部	3	20	平安時代中心	712	11-004322	土師器臺底部	5	38	平安時代中心
673	11-004275	須恵器碗口線部	1	24	平安時代中心	7-315-850グリット					
7-310-870グリット						713	11-004323	土師器臺口線部	9	107	古墳時代前期中心
674	11-004280	土師器器体部	1	330	古墳時代前期中心	714	11-004324	土師器臺底部	119	1071	古墳時代前期中心
7-310-870グリットB下						715	11-004325	土師器臺底部	7	42	古墳時代前期中心
675	11-004281	土師器臺底部	3	8	平安時代中心	716	11-004326	土師器環口線部	2	19	古墳時代前期中心
7-310-880グリットB下						717	11-004327	土師器台付臺口線部	1	9	古墳時代前期中心
676	11-004282	土師器臺底部	6	16	平安時代中心	718	11-004328	土師器台付臺底部	12	50	古墳時代前期中心
7-310-885グリット						719	11-004329	土師器口線部	1	6	古墳時代前期中心
677	11-004283	土師器臺底部	6	27	古墳時代前期中心	720	11-004330	土師器器体部	34	128	古墳時代前期中心
678	11-004284	土師器高坏坏部	1	12	古墳時代前期中心	721	11-004331	土師器器体部	1	80	古墳時代前期中心
679	11-004285	土師器高坏坏部	1	10	古墳時代前期中心	722	11-004332	土師器器体脚部	1	25	古墳時代前期中心
680	11-004286	須恵器臺底部	1	296	平安時代中心	723	11-004333	土師器高坏坏部	2	60	古墳時代前期中心
7-310-895グリット						724	11-004334	土師器高坏坏部	3	20	古墳時代前期中心
681	11-004287	埴輪陶器器口線部	1	12		725	11-004335	土師器臺口線部	3	21	平安時代中心
682	11-004288	埴輪陶器器体部	1	16		726	11-004339	土師器臺底部	7	20	平安時代中心
7-310-895グリットC直上						727	11-004340	土師器環口線部	8	30	平安時代中心
683	11-004289	土師器臺口線部	1	8	古墳時代前期中心	728	11-004341	土師器坯体-底部	20	62	平安時代中心
684	11-004290	土師器臺底部	14	160	古墳時代前期中心	729	11-004342	須恵器環口線部	1	6	平安時代中心
685	11-004291	土師器環口線部	1	1	平安時代中心	730	11-004343	須恵器坯体-底部	2	17	平安時代中心
7-310-900グリット						731	11-004347	須恵器碗口線部	1	2	
686	11-004292	土師器臺口線部	5	57	古墳時代前期中心	732	11-004348	須恵器碗底面	2	3	
687	11-004293	土師器臺底部	70	262	古墳時代前期中心	733	11-004349	須恵器器体部	2	90	